

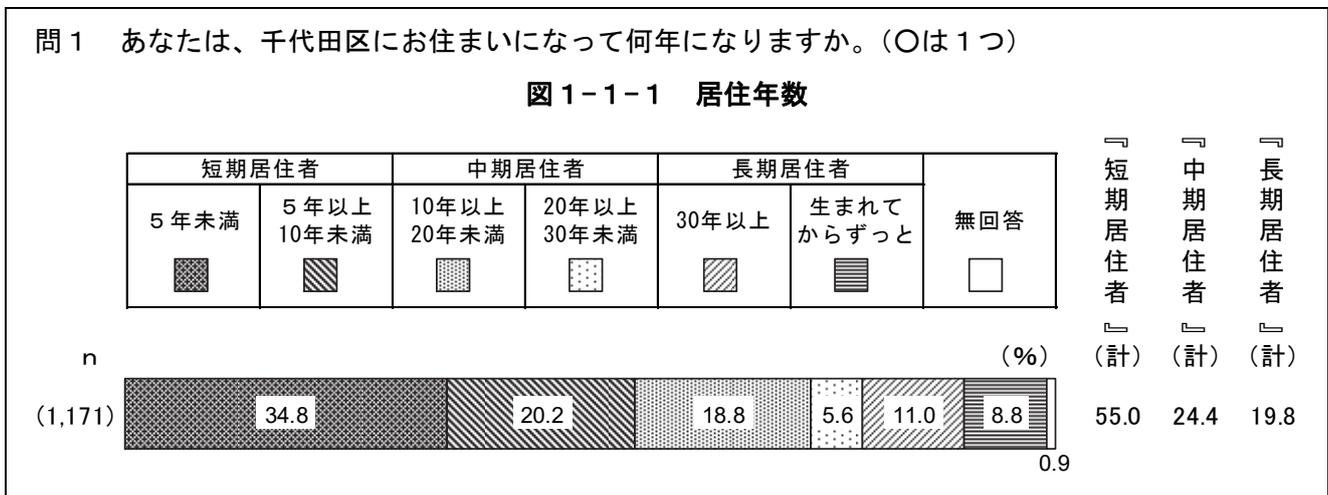
Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

1. 区民の定住性

(1) 居住年数

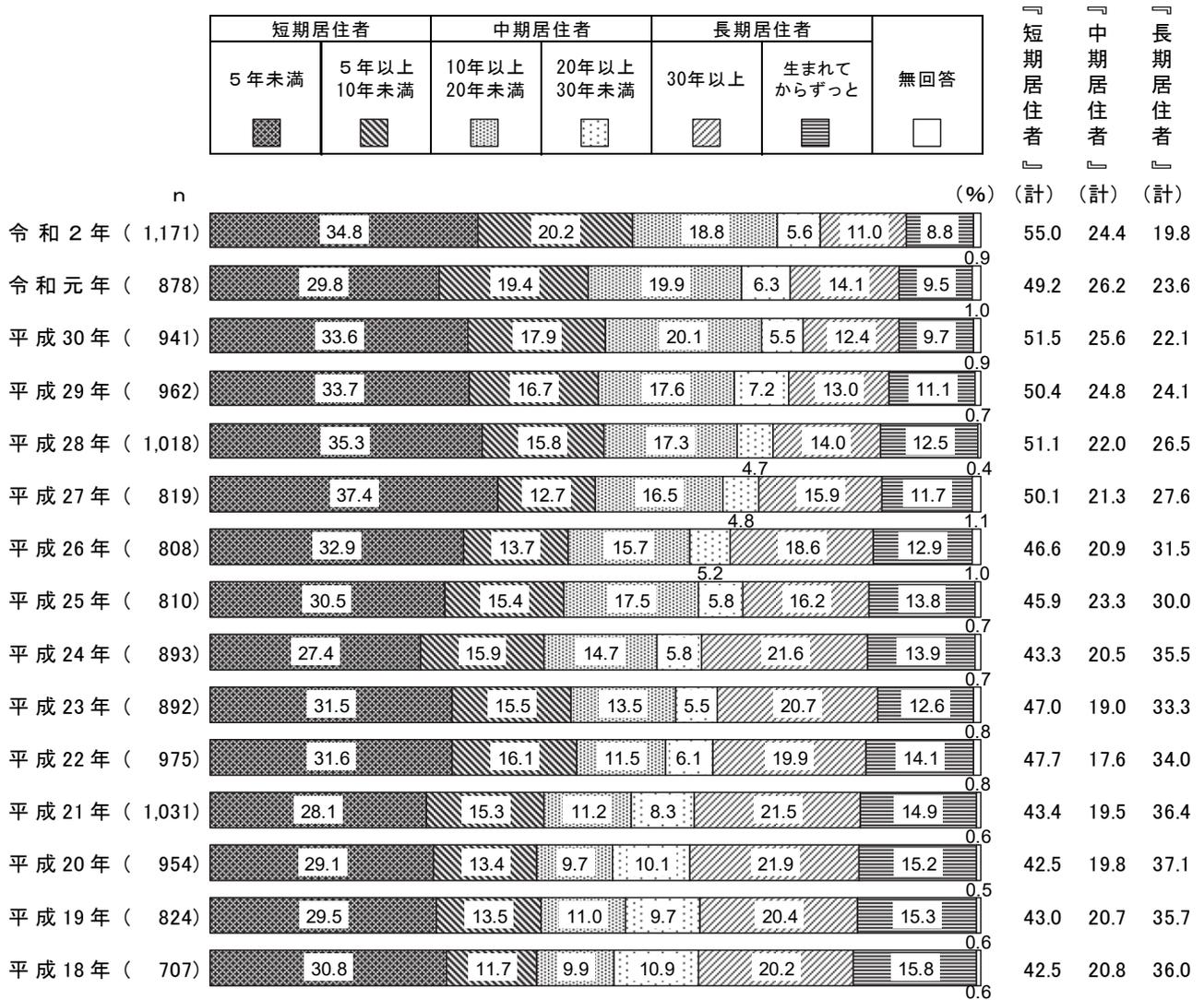
◇「5年未満」と「5年以上10年未満」を合わせた『短期居住者』が5割台半ば



居住年数を聞いたところ、「5年未満」(34.8%)が3割台半ば近くで最も高く、これに「5年以上10年未満」(20.2%)を合わせた『短期居住者』(55.0%)は5割台半ばとなっている。また、「30年以上」(11.0%)と「生まれてからずっと」(8.8%)を合わせた『長期居住者』(19.8%)は2割弱となっている。(図1-1-1)

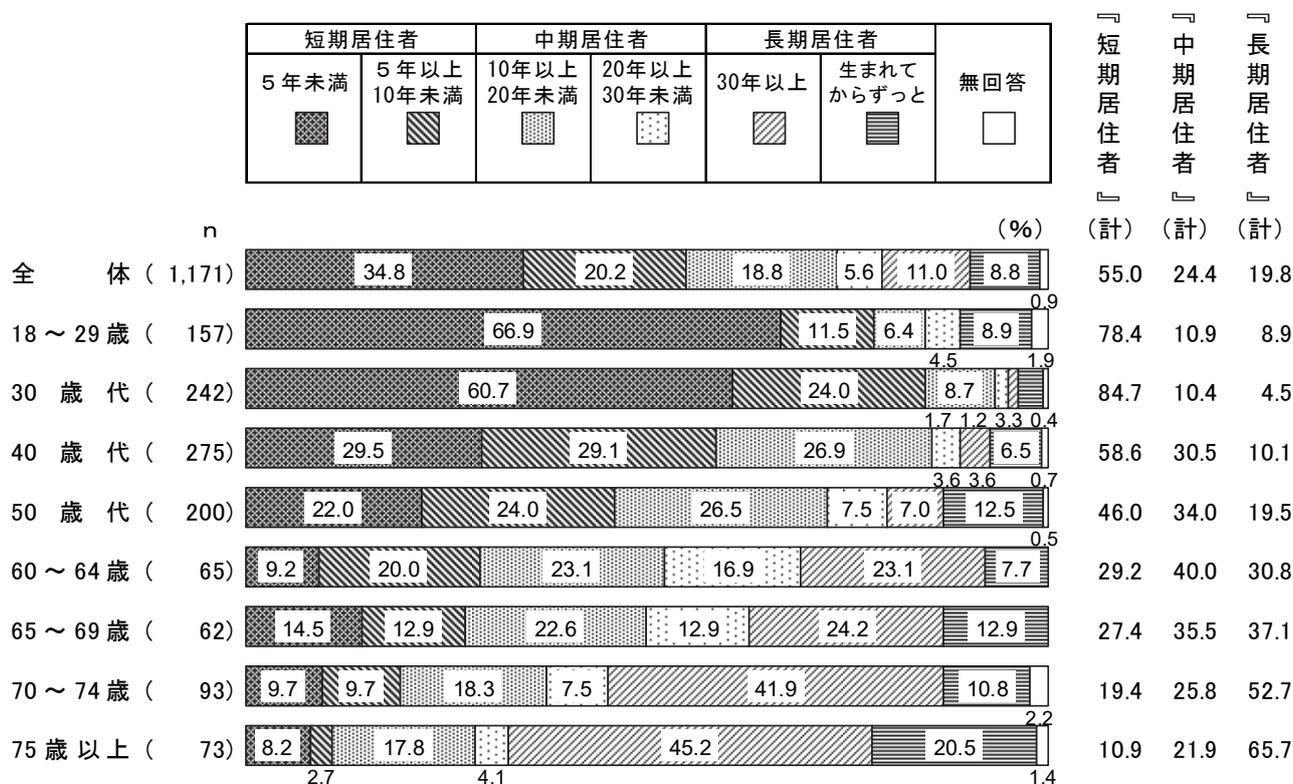
経年比較をみると、『短期居住者』は令和元年から増加に転じた。「生まれてからずっと」は平成28年以降減少傾向が続いている。(図1-1-2)

図1-1-2 居住年数(経年比較)



年代別にみると、『短期居住者』は30歳代（84.7%）で、『中期居住者』は60～64歳（40.0%）で、『長期居住者』は75歳以上（65.7%）で、それぞれ高い割合となっている。（図1-1-3）

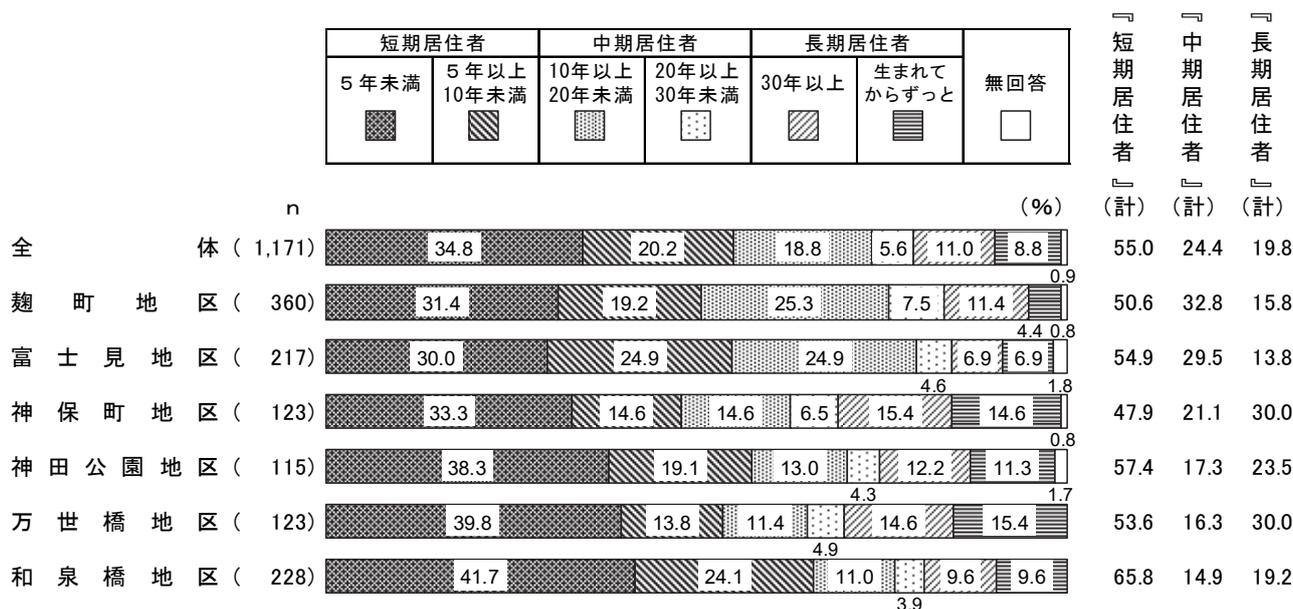
図1-1-3 居住年数（年代別）



地区別にみると、『短期居住者』は和泉橋地区（65.8%）で、『中期居住者』は麴町地区（32.8%）で、『長期居住者』は神保町地区と万世橋地区（30.0%）で、それぞれ高い割合となっている。

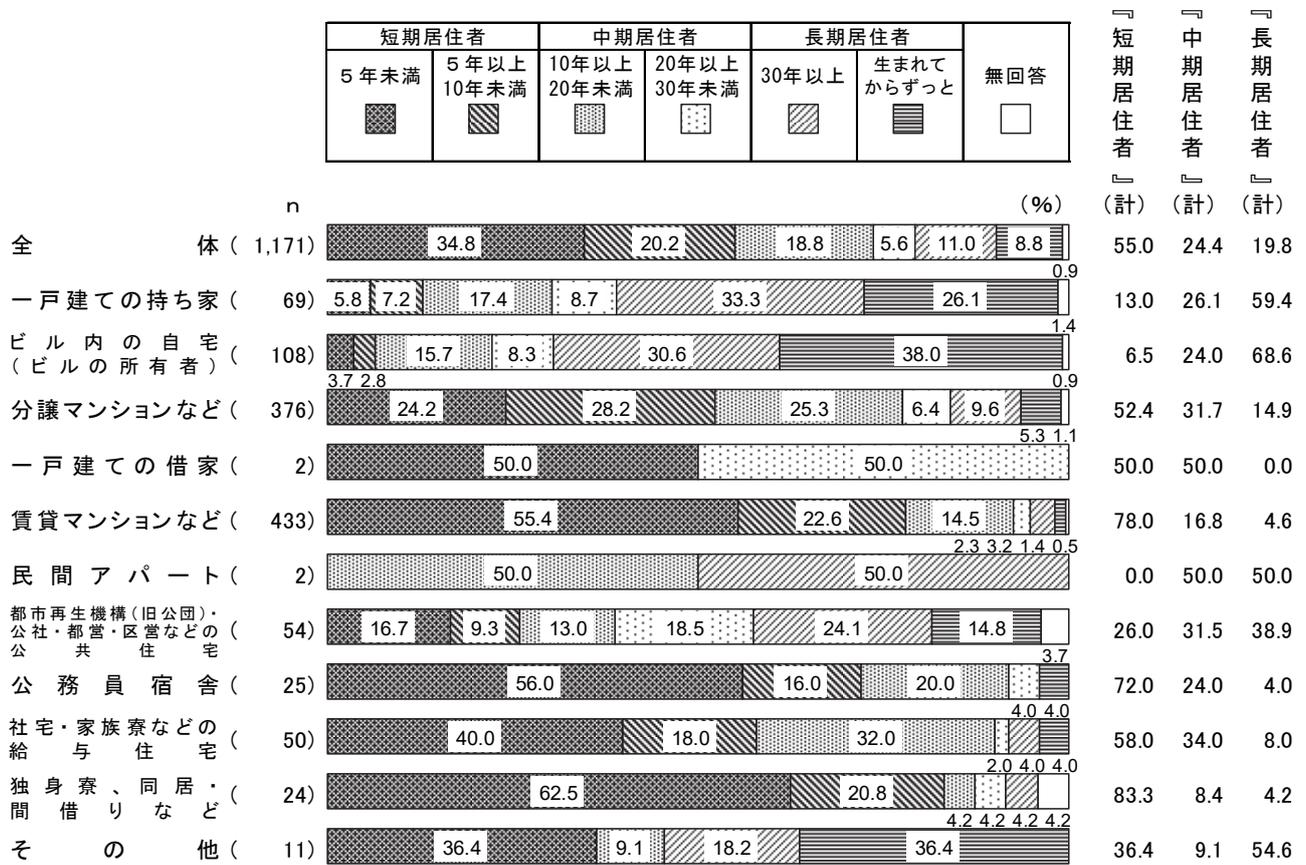
（図1-1-4）

図1-1-4 居住年数（地区別）



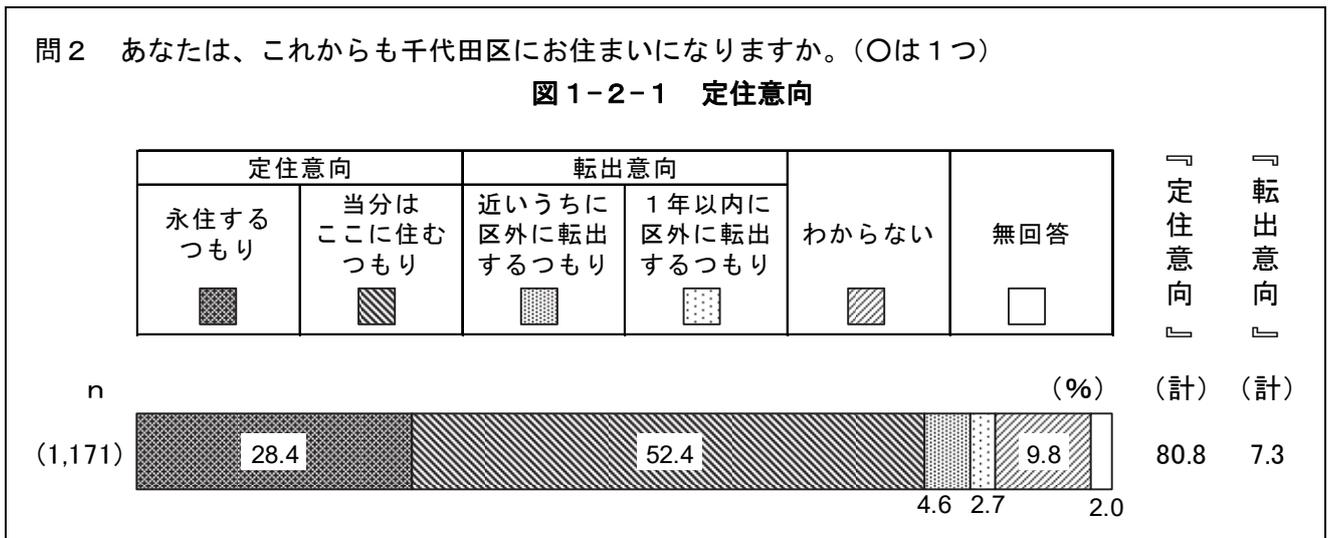
住居形態別にみると、『短期居住者』は独身寮、同居・間借りなど（83.3%）で、『中期居住者』は社宅・家族寮などの給与住宅（34.0%）で、『長期居住者』はビル内の自宅（ビルの所有者）（68.6%）で、それぞれ高い割合となっている。（図1-1-5）

図1-1-5 居住年数（住居形態別）



(2) 定住意向

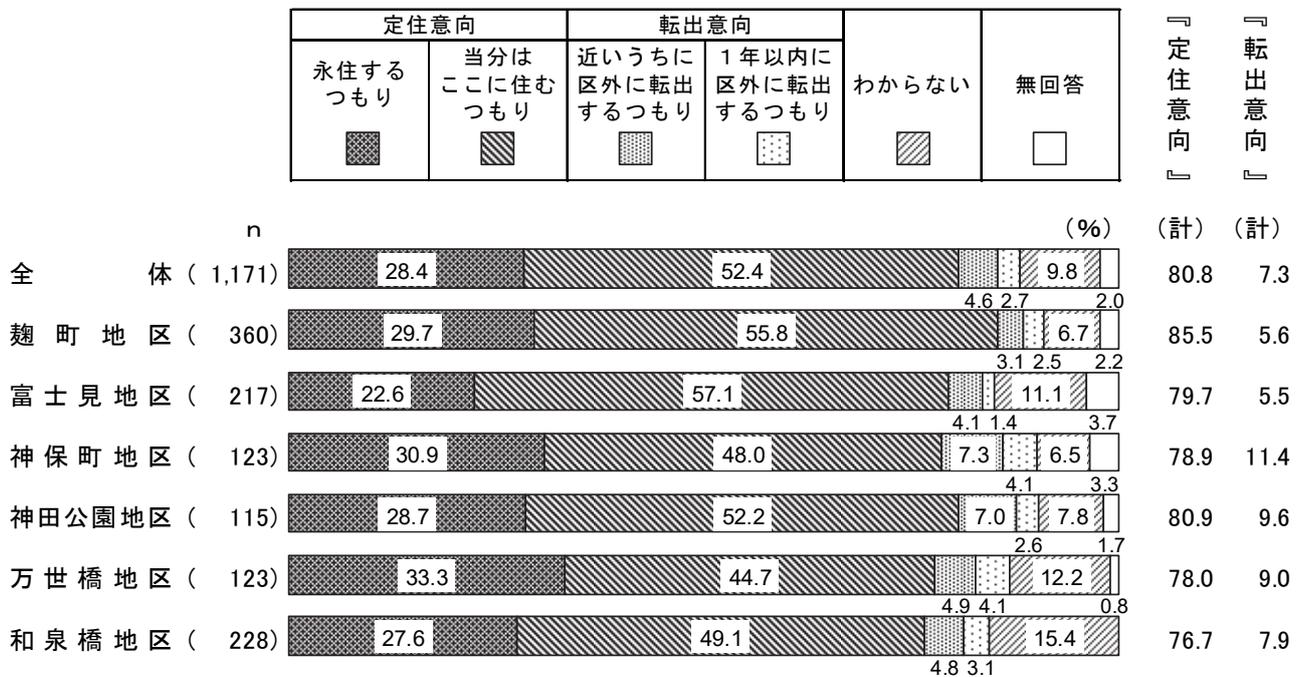
◇「永住するつもり」と「当分はここに住むつもり」を合わせた『定住意向』が約8割



定住意向について聞いたところ、「当分はここに住むつもり」(52.4%)が5割強で最も高く、これに「永住するつもり」(28.4%)を合わせた『定住意向』(80.8%)は約8割となっている。一方、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.6%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(2.7%)を合わせた『転出意向』(7.3%)は1割未満となっている。(図1-2-1)

地区別にみると、『定住意向』は麴町地区(85.5%)で8割台半ばとなっている。(図1-2-2)

図1-2-2 定住意向(地区別)



経年比較をみると、平成17年以降「当分はここに住むつもり」が最も高い割合となっている。「永住するつもり」は令和元年から減少に転じた。(図1-2-3、1-2-4)

図1-2-3 定住意向（経年比較）

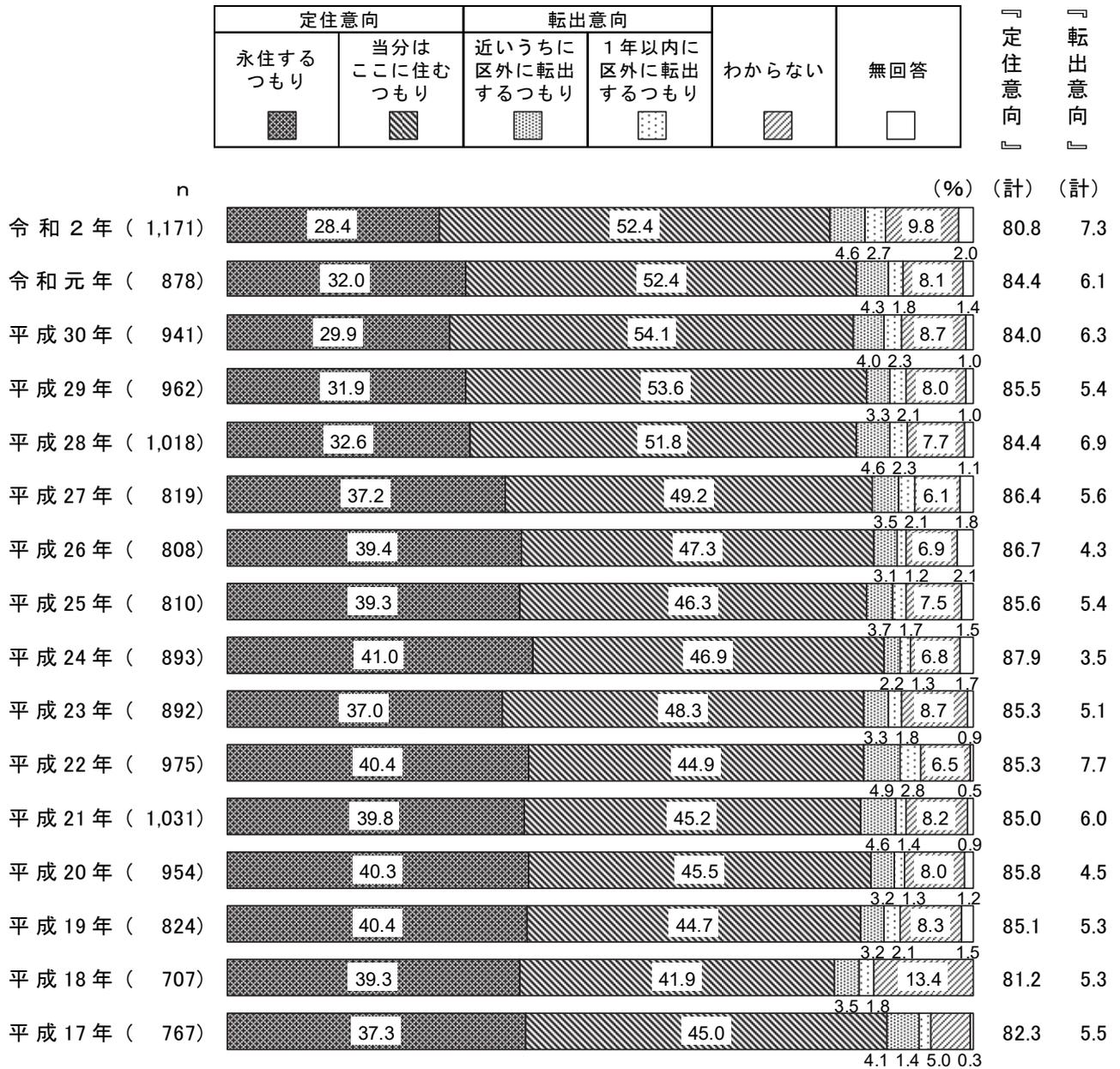
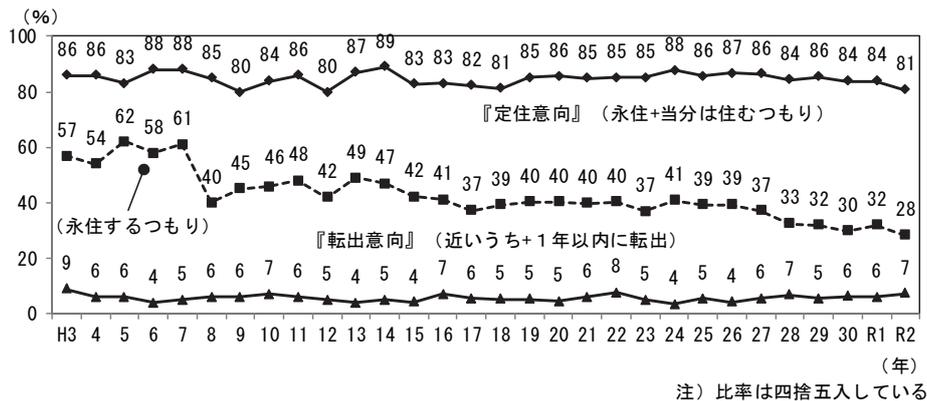
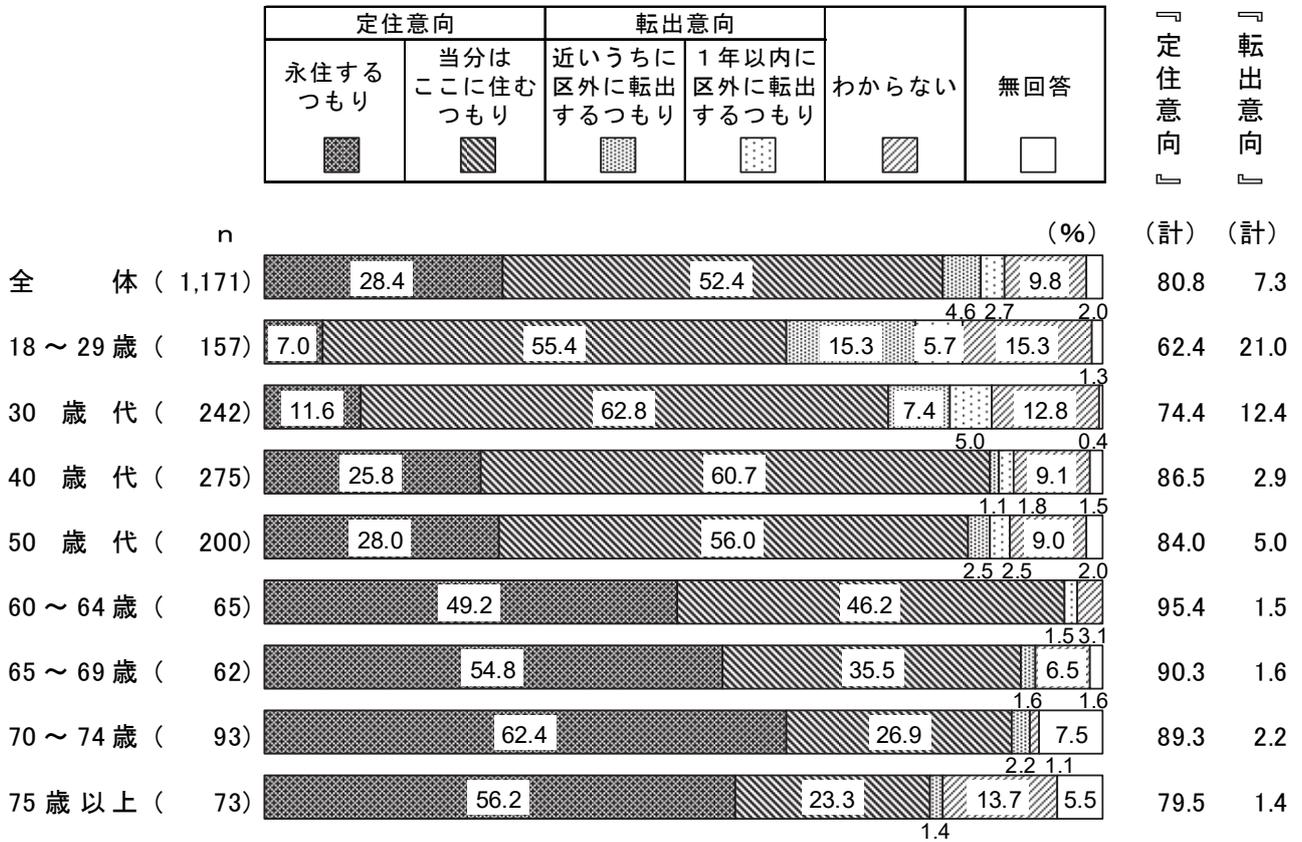


図1-2-4 定住意向（経年比較）



年代別にみると、「永住するつもり」はおおむね年代が上がるほど割合が高くなる傾向がある。また、『定住意向』は60～64歳（95.4%）で、『転出意向』は18～29歳（21.0%）で、それぞれ高い割合となっている。（図1-2-5）

図1-2-5 定住意向（年代別）

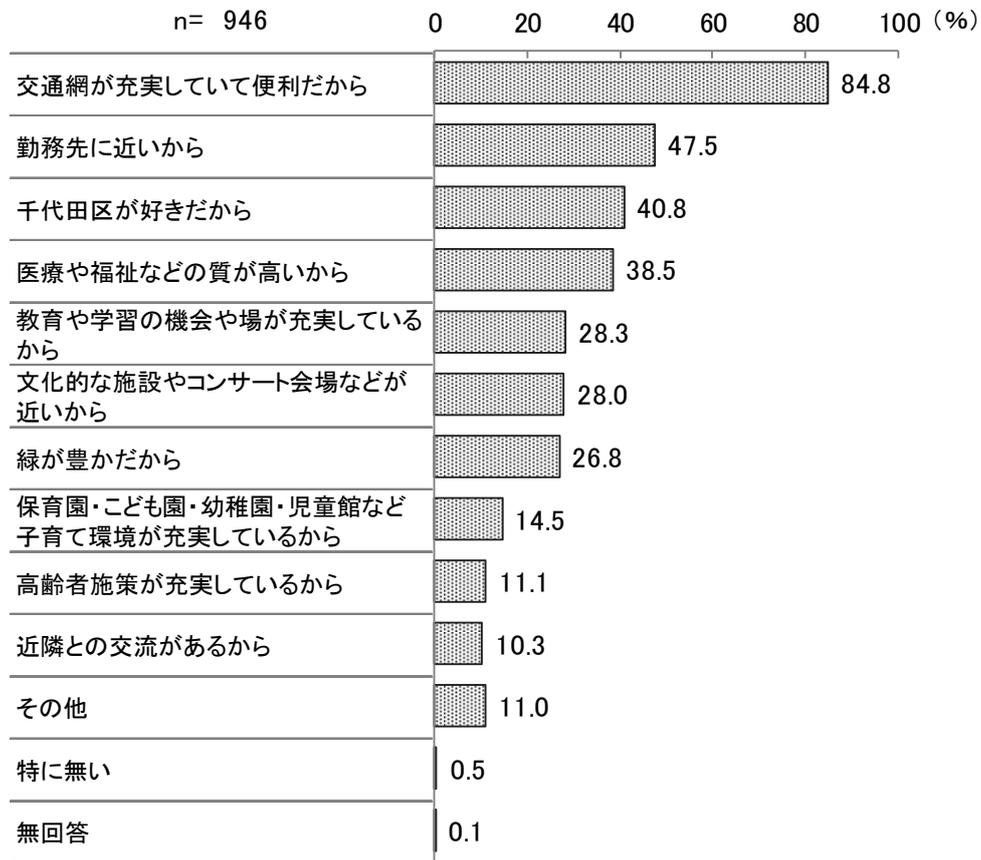


(2-1) 定住意向の理由

◇「交通網が充実していて便利だから」が8割台半ば近く

(問2で「1. 永住するつもり」か「2. 当分はここに住むつもり」とお答えの方に)
問2-1 あなたが、そう思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

図1-2-6 定住意向の理由

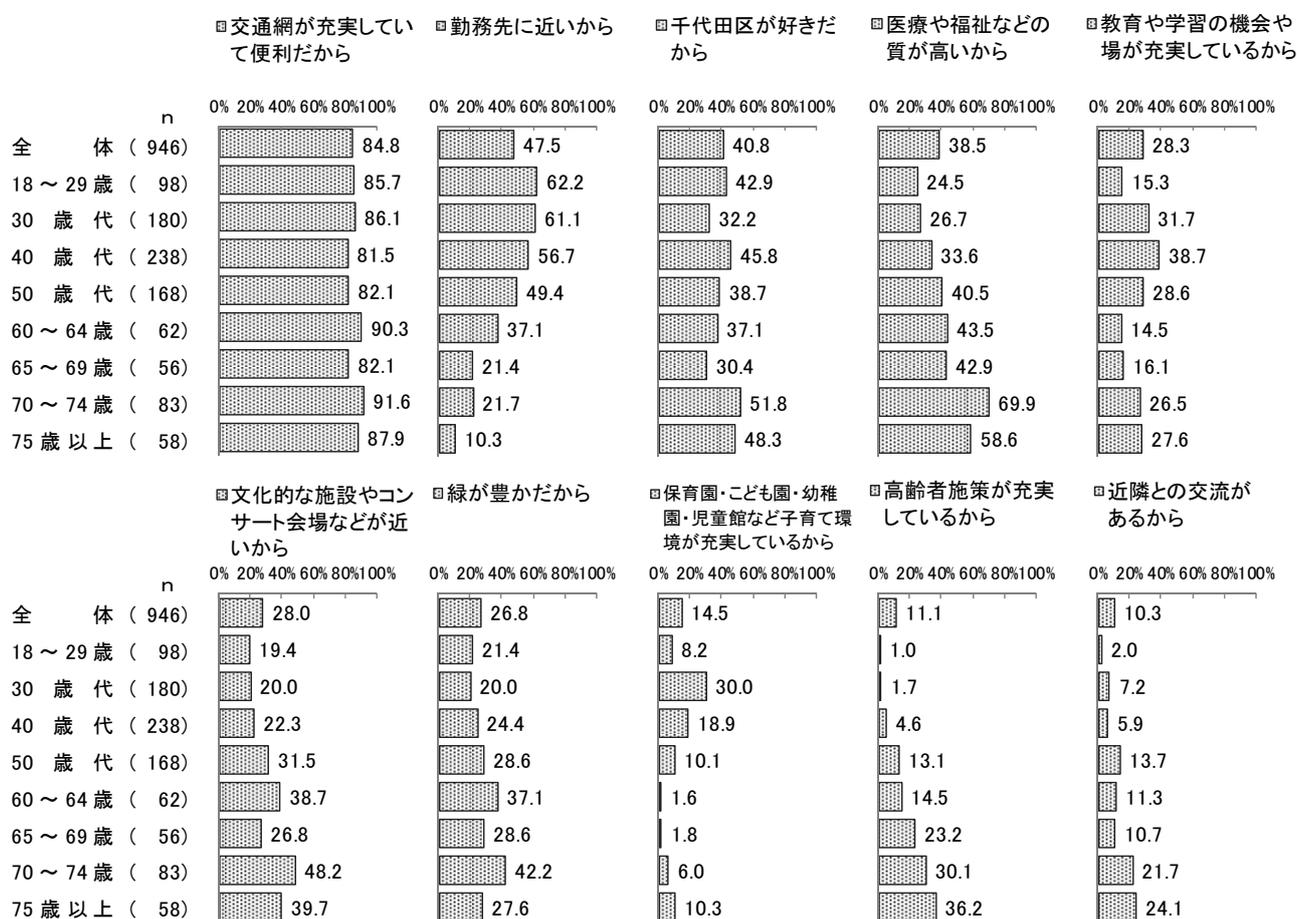


千代田区に「永住するつもり」か「当分はここに住むつもり」と回答した方に、その理由を聞いたところ、「交通網が充実していて便利だから」(84.8%)が8割台半ば近くで最も高く、次いで「勤務先に近いから」(47.5%)、「千代田区が好きだから」(40.8%)、「医療や福祉などの質が高いから」(38.5%)、「教育や学習の機会や場が充実しているから」(28.3%)と続いている。(図1-2-6)

年代別にみると、「勤務先に近いから」は18～29歳（62.2%）・30歳代（61.1%）で6割強と高く、「医療や福祉などの質が高いから」は70～74歳（69.9%）で7割弱と高い割合となっている。

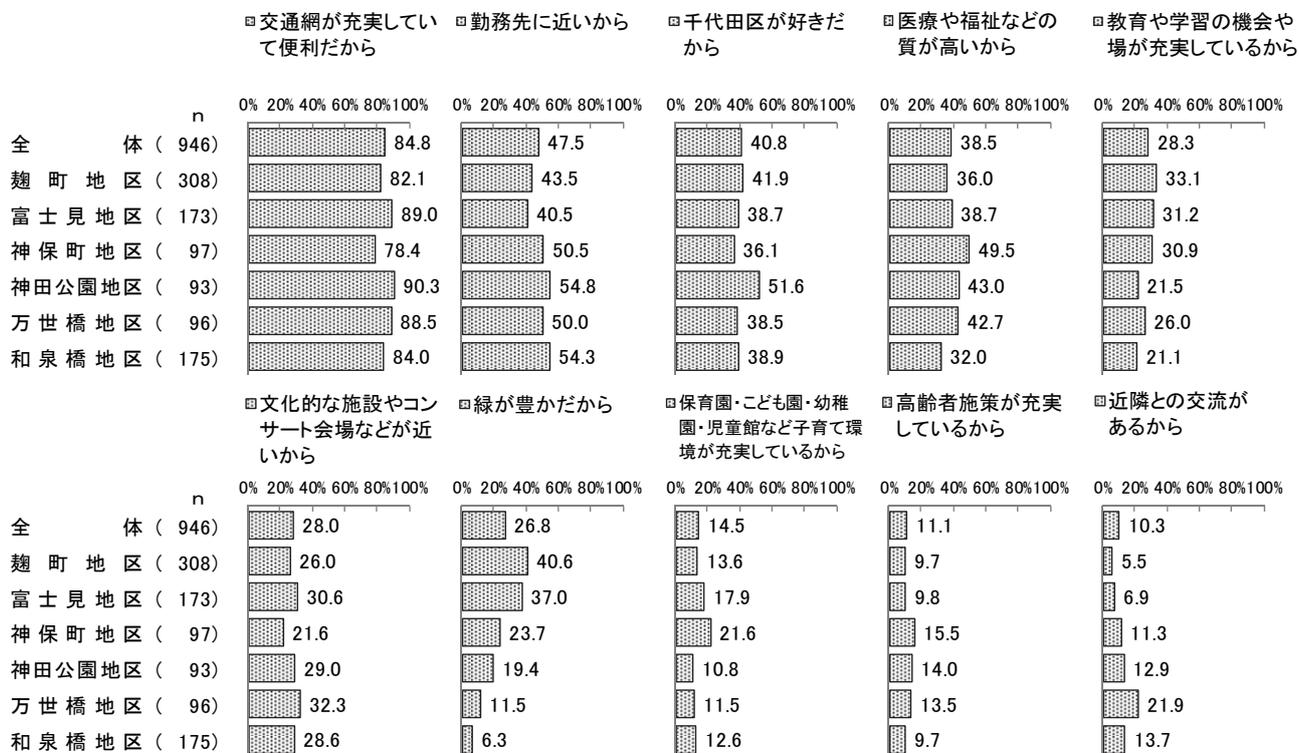
（図1-2-7）

図1-2-7 定住意向の理由（年代別）上位10項目



地区別にみると、「千代田区が好きだから」は神田公園地区（51.6%）が5割強と高くなっている。また、「医療や福祉などの質が高いから」は神保町地区（49.5%）で、「緑が豊かだから」は麴町地区（40.6%）・富士見地区（37.0%）でそれぞれ高い割合となっている。（図1-2-8）

図1-2-8 定住意向の理由（地区別）上位10項目

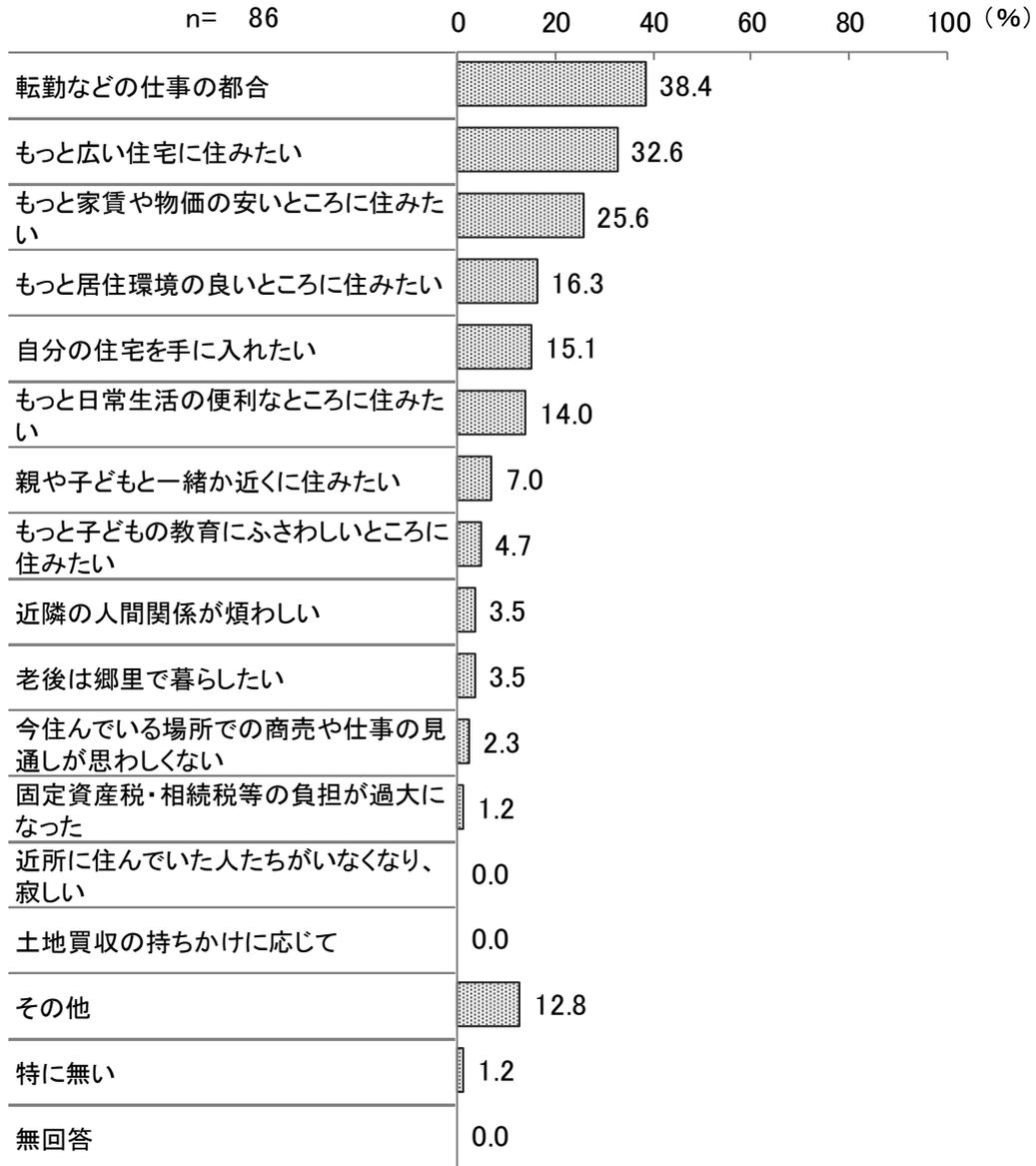


(2-2) 転出意向の理由

◇「転勤などの仕事の都合」が4割近く

(問2で「3. 近いうちに区外に転出するつもり」か「4. 1年以内に区外に転出するつもり」とお答えの方に)
 問2-2 あなたが、そう思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図1-2-9 転出意向の理由



千代田区から「近いうちに区外に転出するつもり」か「1年以内に区外に転出するつもり」と回答した方に、その理由を聞いたところ、「転勤などの仕事の都合」(38.4%)が4割近くで最も高く、次いで「もっと広い住宅に住みたい」(32.6%)、「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(25.6%)、「もっと居住環境の良いところに住みたい」(16.3%)、「自分の住宅を手に入れたい」(15.1%)、「もっと日常生活の便利なところに住みたい」(14.0%)と続いている。(図1-2-9)

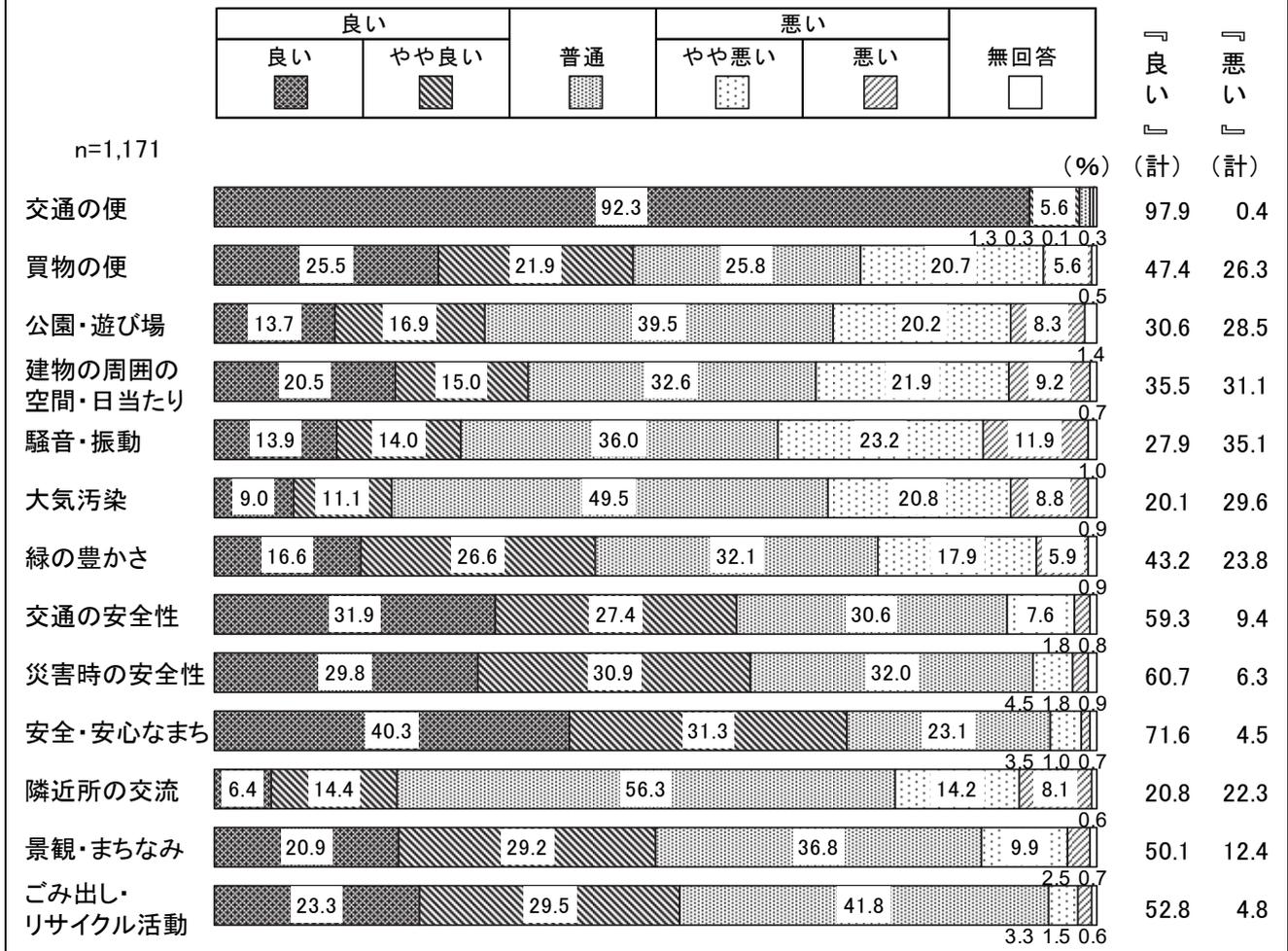
2. 居住環境評価

(1) 周辺の生活環境評価

◇「良い」は“交通の便”で9割強、「悪い」は“騒音・振動”で1割強

問3 あなたは、ご自宅の周辺の生活環境についてどう思いますか。各項目ごとに5段階で評価してください。(〇はそれぞれに1つ)

図2-1-1 周辺の生活環境評価



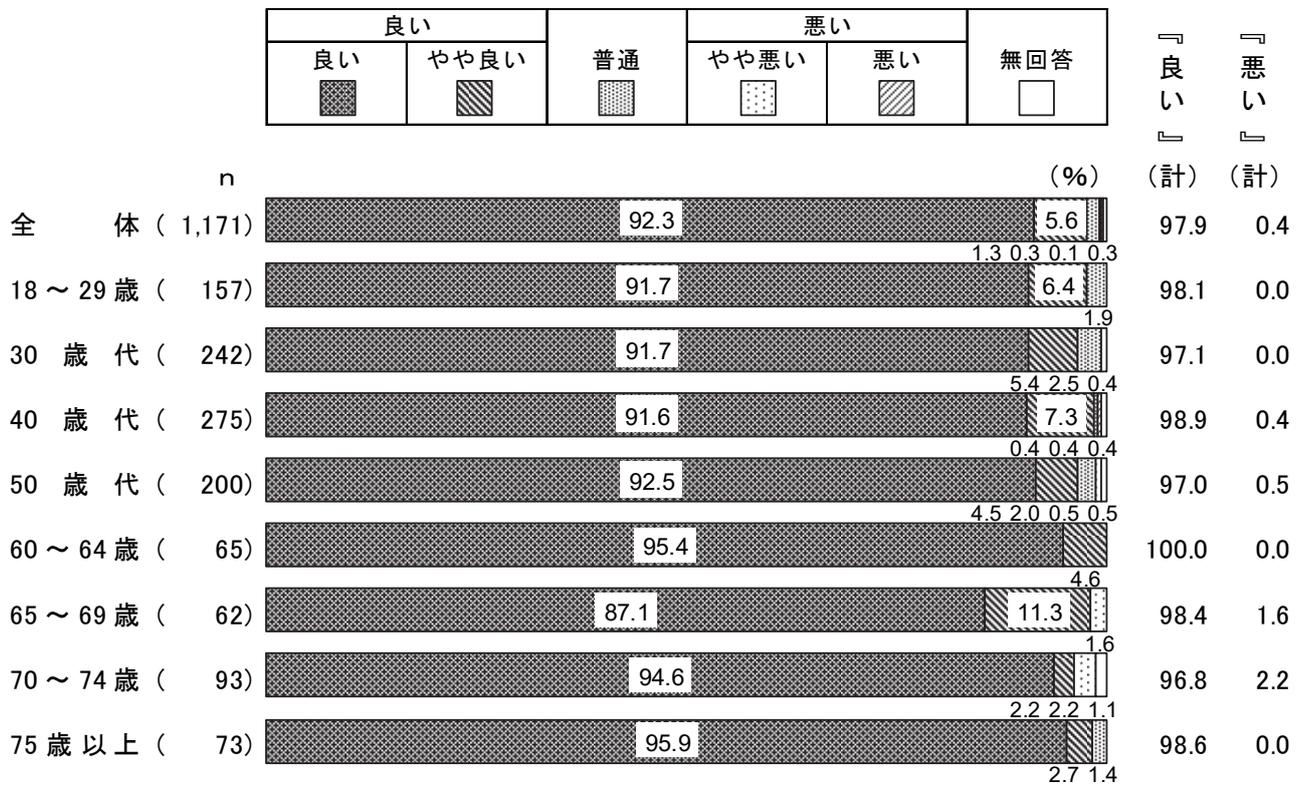
周辺の生活環境の評価として、「良い」が最も高い項目は“交通の便”(92.3%)で9割強と高くなっている。「悪い」が最も高い項目は“騒音・振動”(11.9%)で1割強となっている。(図2-1-1)

「良い」と「やや良い」を合わせた『良い』と、「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』の上位5項目を以下に表した。

『良い』上位5項目			『悪い』上位5項目		
1	交通の便	97.9%	1	騒音・振動	35.1%
2	安全・安心なまち	71.6%	2	建物の周囲の空間・日当たり	31.1%
3	災害時の安全性	60.7%	3	大気汚染	29.6%
4	交通の安全性	59.3%	4	公園・遊び場	28.5%
5	ごみ出し・リサイクル活動	52.8%	5	買物の便	26.3%

“交通の便”について年代別にみると、『良い』は60～64歳（100.0%）で最も高くなっている。
 (図2-1-2)

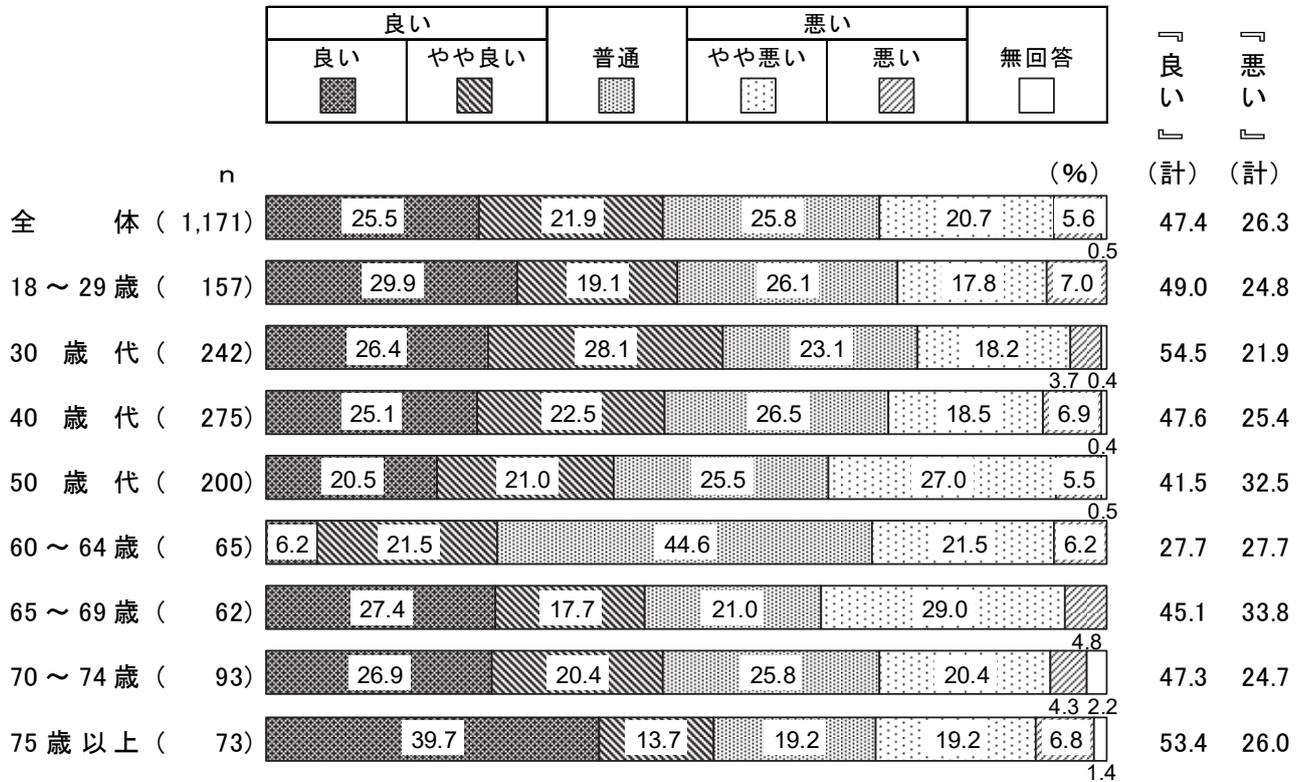
図2-1-2 周辺の生活環境評価 1. 交通の便（年代別）



“買物の便”について年代別にみると、『良い』は30歳代(54.5%)・75歳以上(53.4%)で5割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は65～69歳(33.8%)で3割台半ば近くとなっている。

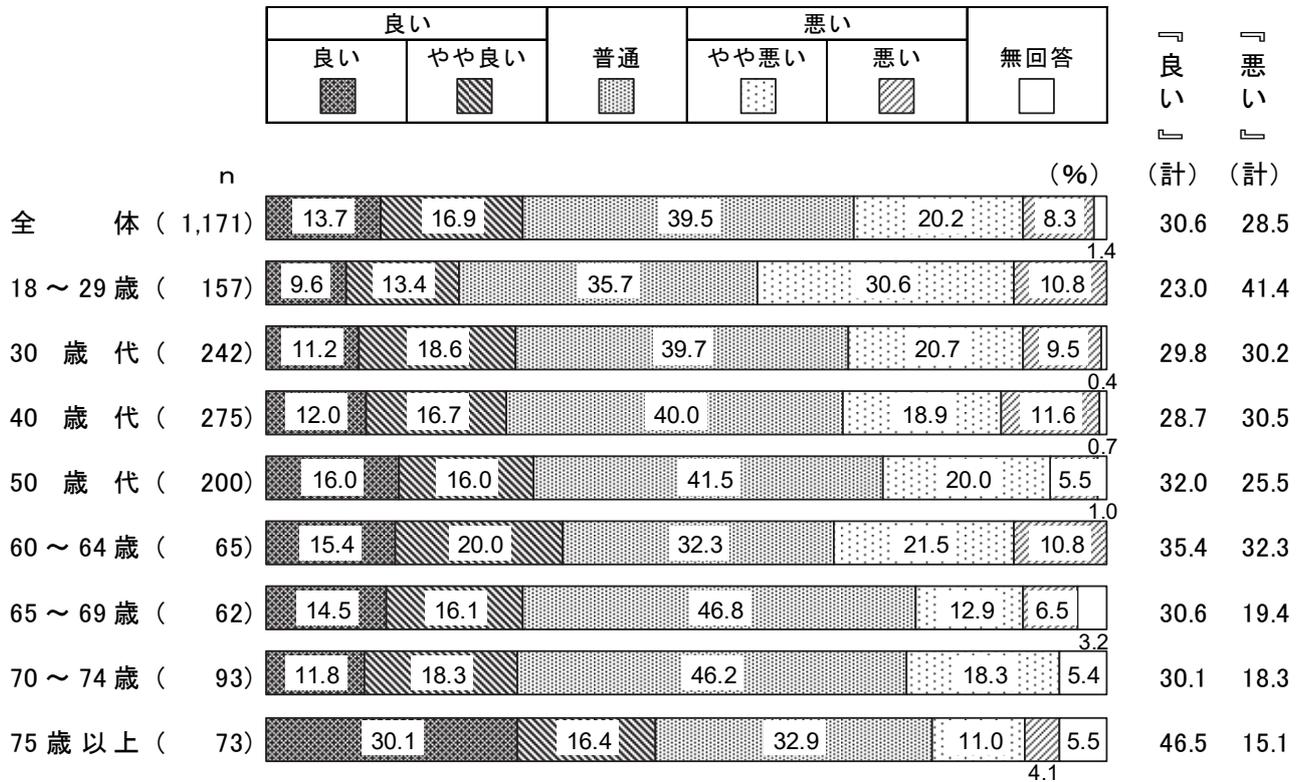
(図2-1-3)

図2-1-3 周辺の生活環境評価 2. 買物の便(年代別)



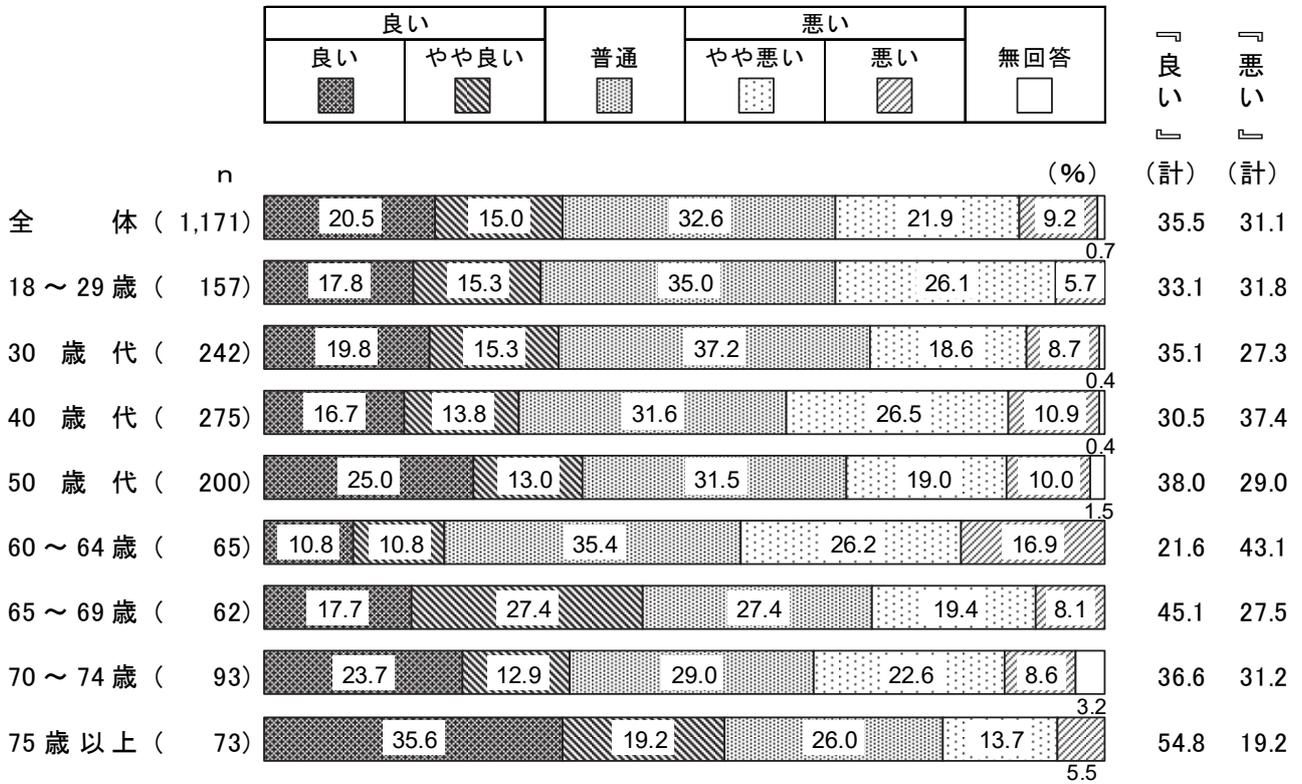
“公園・遊び場”について年代別にみると、『良い』は75歳以上（46.5%）で4割台半ばを超えて高くなっている。一方、『悪い』は18～29歳（41.4%）で4割強と高くなっている。（図2-1-4）

図2-1-4 周辺の生活環境評価 3. 公園・遊び場（年代別）



“建物の周囲の空間・日当たり”について年代別にみると、『良い』は75歳以上（54.8%）で5割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は60～64歳（43.1%）で4割台半ば近くと高くなっている。（図2-1-5）

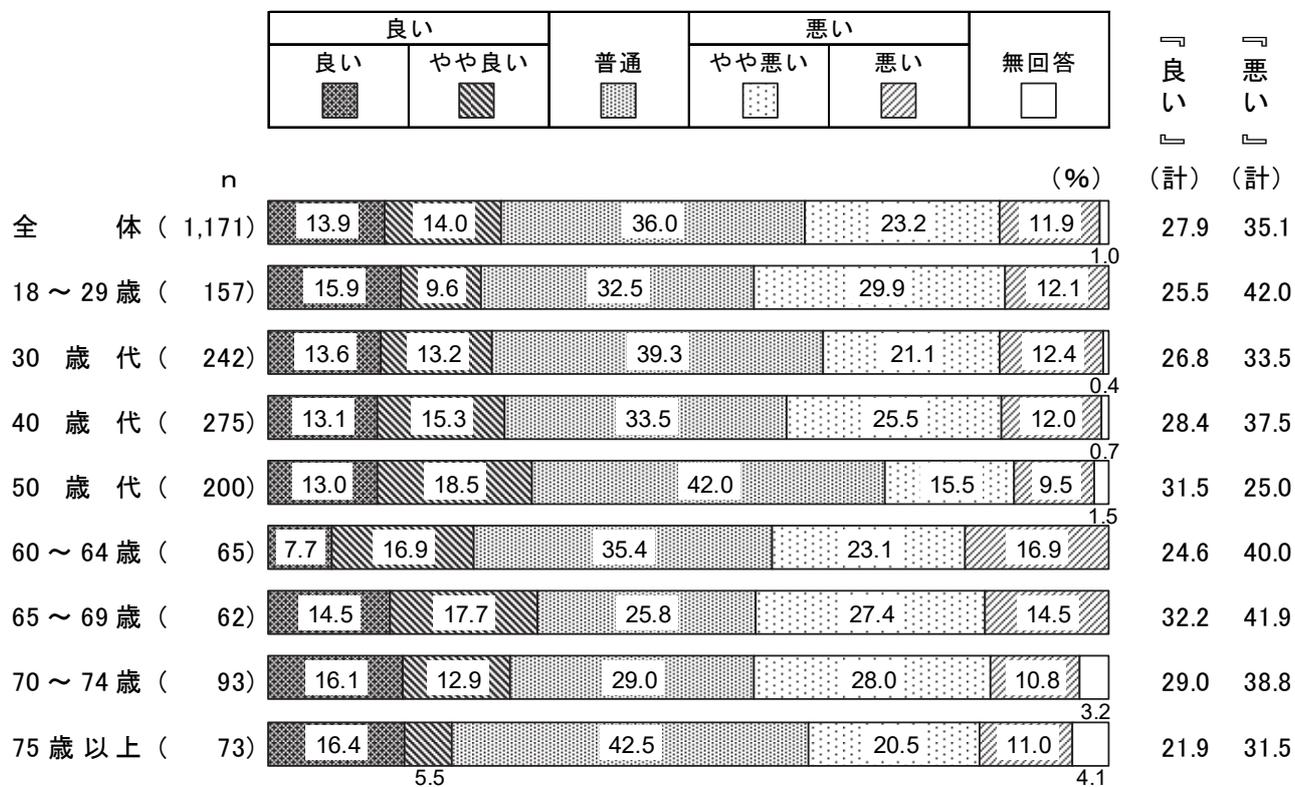
図2-1-5 周辺の生活環境評価 4. 建物の周囲の空間・日当たり（年代別）



“騒音・振動”について年代別にみると、『良い』は65～69歳（32.2%）で3割強と高くなっている。一方、『悪い』は18～29歳（42.0%）・65～69歳（41.9%）で4割強と高くなっている。

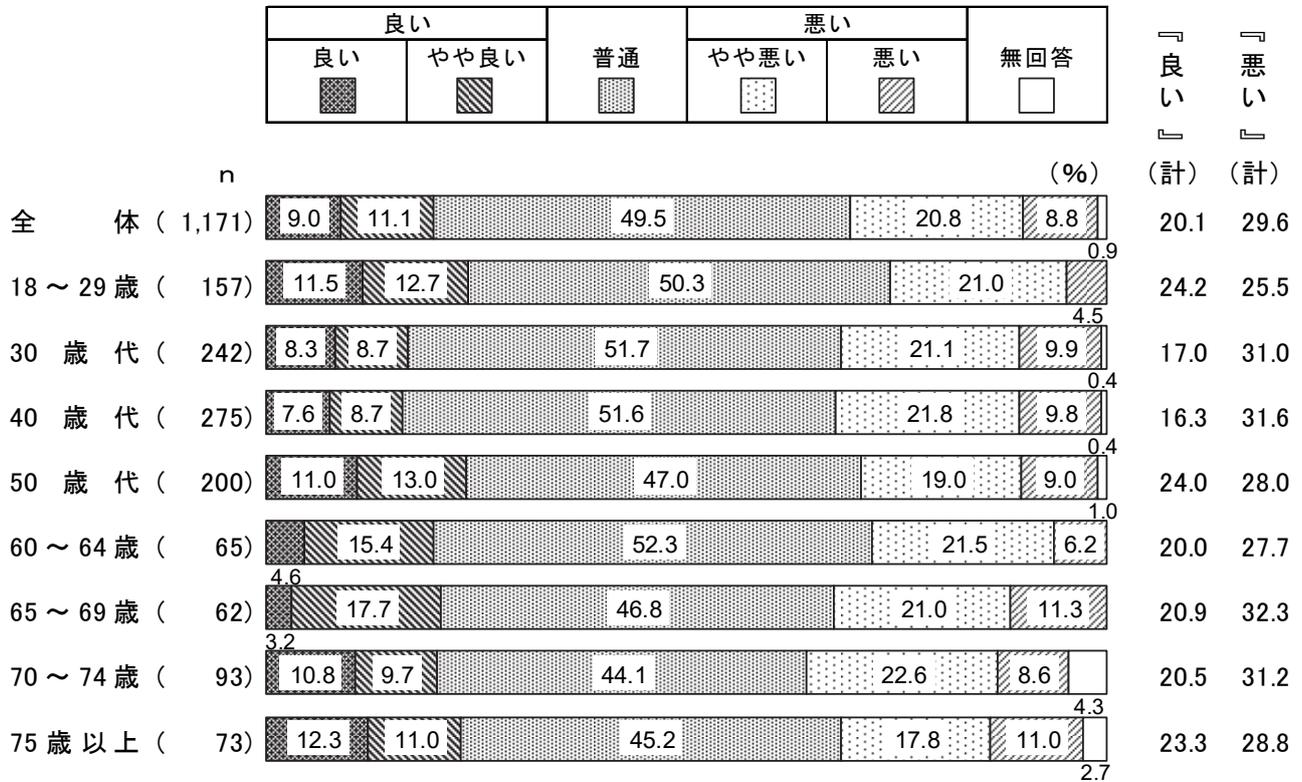
(図2-1-6)

図2-1-6 周辺の生活環境評価 5. 騒音・振動（年代別）



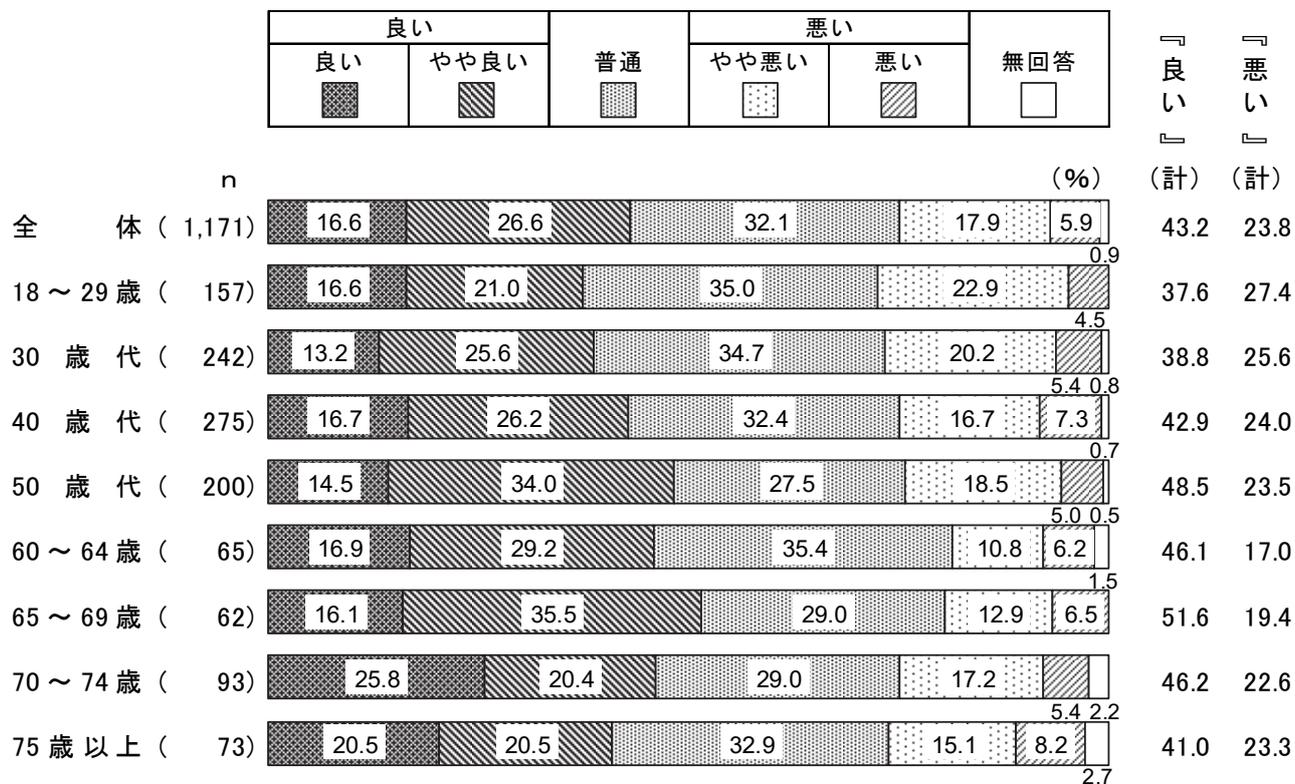
“大気汚染”について年代別にみると、『良い』は18～29歳（24.2%）・50歳代（24.0%）・75歳以上（23.3%）で2割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は65～69歳（32.3%）・40歳代（31.6%）・70～74歳（31.2%）・30歳代（31.0%）で3割強と高くなっている。（図2-1-7）

図2-1-7 周辺の生活環境評価 6. 大気汚染（年代別）



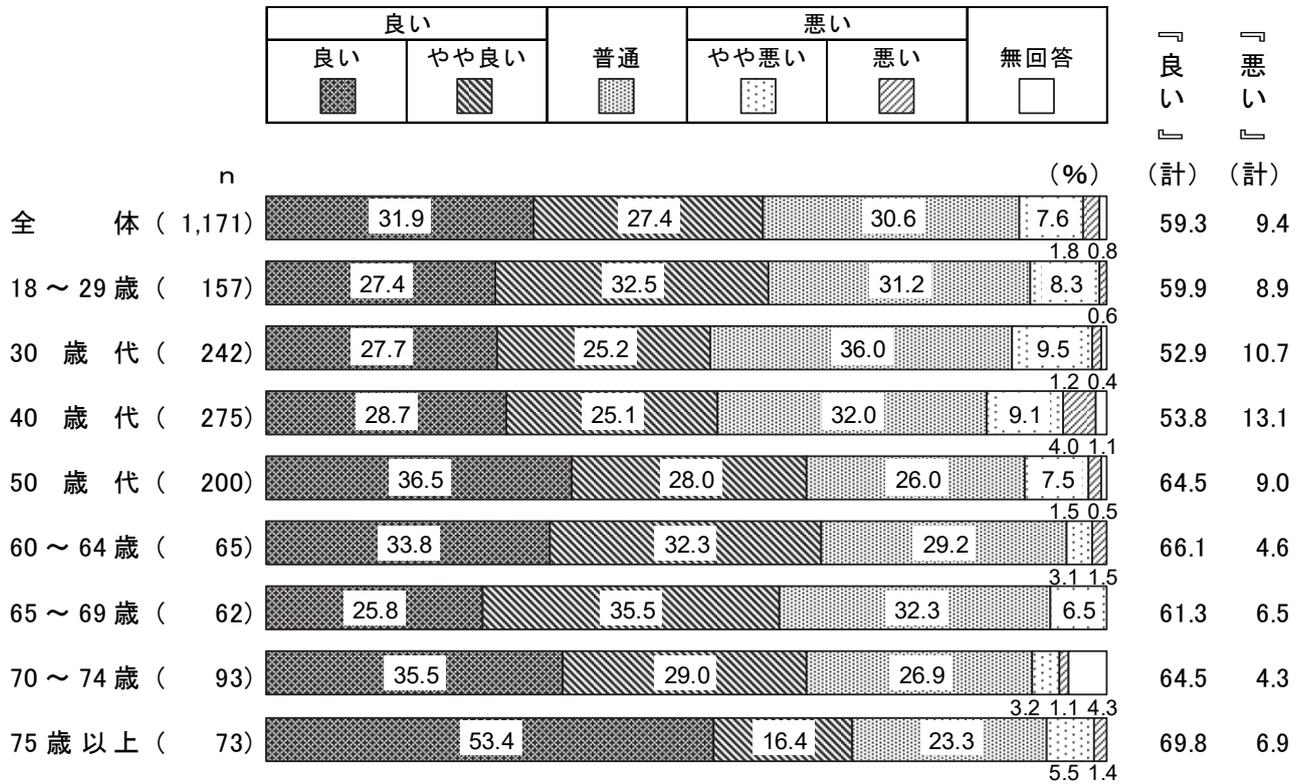
“緑の豊かさ”について年代別にみると、『良い』は65～69歳（51.6%）で5割強と高くなっている。一方、『悪い』は18～29歳（27.4%）で2割台半ばを超えて高くなっている。（図2-1-8）

図2-1-8 周辺的生活環境評価 7. 緑の豊かさ（年代別）



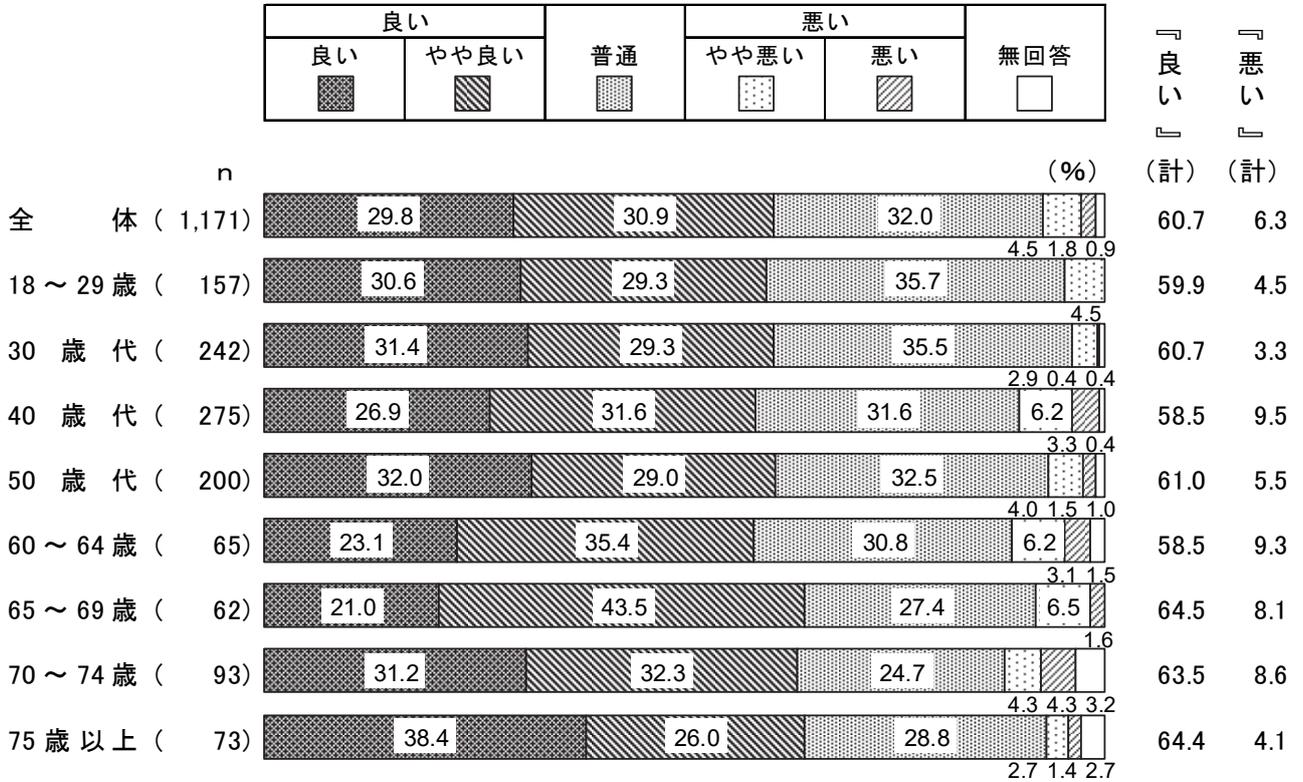
“交通の安全性”について年代別にみると、『良い』は75歳以上（69.8%）で7割弱と高くなっている。一方、『悪い』は40歳代（13.1%）で1割台半ば近くと高くなっている。（図2-1-9）

図2-1-9 周辺の生活環境評価 8. 交通の安全性（年代別）



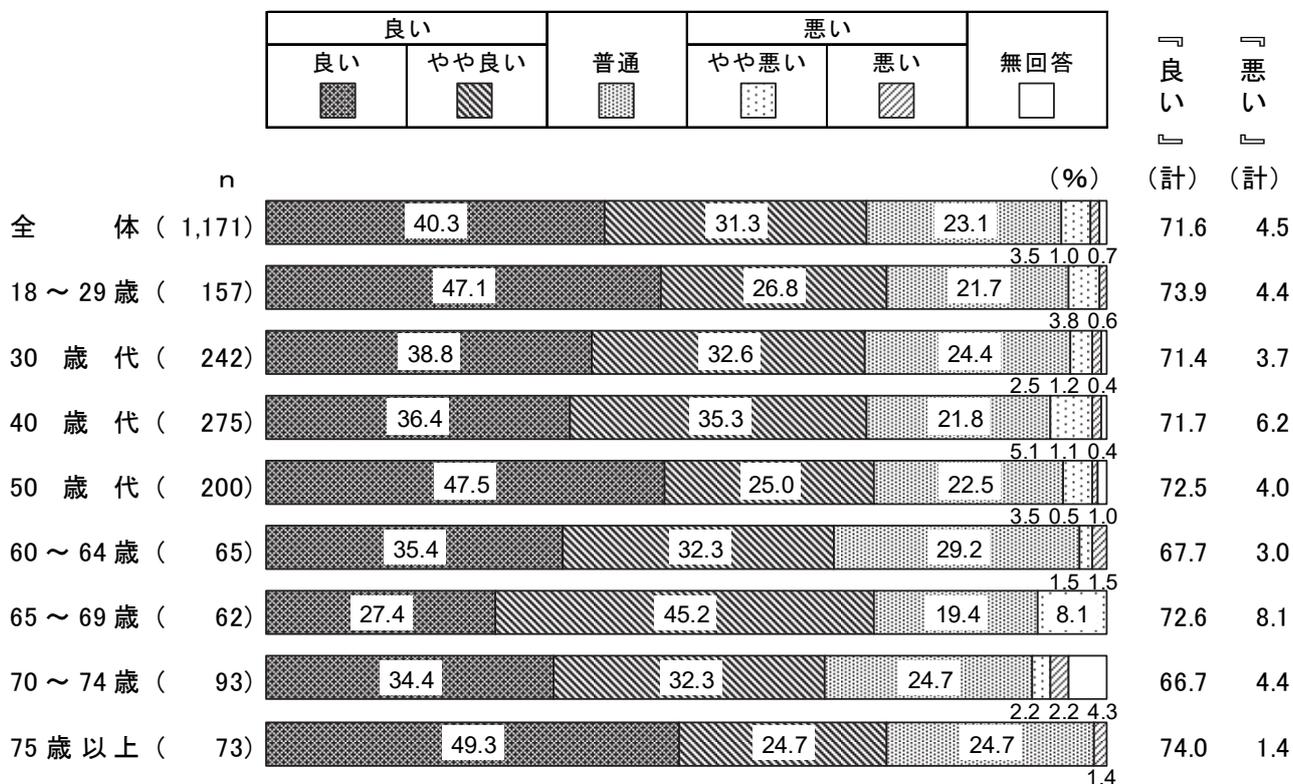
“災害時の安全性”について年代別にみると、『良い』は65～69歳(64.5%)・75歳以上(64.4%)・70～74歳(63.5%)で6割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は40歳代(9.5%)・60～64歳(9.3%)で1割弱と高くなっている。(図2-1-10)

図2-1-10 周辺の生活環境評価 9. 災害時の安全性(年代別)



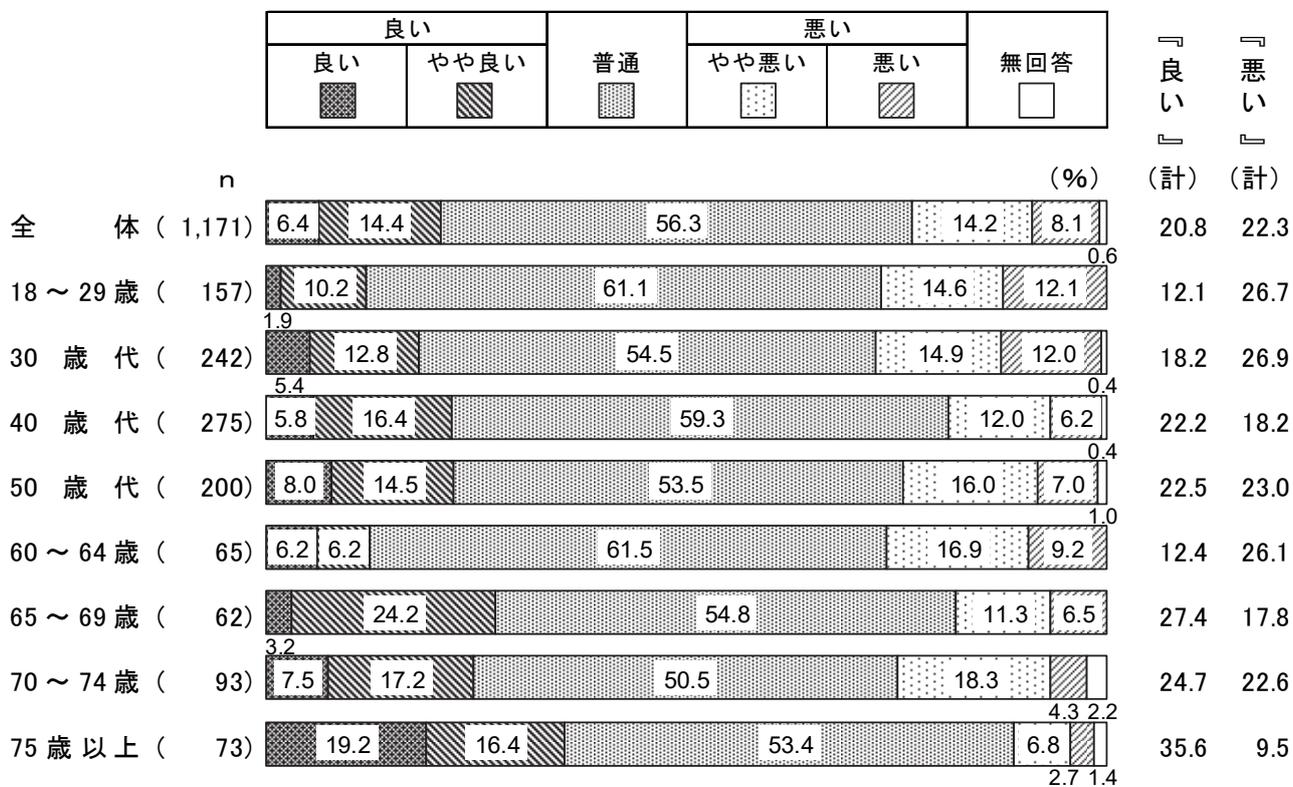
“安全・安心なまち”について年代別にみると、『良い』は75歳以上(74.0%)・18~29歳(73.9%)で7割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は65~69歳(8.1%)が1割近くとやや高くなっている。(図2-1-11)

図2-1-11 周辺の生活環境評価 10. 安全・安心なまち(年代別)



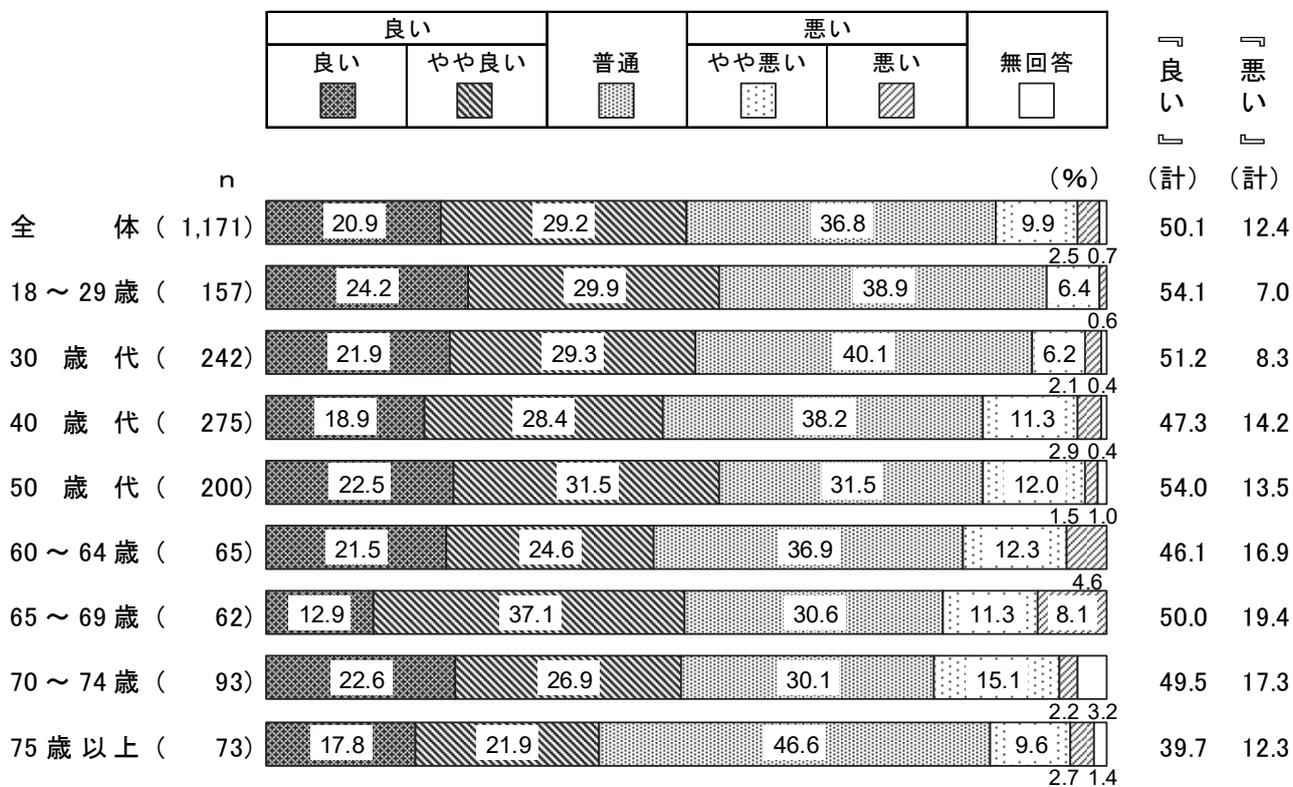
“隣近所の交流”について年代別にみると、『良い』は75歳以上(35.6%)で3割台半ばと高くなっている。一方、『悪い』は30歳代(26.9%)・18~29歳(26.7%)・60~64歳(26.1%)で2割台半ばを超えて高くなっている。(図2-1-12)

図2-1-12 周辺の生活環境評価 11. 隣近所の交流(年代別)



“景観・まちなみ”について年代別にみると、『良い』は18～29歳（54.1%）・50歳代（54.0%）で5割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は65～69歳（19.4%）で2割弱と高くなっている。（図2-1-13）

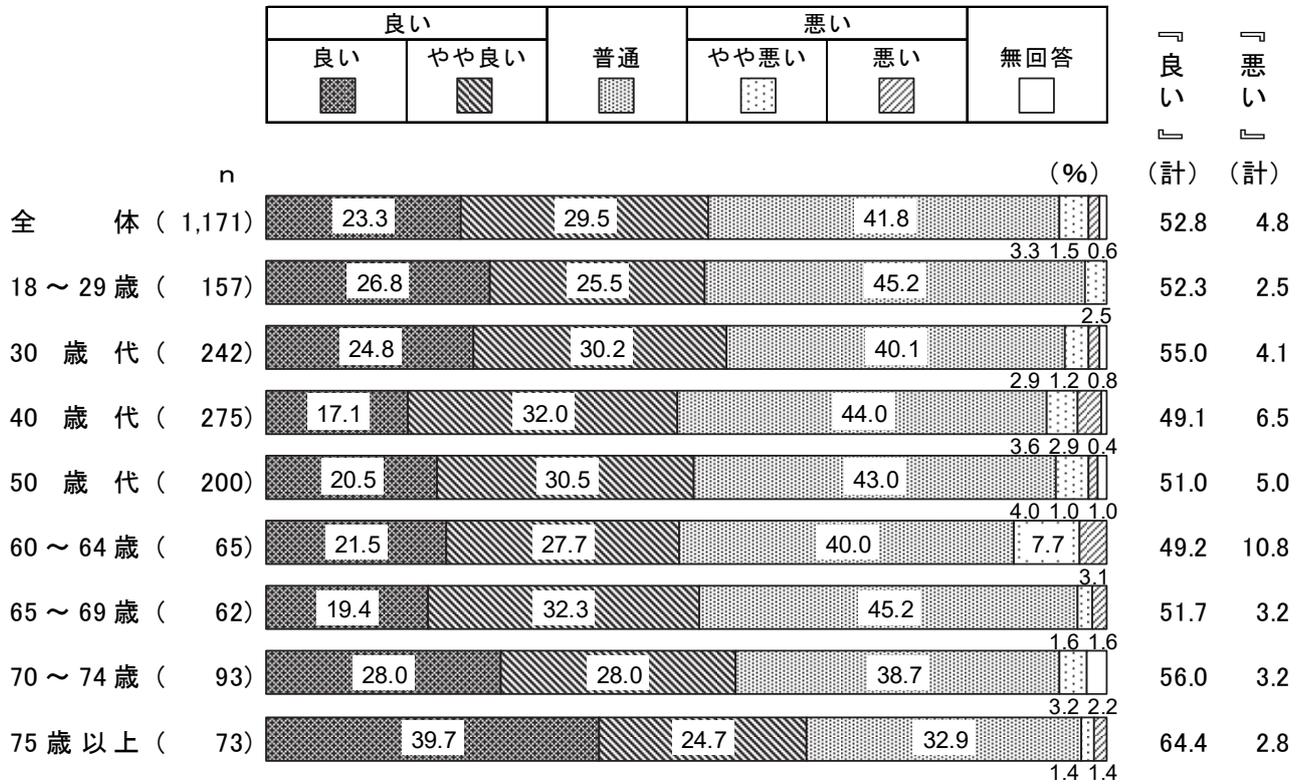
図2-1-13 周辺の生活環境評価 12. 景観・まちなみ（年代別）



“ごみ出し・リサイクル活動”について年代別にみると、『良い』は75歳以上（64.4%）で6割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は60～64歳（10.8%）で約1割とやや高くなっている。

(図2-1-14)

図2-1-14 周辺の生活環境評価 13. ごみ出し・リサイクル活動（年代別）



◇加重平均値

満足度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、5段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。「普通」については0点として扱った。

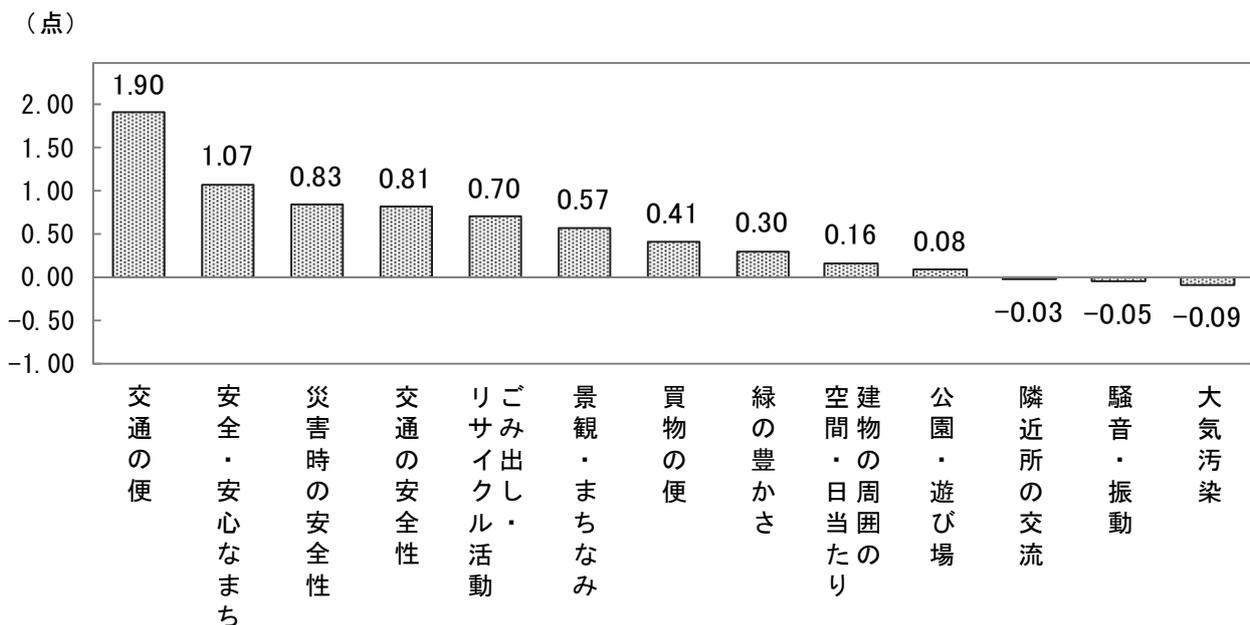
$$\text{評価点} = \frac{\text{「良い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや悪い」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、無回答を除く。

この算出方法では、評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

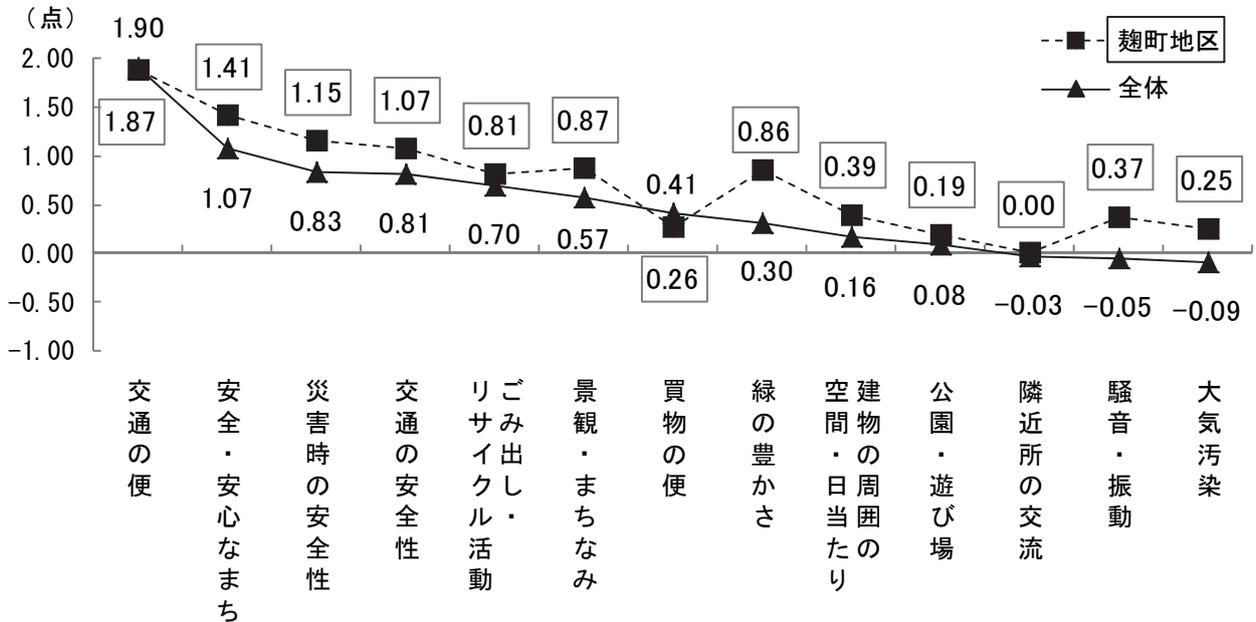
結果をみると、最もプラス評価が高いのは“交通の便”(1.90)で、際立って高くなっている。その他に満足度がプラス評価になっているのは、“安全・安心なまち”(1.07)、“災害時の安全性”(0.83)、“交通の安全性”(0.81)、“ごみ出し・リサイクル活動”(0.70)、“景観・まちなみ”(0.57)、“買物の便”(0.41)、“緑の豊かさ”(0.30)、“建物の周囲の空間・日当たり”(0.16)、“公園・遊び場”(0.08)の計10項目である。一方、マイナス評価が最も高いのは“大気汚染”(-0.09)となっており、次いで“騒音・振動”(-0.05)、“隣近所の交流”(-0.03)の順となっている。(図2-1-15)

図2-1-15 周辺の生活環境評価 加重平均



麴町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は11項目となっており、特に“緑の豊かさ”（0.56点差）、“騒音・振動”（0.42点差）、“安全・安心なまち”（0.34点差）、“大気汚染”（0.34点差）などの評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は“買物の便”（0.15点差）、“交通の便”（0.03点差）の2項目となっている。（図2-1-16）

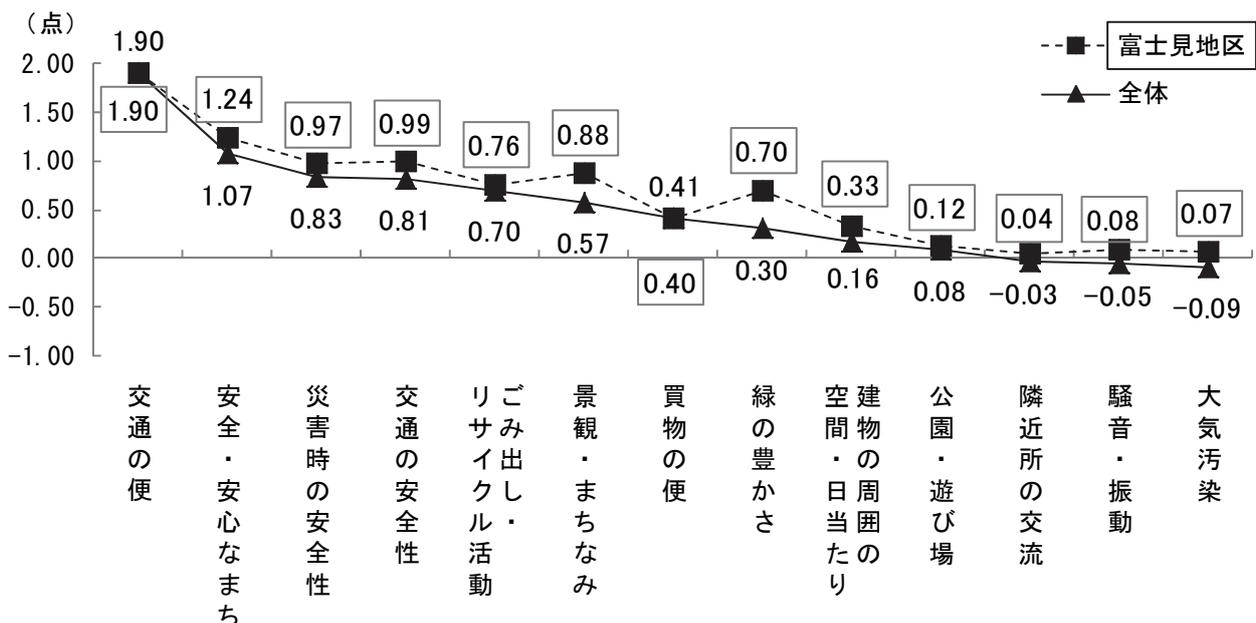
図2-1-16 周辺の生活環境評価 加重平均（麴町地区）



富士見地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は11項目となっており、特に“緑の豊かさ”（0.40点差）、“景観・まちなみ”（0.31点差）、“交通の安全性”（0.18点差）、“安全・安心なまち”（0.17点差）、“建物の周囲の空間・日当たり”（0.17点差）などの評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は“買物の便”（0.01点差）となっている。（図2-1-17）

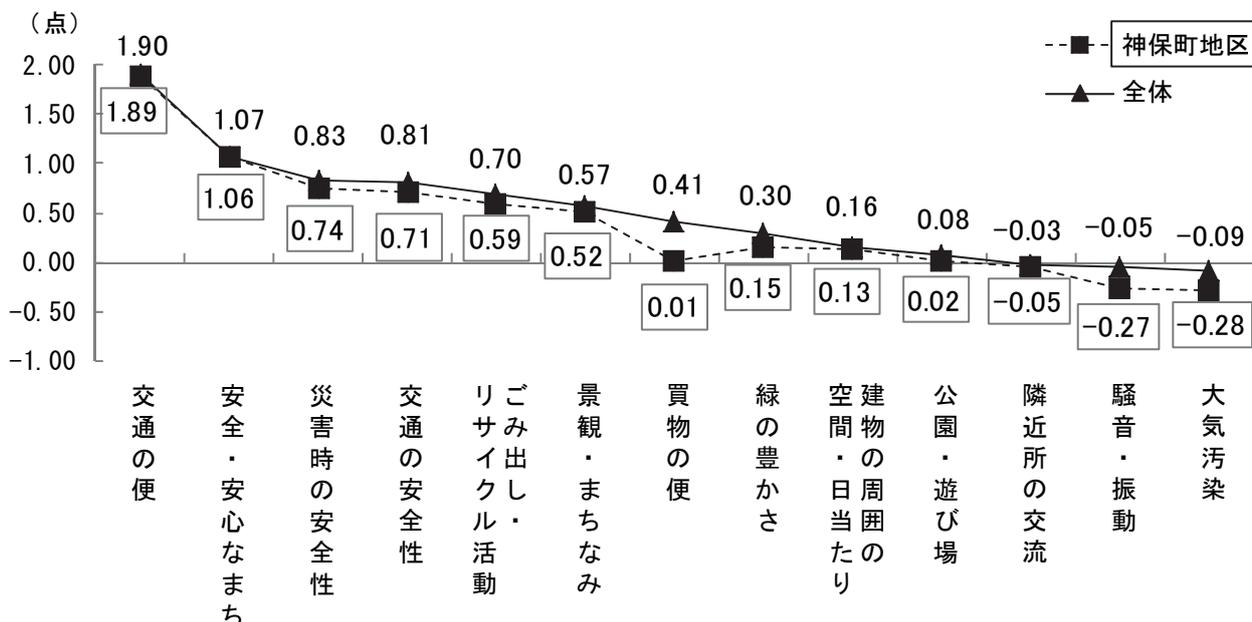
（図2-1-17）

図2-1-17 周辺の生活環境評価 加重平均（富士見地区）



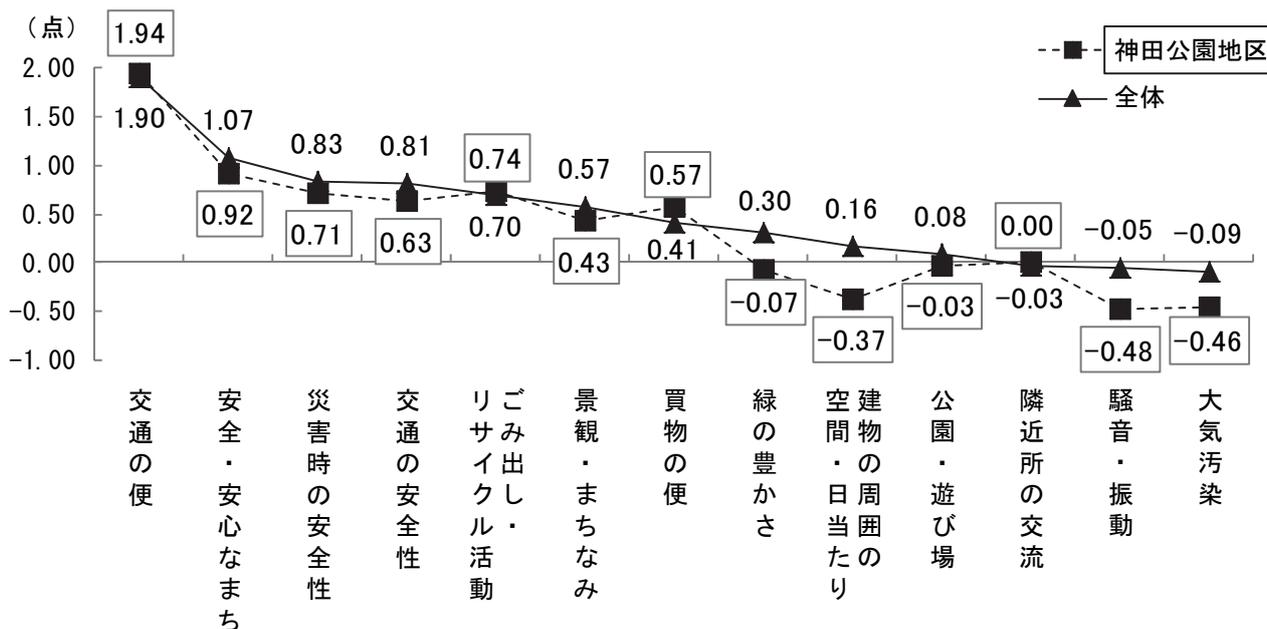
神保町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、すべての項目で全体より評価が低くなっており、特に“買物の便” (0.40 点差)、“騒音・振動” (0.22 点差)、“大気汚染” (0.19 点差) などの評価が低くなっている。(図 2-1-18)

図 2-1-18 周辺の生活環境評価 加重平均 (神保町地区)



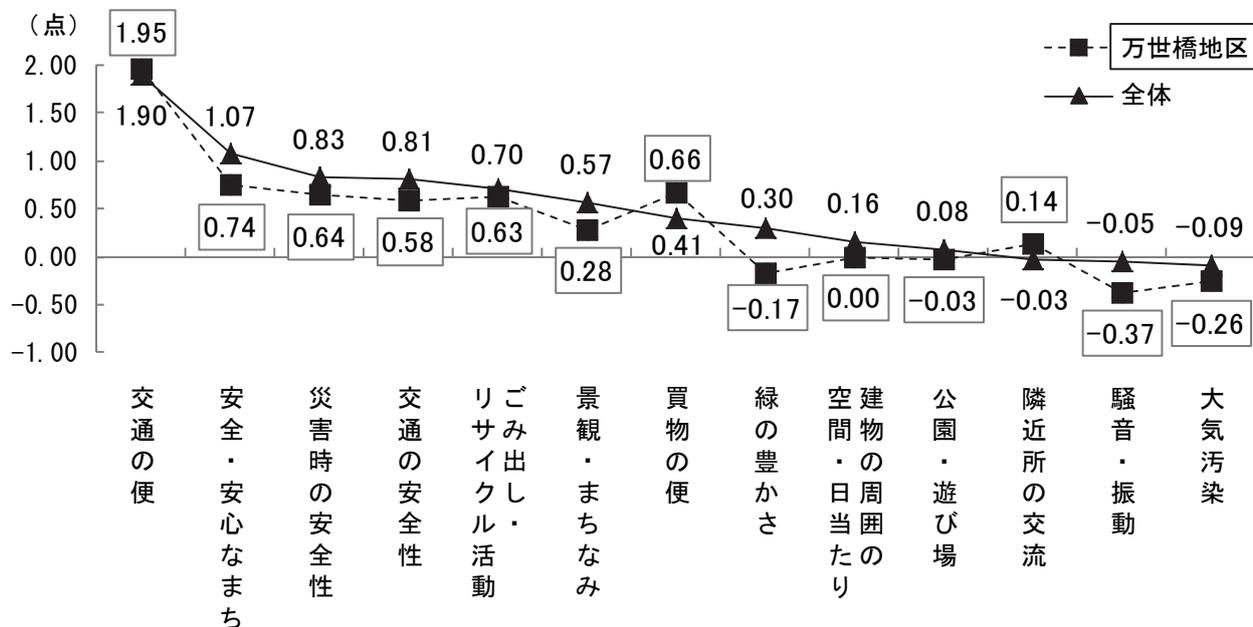
神田公園地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は“買物の便” (0.16 点差)、“交通の便” (0.04 点差)、“ごみ出し・リサイクル活動” (0.04 点差)、“隣近所の交流” (0.03 点差) の 4 項目となっている。一方、全体より評価が低い項目は 9 項目となっており、特に“建物の周囲の空間・日当たり” (0.53 点差)、“騒音・振動” (0.43 点差)、“大気汚染” (0.37 点差) などの評価が低くなっている。(図 2-1-19)

図 2-1-19 周辺の生活環境評価 加重平均 (神田公園地区)



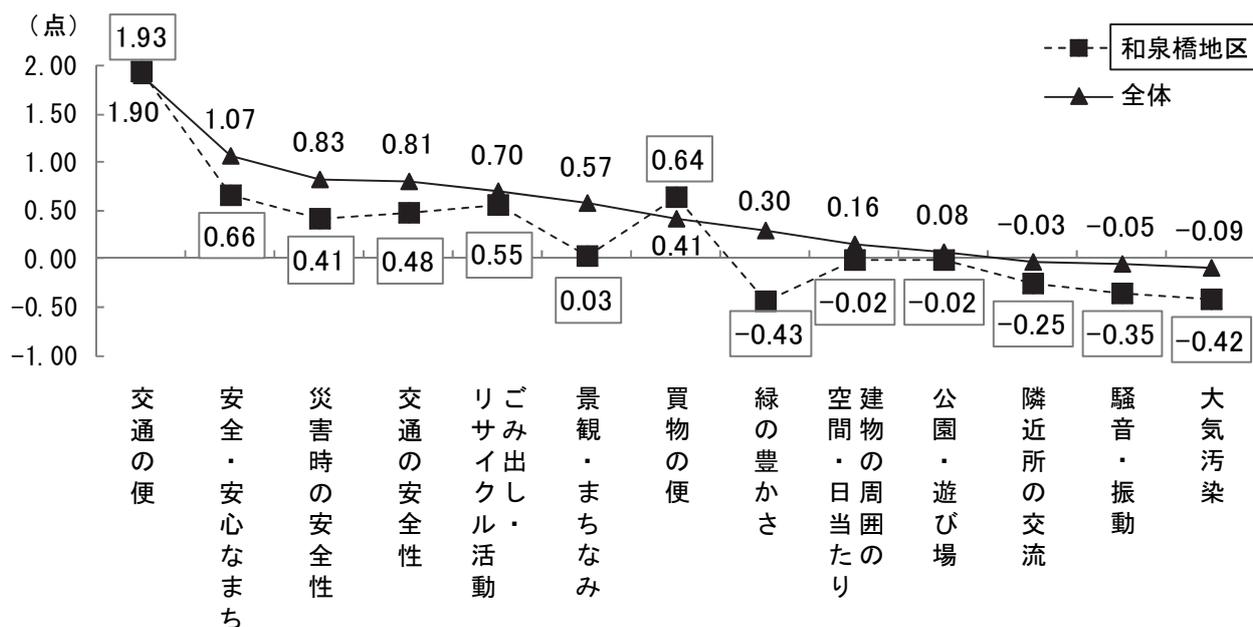
万世橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は3項目となっており、特に“買物の便”（0.25点差）、“隣近所の交流”（0.17点差）の評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は10項目となっており、特に“緑の豊かさ”（0.47点差）、“安全・安心なまち”（0.33点差）、“騒音・振動”（0.32点差）などの評価が低くなっている。（図2-1-20）

図2-1-20 周辺の生活環境評価 加重平均（万世橋地区）



和泉橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は“買物の便”（0.23点差）、“交通の便”（0.03点差）の2項目となっている。一方、全体より評価が低い項目は11項目となっており、特に“緑の豊かさ”（0.73点差）、“景観・まちなみ”（0.54点差）、“災害時の安全性”（0.42点差）などの評価が低くなっている。（図2-1-21）

図2-1-21 周辺の生活環境評価 加重平均（和泉橋地区）

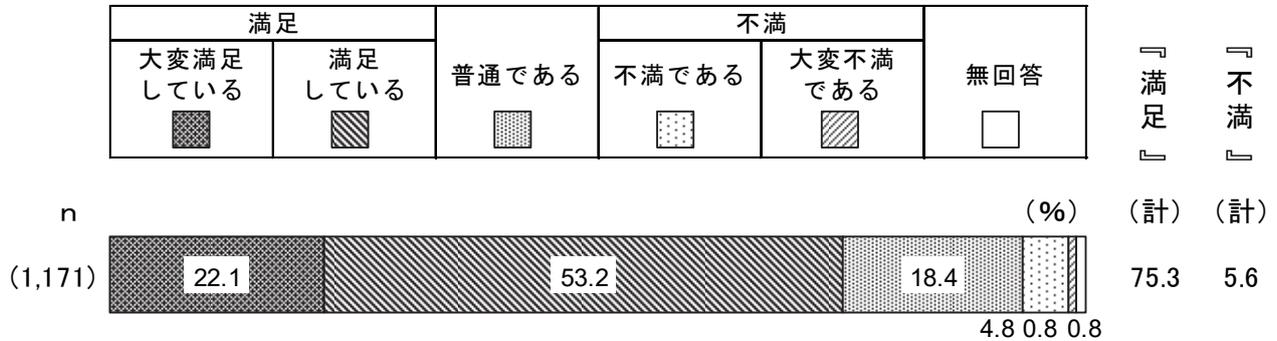


(2) 周辺の居住環境の満足度

◇「大変満足している」と「満足している」を合わせた『満足』は7割台半ば

問4 あなたのお住まいやその居住環境について、当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

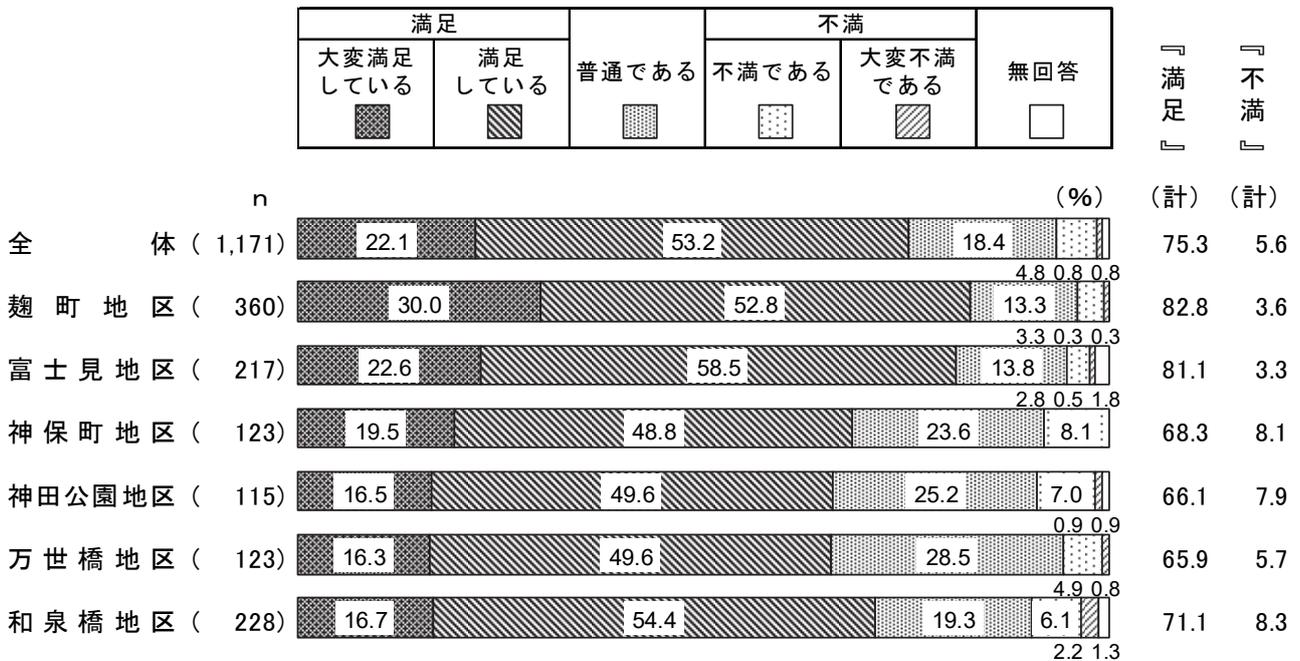
図2-2-1 周辺の居住環境の満足度



周辺の居住環境の満足度を聞いたところ、「満足している」(53.2%)が5割台半ば近くと最も高く、これに「大変満足している」(22.1%)を合わせた『満足』(75.3%)は7割台半ばとなっている。一方、「不満である」(4.8%)と「大変不満である」(0.8%)を合わせた『不満』(5.6%)は1割未満となっている。(図2-2-1)

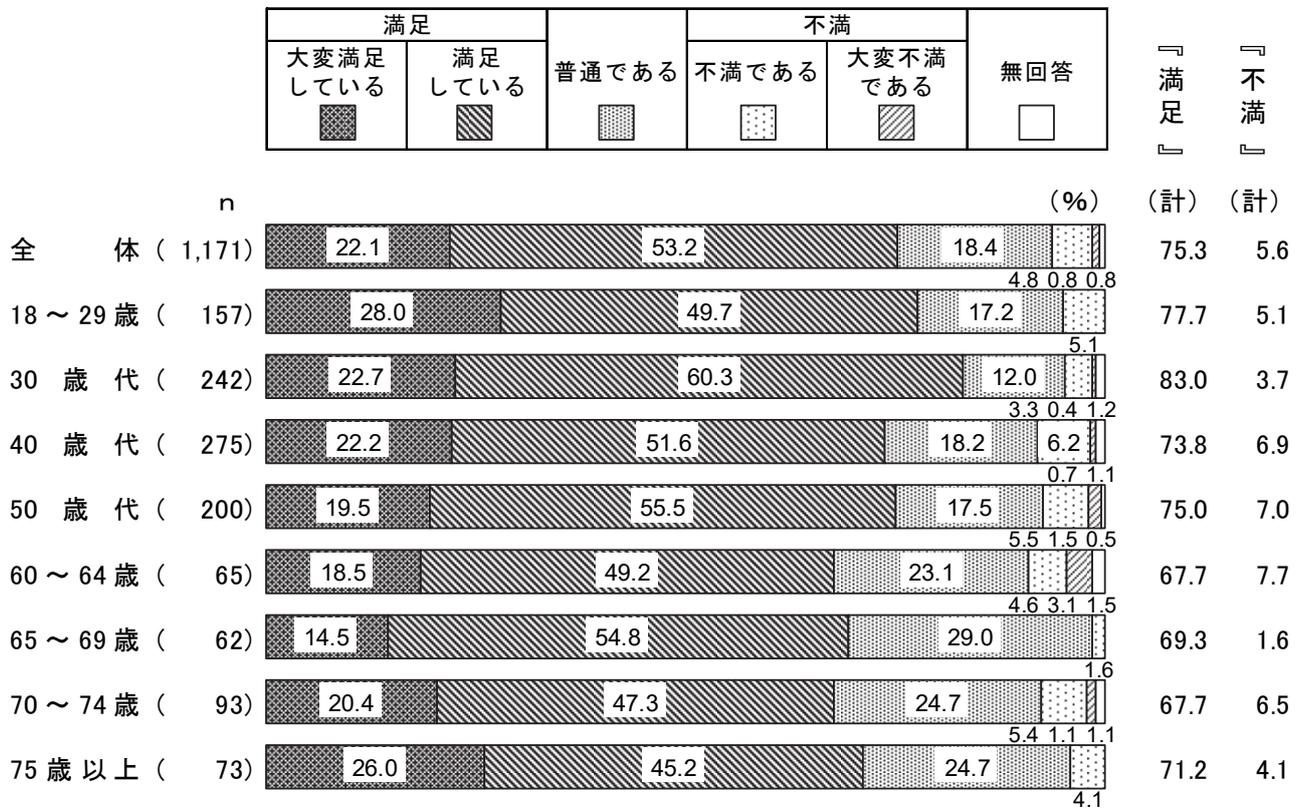
地区別にみると、『満足』は麴町地区(82.8%)で、『不満』は和泉橋地区(8.3%)・神保町地区(8.1%)で、それぞれ高い割合となっている。(図2-2-2)

図2-2-2 周辺の居住環境の満足度(地区別)



年代別にみると、『満足』は30歳代（83.0%）で、『不満』は60～64歳（7.7%）で、それぞれ高い割合となっている。（図2-2-3）

図2-2-3 周辺の居住環境の満足度（年代別）



3. 区の施策への要望

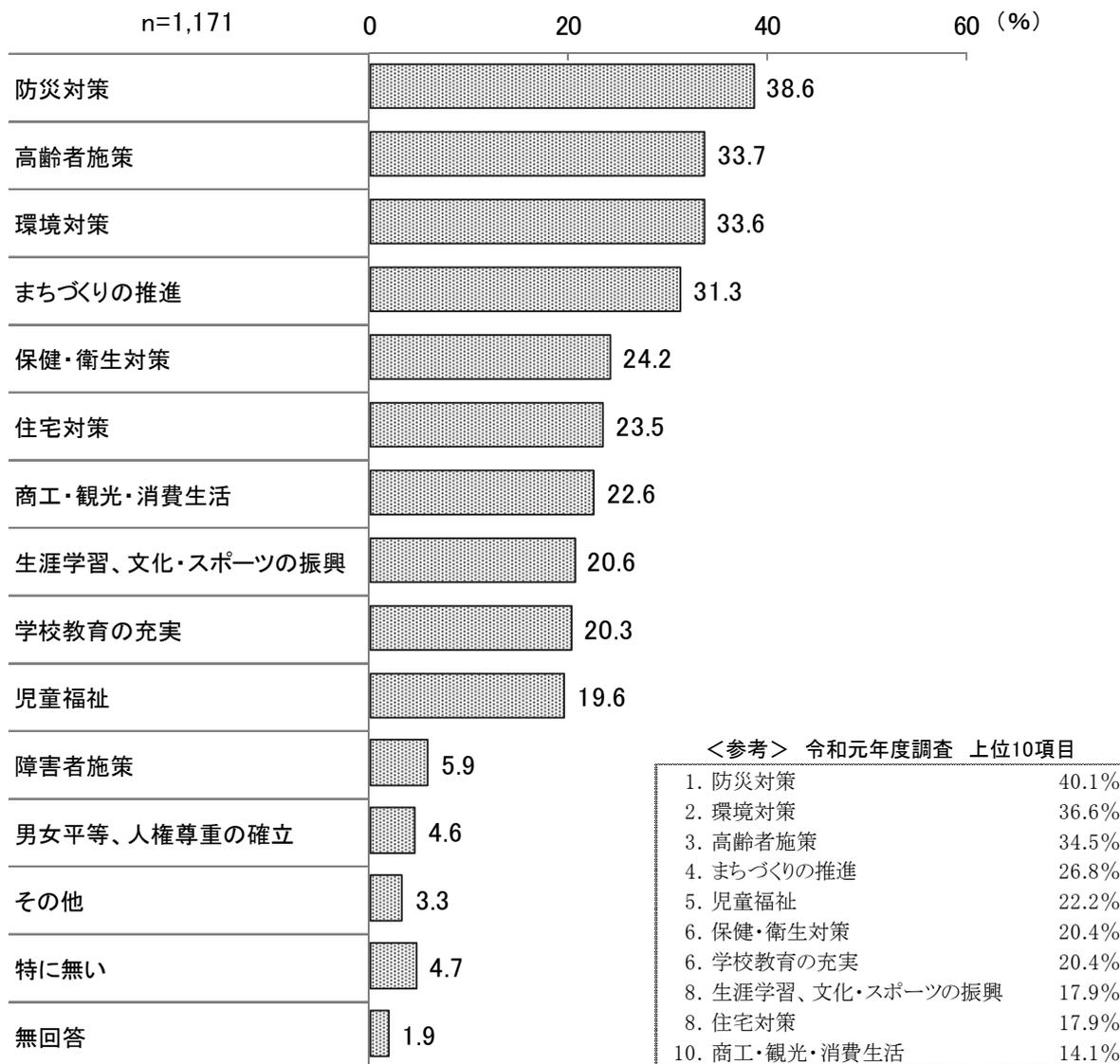
(1) 力を入れてほしい施策

◇「防災対策」が4割近く

問5 これからの区政全体について考えた場合、あなたは、どの分野に力を入れてもらいたいと思いますか。特に力を入れて取り組んでほしい分野について、下記1～14の中から優先順位の高い順に3つ選んで番号を記入してください。ただし、「14. 特に無い」を選んだ方は1位の欄に記入してください。

問5-1 問5で選んだ分野の中の「具体的な要望」で優先度の高い項目を3つ選んでご記入ください。

図3-1-1 力を入れてほしい施策



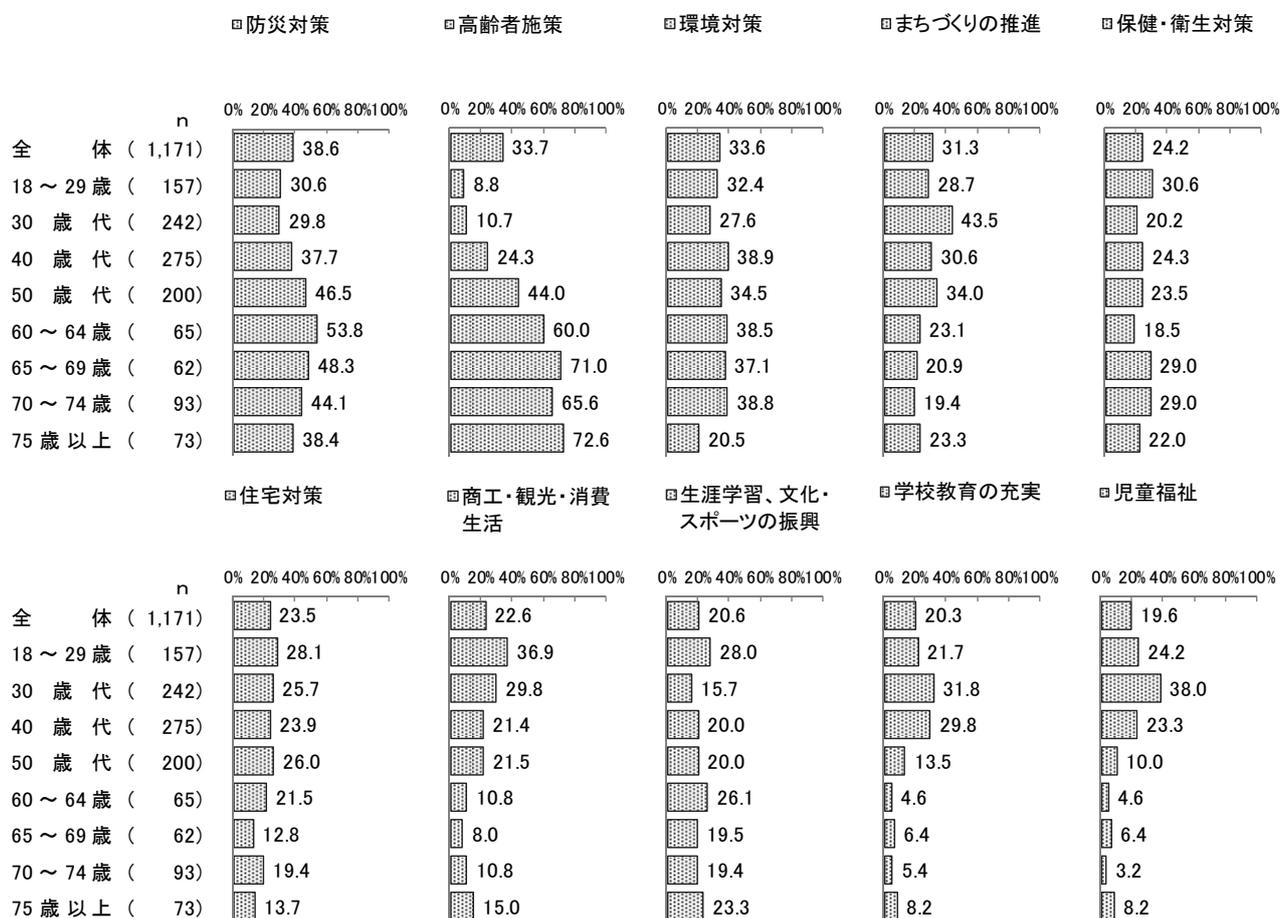
※「力を入れてほしい施策」については、4つ以上回答した場合でもすべて集計しています。

力を入れてほしい施策について聞いたところ、「防災対策」(38.6%)が4割近くと最も高く、次いで「高齢者施策」(33.7%)、「環境対策」(33.6%)、「まちづくりの推進」(31.3%)と続いている。

(図3-1-1)

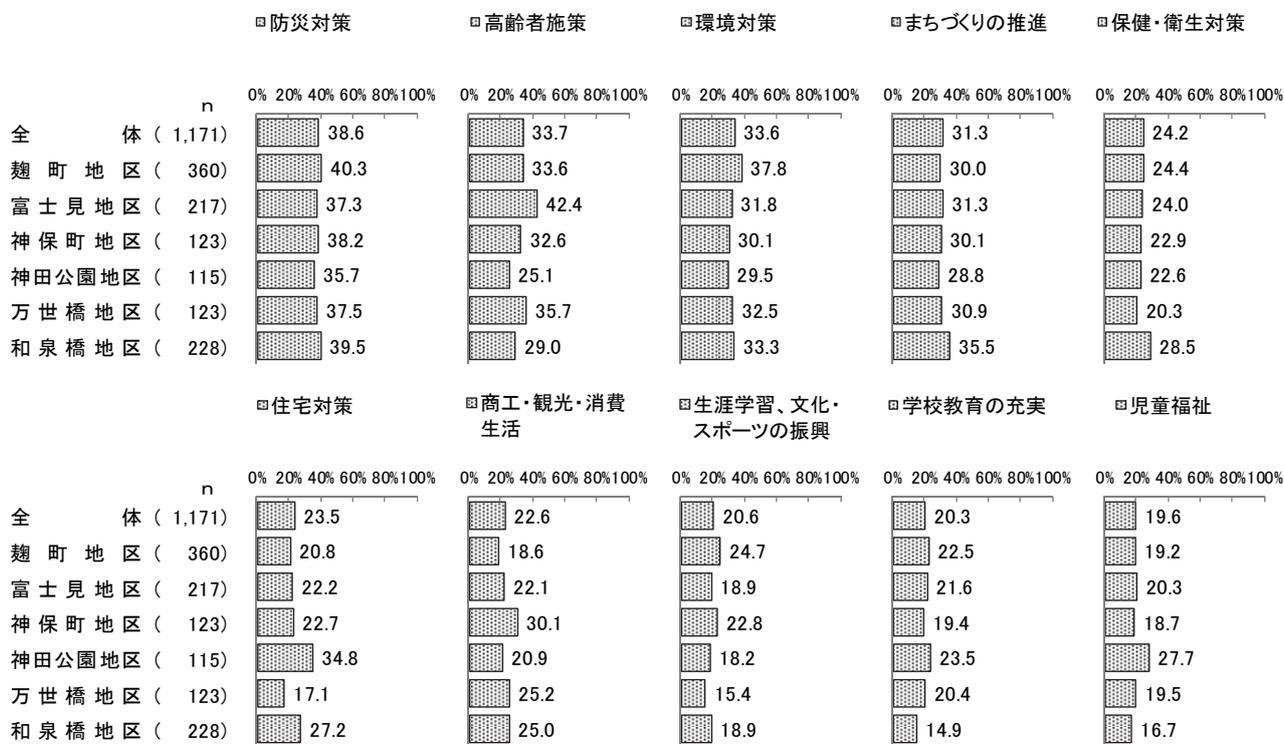
年代別にみると、「防災対策」は60～64歳（53.8%）で5割台半ば近くと高くなっている。また、「高齢者施策」は75歳以上（72.6%）・65～69歳（71.0%）で7割強と高くなっており、「まちづくりの推進」では30歳代（43.5%）で4割台半ば近くと高くなっている。（図3-1-2）

図3-1-2 力を入れてほしい施策（年代別）—上位10分野—



地区別にみると、「高齢者施策」は富士見地区（42.4%）で4割強と高くなっている。また、「まちづくりの推進」は和泉橋地区（35.5%）で3割台半ばと高く、「住宅対策」は神田公園地区（34.8%）で3割台半ば近くと高くなっている。（図3-1-3）

図3-1-3 力を入れてほしい施策（地区別）－上位10分野－



職業別にみると、「防災対策」はパートタイマー（49.2%）で5割弱と高くなっている。また、「高齢者施策」は無職（60.5%）で約6割と高くなっている。（図3-1-4）

図3-1-4 力を入れてほしい施策（職業別）－上位10分野－

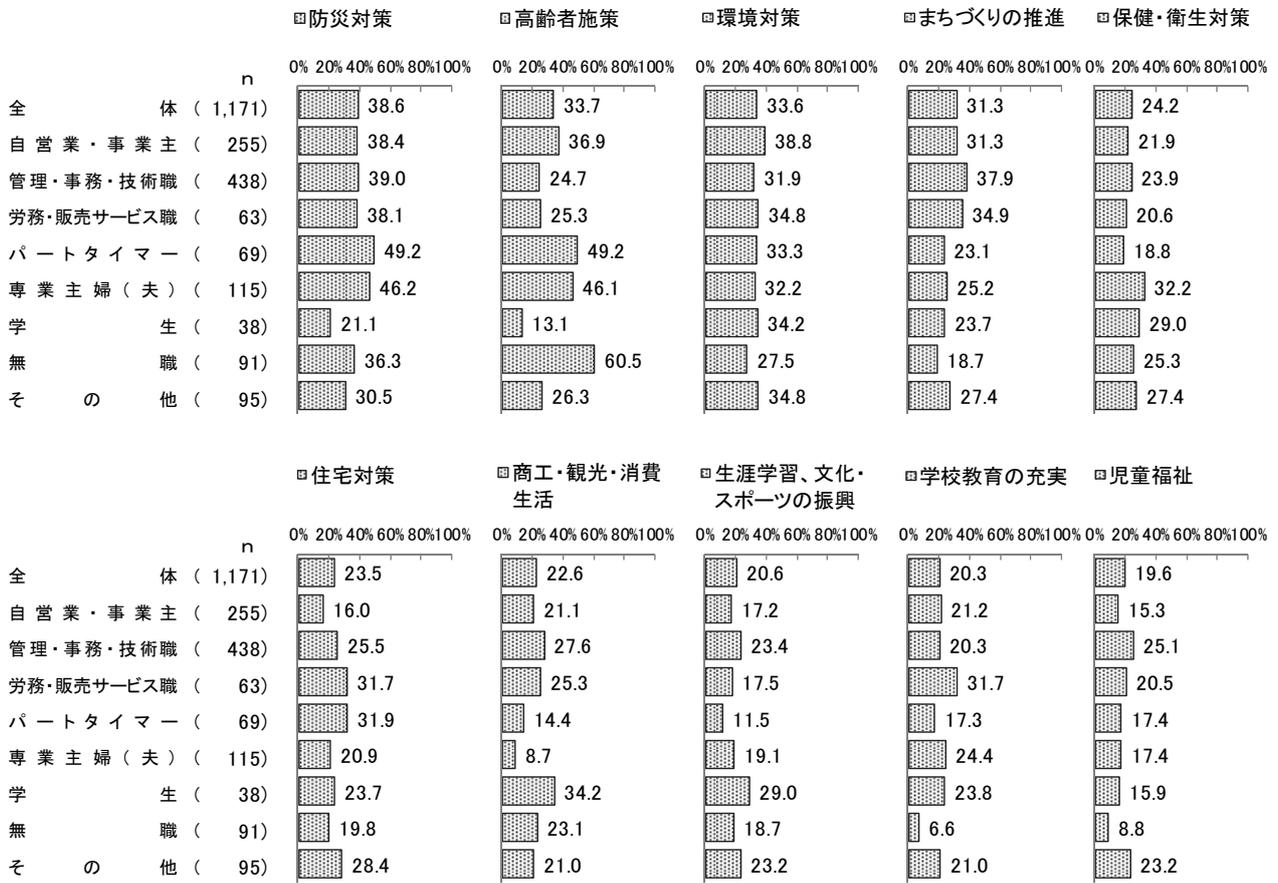
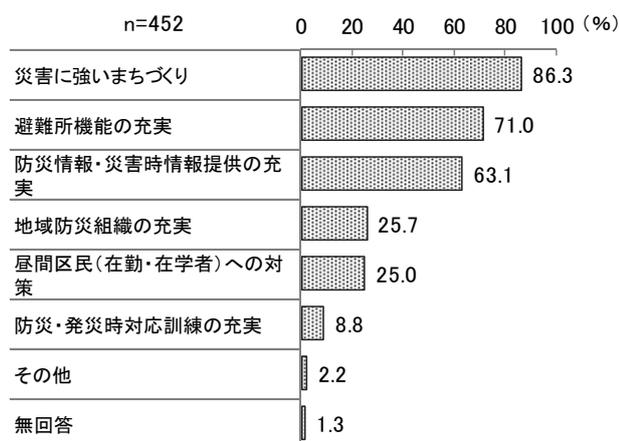
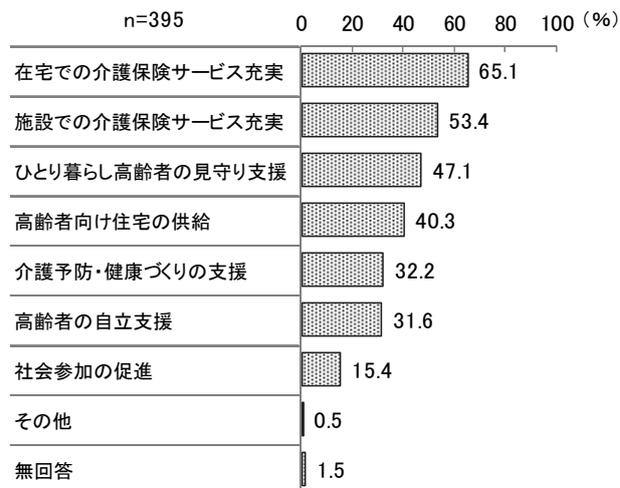


図3-1-5 力を入れてほしい施策—分野別要望—（問5-1）

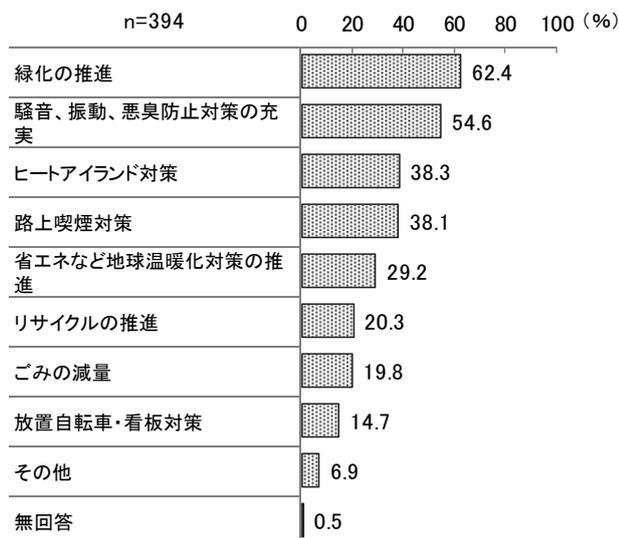
第1位【防災対策】



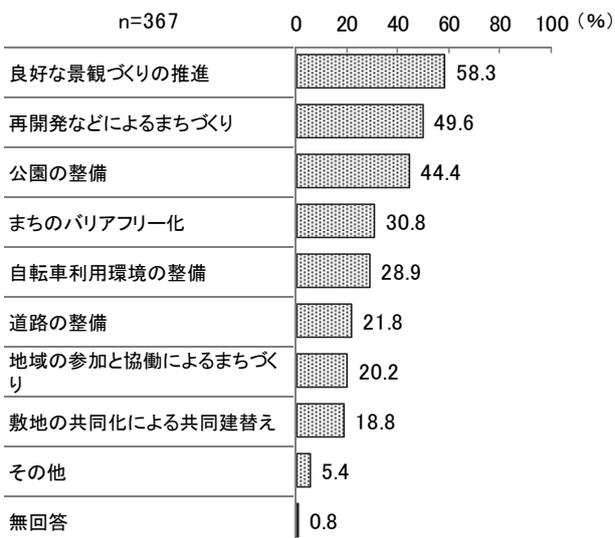
第2位【高齢者対策】



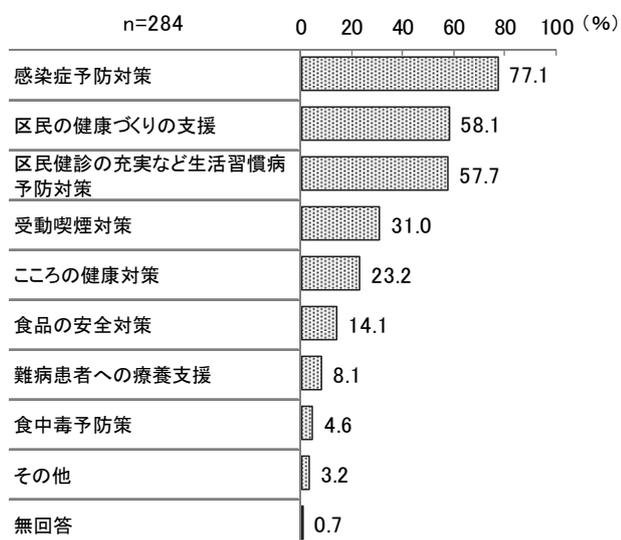
第3位【環境対策】



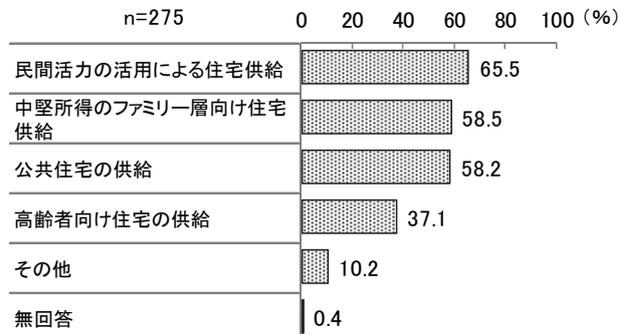
第4位【まちづくりの推進】



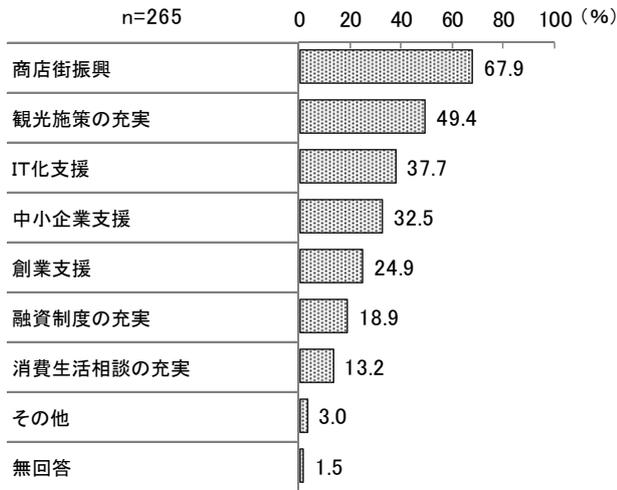
第5位【保健・衛生対策】



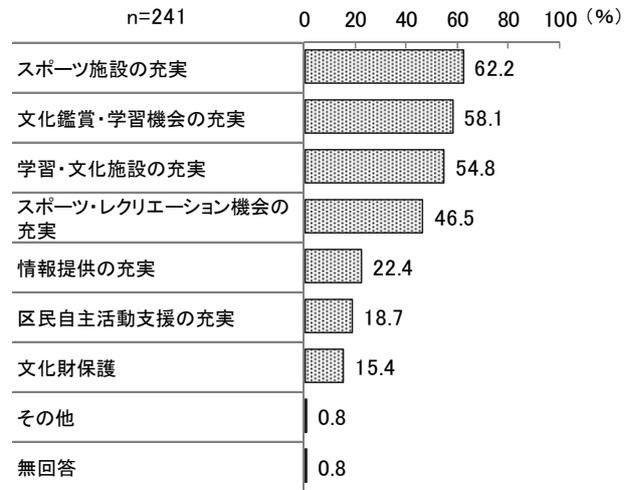
第6位【住宅対策】



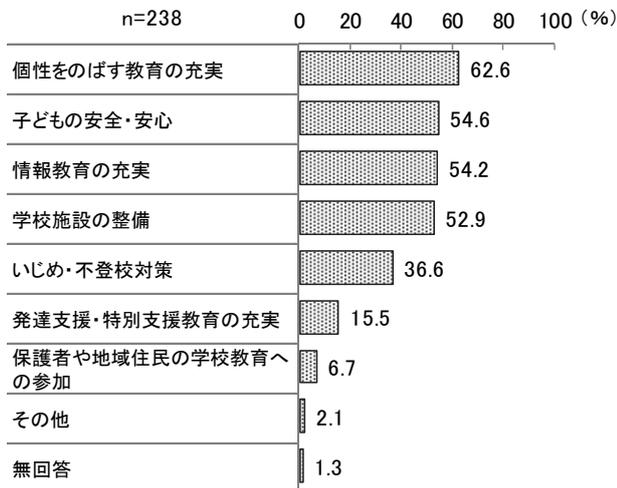
第7位【商工・観光・消費生活】



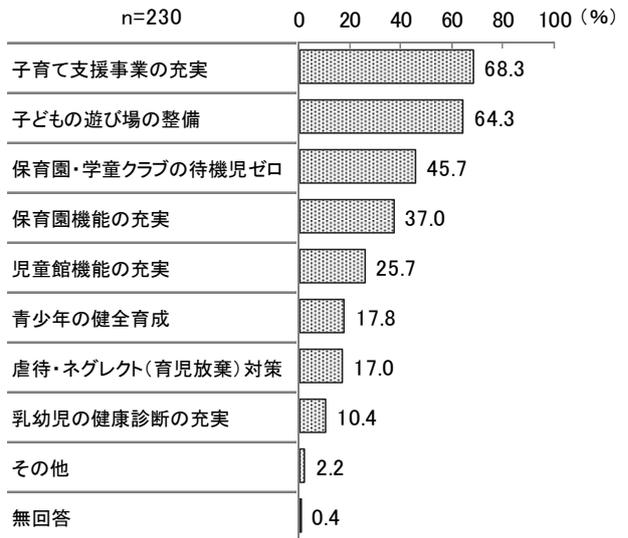
第8位【生涯学習、文化・スポーツの振興】



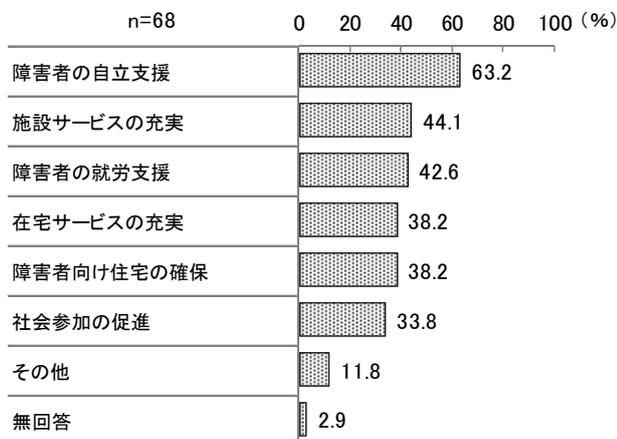
第9位【学校教育の充実】



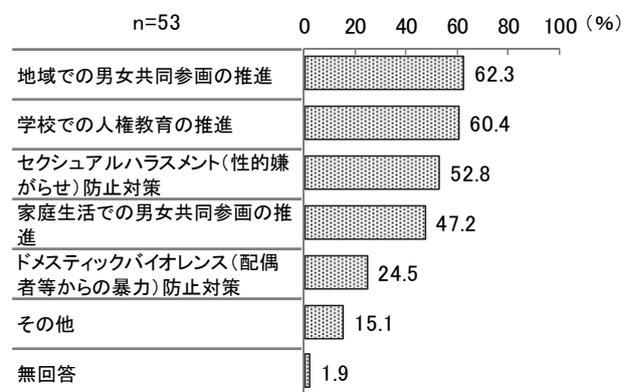
第10位【児童福祉】



第11位【障害者施策】



第12位【男女平等、人権尊重の確立】



4. 施策の満足度・重要度

(1) 施策の満足度・重要度

◇満足度が最も高いのは“保健・衛生対策”、最も低いのは“住宅対策”

◇重要度が最も高いのは“防災対策”、最も低いのは“男女平等・人権尊重の確立”

満足度（重要度）が高い ⇒ 「満足（重要）」と「やや満足（まあ重要）」の合計が高い

満足度（重要度）が低い ⇒ 「不満（重要でない）」と「やや不満（あまり重要でない）」の合計が高い

問6 あなたは、問5のそれぞれの分野についてどれくらい満足していますか。

また、どのくらい重要(大切)だと思いますか。項目ごとに5段階で評価し、該当する番号に○を付けてください。(13分野すべてにご回答ください。)

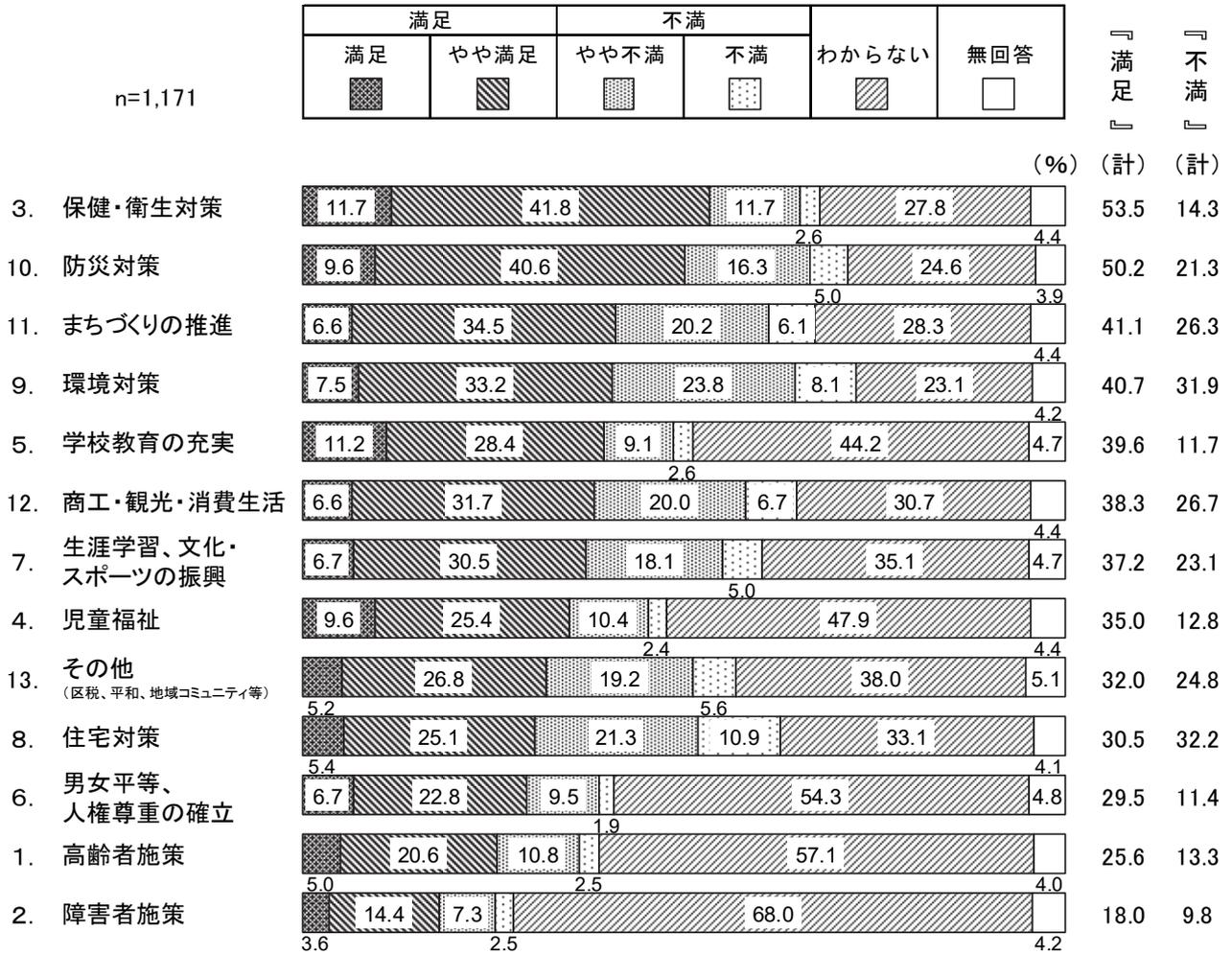
表4-1-1 施策の満足度・重要度

	満足度						重要度					
	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 わからない	無 回答	1 重要	2 まあ重要	3 あまり重要でない	4 重要でない	5 わからない	無 回答
n=1,171												
1. 高齢者施策	5.0	20.6	10.8	2.5	57.1	4.0	41.1	34.0	6.1	4.4	7.8	6.7
2. 障害者施策	3.6	14.4	7.3	2.5	68.0	4.2	32.8	37.7	6.9	3.0	12.6	7.1
3. 保健・衛生対策	11.7	41.8	11.7	2.6	27.8	4.4	54.2	31.5	1.9	1.3	3.7	7.4
4. 児童福祉	9.6	25.4	10.4	2.4	47.9	4.4	47.5	30.4	4.3	2.0	9.0	6.9
5. 学校教育の充実	11.2	28.4	9.1	2.6	44.2	4.7	50.2	27.9	4.7	2.2	7.9	7.1
6. 男女平等、 人権尊重の確立	6.7	22.8	9.5	1.9	54.3	4.8	28.9	35.4	12.6	4.0	11.4	7.6
7. 生涯学習、文化・ スポーツの振興	6.7	30.5	18.1	5.0	35.1	4.7	28.4	42.9	11.8	3.1	6.6	7.3
8. 住宅対策	5.4	25.1	21.3	10.9	33.1	4.1	44.1	35.7	6.7	1.0	5.4	7.1
9. 環境対策	7.5	33.2	23.8	8.1	23.1	4.2	55.9	30.1	3.6	0.7	2.6	7.1
10. 防災対策	9.6	40.6	16.3	5.0	24.6	3.9	68.3	20.3	1.5	0.5	2.4	6.9
11. まちづくりの推進	6.6	34.5	20.2	6.1	28.3	4.4	42.7	37.4	7.0	0.7	5.1	7.1
12. 商工・観光・消費生活	6.6	31.7	20.0	6.7	30.7	4.4	34.5	41.0	9.7	1.9	5.8	7.1
13. その他 (区税、平和、地域コミュニティ等)	5.2	26.8	19.2	5.6	38.0	5.1	29.4	36.6	11.1	2.0	12.6	8.3

次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。

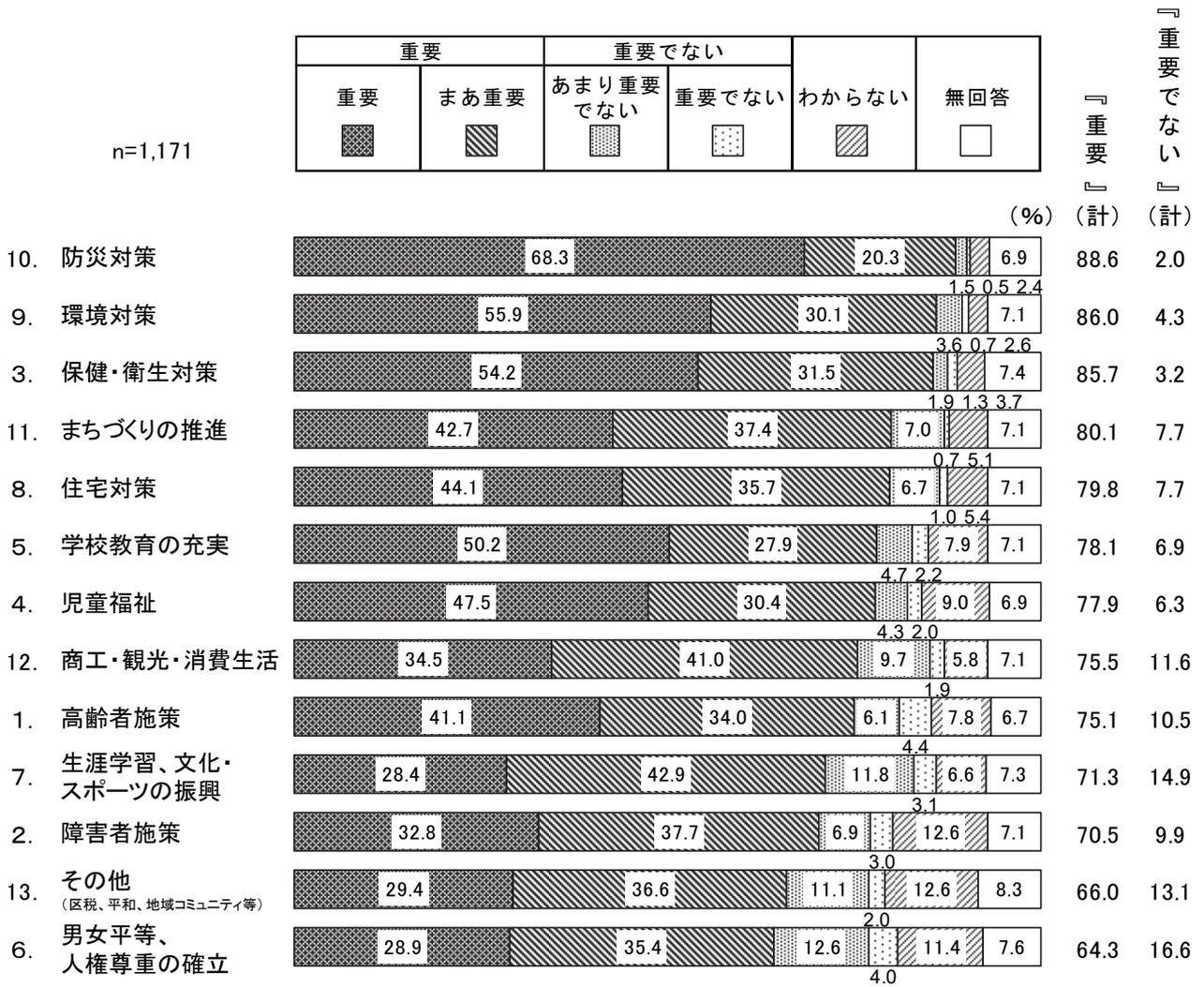
「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”（53.5%）が5割台半ば近くと最も高くなっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“住宅対策”（32.2%）が3割強と高くなっている。（図4-1-1）

図4-1-1 施策の満足度



「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”（88.6%）が9割近くと最も高くなっている。一方、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“男女平等、人権尊重の確立”（16.6%）が1割台半ばを超えて高くなっている。（図4-1-2）

図4-1-2 施策の重要度



◇加重平均値

満足度・重要度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、4段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \\ \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点} \end{array}}{\text{回答者数}}$$

$$\text{重要度評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重要」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあ重要」の回答者数} \times 1 \text{点} + \\ \text{「あまり重要でない」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「重要でない」の回答者数} \times -2 \text{点} \end{array}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、「わからない」と無回答を除く。

この算出方法では、満足度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

また、重要度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど重要度が高くなり、マイナスの値が大きいほど重要度が低くなる。

地区別に満足度をみると、麴町地区では、「保健・衛生対策」(0.76)、「学校教育の充実」(0.74)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.06)が低くなっている。

富士見地区では、「学校教育の充実」(0.88)、「保健・衛生対策」(0.70)、「児童福祉」(0.70)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.05)が低くなっている。

神保町地区では、「保健・衛生対策」(0.68)、「児童福祉」(0.60)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.20)が低くなっている。

神田公園地区では、「児童福祉」(0.73)、「高齢者施策」(0.69)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.34)が低くなっている。

万世橋地区では、「男女平等、人権尊重の確立」(0.88)、「保健・衛生対策」(0.82)が高くなっている。一方、「環境対策」(0.00)が低くなっている。

和泉橋地区では、「学校教育の充実」(0.72)、「保健・衛生対策」(0.64)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.20)が低くなっている。(表4-1-2)

地区別に重要度をみると、麴町地区では、「防災対策」(1.69)、「保健・衛生対策」(1.56)、「環境対策」(1.55)が高くなっている。

富士見地区では、「防災対策」(1.70)、「保健・衛生対策」(1.58)、「環境対策」(1.53)が高くなっている。

神保町地区では、「防災対策」(1.63)、「学校教育の充実」(1.50)、「児童福祉」(1.49)が高くなっている。

神田公園地区では、「防災対策」(1.73)、「保健・衛生対策」(1.58)、「環境対策」(1.54)が高くなっている。

万世橋地区では、「防災対策」(1.61)、「保健・衛生対策」(1.43)、「児童福祉」(1.41)が高くなっている。

和泉橋地区では、「防災対策」(1.78)、「環境対策」(1.55)、「保健・衛生対策」(1.47)が高くなっている。(表4-1-2)

表4-1-2 施策の満足度評価点・重要度評価点(地区別)

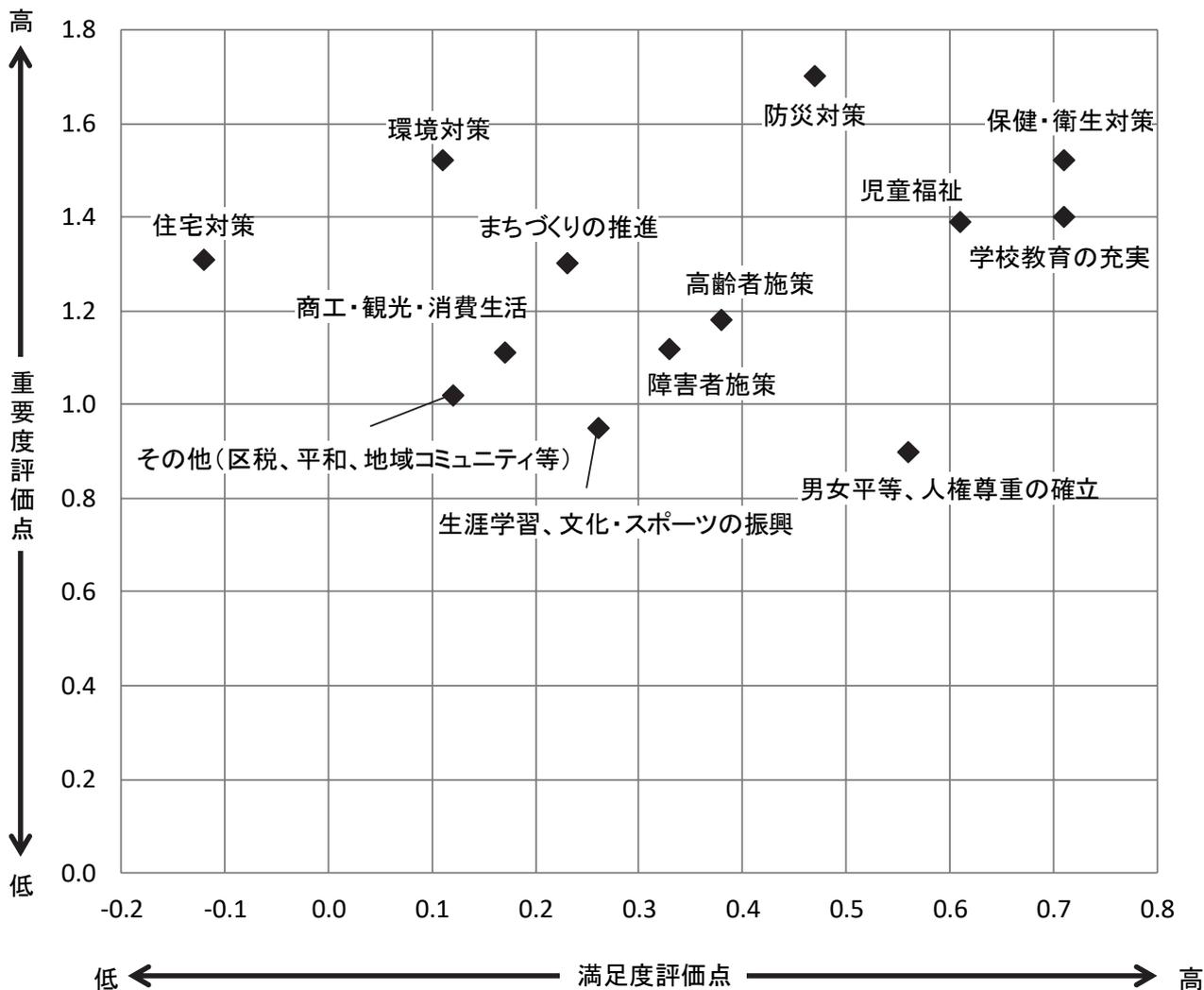
	満足度							重要度						
	全 体	麴 町 地 区	富 士 見 地 区	神 保 町 地 区	神 田 公 園 地 区	万 世 橋 地 区	和 泉 橋 地 区	全 体	麴 町 地 区	富 士 見 地 区	神 保 町 地 区	神 田 公 園 地 区	万 世 橋 地 区	和 泉 橋 地 区
1. 高齢者施策	0.38	0.37	0.22	0.54	0.69	0.62	0.18	1.18	1.24	1.28	1.27	0.97	1.19	1.08
2. 障害者施策	0.33	0.15	0.42	0.56	0.52	0.48	0.21	1.12	1.10	1.21	1.26	1.05	0.96	1.16
3. 保健・衛生対策	0.71	0.76	0.70	0.68	0.65	0.82	0.64	1.52	1.56	1.58	1.45	1.58	1.43	1.47
4. 児童福祉	0.61	0.70	0.70	0.60	0.73	0.62	0.27	1.39	1.44	1.45	1.49	1.33	1.41	1.24
5. 学校教育の充実	0.71	0.74	0.88	0.55	0.49	0.69	0.72	1.40	1.45	1.44	1.50	1.34	1.39	1.27
6. 男女平等、 人権尊重の確立	0.56	0.42	0.68	0.56	0.44	0.88	0.59	0.90	0.92	0.98	1.04	0.89	0.60	0.83
7. 生涯学習、文化・ スポーツの振興	0.26	0.17	0.28	0.29	0.42	0.39	0.24	0.95	1.03	1.00	1.16	0.88	0.66	0.83
8. 住宅対策	-0.12	-0.06	-0.05	-0.20	-0.34	0.04	-0.20	1.31	1.32	1.26	1.33	1.39	1.19	1.39
9. 環境対策	0.11	0.31	0.20	0.05	-0.09	0.00	-0.13	1.52	1.55	1.53	1.43	1.54	1.38	1.55
10. 防災対策	0.47	0.53	0.53	0.43	0.41	0.56	0.32	1.70	1.69	1.70	1.63	1.73	1.61	1.78
11. まちづくりの推進	0.23	0.25	0.28	0.03	0.38	0.30	0.12	1.30	1.23	1.28	1.32	1.41	1.20	1.45
12. 商工・観光・消費生活	0.17	0.12	0.23	0.12	0.28	0.22	0.17	1.11	0.99	1.08	1.15	1.27	1.10	1.24
13. その他 (区税、平和、地域コミュニティ等)	0.12	0.16	0.15	0.18	0.03	0.24	-0.04	1.02	0.96	0.99	0.98	1.13	0.87	1.20

次の図は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いと言える。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図 4-1-3)

図 4-1-3 施策の満足度評価点・重要度評価点の相関



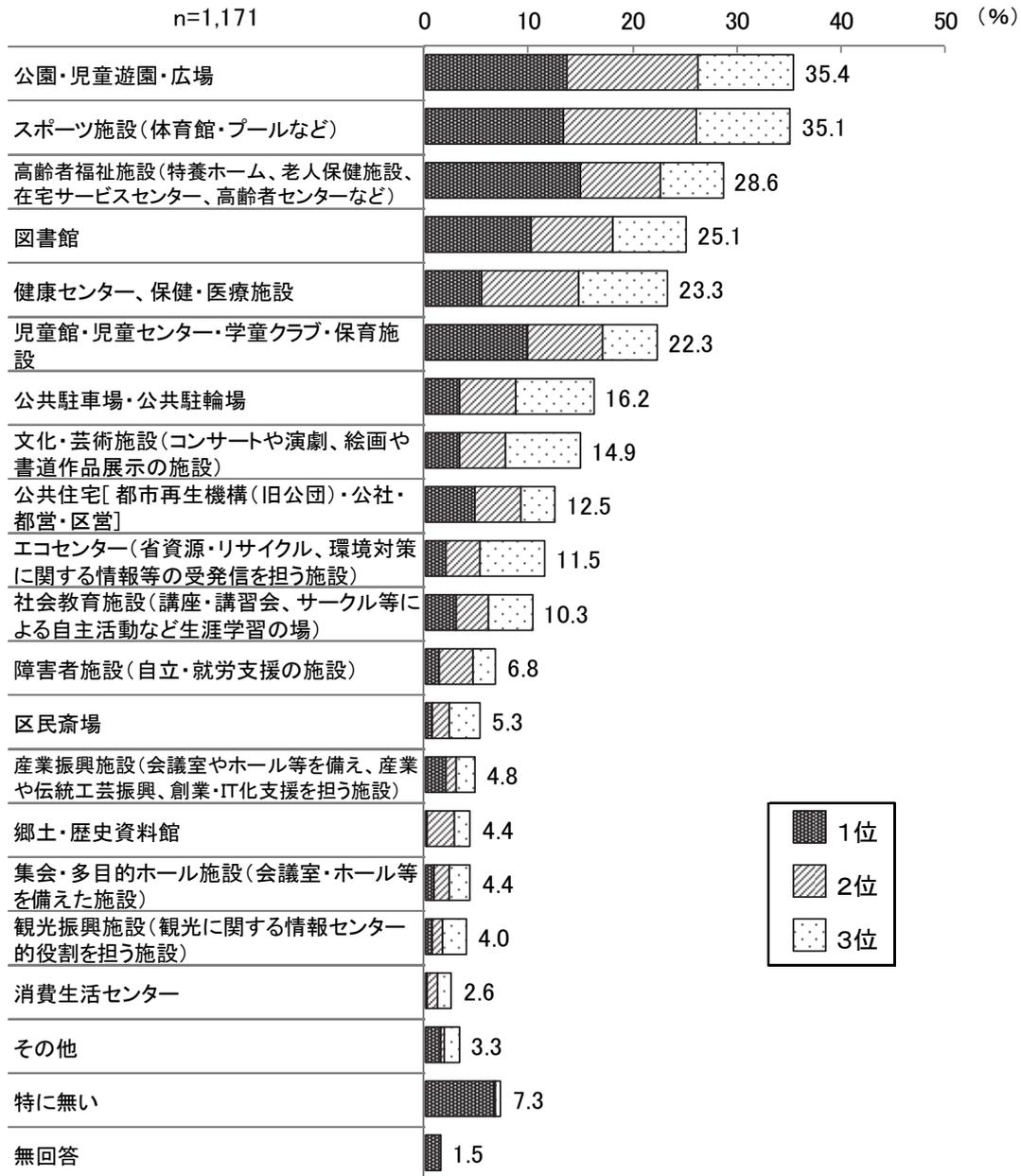
5. 区の施設への要望

(1) 整備・充実すべき施設

◇「公園・児童遊園・広場」「スポーツ施設」が3割台半ば

問7 あなたは、区内にどのような施設を整備・充実すべきだと思いますか。下記1～20の施設から優先順位の高い順に3つを選んで番号を記入してください。ただし、「20. 特に無い」を選んだ方は1位の欄に記入してください。

図5-1-1 整備・充実すべき施設



整備・充実すべき施設を第1位から第3位までの順位づけで聞いた。

第1位から第3位までの積み上げでみると、「公園・児童遊園・広場」(35.4%)が最も高く、次いで、「スポーツ施設」(35.1%)、「高齢者福祉施設」(28.6%)、「図書館」(25.1%)、「健康センター、保健・医療施設」(23.3%)の順となっている。(図5-1-1)

各項目の第1位の割合を経年比較でみると、平成26年以降、大きな違いはみられない。

(表5-1-2)

表5-1-2 整備・充実すべき施設（経年比較）

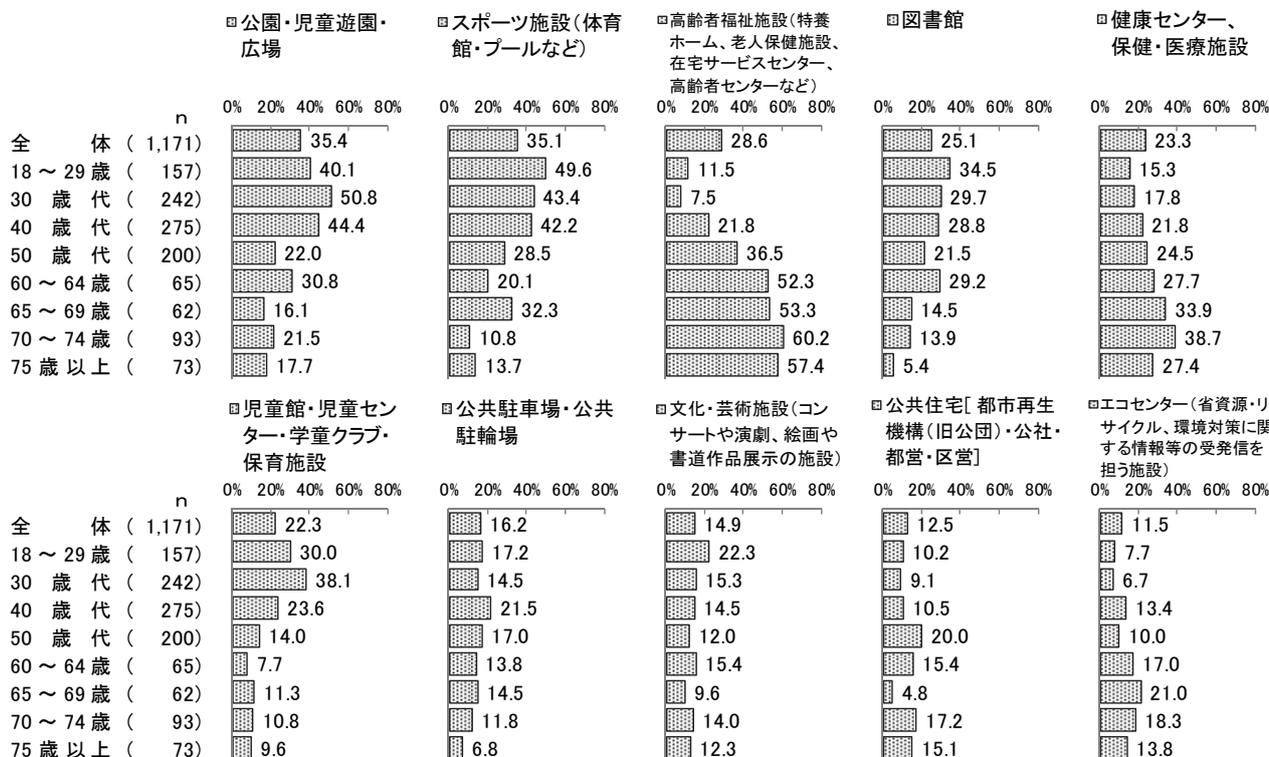
(単位：%)

	1位	2位	3位	4位	5位
令和2年	高齢者福祉施設 (15.0)	公園・児童遊園・広場 (13.7)	スポーツ施設 (13.3)	図書館 (10.2)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (9.9)
令和元年	高齢者福祉施設 (17.2)	スポーツ施設 (12.8)	公園・児童遊園・広場 (11.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (11.3)	図書館 (6.8)
平成30年	高齢者福祉施設 (18.2)	スポーツ施設 (13.0)	公園・児童遊園・広場 (12.2)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.9)	図書館 (8.7)
平成29年	高齢者福祉施設 (16.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (13.3)	スポーツ施設 (12.4)	公園・児童遊園・広場 (11.1)	図書館 (8.3)
平成28年	高齢者福祉施設 (17.9)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (12.6)	公園・児童遊園・広場 (11.3)	スポーツ施設 (9.7)	公共住宅 (7.1)
平成27年	高齢者福祉施設 (23.3)	スポーツ施設 (11.5)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.5)	公園・児童遊園・広場 (9.2)	図書館 (7.3)
平成26年	高齢者福祉施設 (20.2)	スポーツ施設 (11.3)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.8)	公園・児童遊園・広場 (10.5)	図書館 (7.4)
平成25年	スポーツ施設 (14.2)	高齢者福祉施設 (13.6)	公園・児童遊園 (10.1)	健康センター・保健施設・医療施設、公共住宅 (各7.9)	
平成24年	高齢者福祉施設 (13.8)	スポーツ施設 (11.5)	健康センター・保健施設・医療施設、 公園・児童遊園 (各9.6)		児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (9.5)
平成23年	スポーツ施設 (23.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.6)	高齢者福祉施設 (7.6)	区営住宅 (4.6)
平成22年	スポーツ施設 (22.5)	図書館 (17.2)	高齢者福祉施設 (8.3)	公園・児童遊園 (6.6)	健康センター (4.3)
平成21年	スポーツ施設 (23.2)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (8.1)	公園・児童遊園 (7.7)	区営駐車場 (4.6)
平成20年	スポーツ施設 (22.6)	図書館 (17.3)	高齢者福祉施設 (9.1)	公園・児童遊園 (8.0)	健康センター、 区営駐車場 (各4.9)
平成19年	スポーツ施設 (22.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.5)	高齢者福祉施設 (8.0)	区営駐車場 (6.6)
平成18年	スポーツ施設 (27.0)	図書館 (16.3)	公園・児童遊園 (8.1)	区営駐車場 (7.8)	高齢者福祉施設 (7.2)
平成17年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (15.8)	健康センター (6.9)	区営駐車場 (6.9)	公園・児童遊園 (6.4)
平成16年	スポーツ施設 (21.5)	図書館 (15.7)	高齢者福祉施設 (8.7)	健康センター (7.0)	公園・児童遊園 (7.0)
平成15年	スポーツ施設 (20.8)	図書館 (13.9)	高齢者福祉施設 (11.5)	公園・児童遊園 (8.6)	区営駐車場 (6.9)
平成14年	スポーツ施設 (19.8)	図書館 (13.2)	高齢者福祉施設 (10.6)	区営駐車場 (8.4)	健康センター (5.9)
平成13年	スポーツ施設 (24.8)	図書館 (13.4)	高齢者福祉施設 (12.8)	区営駐車場 (12.4)	健康センター (11.1)
平成12年	スポーツ施設 (30.7)	図書館 (18.2)	文化会館 (13.3)	区営駐車場 (13.0)	高齢者福祉施設 (12.5)
平成11年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (14.7)	区営駐車場 (13.7)	健康センター (12.3)
平成10年	スポーツ施設 (31.2)	図書館 (16.0)	文化会館 (13.1)	健康センター (12.8)	区営駐車場 (11.8)
平成9年	スポーツ施設 (29.6)	図書館 (17.0)	区営駐車場 (14.6)	健康センター (12.9)	公園・児童遊園 (11.1)
平成8年	区営駐車場 (23.5)	スポーツ施設 (23.1)	健康センター (17.5)	図書館 (14.0)	高齢者福祉施設 (13.1)
平成7年	スポーツ施設 (22.6)	区営駐車場 (17.5)	高齢者福祉施設 (15.3)	区営住宅 (14.2)	健康センター (13.6)
平成6年	スポーツ施設 (25.9)	区営駐車場 (15.2)	健康センター (14.1)	高齢者福祉施設 (13.2)	図書館 (13.1)

注) 平成13年以前の調査では「近くにあればよいと思う施設を最大2つまで」答えたものの割合を、平成14年～平成23年の調査では「もっとも近くにあればよい(第1位)」と答えた施設の割合を、平成24年からは「整備・充実すべき(第1位)」と答えた施設の割合をまとめたものである。

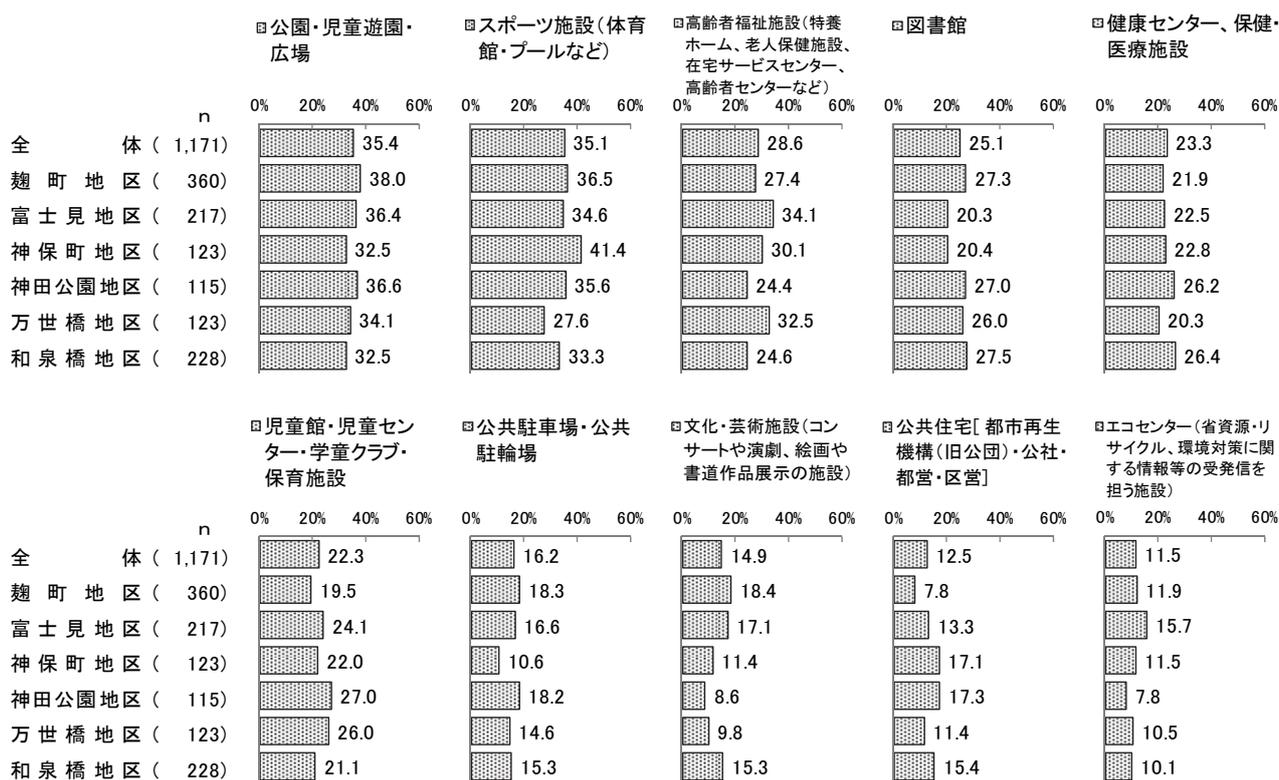
年代別にみると、「公園・児童遊園・広場」は30歳代（50.8%）で約5割と高くなっている。また、「スポーツ施設」は18～29歳（49.6%）で5割弱と高くなっている。（図5-1-3）

図5-1-3 整備・充実すべき施設（年代別）—上位10施設—



地区別にみると、「スポーツ施設」は神保町地区（41.4%）が4割強と高くなっている。また、「高齢者福祉施設」は富士見地区（34.1%）で3割台半ば近くと高くなっている。（図5-1-4）

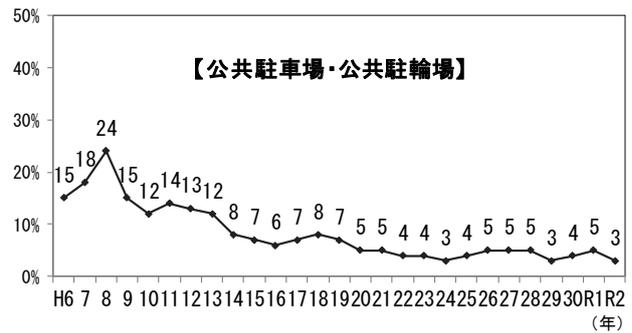
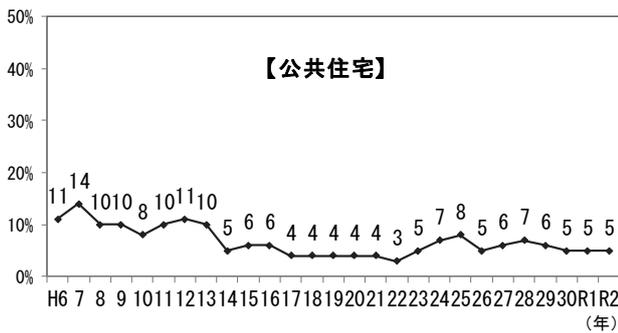
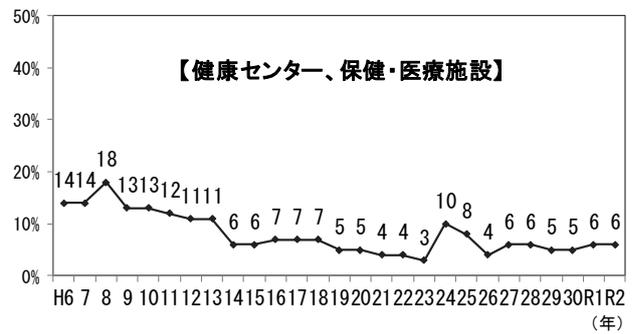
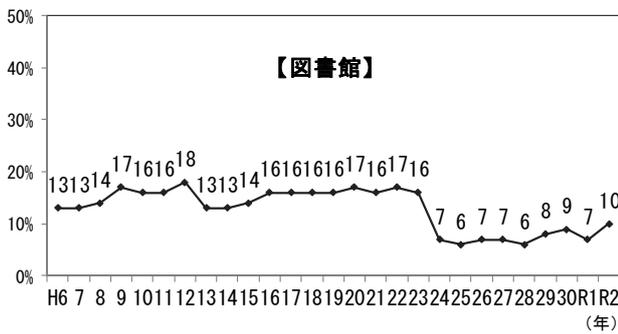
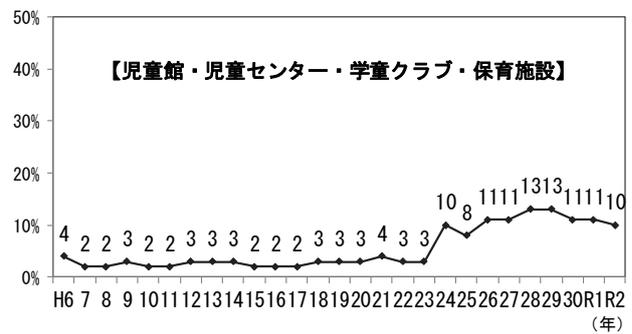
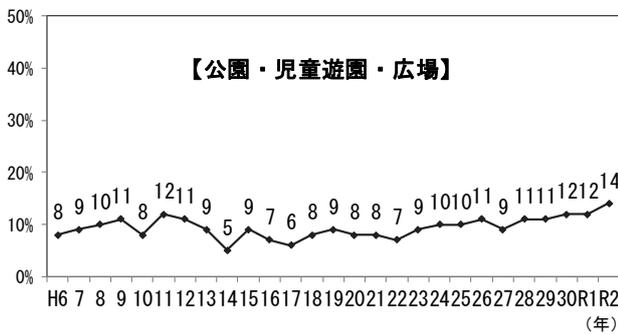
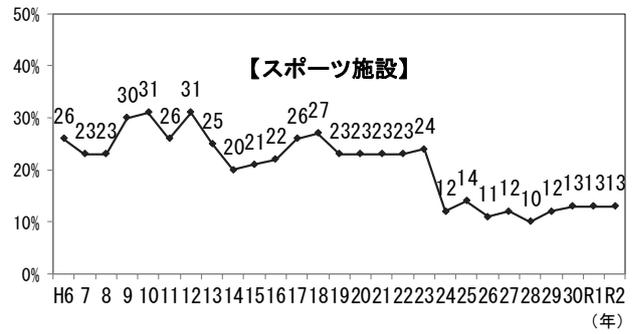
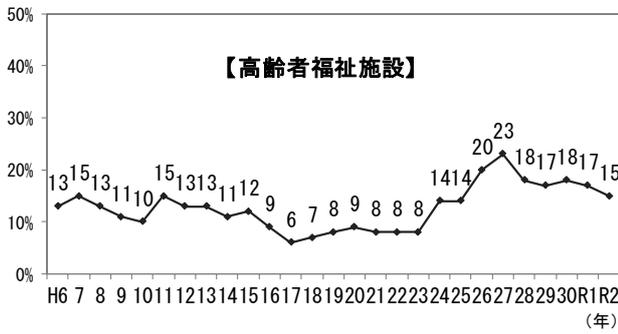
図5-1-4 整備・充実すべき施設（地区別）—上位10施設—

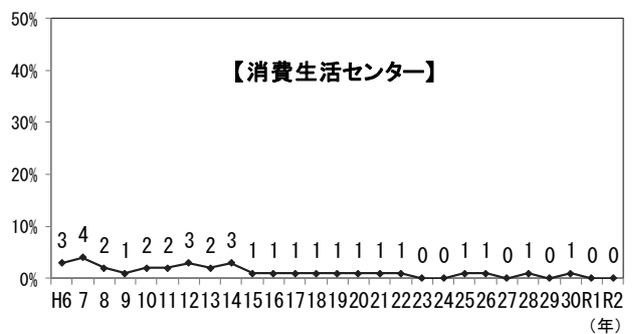
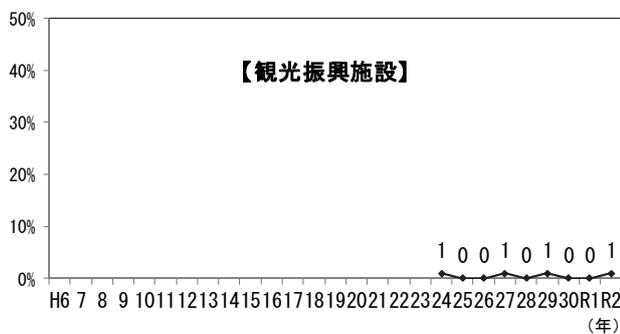
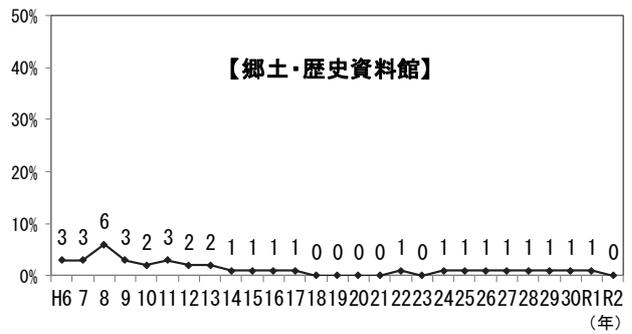
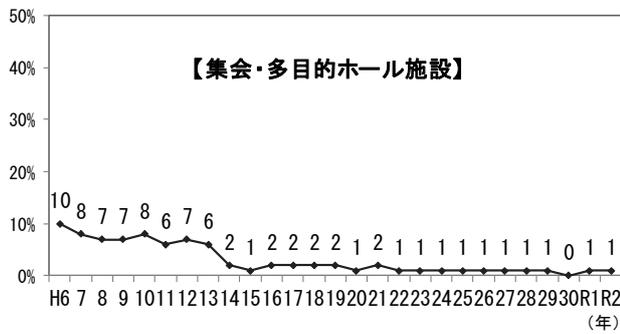
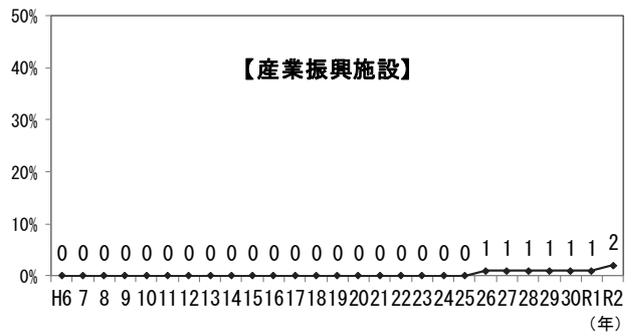
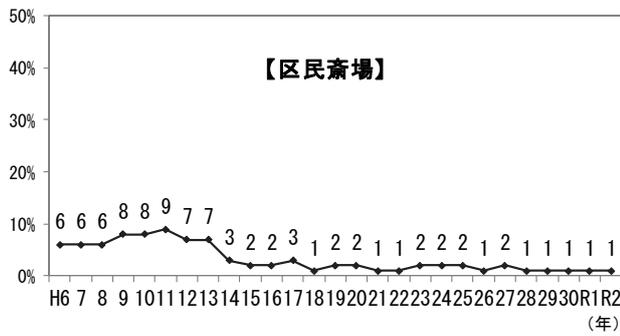
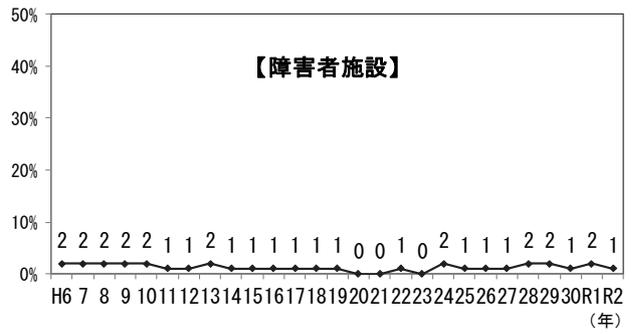
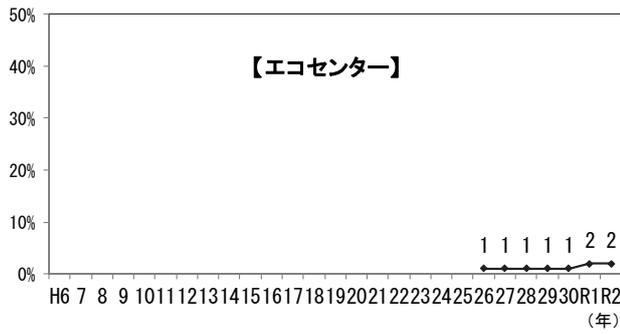
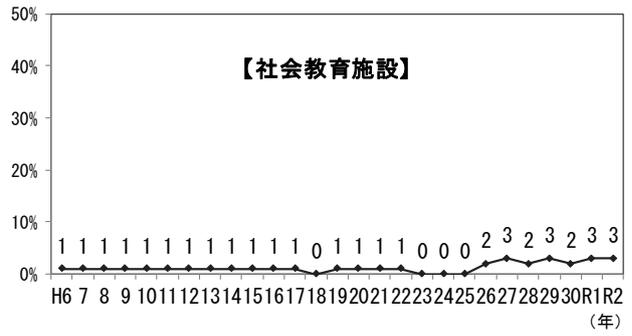
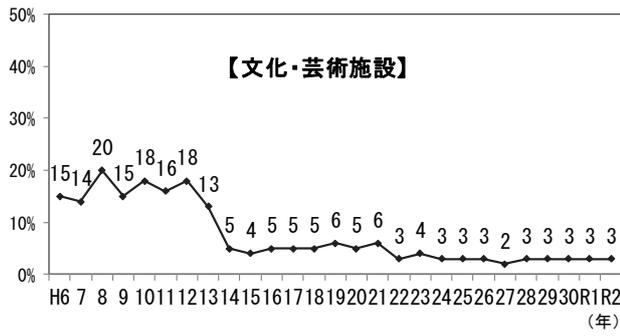


施設別に経年比較をみると、「高齢者福祉施設」は平成 27 年以降減少傾向がみられる。

(図 5-1-5)

図 5-1-5 整備・充実すべき施設（第 1 位）－施設別経年比較－





注) 比率は四捨五入している。「0」は[0.4%以下]であることを示す。
 選択肢の文言は年度により異なる場合がある。

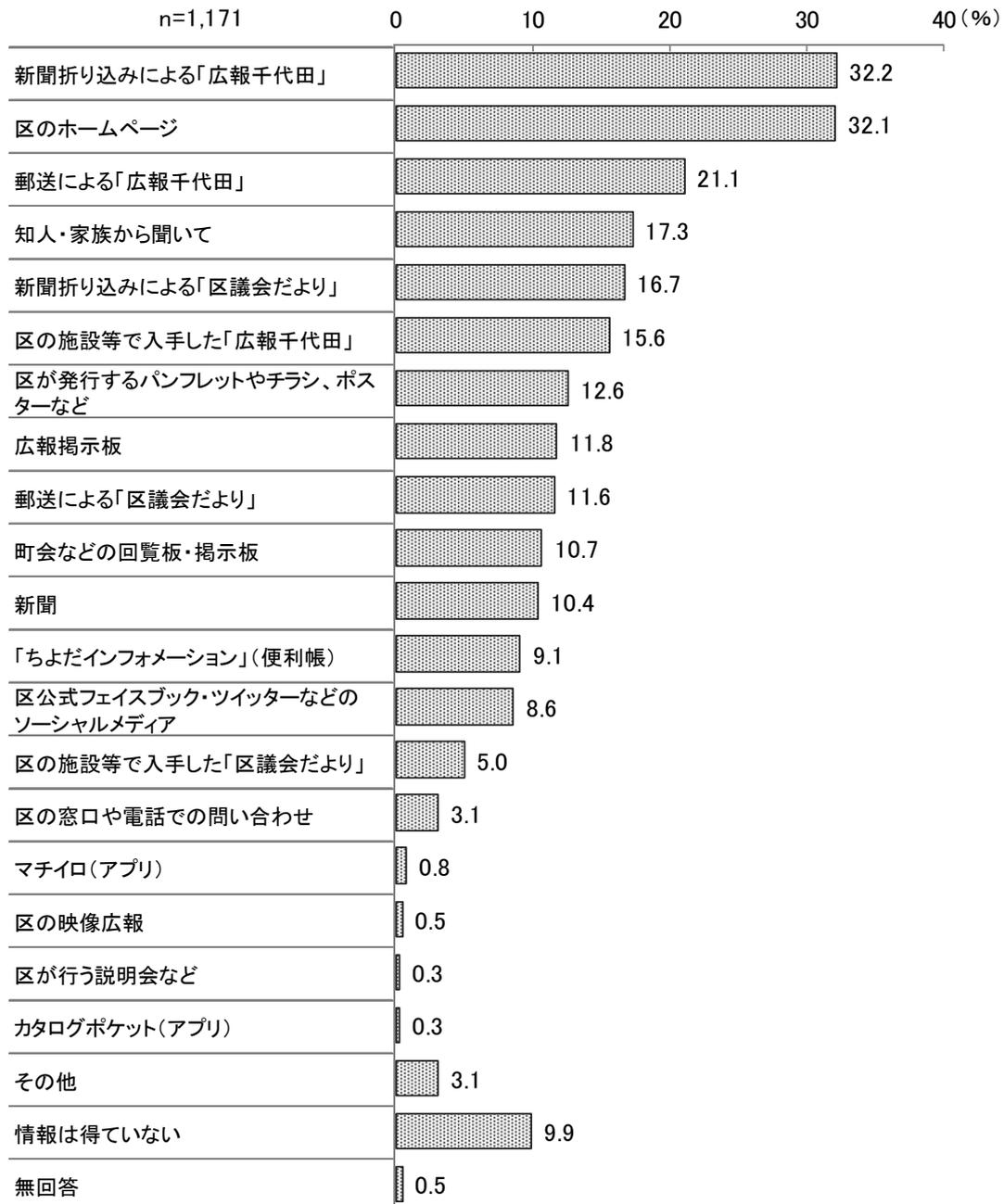
6. 広報活動

(1) 区政情報の取得媒体

◇「新聞折り込みによる『広報千代田』」が3割強

問8 あなたは区に関する情報をどこから得ていますか。次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図6-1-1 区政情報の取得媒体

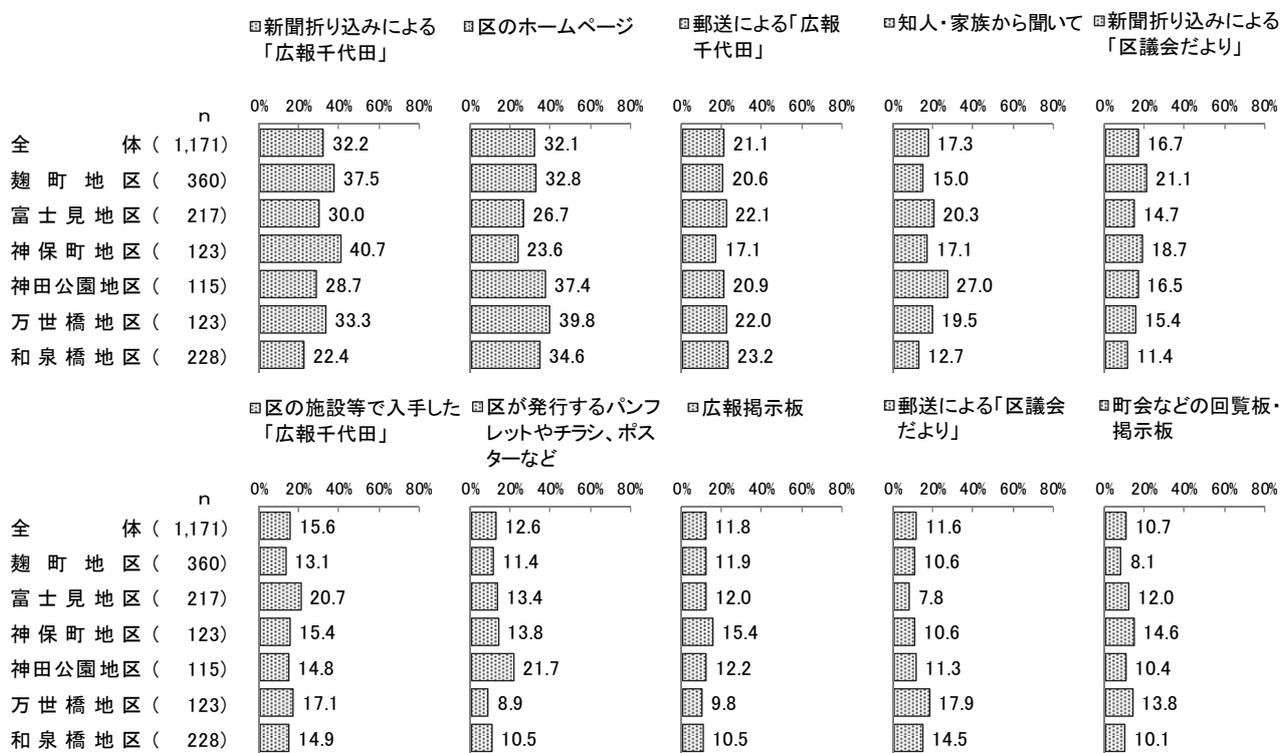


「新聞折り込みによる『広報千代田』」が32.2%と最も高いながら減少する一方で、「区のホームページ」が32.1%となり、はじめてほぼ同率に並んだ。また、「区公式フェイスブック・ツイッターなどのソーシャルメディア」は8.6%で過去最高となった。

(図6-1-1)

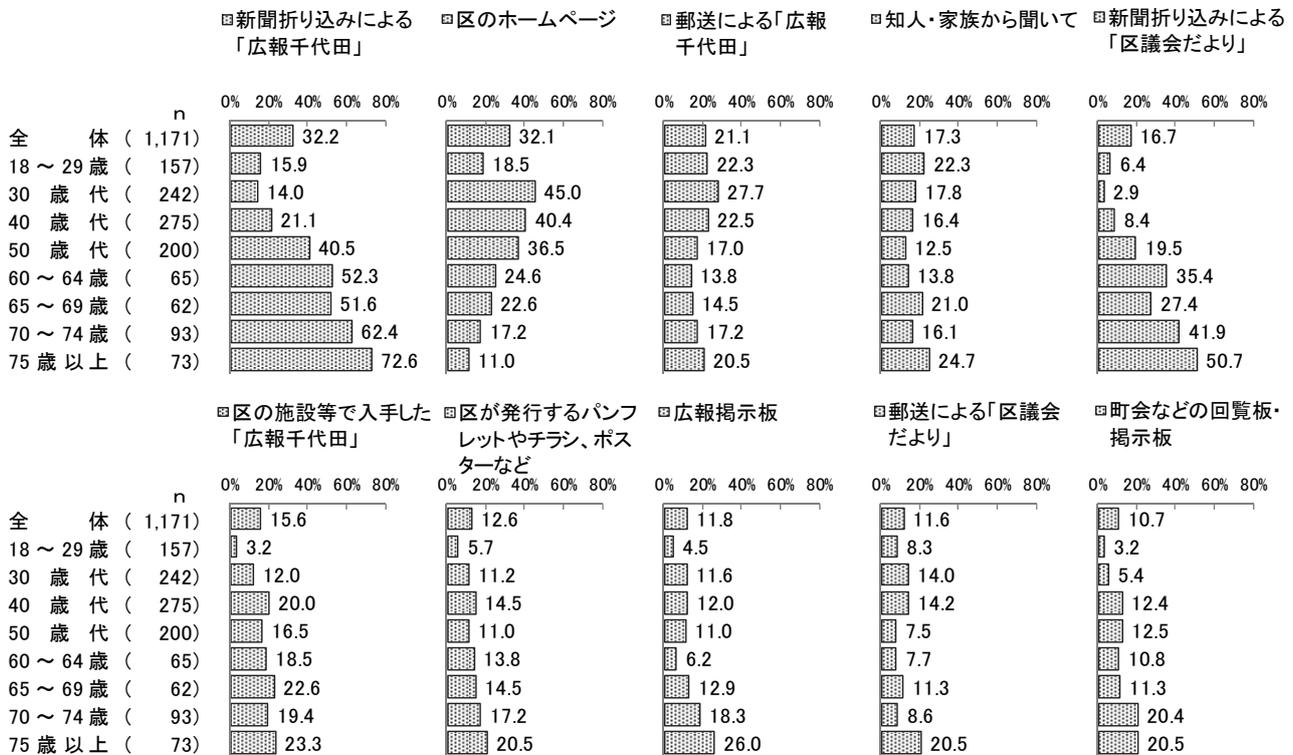
地区別にみると、「新聞折り込みによる『広報千代田』」は神保町地区（40.7%）で約4割と高くなっている。また、「区のホームページ」は万世橋地区（39.8%）で4割弱と高く、「知人・家族から聞いて」は神田公園地区（27.0%）で2割台半ばを超えて高くなっている。（図6-1-2）

図6-1-2 区政情報の取得媒体（地区別）—上位10媒体—



年代別にみると、「新聞折り込みによる『広報千代田』」は75歳以上（72.6%）で7割強と高くなっている。また、「区のホームページ」は30歳代（45.0%）で4割台半ばと高く、「新聞折り込みによる『区議会だより』」は75歳以上（50.7%）で約5割と高くなっている。（図6-1-3）

図6-1-3 区政情報の取得媒体（年代別）—上位10媒体—

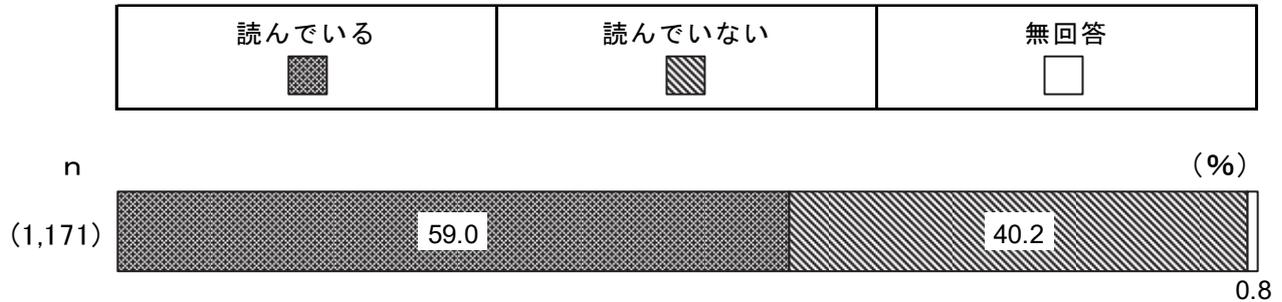


(2) 広報千代田の閲読の有無

◇「読んでいる」が6割弱

問9 あなたは「広報千代田」を読んでいますか。(○は1つ)

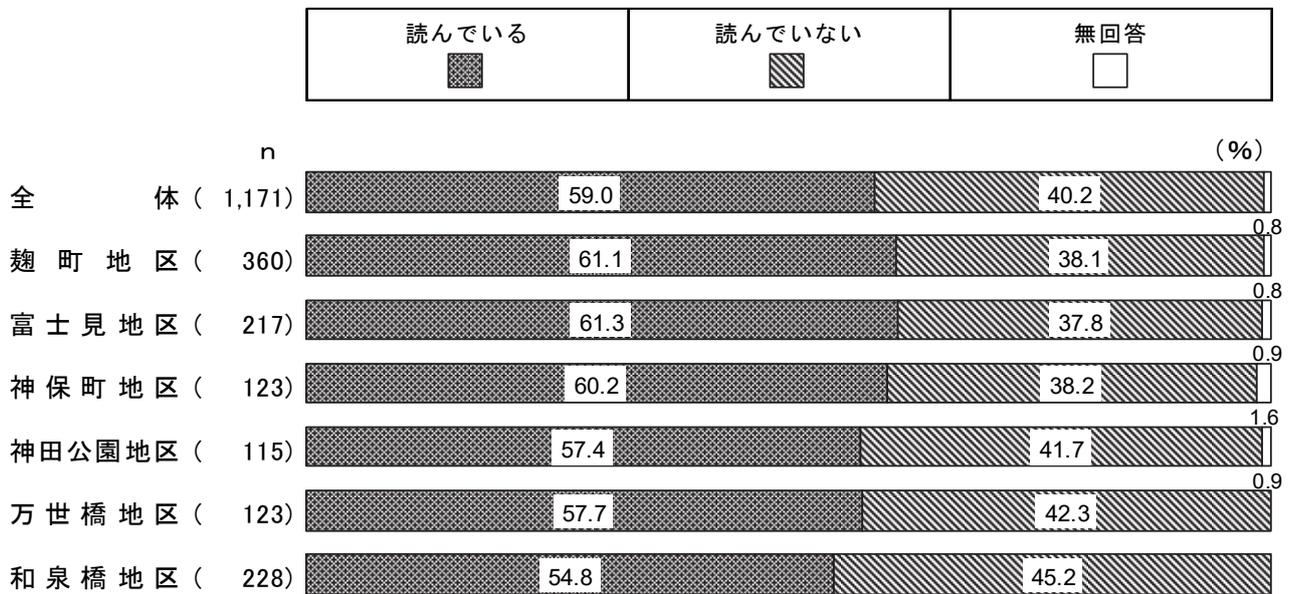
図6-2-1 広報千代田の閲読の有無



「読んでいる」が59.0%となり、前年の57.1%から若干増加に転じた。(図6-2-1)

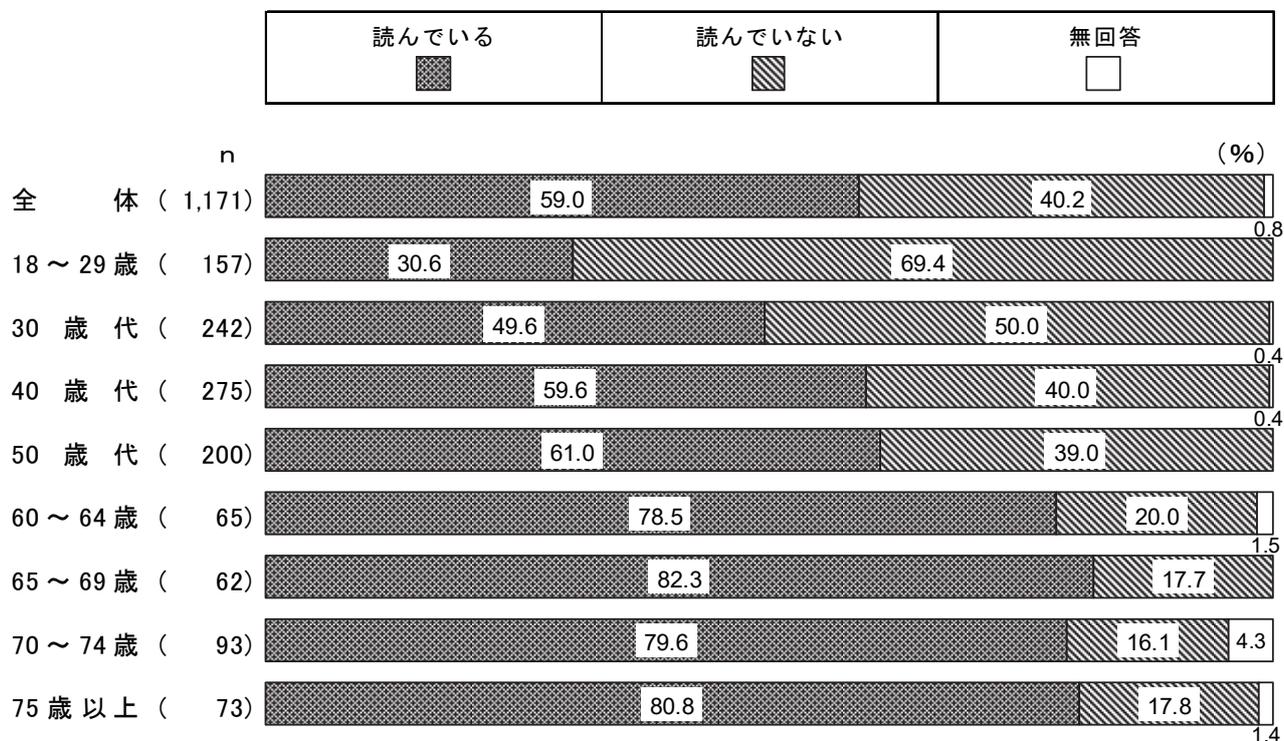
地区別にみると、「読んでいる」は富士見地区(61.3%)と麴町地区(61.1%)で6割強と高く、次いで神保町地区(60.2%)が続いている。一方、「読んでいない」は和泉橋地区(45.2%)で4割台半ばと最も高くなっている。(図6-2-2)

図6-2-2 広報千代田の閲読の有無(地区別)



年代別にみると、「読んでいる」は65～69歳（82.3%）で8割強と高くなっている。一方、「読んでいない」は18～29歳（69.4%）で7割弱と高くなっている。（図6-2-3）

図6-2-3 広報千代田の閲読の有無（年代別）

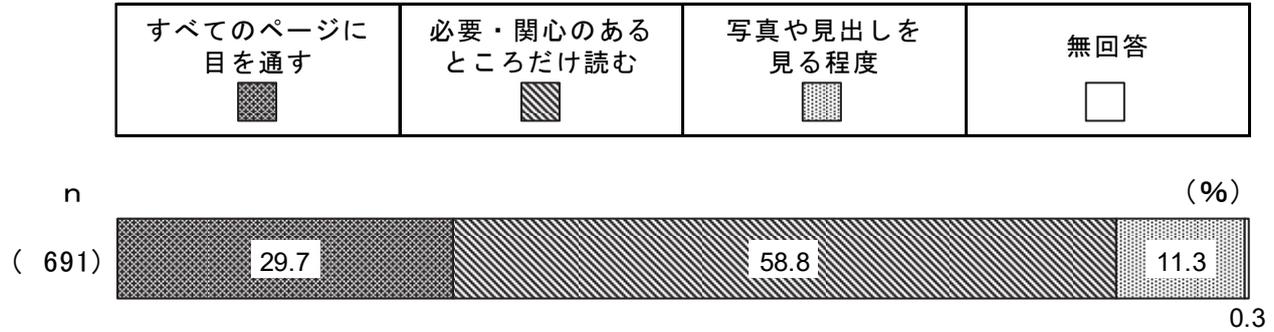


(2-1) 広報千代田の閲読状況

◇「必要・関心のあるところだけ読む」が6割近く

(問9で「1. 読んでいる」とお答えの方に)
問9-1 あなたは「広報千代田」をどの程度読んでいますか。(〇は1つ)

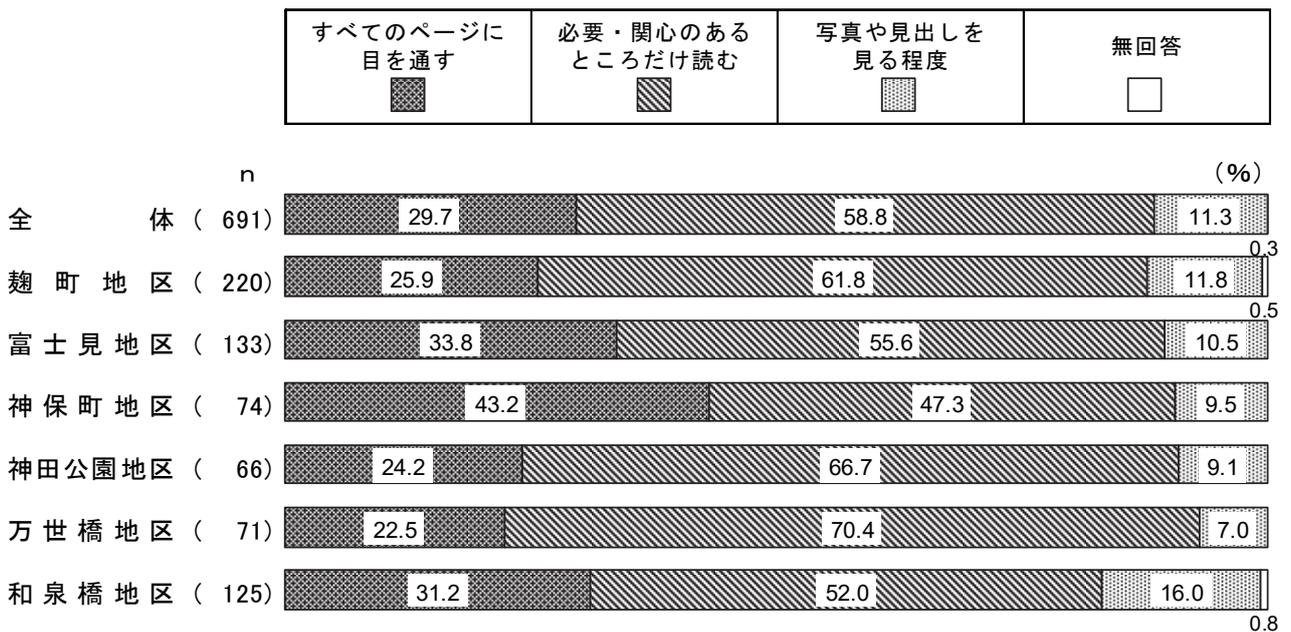
図6-2-4 広報千代田の閲読状況



広報千代田をどの程度読むか聞いたところ、「必要・関心のあるところだけ読む」(58.8%)が6割近くで最も高く、次いで「すべてのページに目を通す」(29.7%)、「写真や見出しを見る程度」(11.3%)と続いている。(図6-2-4)

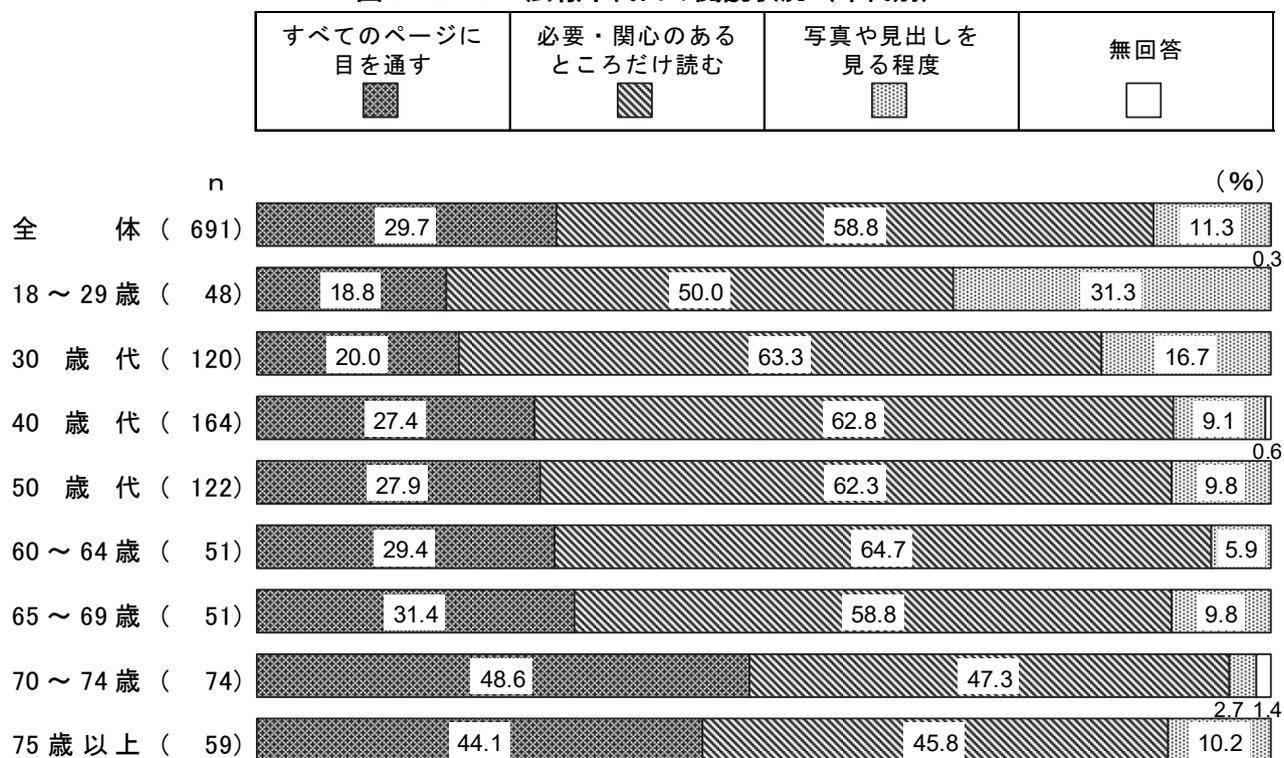
地区別にみると、「すべてのページに目を通す」は神保町地区(43.2%)で4割台半ば近くと高くなっている。また、「必要・関心のあるところだけ読む」は万世橋地区(70.4%)で約7割と高くなっている。(図6-2-5)

図6-2-5 広報千代田の閲読状況(地区別)



年代別にみると、「すべてのページに目を通す」は70～74歳（48.6%）が5割近くと高くなっている。「必要・関心のあるところだけ読む」は60～64歳（64.7%）・30歳代（63.3%）で6割台半ば近くと高くなっている。（図6-2-6）

図6-2-6 広報千代田の閲読状況（年代別）

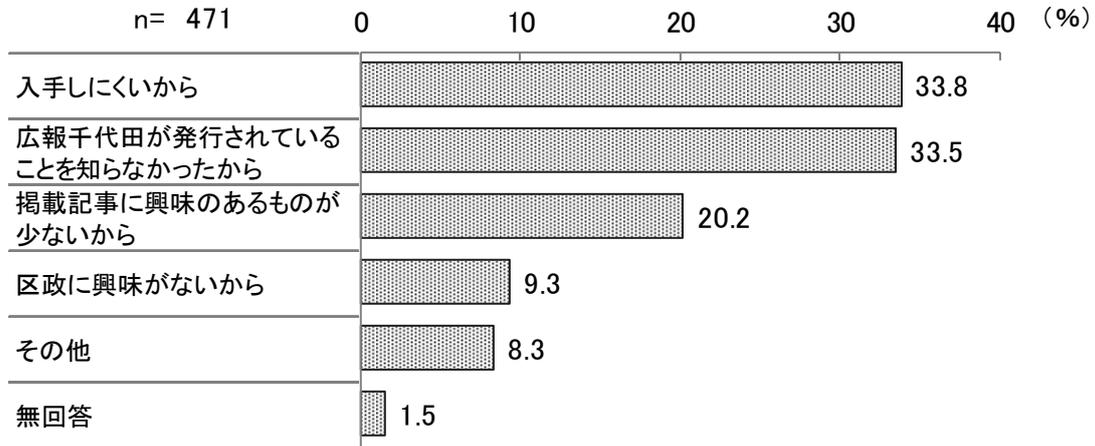


(2-2) 広報千代田を読まない理由

◇「入手しにくいから」が3割台半ば近く

(問9で「2. 読んでいない」とお答えの方に)
問9-2 読んでいない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図6-2-7 広報千代田を読まない理由

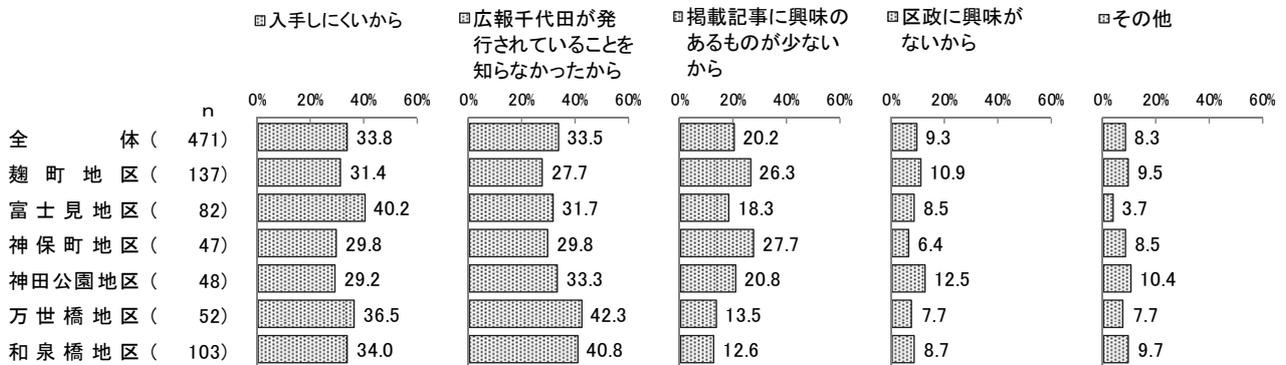


広報千代田を読まない理由を聞いたところ、「入手しにくいから」(33.8%)が3割台半ば近くで最も高く、次いで「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(33.5%)、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(20.2%)、「区政に興味がないから」(9.3%)と続いている。

(図6-2-7)

地区別にみると、「入手しにくいから」は富士見地区(40.2%)が約4割と高くなっている。また、「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」は万世橋地区(42.3%)が4割強と高くなっている。(図6-2-8)

図6-2-8 広報千代田を読まない理由(地区別)

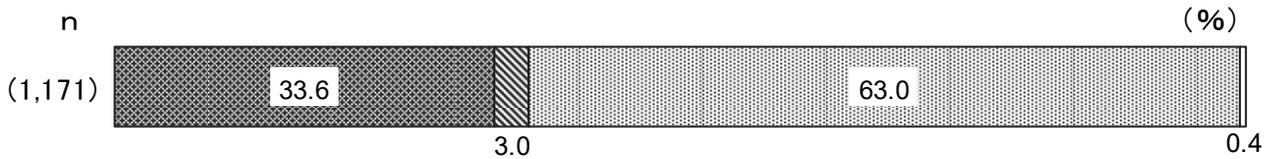
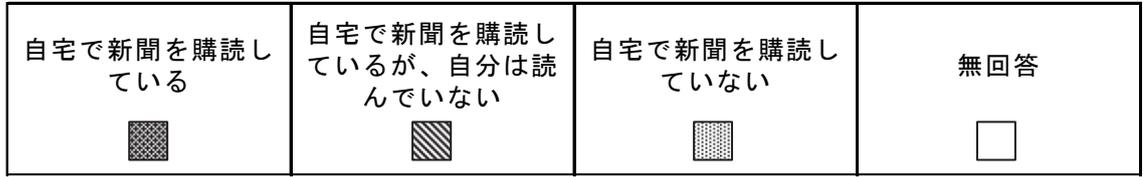


(3) 自宅での新聞購読の有無

◇「自宅で新聞を購読していない」が6割台半ば近く

問10 あなたは自宅で新聞購読していますか（電子版を除く）。（○は1つ）

図6-3-1 自宅での新聞購読の有無



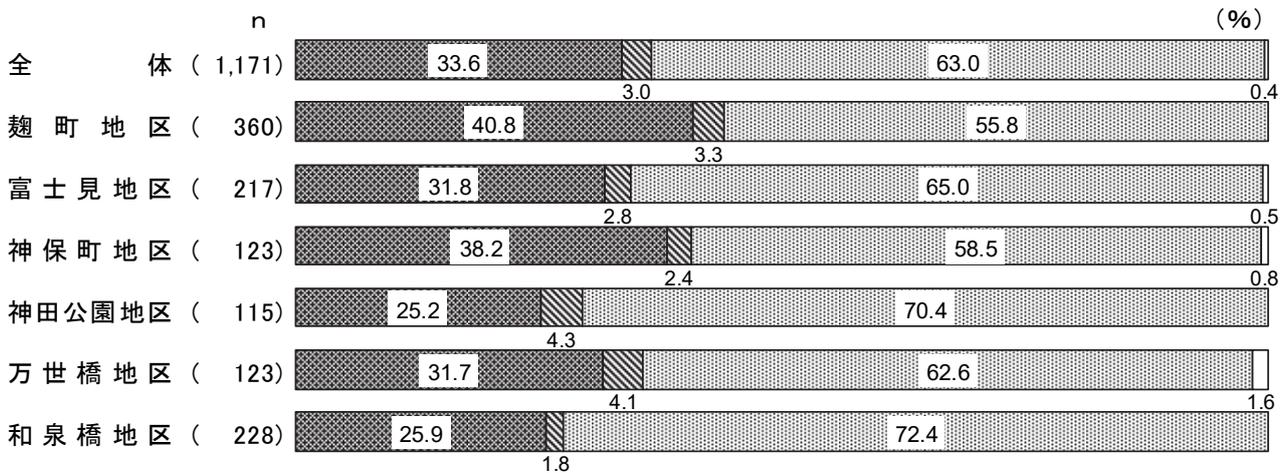
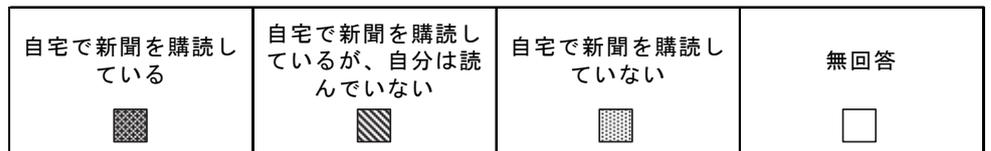
「自宅で新聞を購読していない」が63.0%となり、前年の57.9%からさらに増加している。

(図6-3-1)

地区別にみると、「自宅で新聞を購読している」は麴町地区（40.8%）が約4割と高くなっている。また、「自宅で新聞を購読していない」は和泉橋地区（72.4%）が7割強と高くなっている。

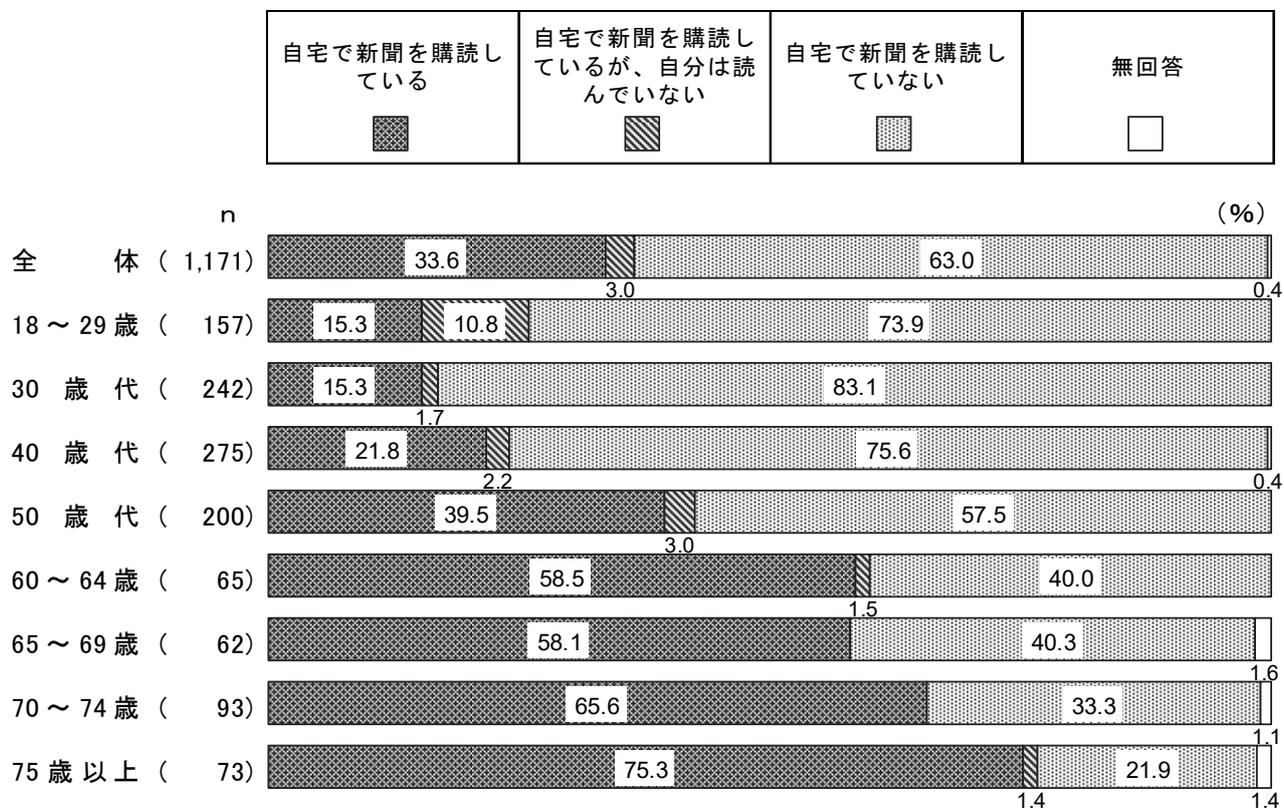
(図6-3-2)

図6-3-2 自宅での新聞購読の有無（地区別）



年代別にみると、「自宅で新聞を購読している」は75歳以上（75.3%）が7割台半ばと最も高くなっている。「自宅で新聞を購読していない」は30歳代（83.1%）で8割台半ば近くと最も高くなっている。（図6-3-3）

図6-3-3 自宅での新聞購読の有無（年代別）



7. 町会・ボランティア

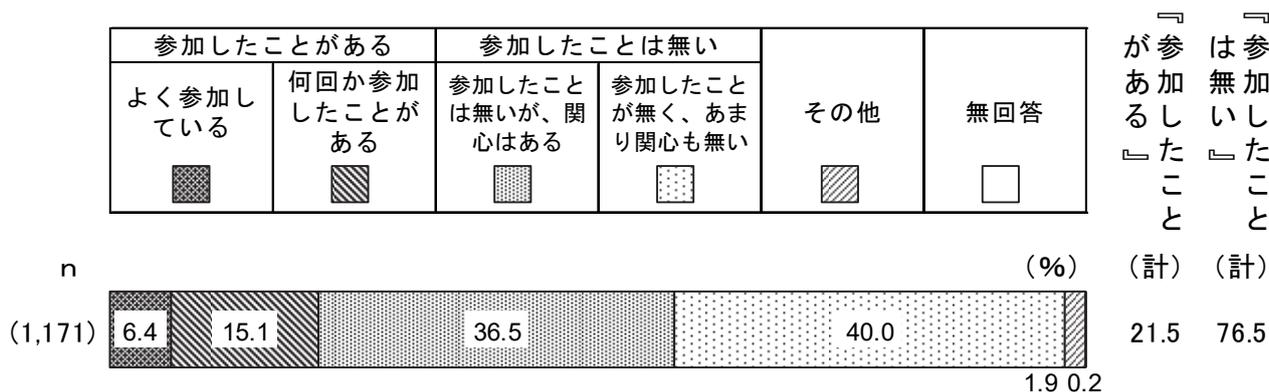
(1) 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

◇「参加したことが無く、あまり関心も無い」が4割

問11 あなたは地域の活動（町会やボランティア活動など）に参加したことがありますか。（○は1つ）

※例えば、地域で行われる防災訓練、防犯パトロール、道路・公園の清掃活動や花壇の手入れ、イベントの企画・運営のほか、各種ボランティア活動への参加など。

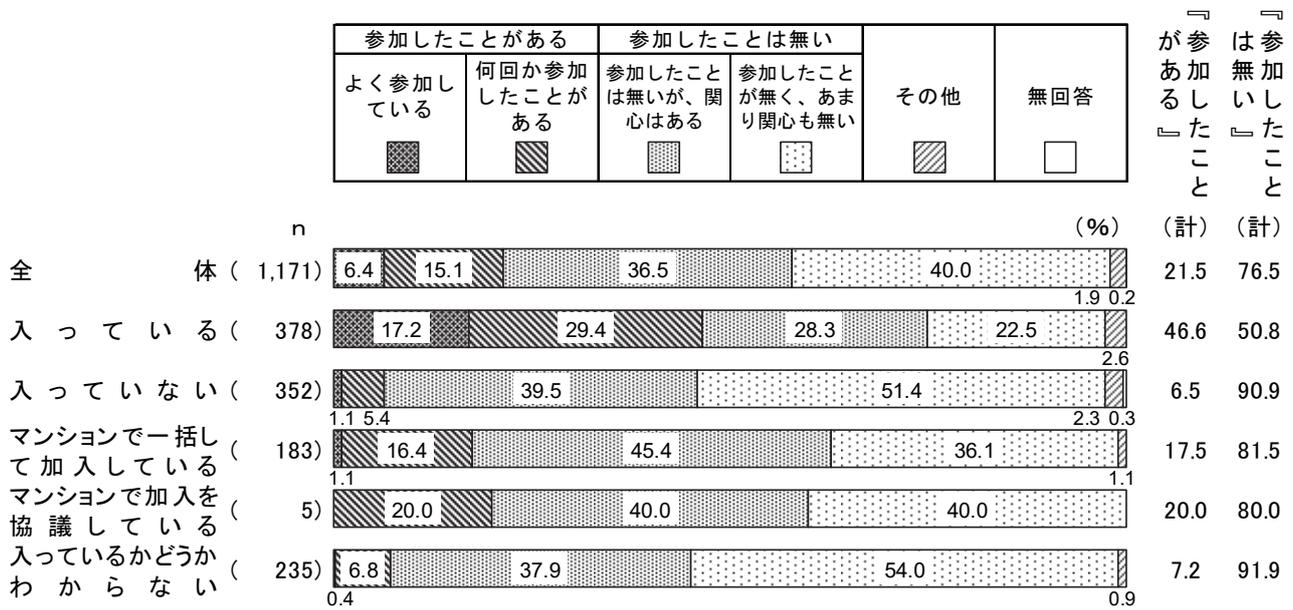
図7-1-1 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況



地域の活動（町会やボランティア活動など）に参加したことがあるか聞いたところ、「参加したことが無く、あまり関心も無い」（40.0%）が4割で最も高く、これに「参加したことは無いが、関心はある」（36.5%）を合わせた『参加したことは無い』（76.5%）は7割台半ばを超えている。一方、「よく参加している」（6.4%）と「何回か参加したことがある」（15.1%）を合わせた『参加したことがある』（21.5%）は2割強となっている。（図7-1-1）

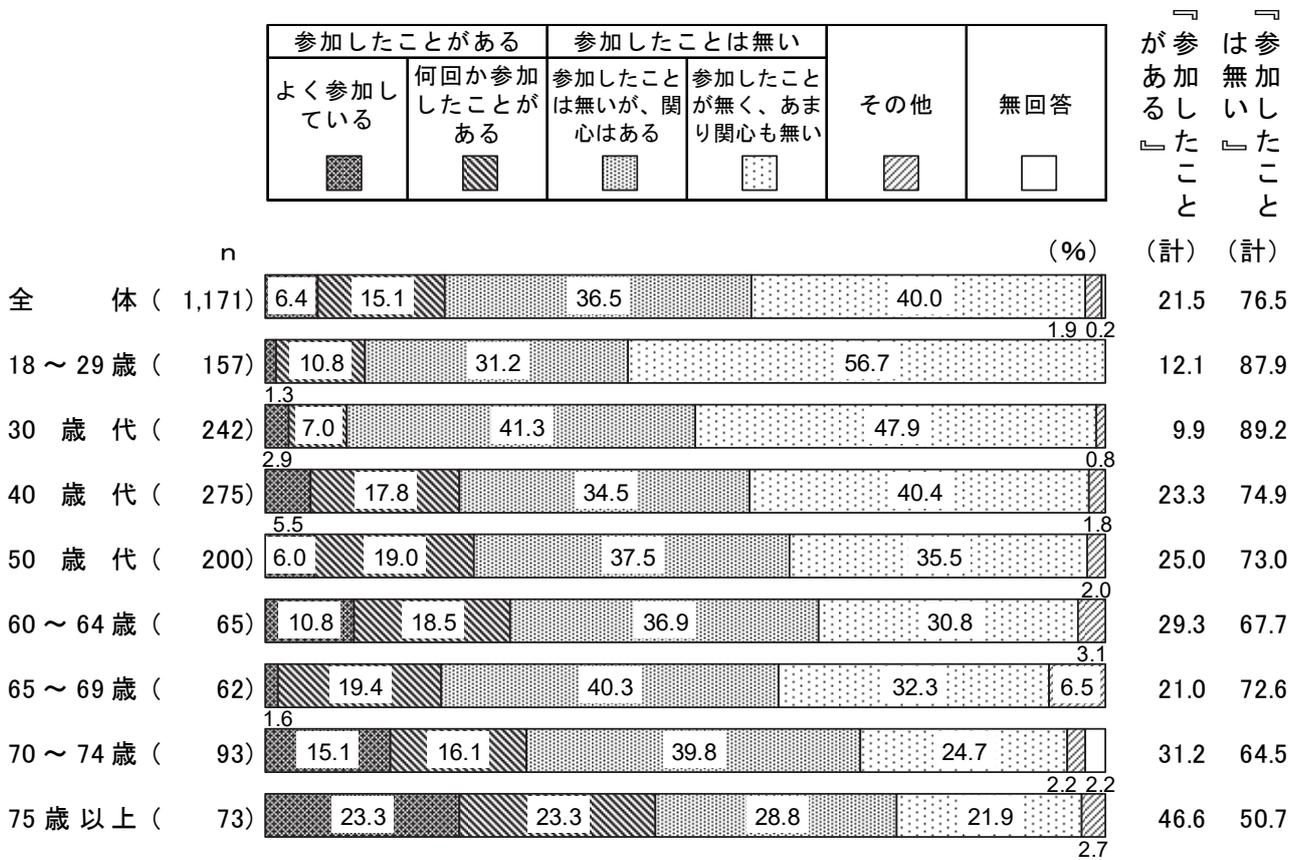
町会の加入状況別にみると、『参加したことがある』は町会に「入っている」(46.6%)で4割台半ばを超えて高くなっているが、「入っているかどうか分からない」(7.2%)・「入っていない」(6.5%)では1割未満に留まっている。(図7-1-2)

図7-1-2 地域の活動(町会やボランティア活動など)への参加状況(町会の加入状況別)



年代別にみると、『参加したことがある』は75歳以上(46.6%)で4割台半ばを超えて高くなっている。一方、『参加したことは無い』は30歳代(89.2%)で9割弱となっている。(図7-1-3)

図7-1-3 地域の活動(町会やボランティア活動など)への参加状況(年代別)

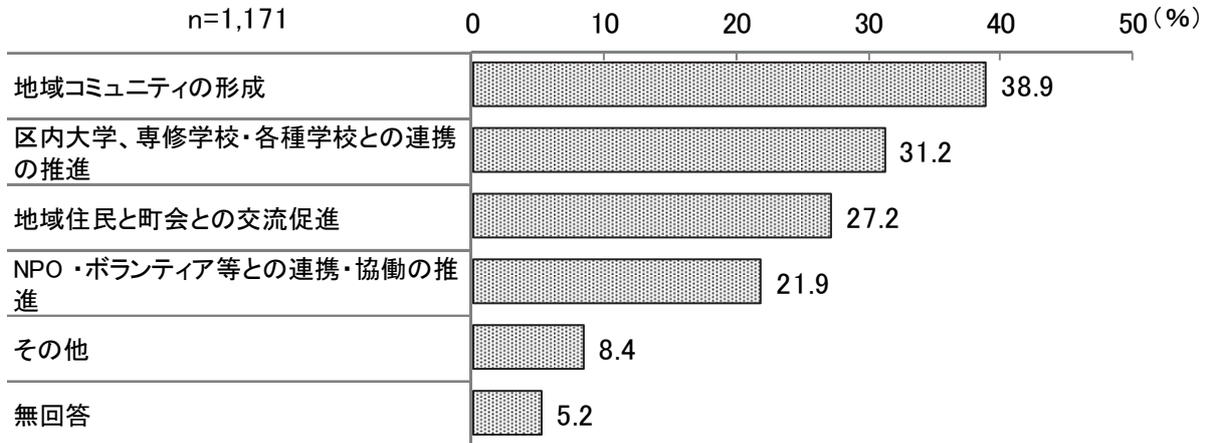


(2) 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

◇「地域コミュニティの形成」が4割近く

問12 町会・ボランティア活動に関して、あなたが「力を入れて欲しい分野」は何ですか。
(〇はいくつでも)

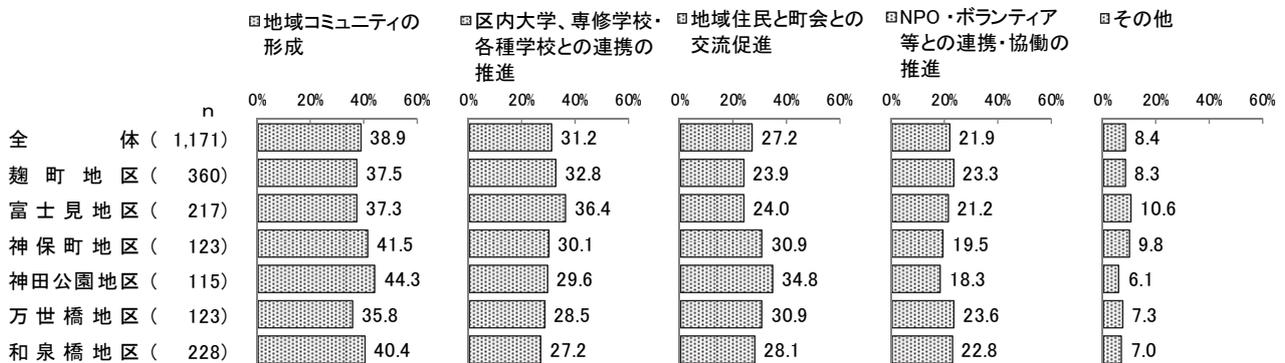
図7-2-1 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野



町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野について聞いたところ、「地域コミュニティの形成」(38.9%)が4割近くと最も高く、次いで、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の促進」(31.2%)、「地域住民と町会との交流促進」(27.2%)、「NPO・ボランティア等との連携・協働の促進」(21.9%)と続いている。(図7-2-1)

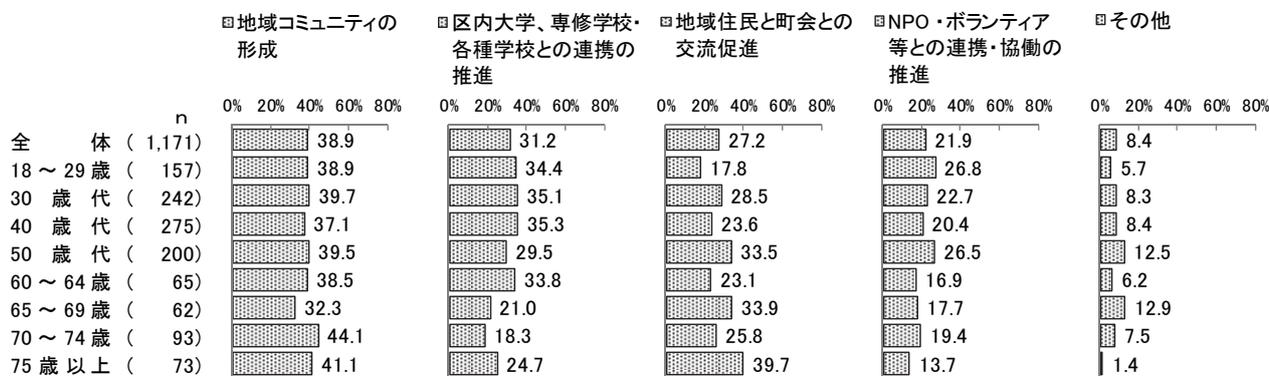
地区別にみると、「地域コミュニティの形成」は神田公園地区(44.3%)で4割台半ば近くと高くなっている。また、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」は富士見地区(36.4%)が3割台半ばを超えて高くなっている。(図7-2-2)

図7-2-2 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野(地区別)



年代別にみると、「地域コミュニティの形成」は70～74歳（44.1%）で4割台半ば近くと高くなっている。また、「地域住民と町会との交流促進」は75歳以上（39.7%）で4割弱と高くなっている。（図7-2-3）

図7-2-3 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野（年代別）



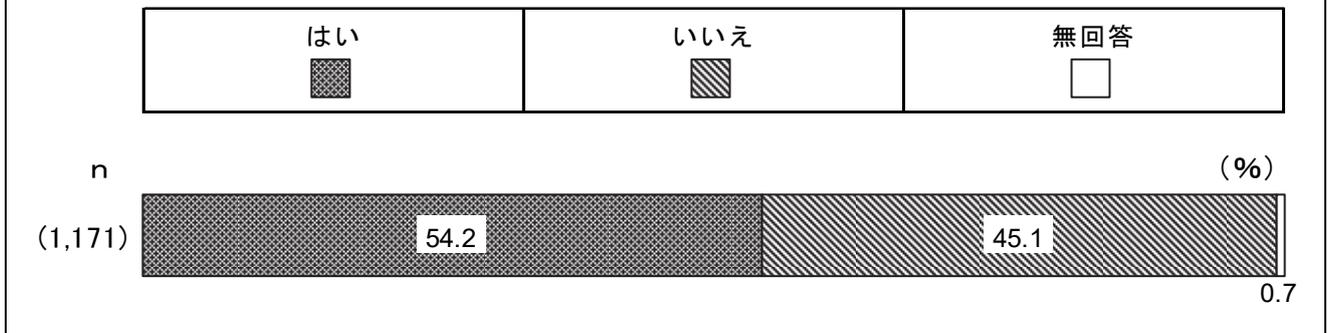
8. かかりつけ医

(1) かかりつけ医の有無

◇かかりつけ医がいるのは5割台半ば近く

問13 かかりつけ医はいますか。(○は1つ)

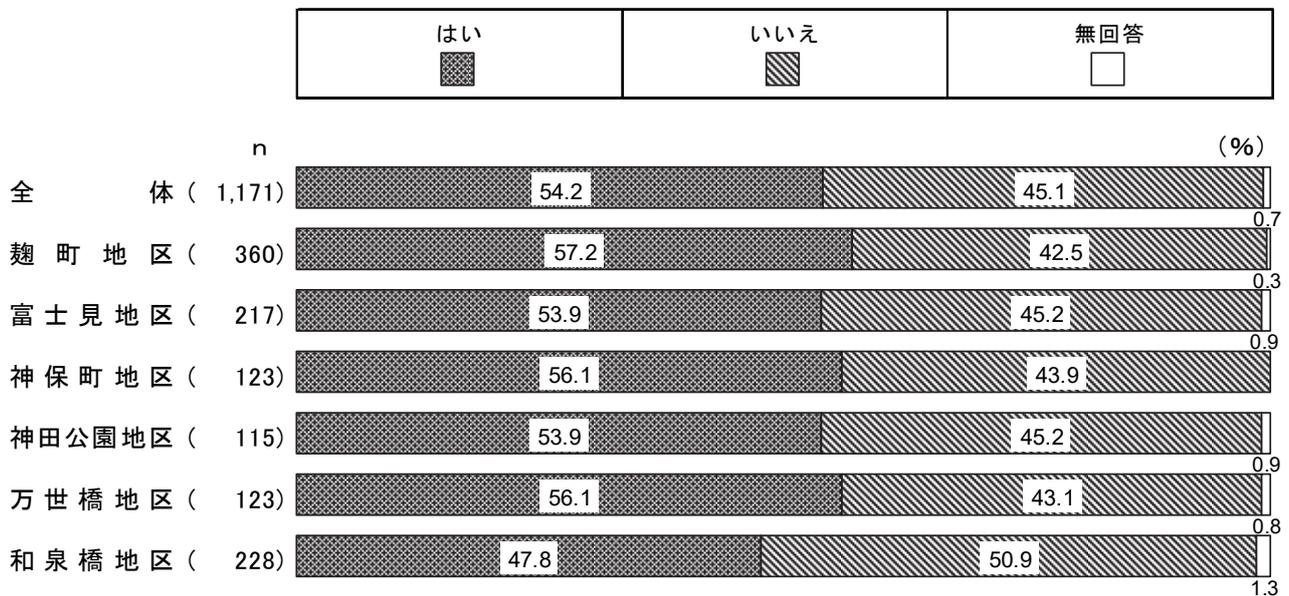
図8-1-1 かかりつけ医の有無



かかりつけ医の有無について聞いたところ、「はい」(いる) (54.2%) が5割台半ば近く、一方「いいえ」(いない) (45.1%) は4割台半ばとなっている。(図8-1-1)

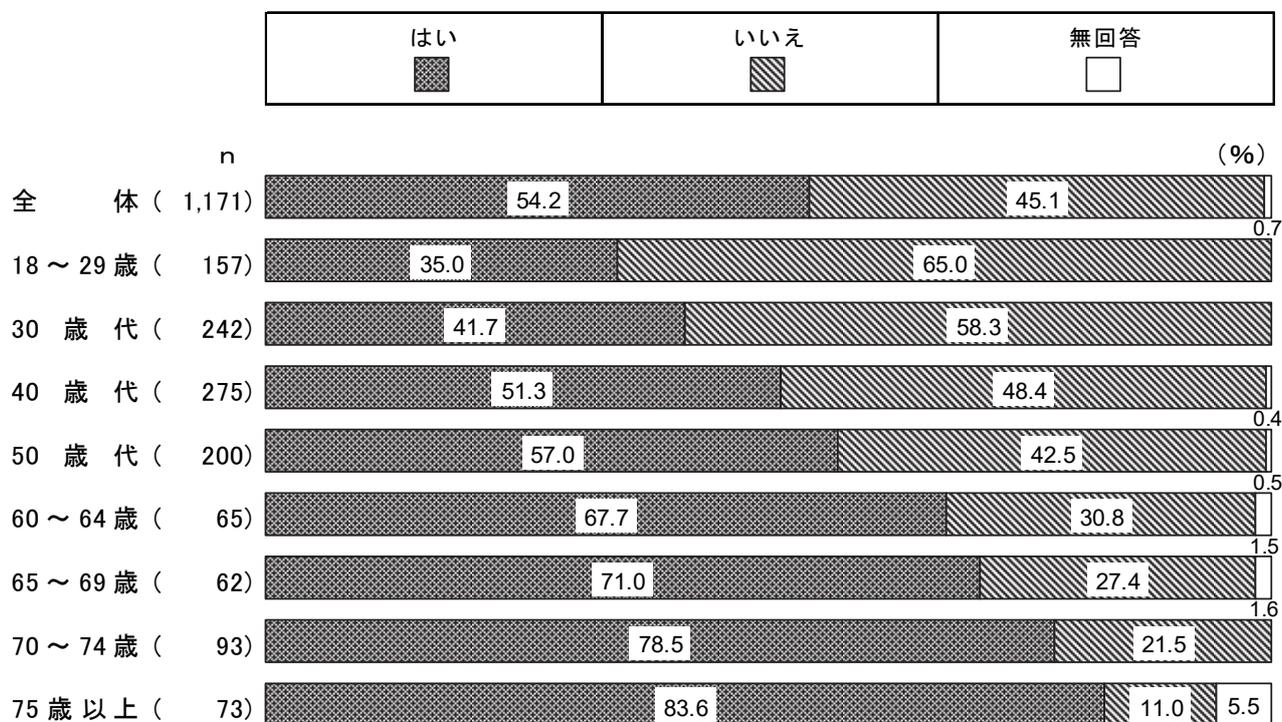
地区別にみると、「はい」(いる) は麴町地区 (57.2%) と神保町地区と万世橋地区 (ともに 56.1%) が5割台半ばを超えて高くなっている。(図8-1-2)

図8-1-2 かかりつけ医の有無 (地区別)



年代別にみると、「はい」(いる)は75歳以上(83.6%)で8割台半ば近くと高くなっており、年代が上がるにつれて「はい」が多くなっている。一方、「いいえ」(いない)は18~29歳(65.0%)で6割台半ばと高くなっている。(図8-1-3)

図8-1-3 かかりつけ医の有無(年代別)



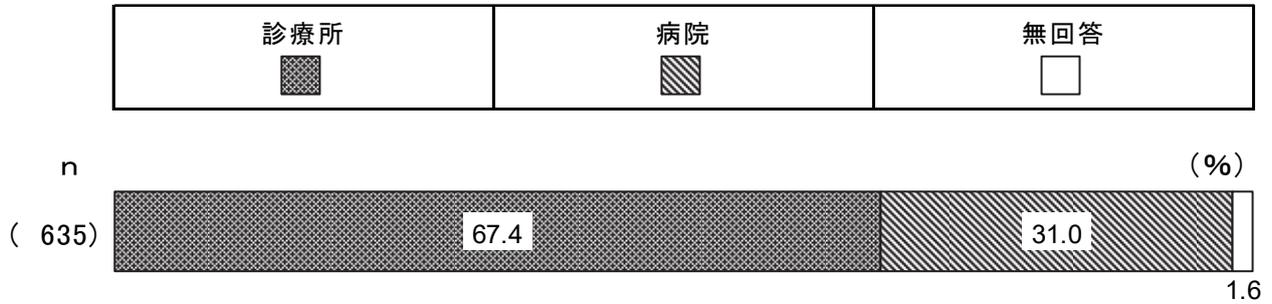
(1-1) かかりつけ医の医療機関

◇かかりつけ医の医療機関は「診療所」が6割台半ばを超える

(問13で「1. はい」とお答えの方に)

問13-1 そのかかりつけ医は、診療所の医師ですか、それとも病院の医師ですか。(〇は1つ)

図8-1-4 かかりつけ医の医療機関

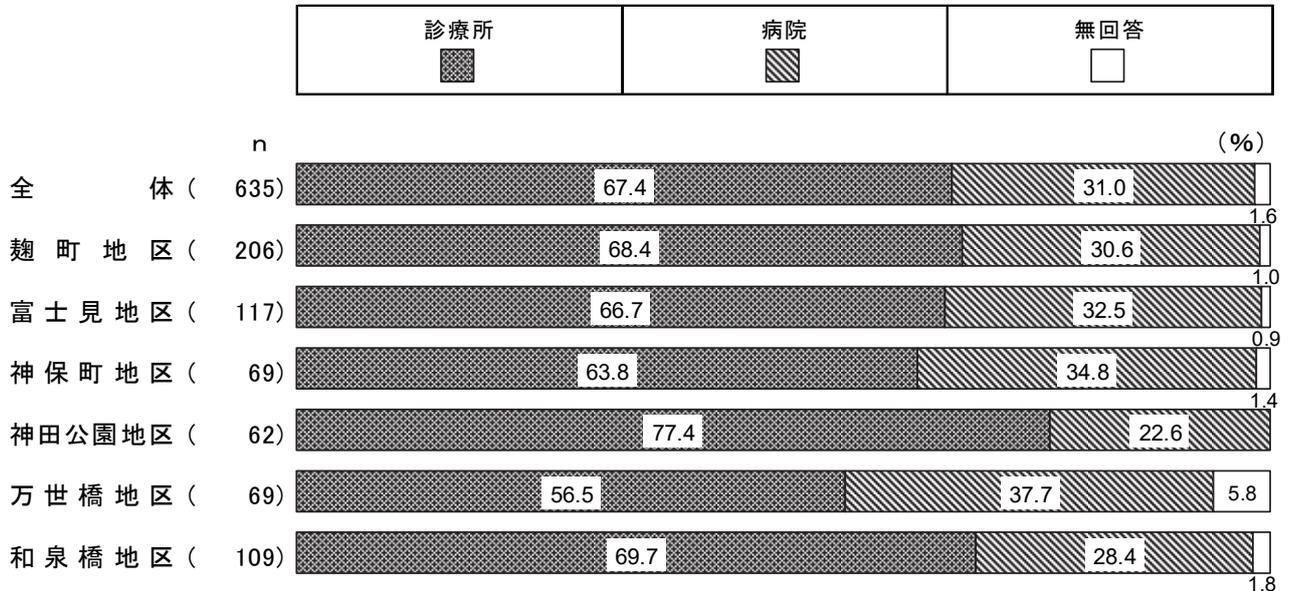


かかりつけ医の有無について「はい」(いる)と回答した方に、かかりつけ医の医療機関について聞いたところ、「診療所」(67.4%)が6割台半ばを超え、「病院」(31.0%)が3割強となっている。

(図8-1-4)

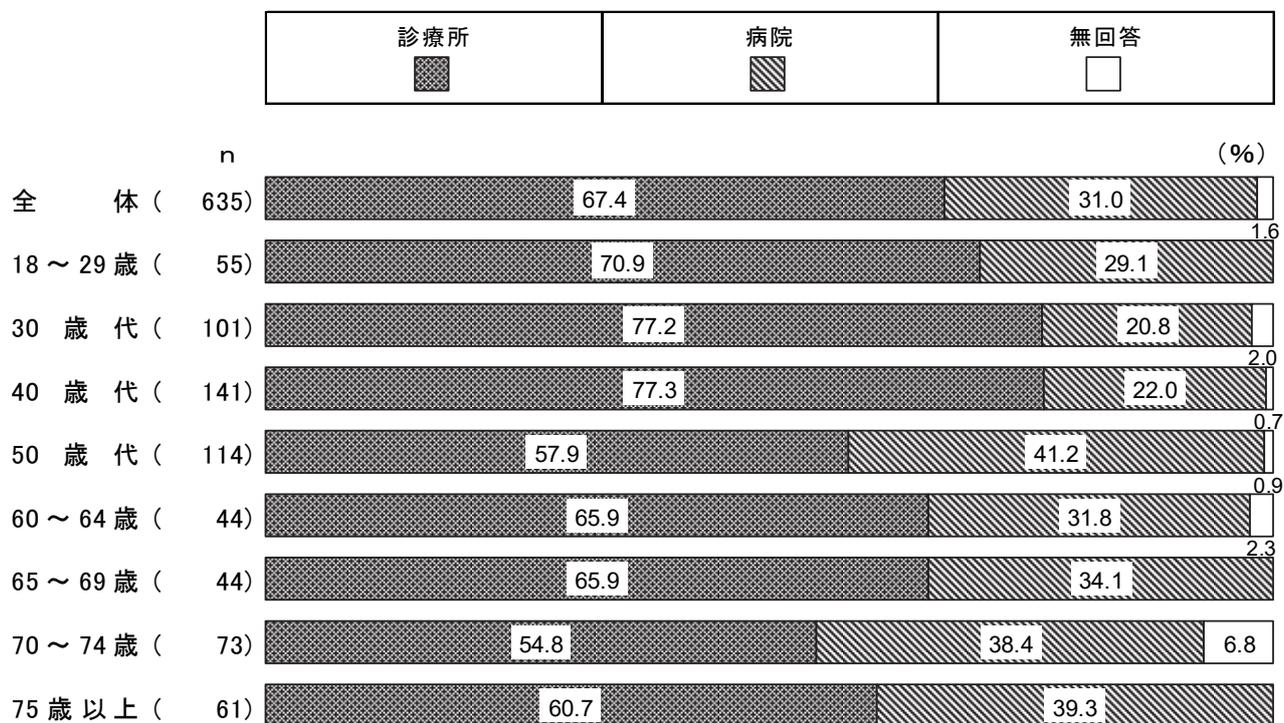
地区別にみると、「診療所」は神田公園地区(77.4%)が7割台半ばを超え、「病院」は万世橋地区(37.7%)が3割台半ばを超えてそれぞれ最も高くなっている。(図8-1-5)

図8-1-5 かかりつけ医の医療機関(地区別)



年代別にみると、「診療所」は40歳代（77.3%）・30歳代（77.2%）で7割台半ばを超えて高くなっている。一方、「病院」は50歳代（41.2%）で4割強と高くなっている。（図8-1-6）

図8-1-6 かかりつけ医の医療機関（年代別）

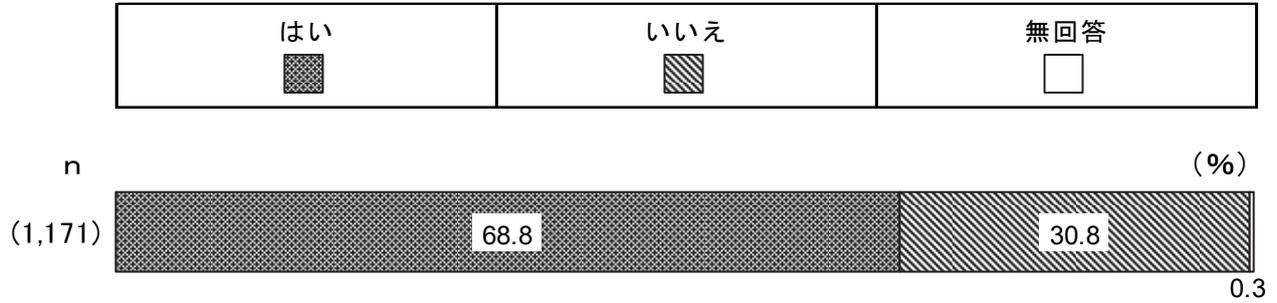


(2) かかりつけ歯科医の有無

◇かかりつけ歯科医がいるのは7割近く

問14 かかりつけ歯科医はいますか。(○は1つ)

図8-2-1 かかりつけ歯科医の有無

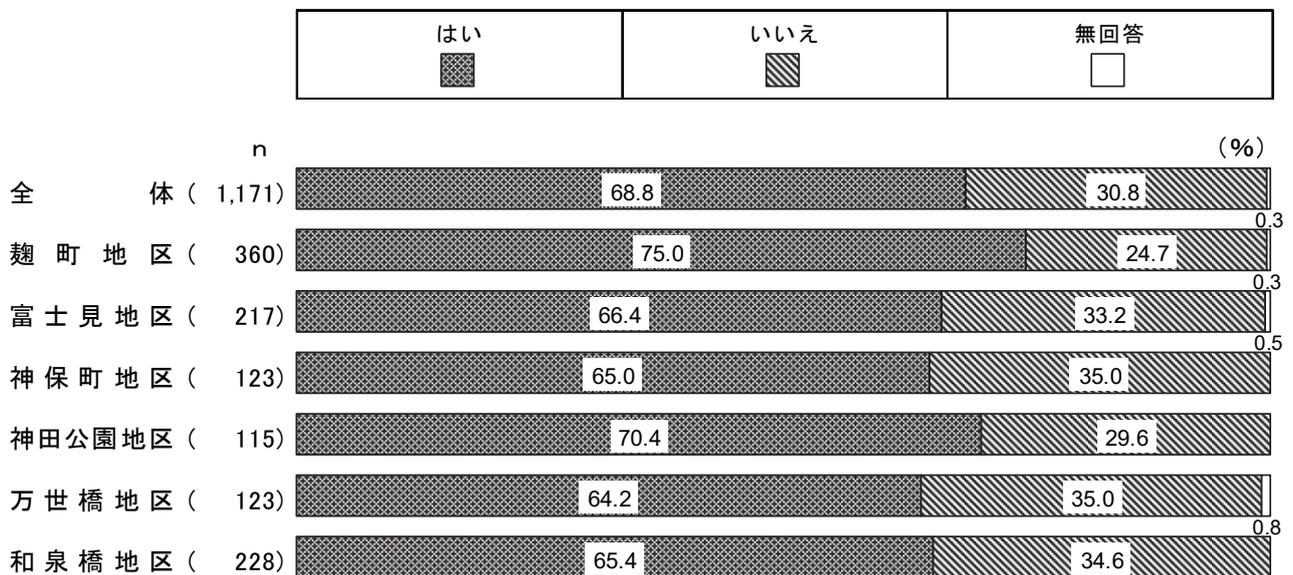


かかりつけ歯科医の有無について聞いたところ、「はい」(いる) (68.8%) が7割近く、一方「いいえ」(いない) (30.8%) は約3割となっている。(図8-2-1)

地区別にみると、「はい」(いる) は麴町地区 (75.0%) が7割台半ばで最も高くなっている。

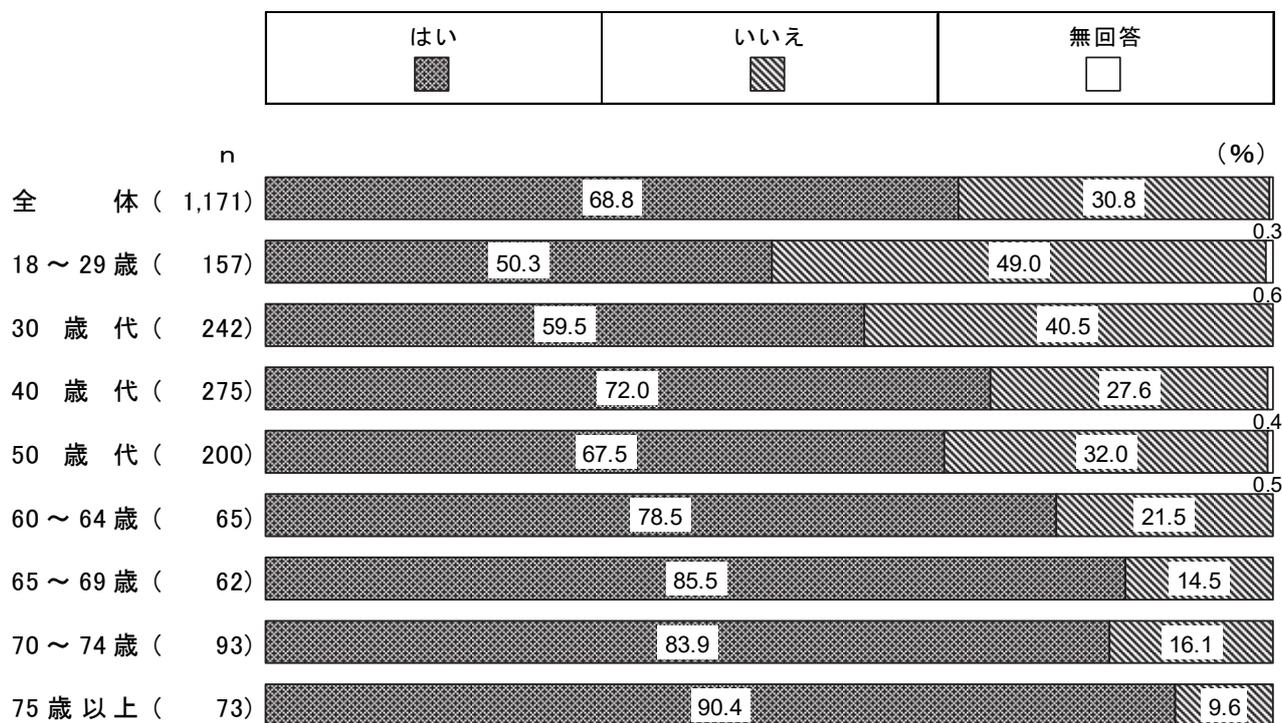
(図8-2-2)

図8-2-2 かかりつけ歯科医の有無 (地区別)



年代別にみると、「はい」(いる)は75歳以上(90.4%)で約9割と高くなっている。一方、「いいえ」(いない)は18~29歳(49.0%)で5割弱と高くなっている。(図8-2-3)

図8-2-3 かかりつけ歯科医の有無(年代別)



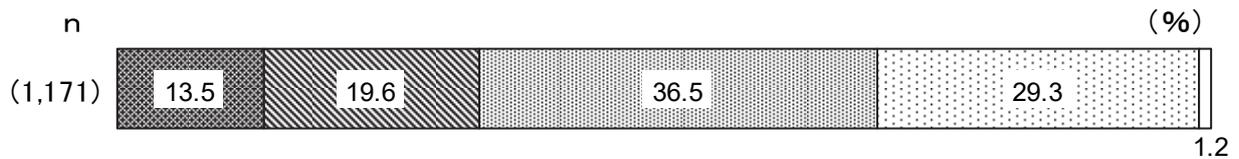
9. 第二次健康千代田21の中間評価

(1) 地域の人との関わり

◇「あいさつをする人がいる」が3割台半ばを超える

問15 あなたは、お住まいの地域の人とどの程度かかわりを持っていますか。(○は1つ)

図9-1-1 地域の人との関わり

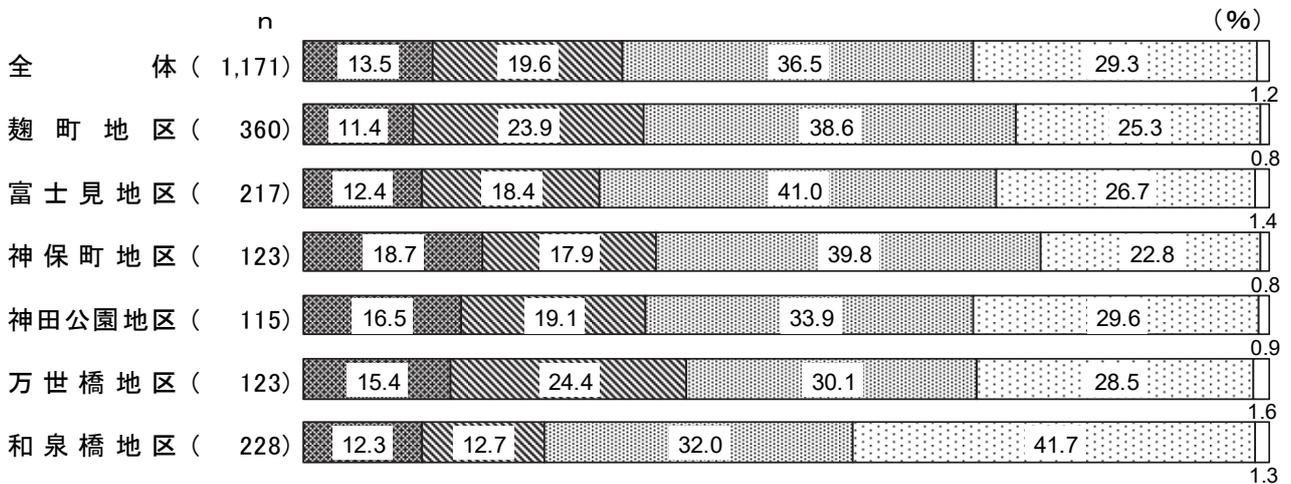


地域の人とどの程度かかわりを持っているか聞いたところ、「あいさつをする人がいる」(36.5%)が3割台半ばを超え、次いで、「つきあいはない」(29.3%)、「立ち話をする人がいる」(19.6%)、「相談しあえる人がいる」(13.5%)となっている。(図9-1-1)

地区別にみると、「あいさつをする人がいる」は富士見地区(41.0%)が4割強で最も高くなっている。一方、「つきあいはない」は和泉橋地区(41.7%)が4割強で最も高くなっている。

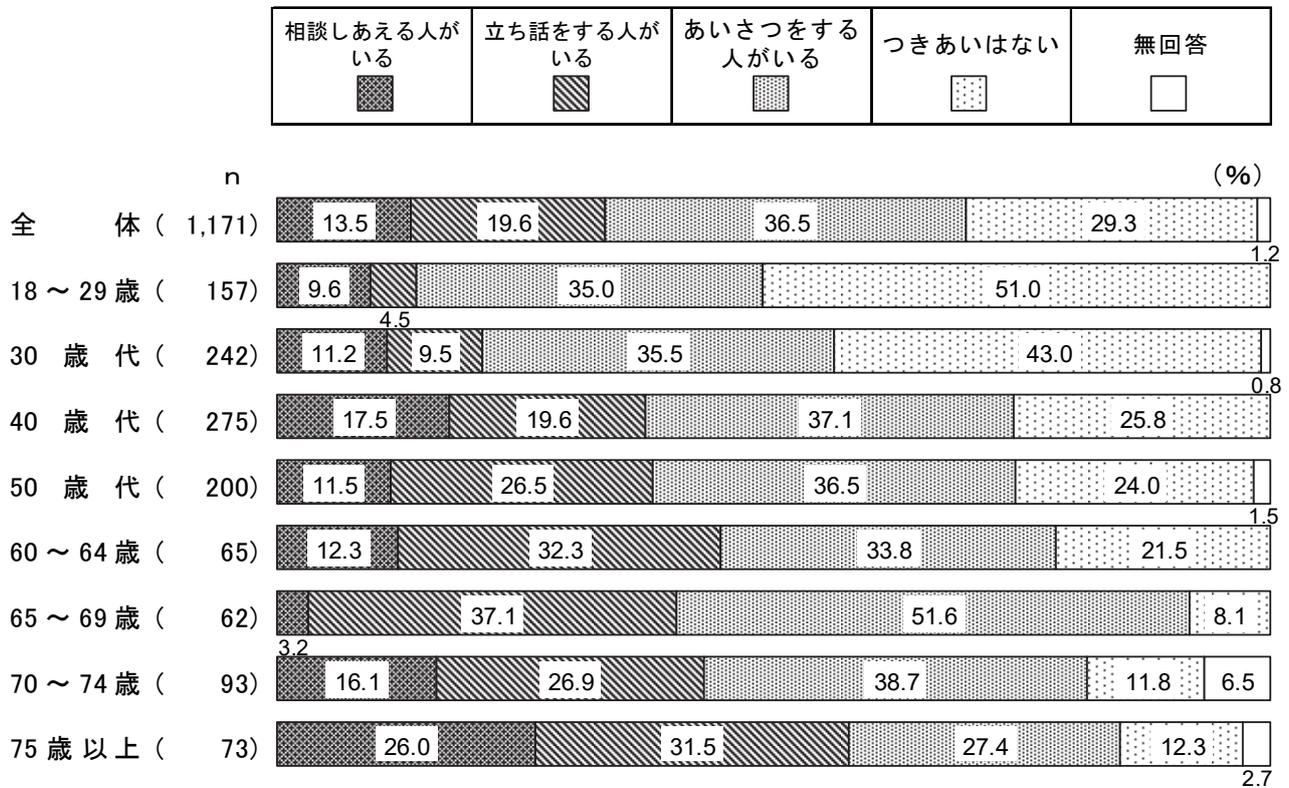
(図9-1-2)

図9-1-2 地域の人との関わり(地区別)



年代別にみると、「あいさつをする人がいる」は 65～69 歳（51.6%）で 5 割強と高くなっている。一方、「つきあいはない」は 18～29 歳（51.0%）で 5 割強と高くなっている。（図 9-1-3）

図 9-1-3 地域の人との関わり（年代別）

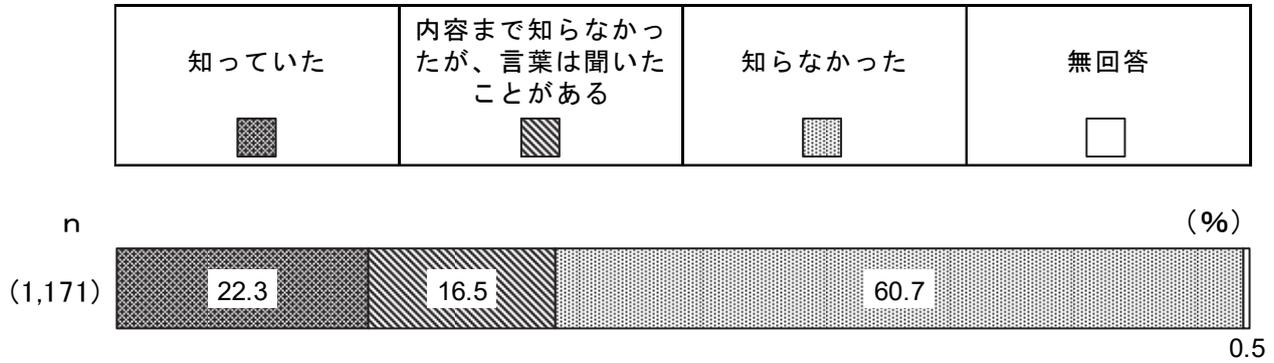


(2) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度

◇「知らなかった」が約6割

問16 あなたは「慢性閉塞性肺疾患 (COPD)」の内容を知っていましたか。(〇は1つ)

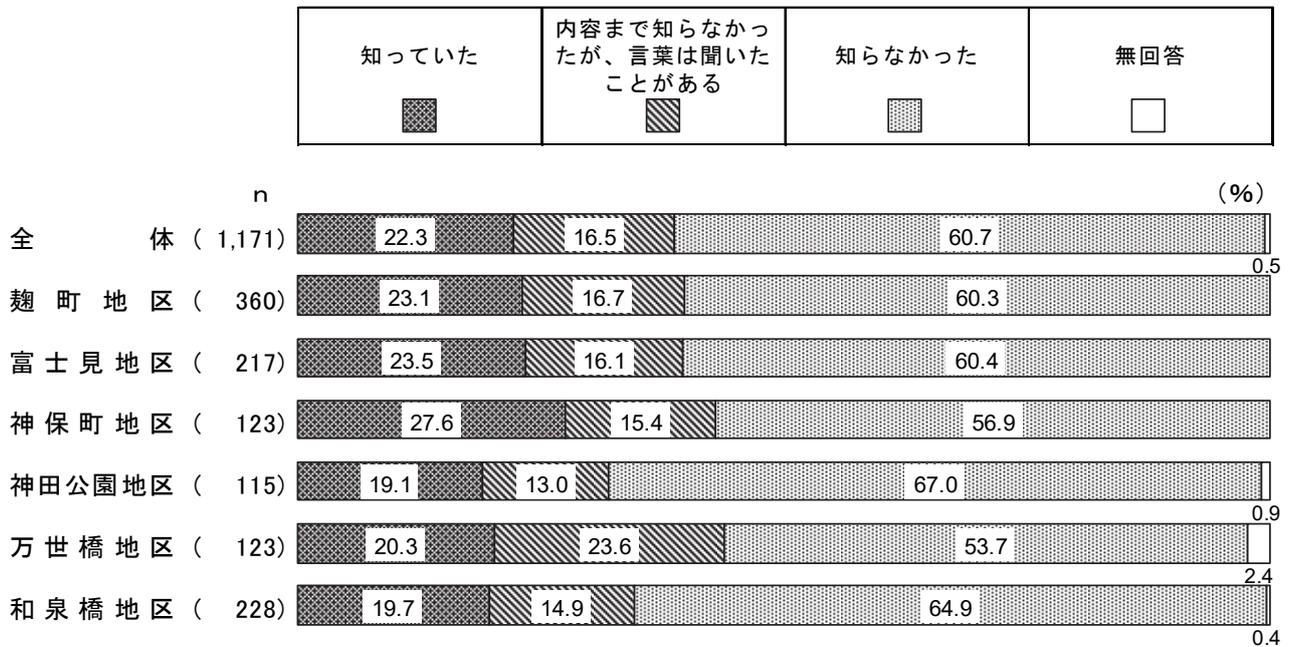
図9-2-1 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度



慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の内容を知っているか聞いたところ、「知らなかった」(60.7%) が約6割で最も高く、次いで「知っていた」(22.3%)、「内容まで知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(16.5%) となっている。(図9-2-1)

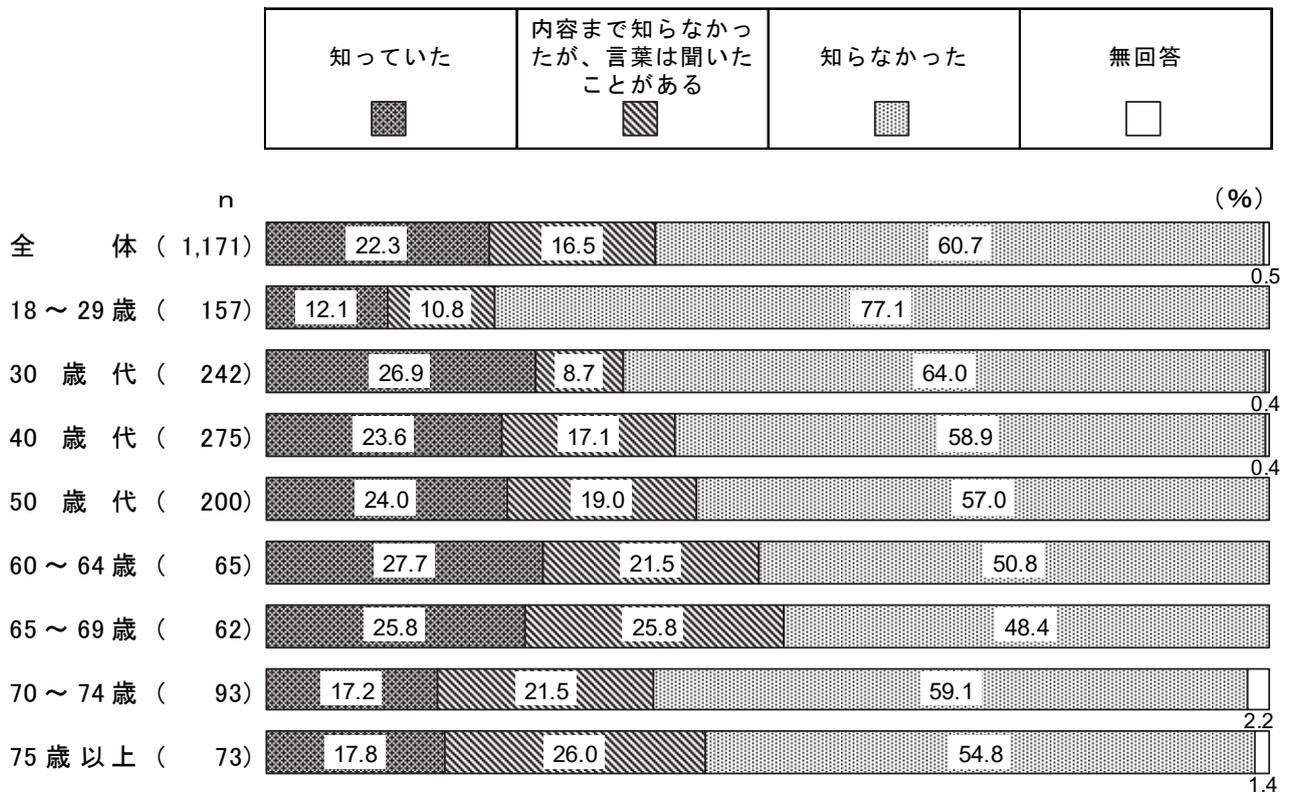
地区別にみると、「知っていた」は神保町地区 (27.6%) が2割台半ばを超えて最も高くなっている。(図9-2-2)

図9-2-2 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度 (地区別)



年代別にみると、「知っていた」は60～64歳（27.7%）で2割台半ばを超えて高くなっている。一方、「知らなかった」は18～29歳（77.1%）で7割台半ばを超えて高くなっている。（図9-2-3）

図9-2-3 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の認知度（年代別）



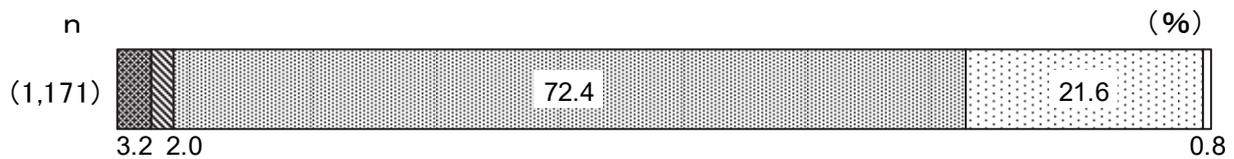
10. 自殺対策

(1) 千代田区自殺対策計画の認知度

◇「知らないが関心がある」が7割強

問17 区では、誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指すため、平成31年3月に千代田区自殺対策計画を策定しましたがご存じですか。(〇は1つ)

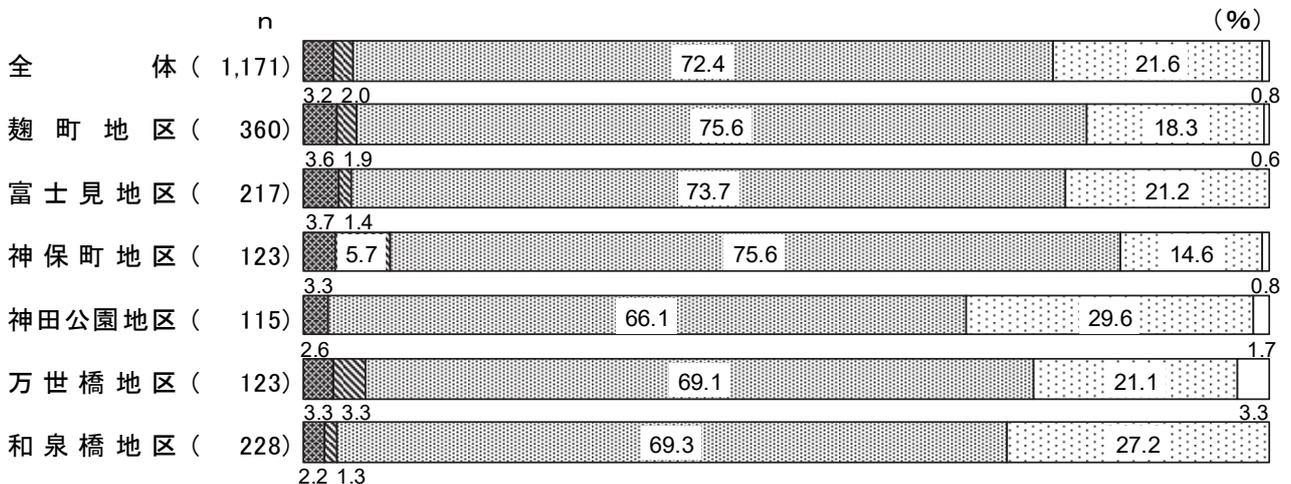
図 10-1-1 千代田区自殺対策計画の認知度



千代田区自殺対策計画を知っているか聞いたところ、「知らないが関心がある」(72.4%)が7割強で最も高く、次いで「知らなく関心がない」(21.6%)、「知っていて意識が高まった」(3.2%)、「知っているが関心がない」(2.0%)となっている。(図10-1-1)

地区別にみると、「知らないが関心がある」は麴町地区と神保町地区(ともに75.6%)が7割台半ばで最も高くなっている。(図10-1-2)

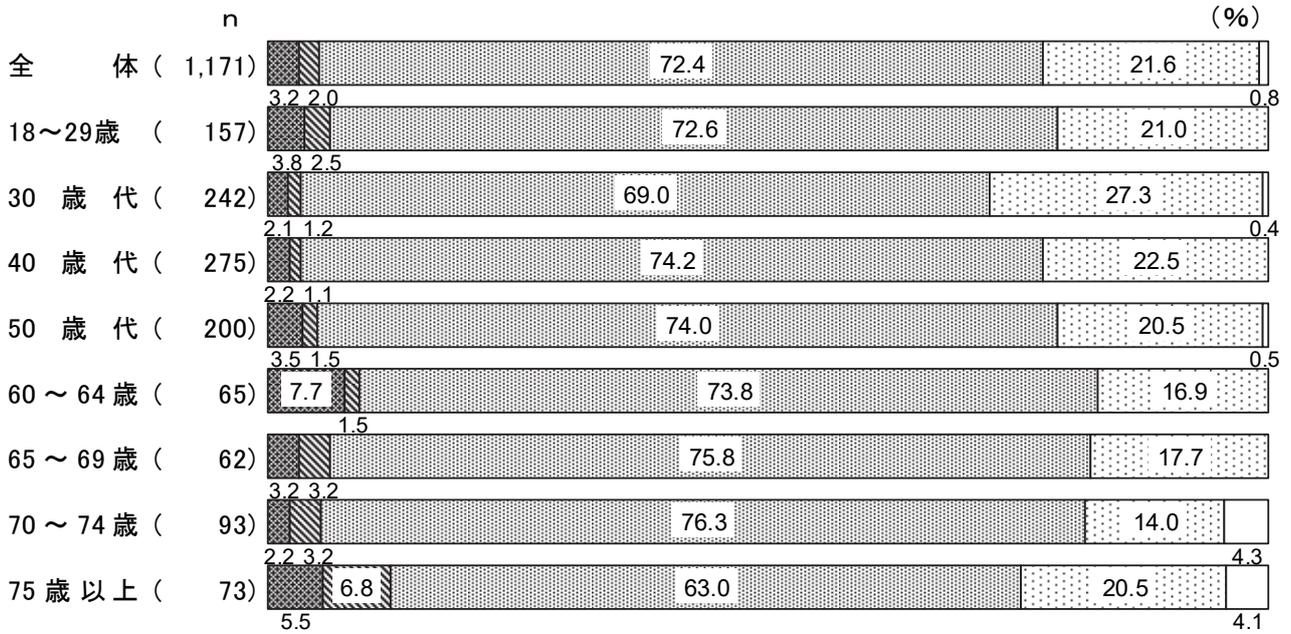
図 10-1-2 千代田区自殺対策計画の認知度(地区別)



年代別にみると、「知らないが関心がある」は70～74歳（76.3%）が7割台半ばを超えて最も高くなっている。（図10-1-3）

図10-1-3 千代田区自殺対策計画の認知度（年代別）

知っている意識が高まった	知っているが関心がない	知らないが関心がある	知らなく関心がない	無回答

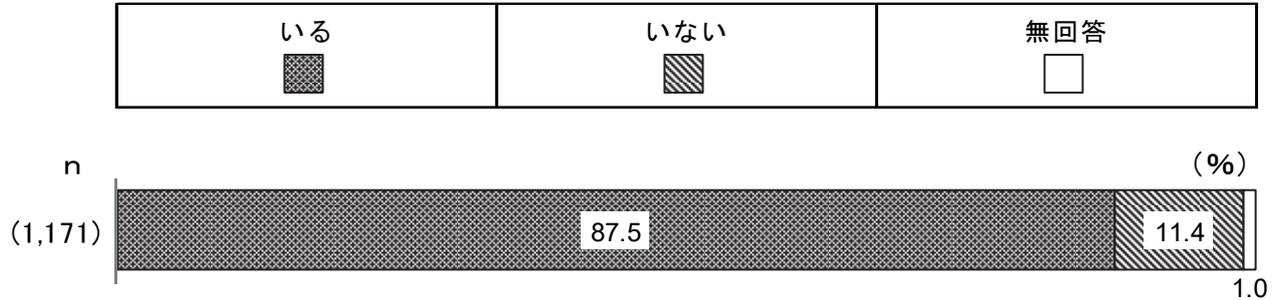


(2) 悩みを相談できる人の有無

◇「いる」が8割台半ばを超える

問18 あなたは、悩みやストレスを感じたときに相談できる人がいますか。(○は1つ)

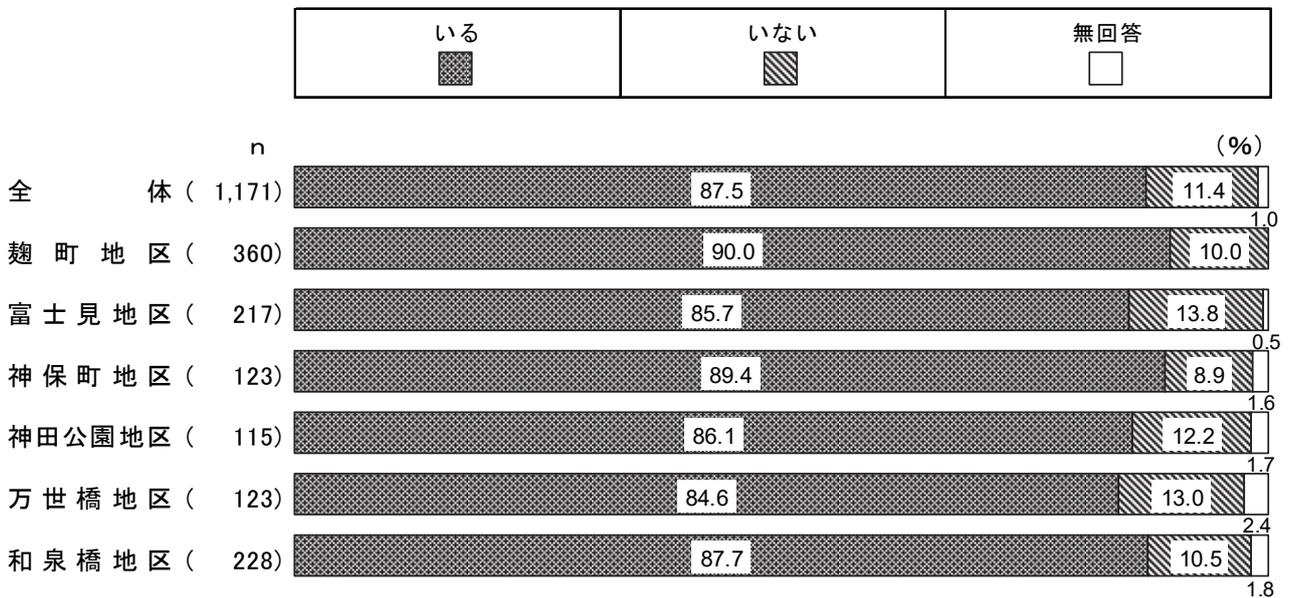
図 10-2-1 悩みを相談できる人の有無



悩みやストレスを感じたときに相談できる人がいるか聞いたところ、「いる」(87.5%)が8割台半ばを超え、「いない」(11.4%)は1割強となっている。(図 10-2-1)

地区別にみると、「いる」は麴町地区(90.0%)が9割で最も高くなっている。(図 10-2-2)

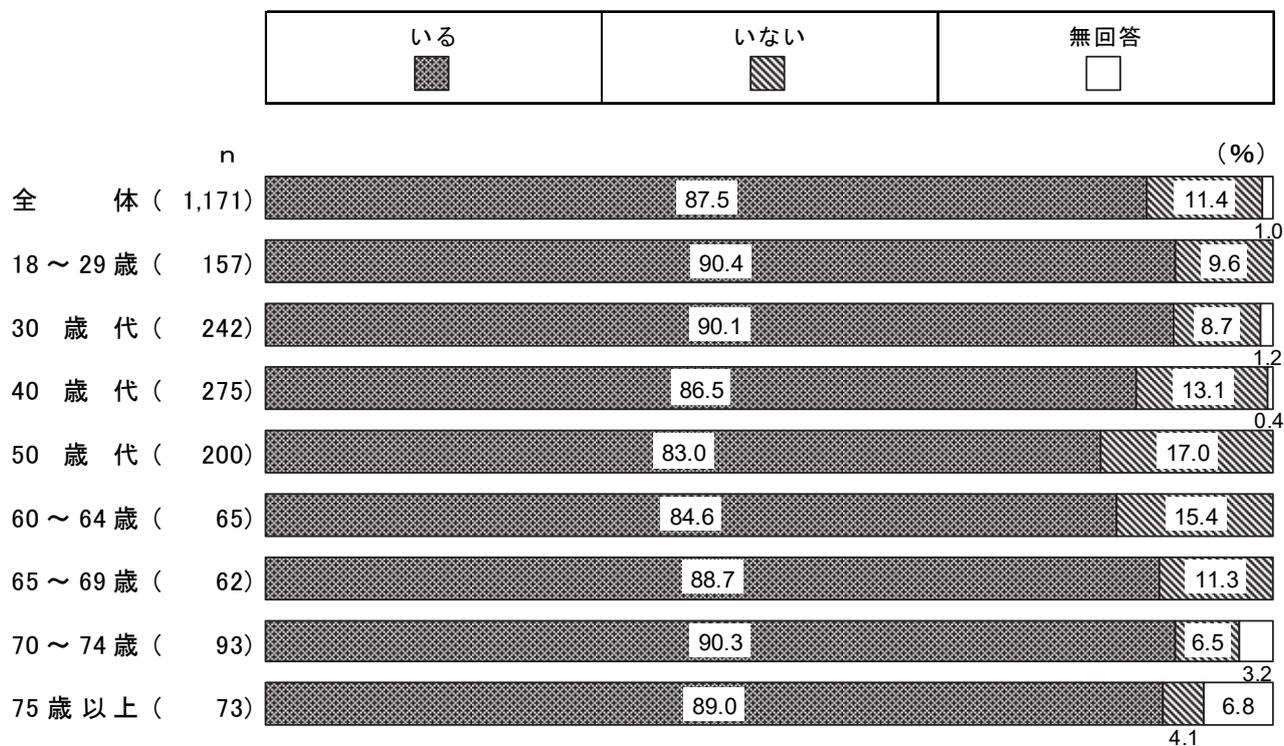
図 10-2-2 悩みを相談できる人の有無(地区別)



年代別にみると、「いる」は18～29歳（90.4%）・70～74歳（90.3%）・30歳代（90.1%）で約9割と高くなっている。一方、「いない」は50歳代（17.0%）で1割台半ばを超えて高くなっている。

（図10-2-3）

図10-2-3 悩みを相談できる人の有無（年代別）



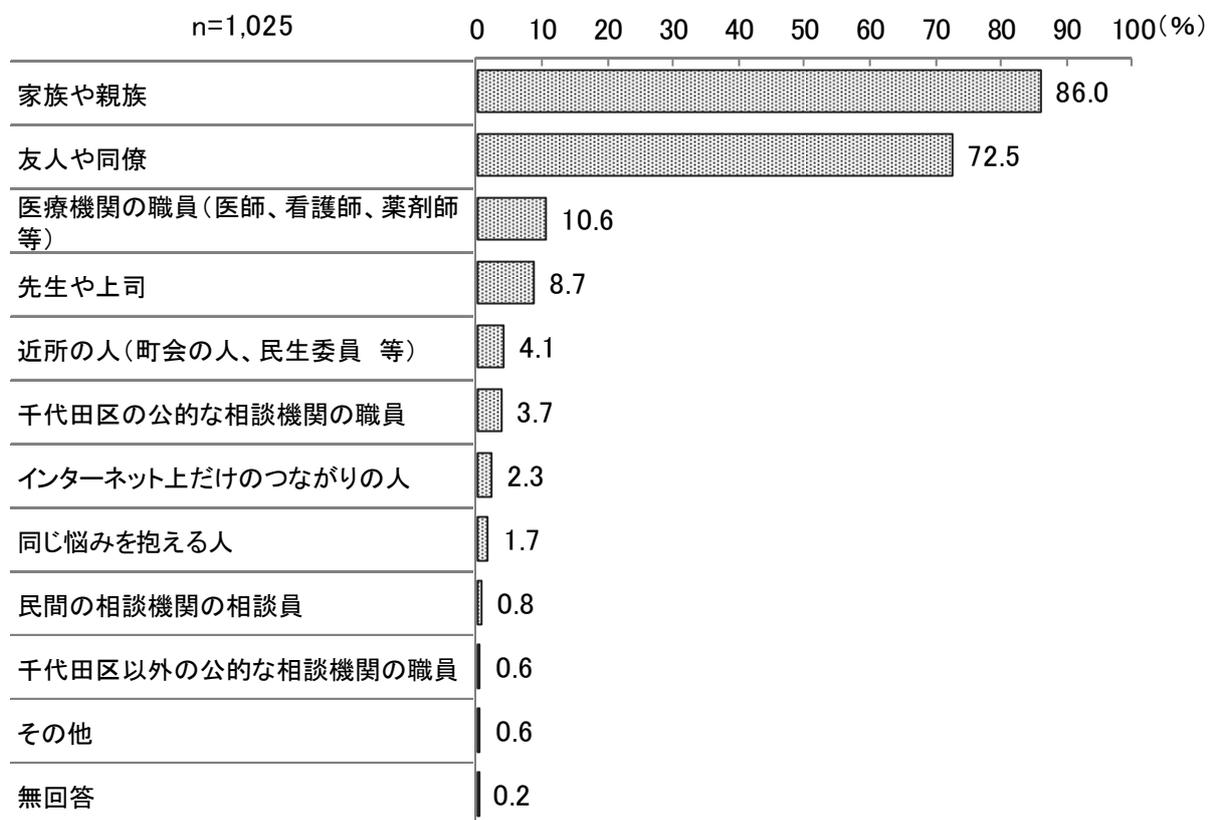
(2-1) 悩みを相談する相手

◇「家族や親族」が8割台半ばを超えている

(問18で「1. いる」とお答えの方に)

問18-1 悩みはどのような方に相談しますか。(〇はいくつでも)

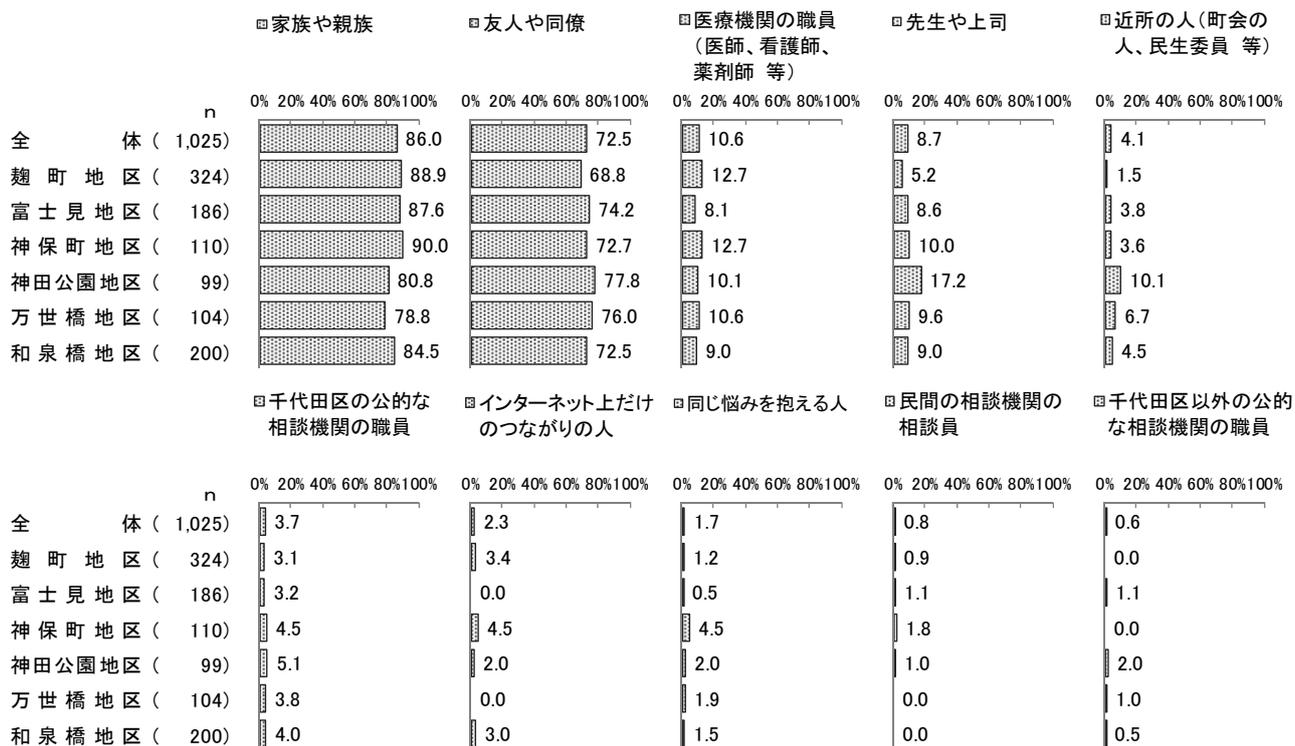
図 10-2-4 悩みを相談する相手



悩みを相談する相手について聞いたところ、「家族や親族」(86.0%)が8割台半ばを超えて最も高く、次いで、「友人や同僚」(72.5%)が7割強と続いている。(図 10-2-4)

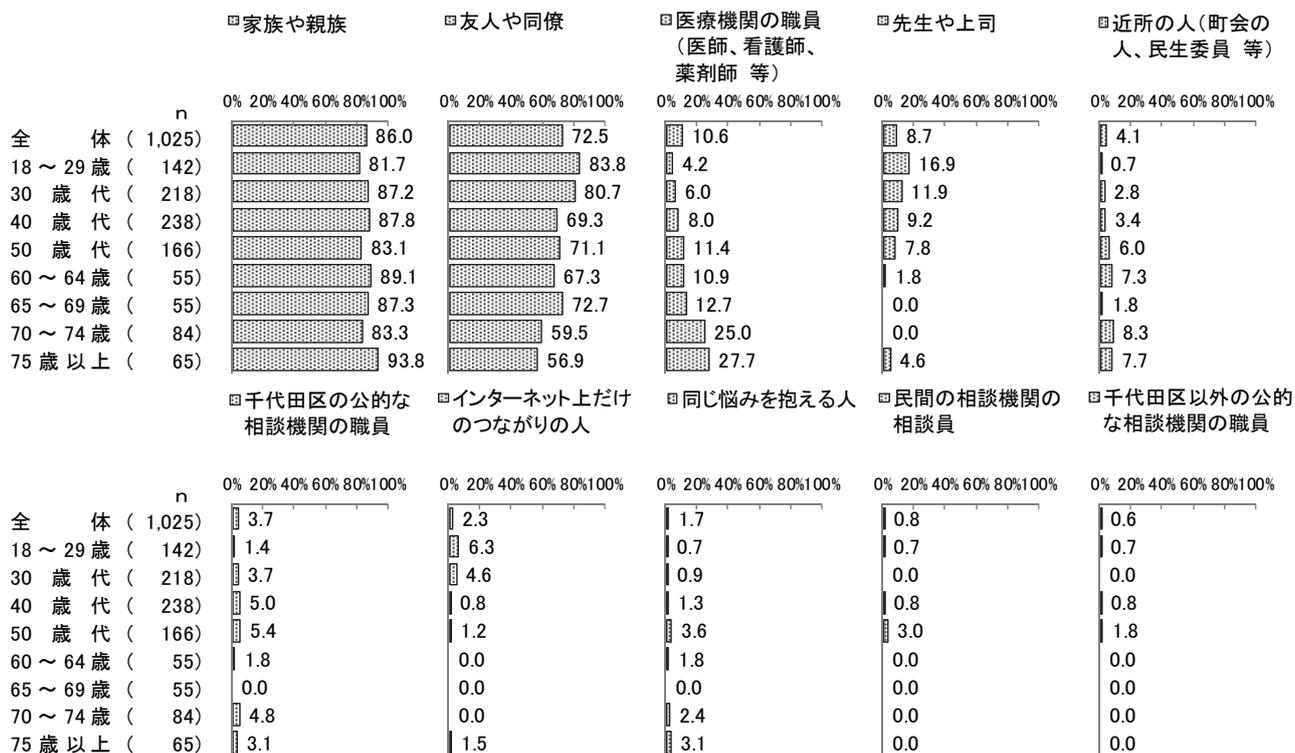
地区別にみると、「家族や親族」は神保町地区（90.0%）で9割と高くなっている。（図10-2-5）

図10-2-5 悩みを相談する相手（地区別）



年代別にみると、「家族や親族」は75歳以上（93.8%）で9割台半ば近くと高くなっている。また、「友人や同僚」は18～29歳（83.8%）で8割台半ば近くと高くなっている。（図10-2-6）

図10-2-6 悩みを相談する相手（年代別）

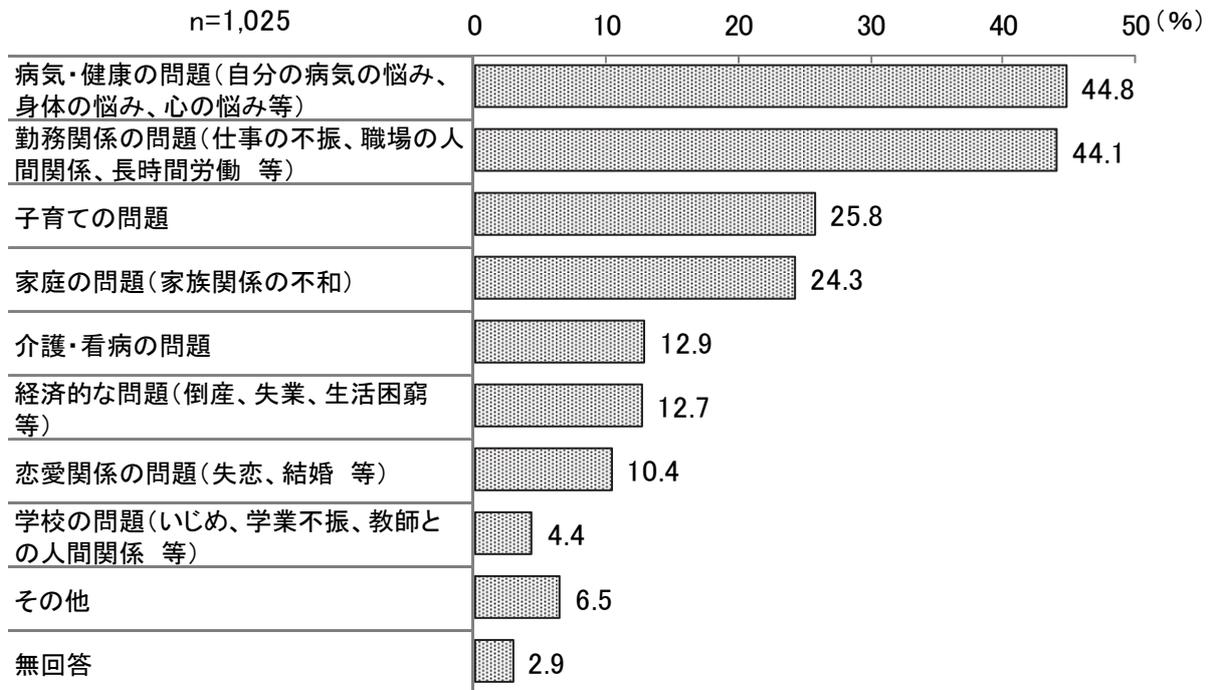


(2-2) 相談内容

◇「病気・健康の問題」が4割台半ば近く

(問18で「1. いる」とお答えの方に)
問18-2 相談内容はどのようなことですか。(○はいくつでも)

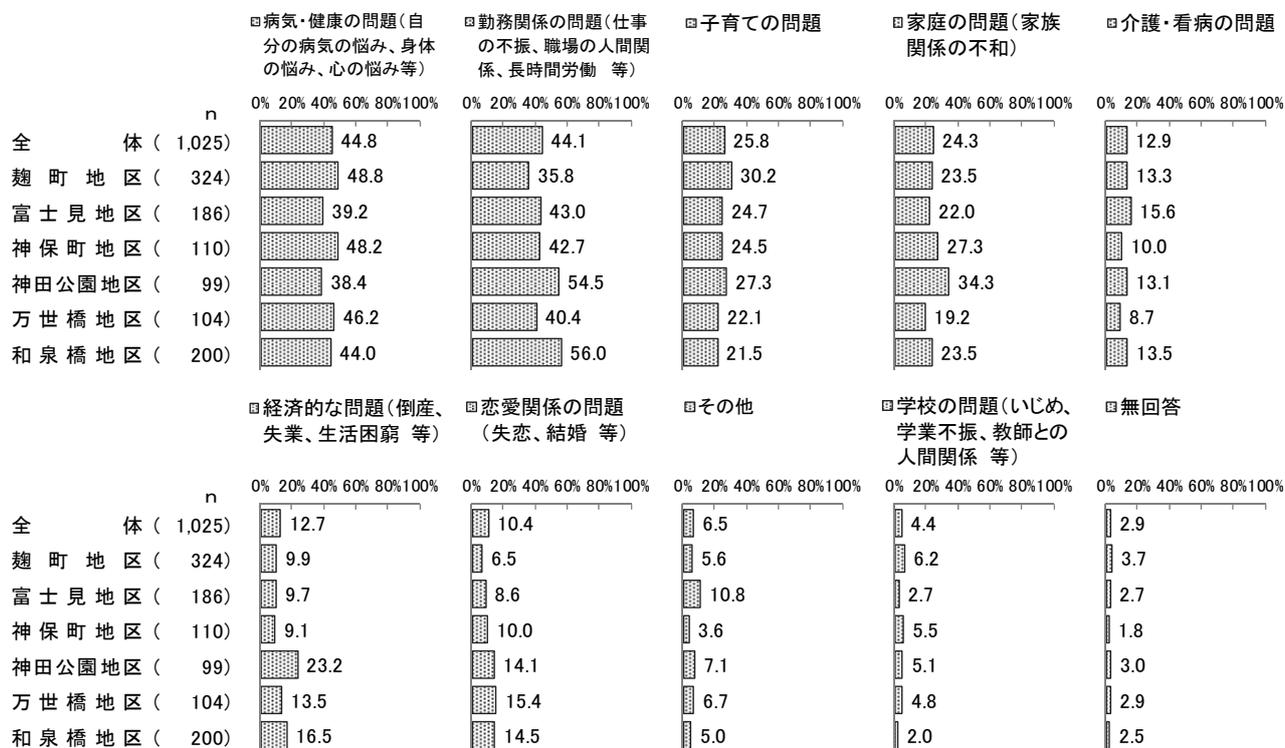
図 10-2-7 相談内容



相談内容について聞いたところ、「病気・健康の問題」(44.8%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「勤務関係の問題」(44.1%)、「子育ての問題」(25.8%)、「家庭の問題」(24.3%)となっている。(図 10-2-7)

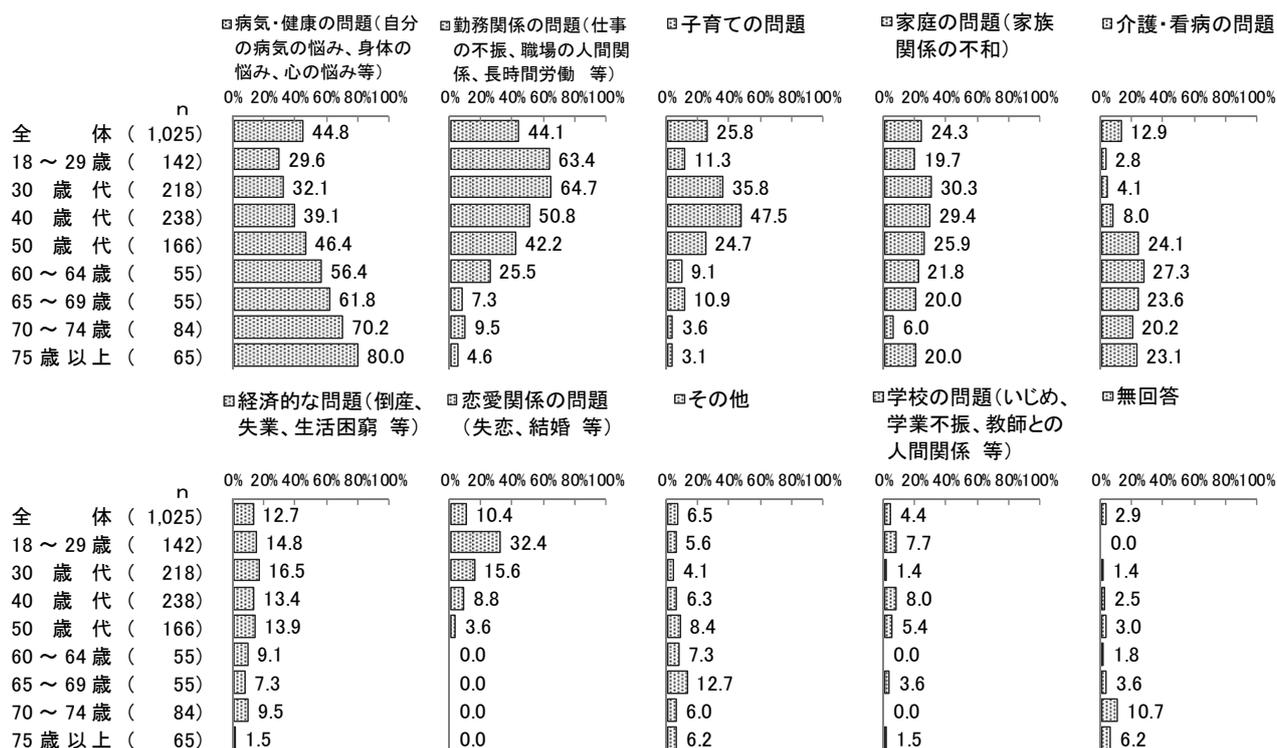
地区別にみると、「勤務関係の問題」は和泉橋地区（56.0%）で5割台半ばを超えて高くなっている。（図10-2-8）

図10-2-8 相談内容（地区別）



年代別にみると、「病気の健康の問題」は75歳以上（80.0%）で8割と最も高くなっている。また、「子育ての問題」は40歳代（47.5%）で4割台半ばを超えて高くなっている。（図10-2-9）

図10-2-9 相談内容（年代別）

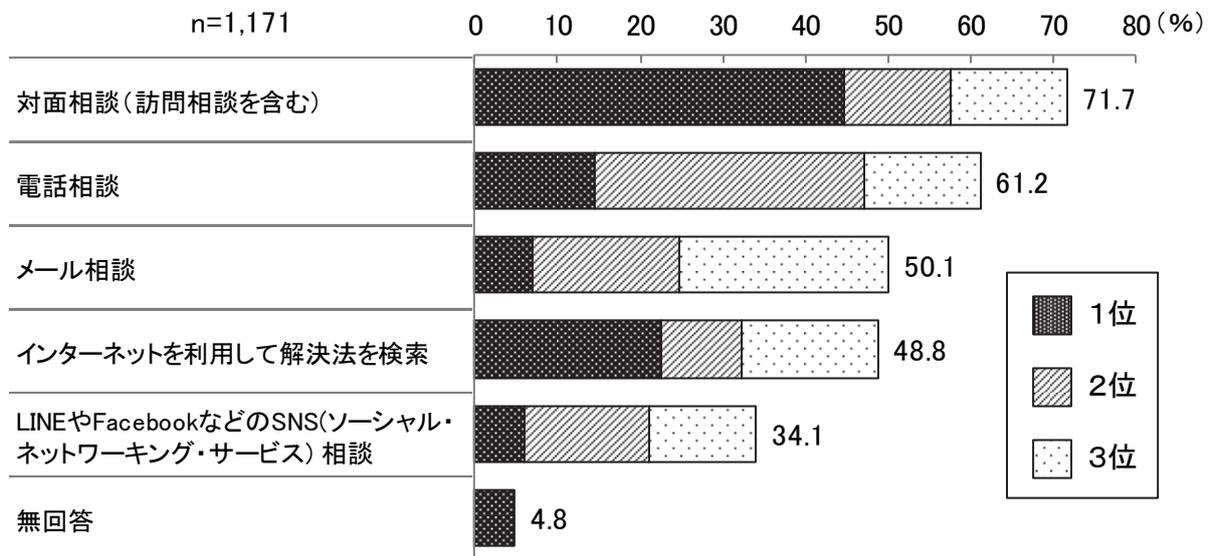


(3) 悩みを相談する手段

◇「対面相談」が7割強

問19 あなたは悩みやストレスを感じた時に、どのような方法で相談したいと思いますか。
(優先順位の高い順に3つ番号を記入してください。)

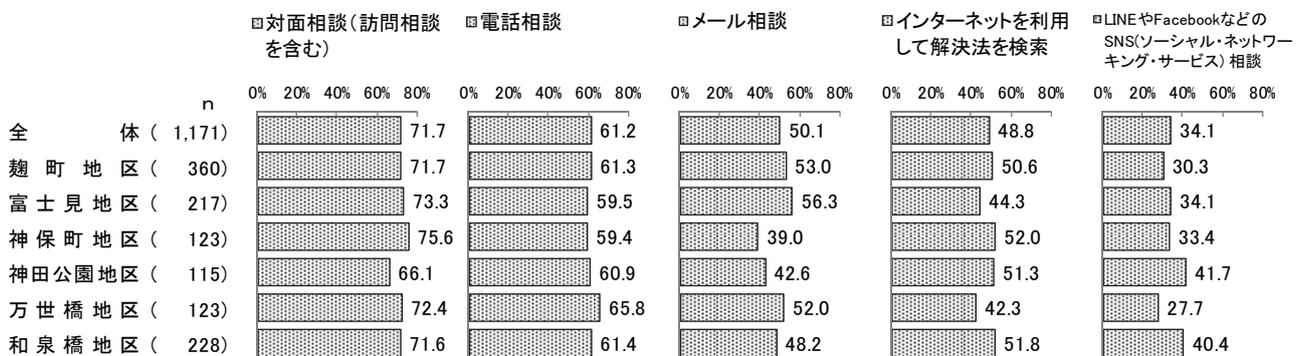
図 10-3-1 悩みを相談する手段



悩みを相談する手段について聞いたところ、「対面相談」(71.7%)が7割強で最も高く、次いで、「電話相談」(61.2%)が6割強と続いている。(図 10-3-1)

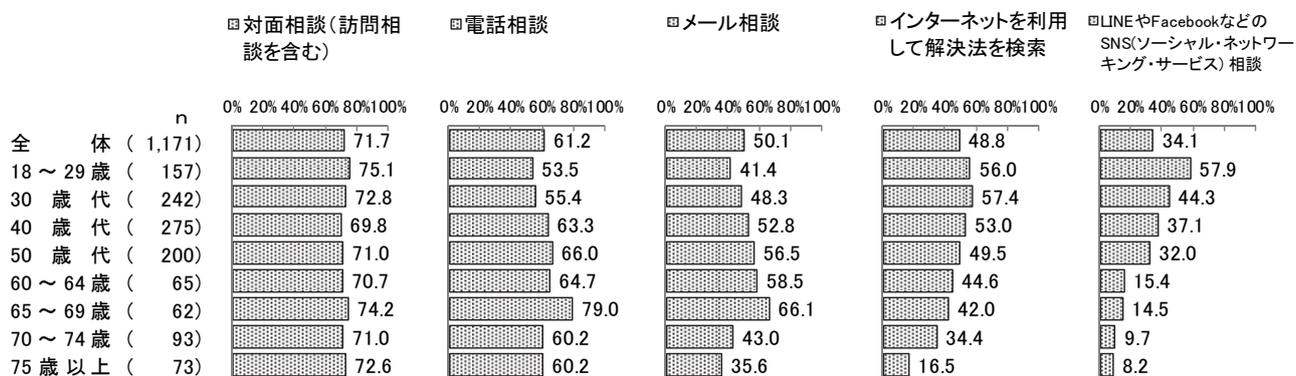
地区別にみると、「対面相談」は神保町地区(75.6%)で7割台半ばと高く、「電話相談」は万世橋地区(65.8%)で6割台半ばと高くなっている。(図 10-3-2)

図 10-3-2 悩みを相談する手段(地区別)



年代別にみると、「電話相談」は65～69歳（79.0%）で8割弱と高くなっている。また、「LINEやFacebookなどのSNS相談」は18～29歳（57.9%）で6割近くと高くなっている。（図10-3-3）

図10-3-3 悩みを相談する手段（年代別）

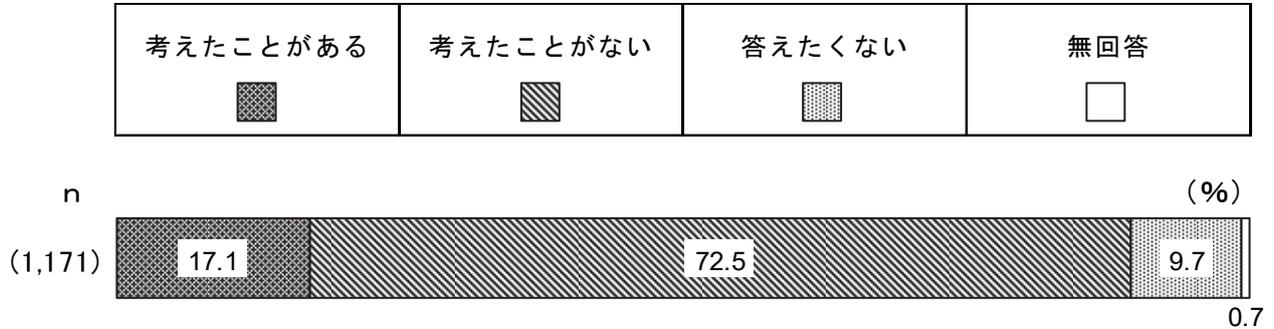


(4) 自殺を考えたことの有無

◇「考えたことがない」が7割強

問20 あなたはこれまでに、「自殺」をしたいと考えたことはありますか。(○は1つ)

図 10-4-1 自殺を考えたことの有無

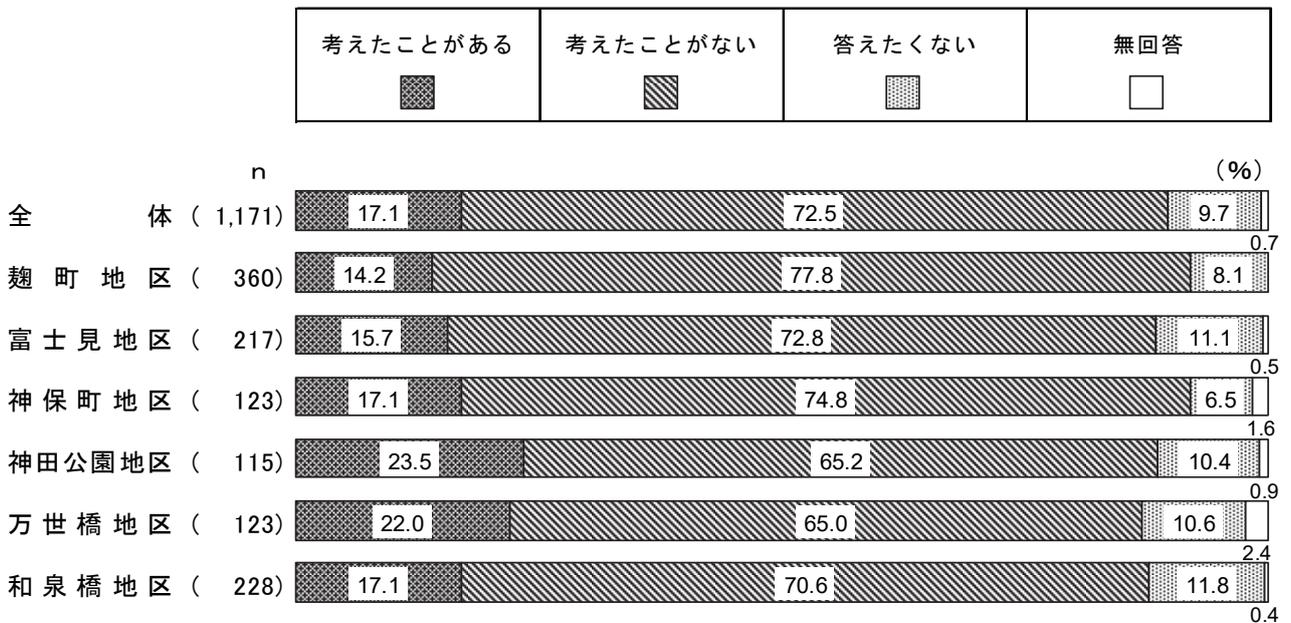


これまでに「自殺」をしたいと考えたことはあるか聞いたところ、「考えたことがない」(72.5%)が7割強で最も高く、次いで、「考えたことがある」(17.1%)が1割台半ばを超えて続いている。

(図 10-4-1)

地区別にみると、「考えたことがない」は麴町地区(77.8%)で7割台半ばを超えて高く、「考えたことがある」は神田公園地区(23.5%)で2割台半ば近くと高くなっている。(図 10-4-2)

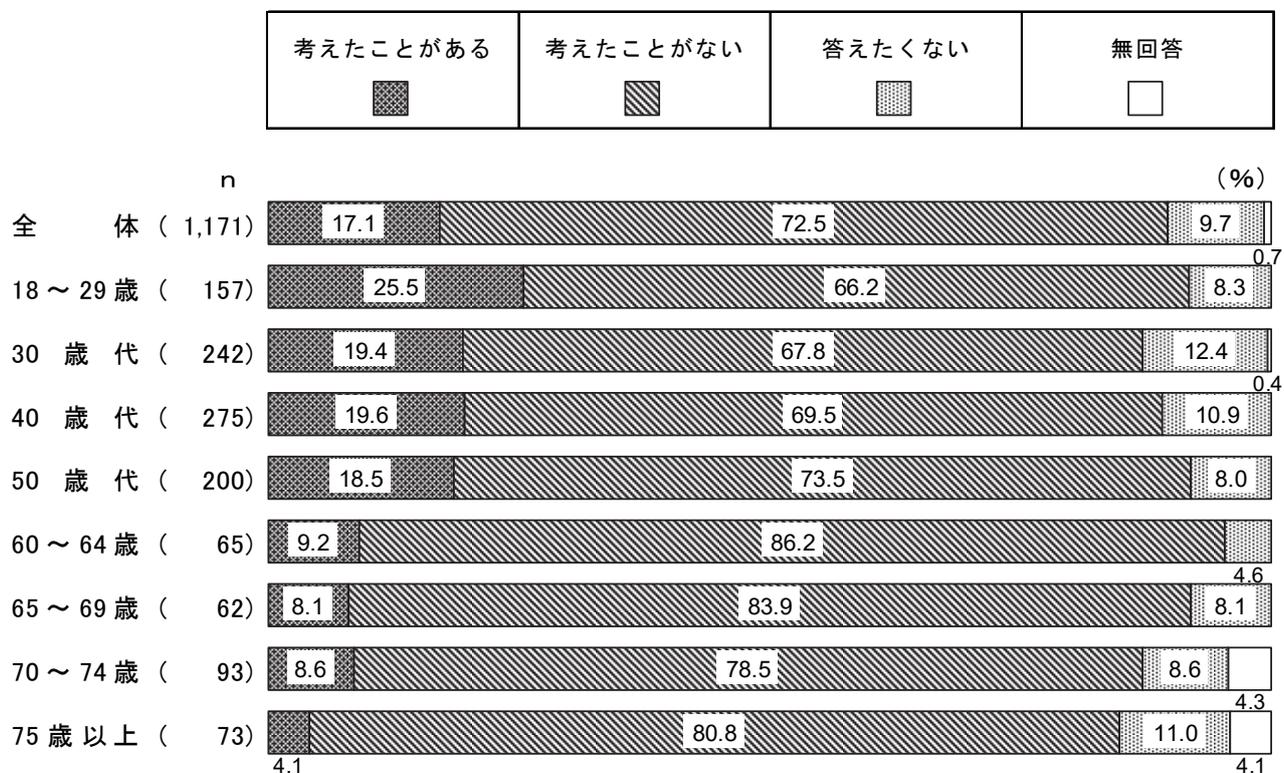
図 10-4-2 自殺を考えたことの有無(地区別)



年代別にみると、「考えたことがない」は60～64歳（86.2%）で8割台半ばを超えて高くなっている。また、「考えたことがある」は18～29歳（25.5%）で2割台半ばと高くなっている。

（図 10-4-3）

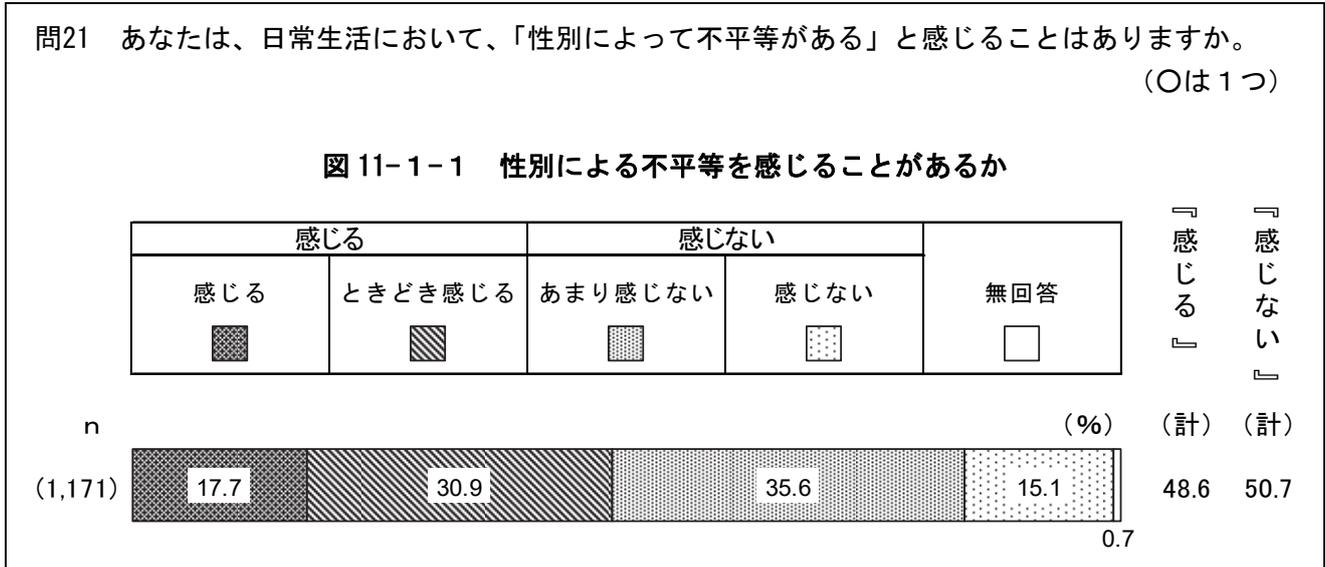
図 10-4-3 自殺を考えたことの有無（年代別）



11. 男女平等、人権、国際交流

(1) 性別による不平等を感じることもあるか

◇「あまり感じない」が3割台半ば

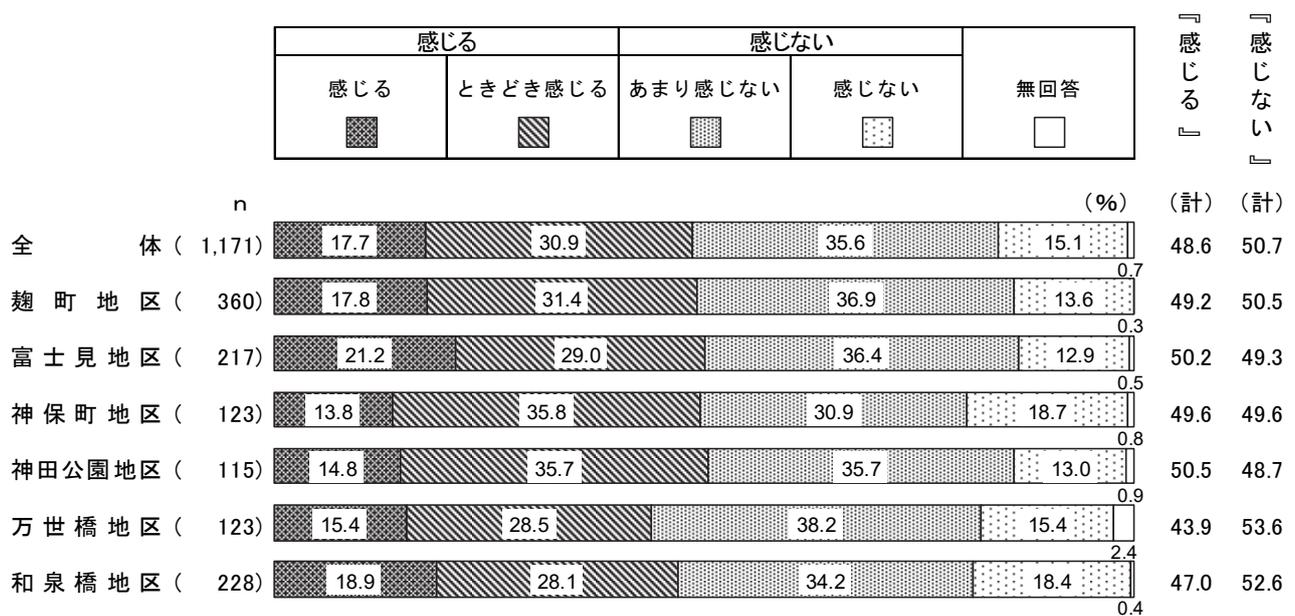


日常生活において、「性別によって不平等がある」と感じることはあるか聞いたところ、「あまり感じない」(35.6%)が3割台半ばで最も高く、これに「感じない」(15.1%)を合わせた『感じない』(50.7%)は約5割となっている。一方、「感じる」(17.7%)と「ときどき感じる」(30.9%)を合わせた『感じる』(48.6%)は5割近くとなっている。(図 11-1-1)

地区別にみると、『感じない』は万世橋地区(53.6%)で5割台半ば近くと高くなっている。

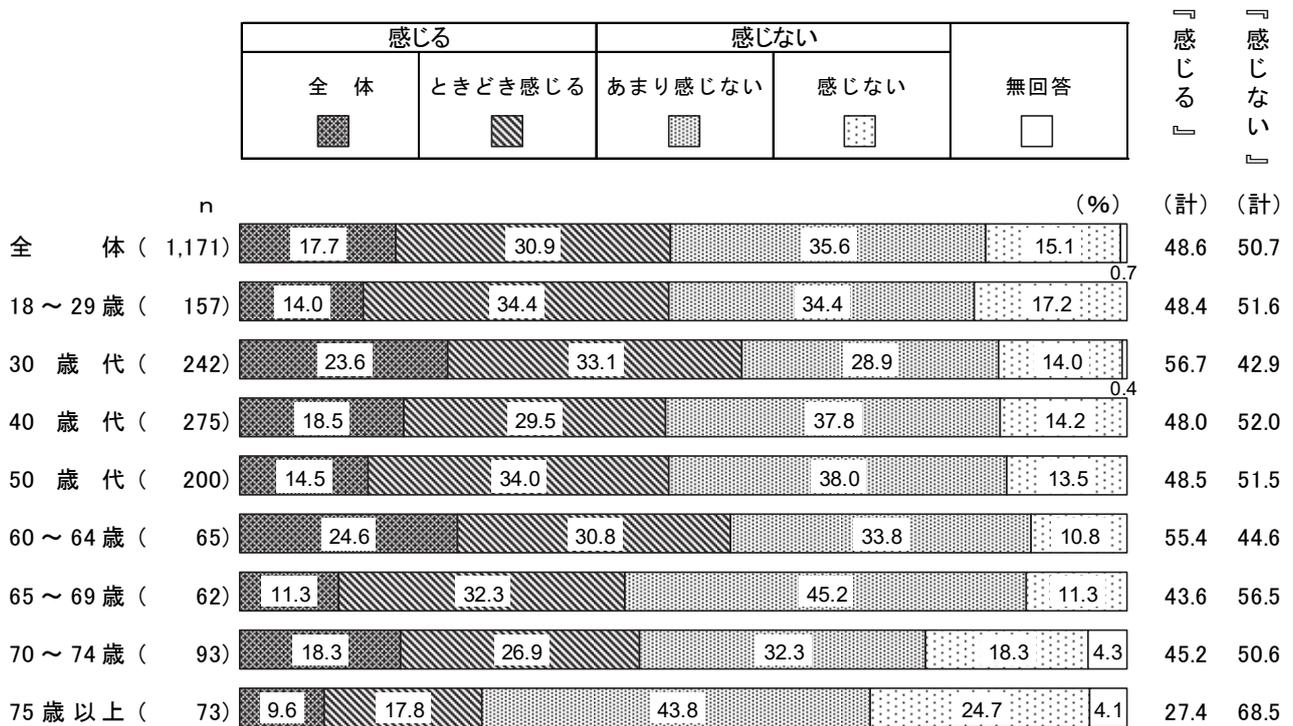
(図 11-1-2)

図 11-1-2 性別による不平等を感じることもあるか(地区別)



年代別にみると、『感じない』は75歳以上（68.5%）で7割近くと高くなっている。（図11-1-3）

図11-1-3 性別による不平等を感じることもあるか（年代別）

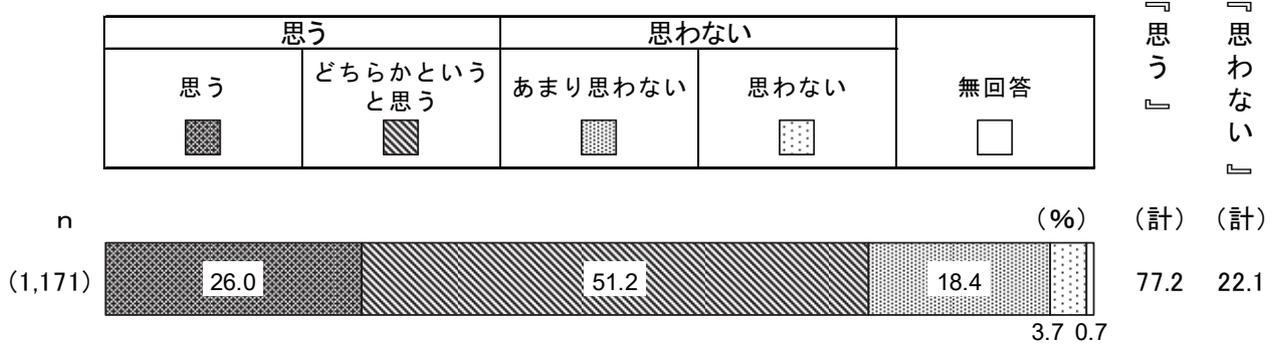


(2) 人権が尊重されている社会だと思うか

◇『思う』が7割台半ばを超える

問22 あなたのまわりでは、人権が尊重されている社会であると思いますか。(○は1つ)

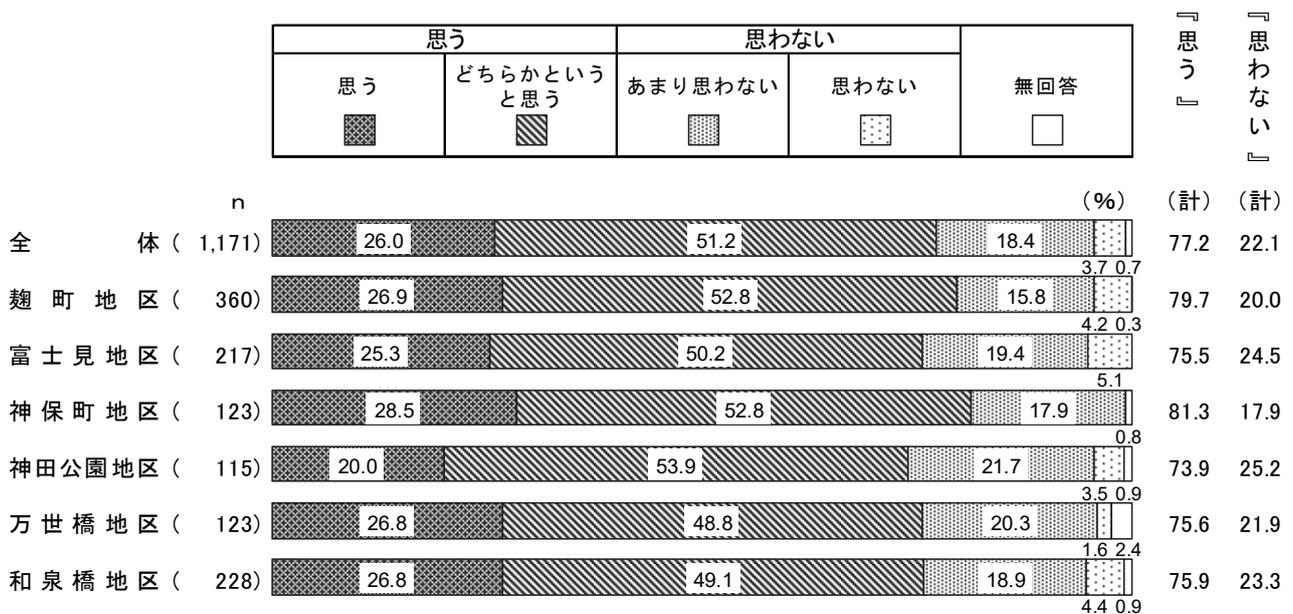
図 11-2-1 人権が尊重されている社会だと思うか



人権が尊重されている社会であると思うか聞いたところ、「どちらかというと思う」(51.2%)が5割強と最も高く、これに「思う」(26.0%)を合わせた『思う』(77.2%)は7割台半ばを超えている。一方、「あまり思わない」(18.4%)と「思わない」(3.7%)を合わせた『思わない』(22.1%)は2割強となっている。(図 11-2-1)

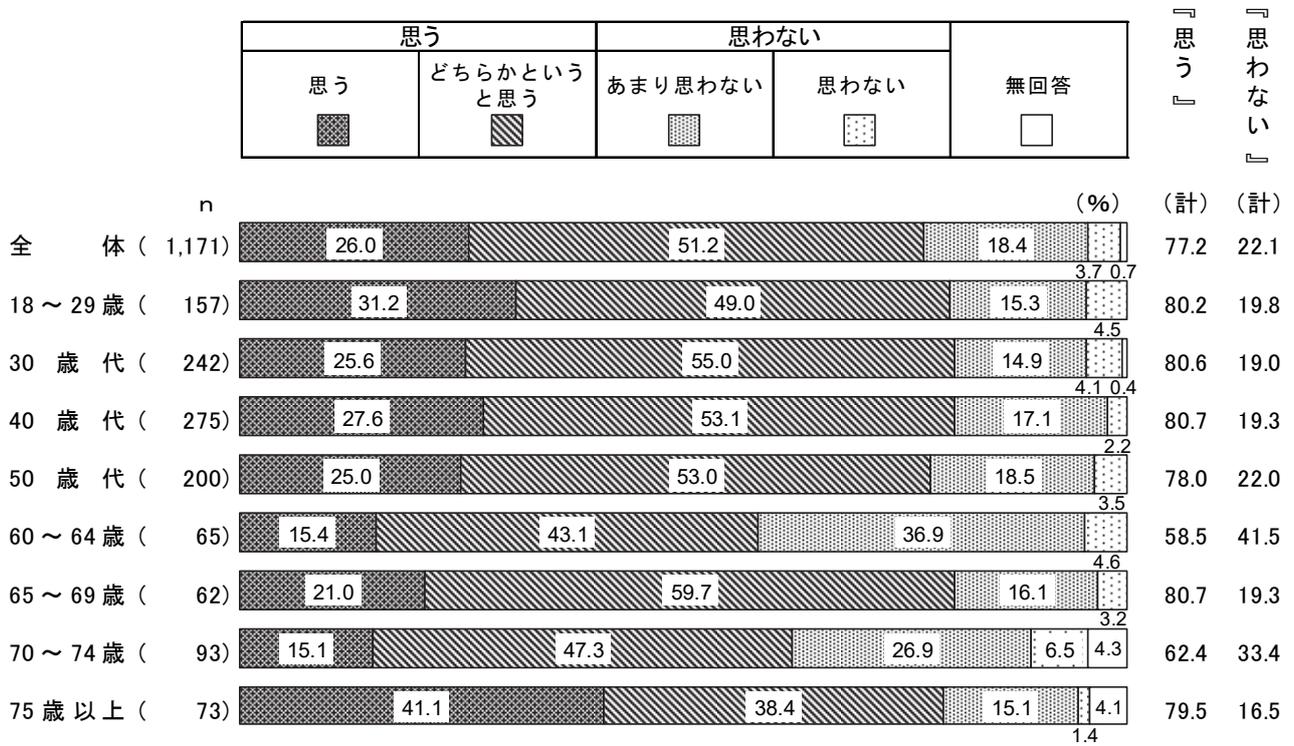
地区別にみると、『思う』は神保町地区(81.3%)で8割強と高くなっている。(図 11-2-2)

図 11-2-2 人権が尊重されている社会だと思うか(地区別)



年代別にみると、『思う』は40歳代と65～69歳（ともに80.7%）・30歳代（80.6%）で約8割と高くなっている。（図11-2-3）

図11-2-3 人権が尊重されている社会だと思うか（年代別）

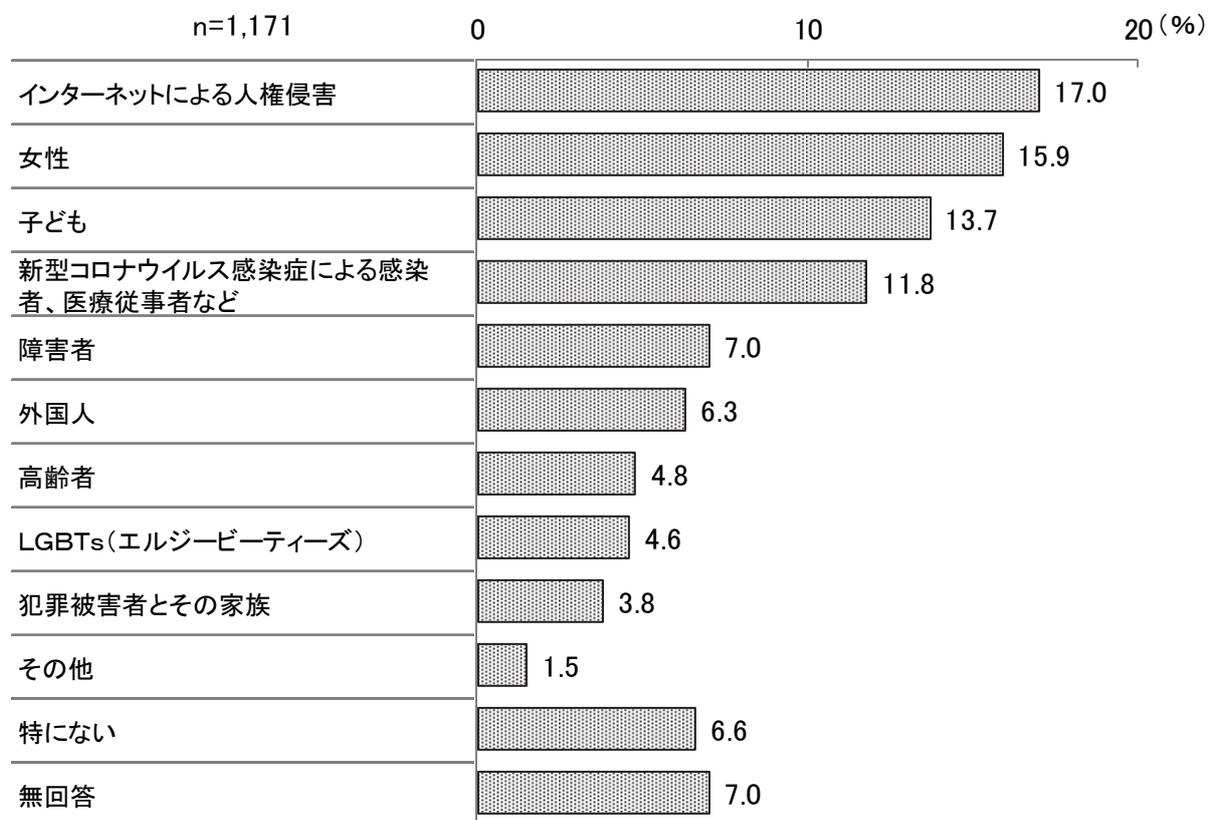


(3) 最も関心のある人権問題

◇「インターネットによる人権侵害」が1割半ばを超える

問23 人権問題で最も関心のあるものは次のうちのどれですか。(〇は1つ)

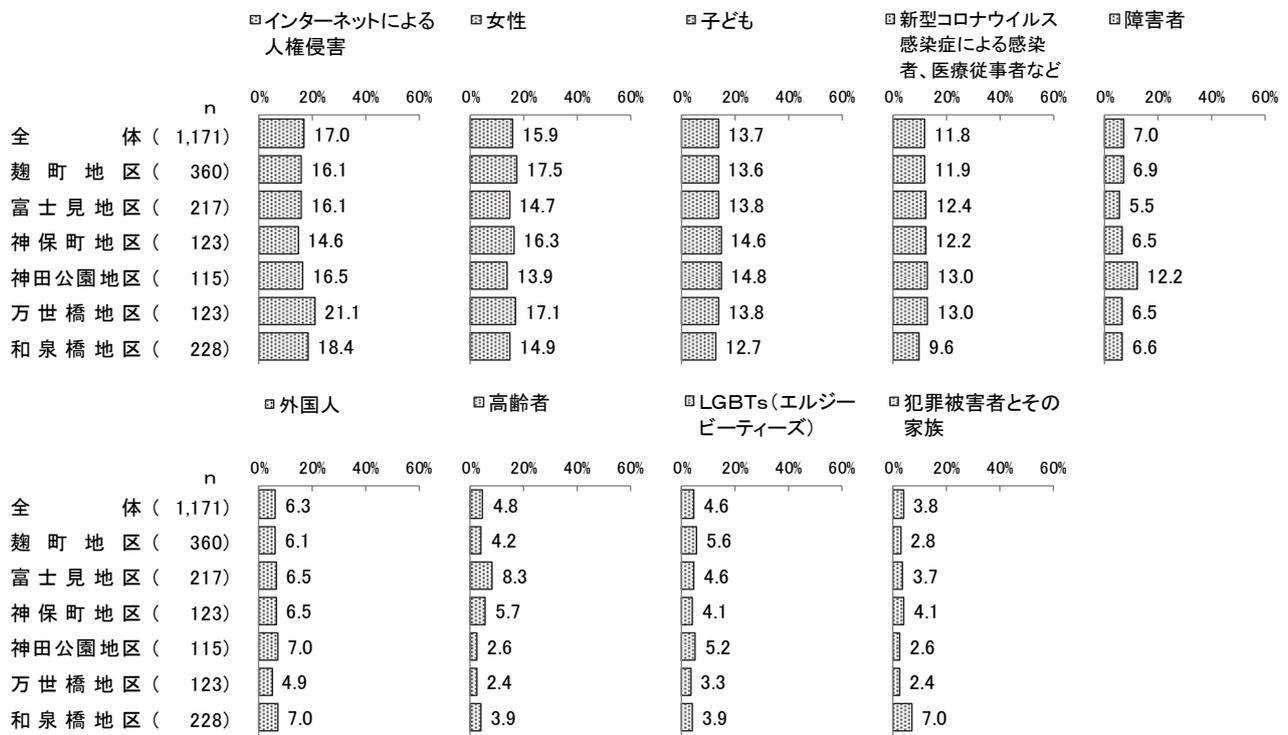
図 11-3-1 最も関心のある人権問題



人権問題で最も関心のあるものを聞いたところ、「インターネットによる人権侵害」(17.0%)が1割半ばを超えて最も高く、次いで「女性」(15.9%)が1割半ばとなっている。(図 11-3-1)

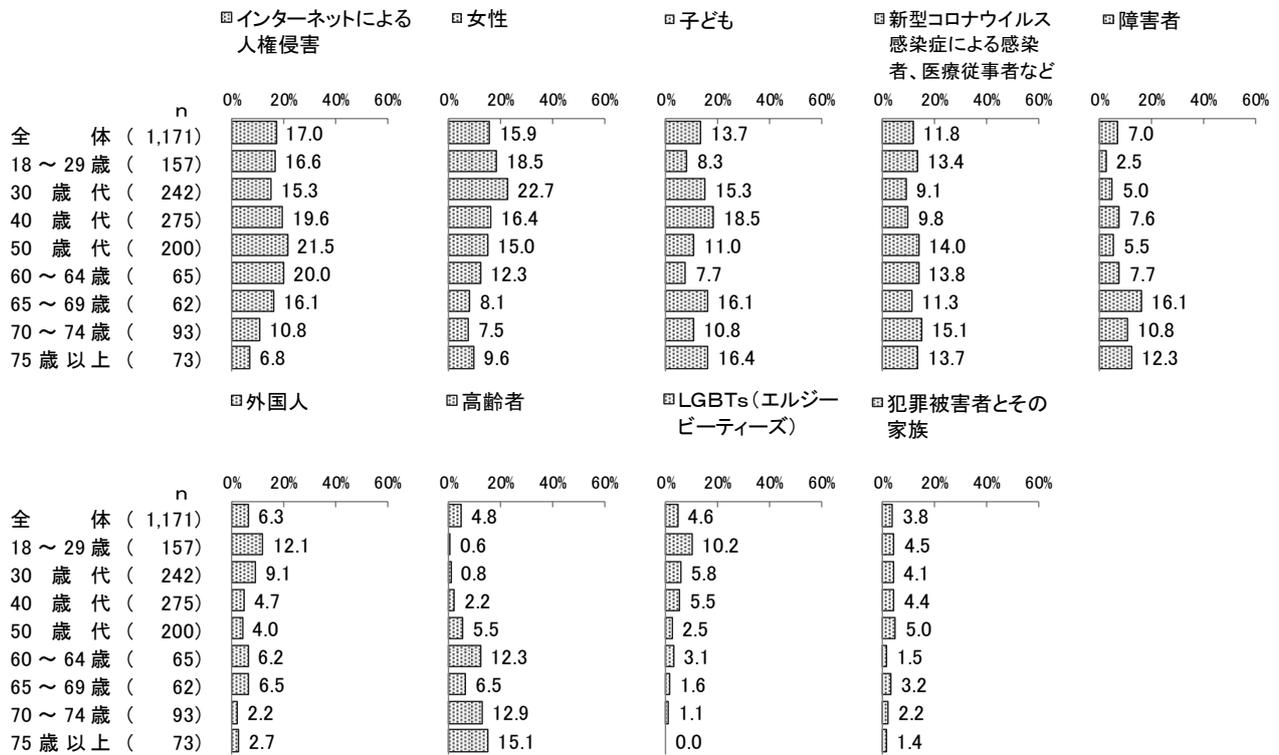
地区別にみると、「インターネットによる人権侵害」は万世橋地区（21.1%）で2割強と高く、「障害者」は神田公園地区（12.2%）で1割強と高くなっている。（図 11-3-2）

図 11-3-2 最も関心のある人権問題（地区別）



年代別にみると、「女性」は30歳代（22.7%）で2割強と高く、「子ども」は40歳代（18.5%）で2割近くと高くなっている。（図11-3-3）

図11-3-3 最も関心のある人権問題（年代別）

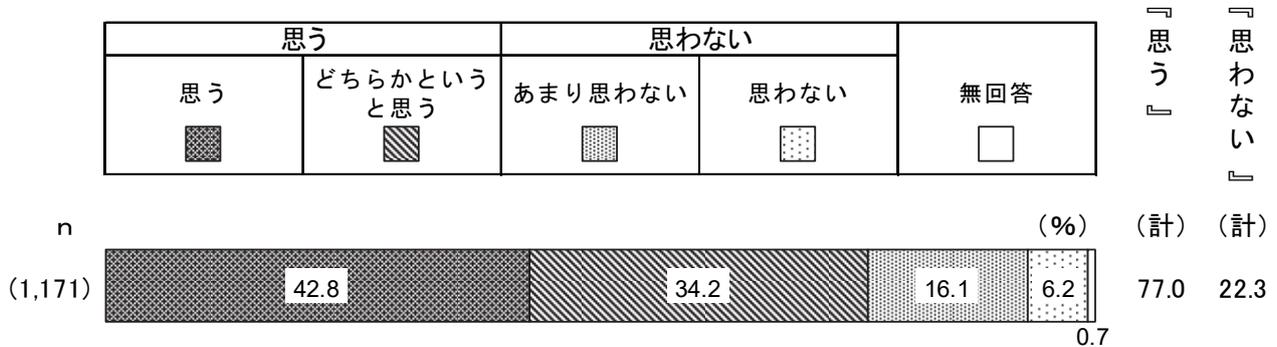


(4) LGBTsについて正しく理解したいと思うか

◇『思う』は7割台半ばを超える

問24 誰もが自分らしく生きるために、あなたはLGBTsについて正しく理解したいと思いませんか。(〇は1つ)

図 11-4-1 LGBTsについて正しく理解したいと思うか

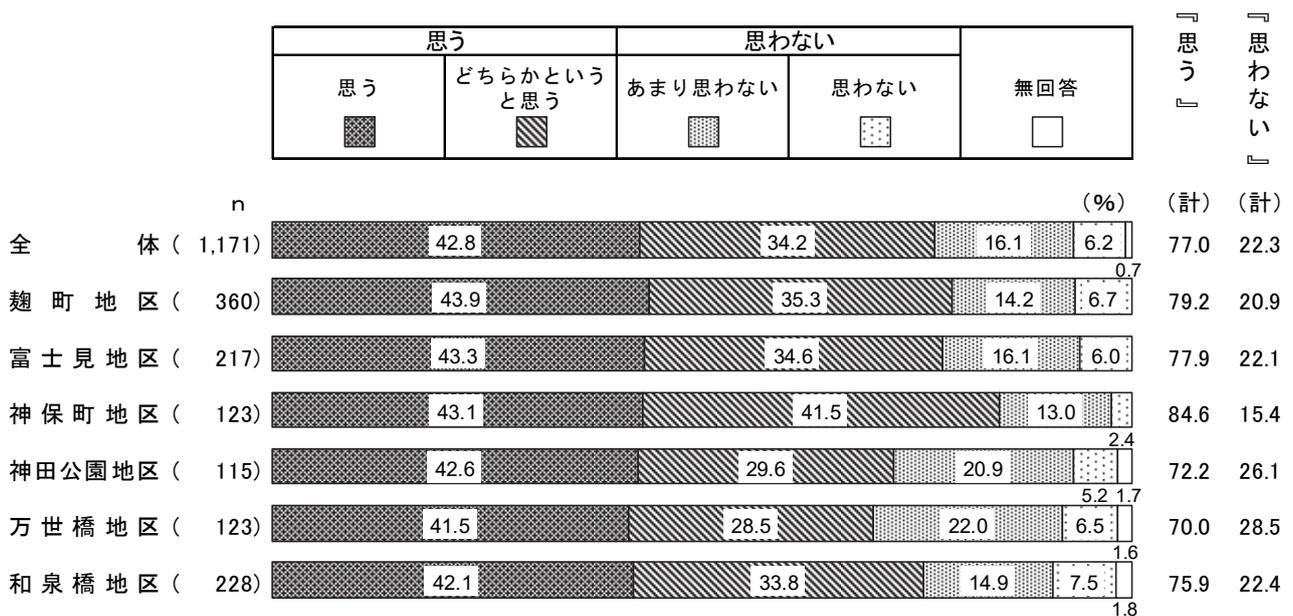


LGBTsについて正しく理解したいと思うか聞いたところ、「思う」(42.8%)が4割強と最も高く、これに「どちらかというと思う」(34.2%)を合わせた『思う』(77.0%)は7割台半ばを超えている。一方、「あまり思わない」(16.1%)と「思わない」(6.2%)を合わせた『思わない』(22.3%)は2割強となっている。(図 11-4-1)

地区別にみると、『思う』は神保町地区(84.6%)で8割台半ば近くと高くなっている。

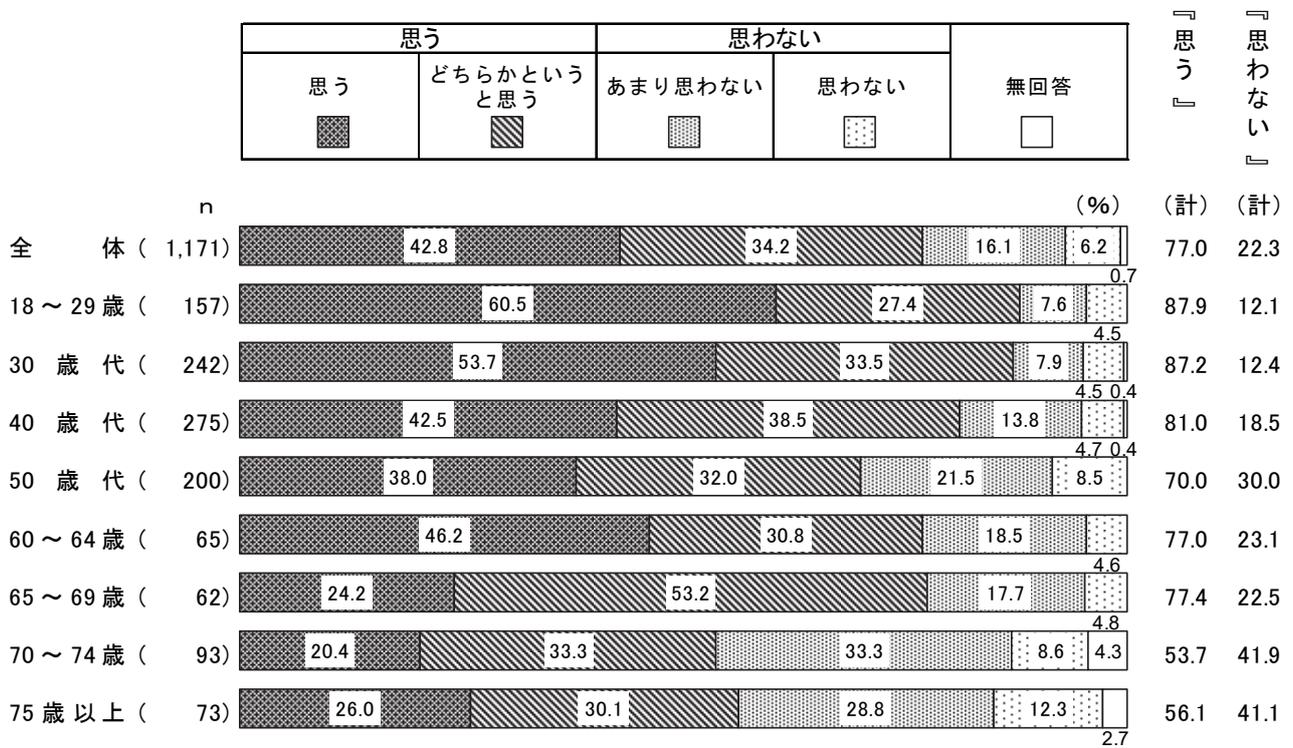
(図 11-4-2)

図 11-4-2 LGBTsについて正しく理解したいと思うか(地区別)



年代別にみると、『思う』は18～29歳（87.9%）・30歳代（87.2%）で8割台半ばを超えて高くなっている。（図11-4-3）

図11-4-3 LGBTsについて正しく理解したいと思うか（年代別）

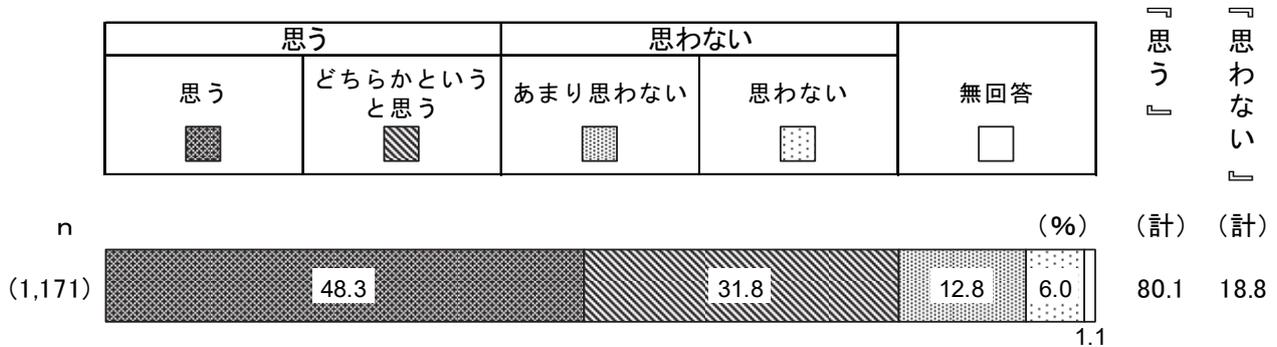


(5) 同性のパートナーの権利について

◇『思う』は約8割

問25 同性のパートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思いますか。(〇は1つ)

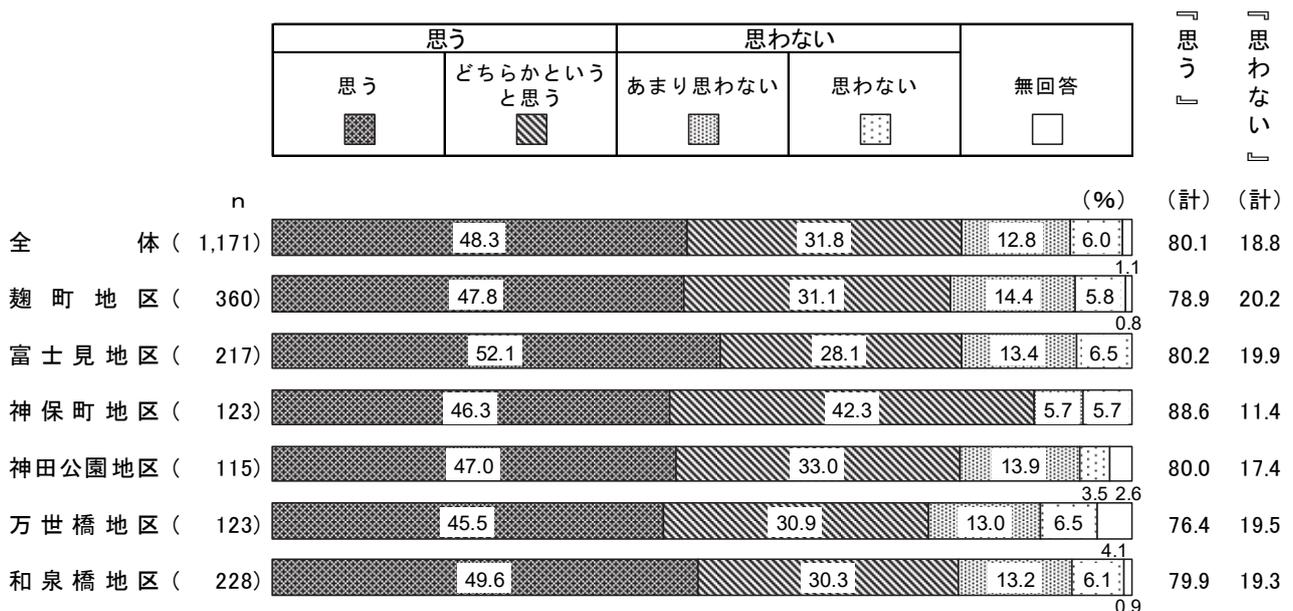
図 11-5-1 同性のパートナーの権利について



同性のパートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思うか聞いたところ、「思う」(48.3%)が5割近くと最も高く、これに「どちらかというと思う」(31.8%)を合わせた『思う』(80.1%)は約8割となっている。一方、「あまり思わない」(12.8%)と「思わない」(6.0%)を合わせた『思わない』(18.8%)は2割近くとなっている。(図 11-5-1)

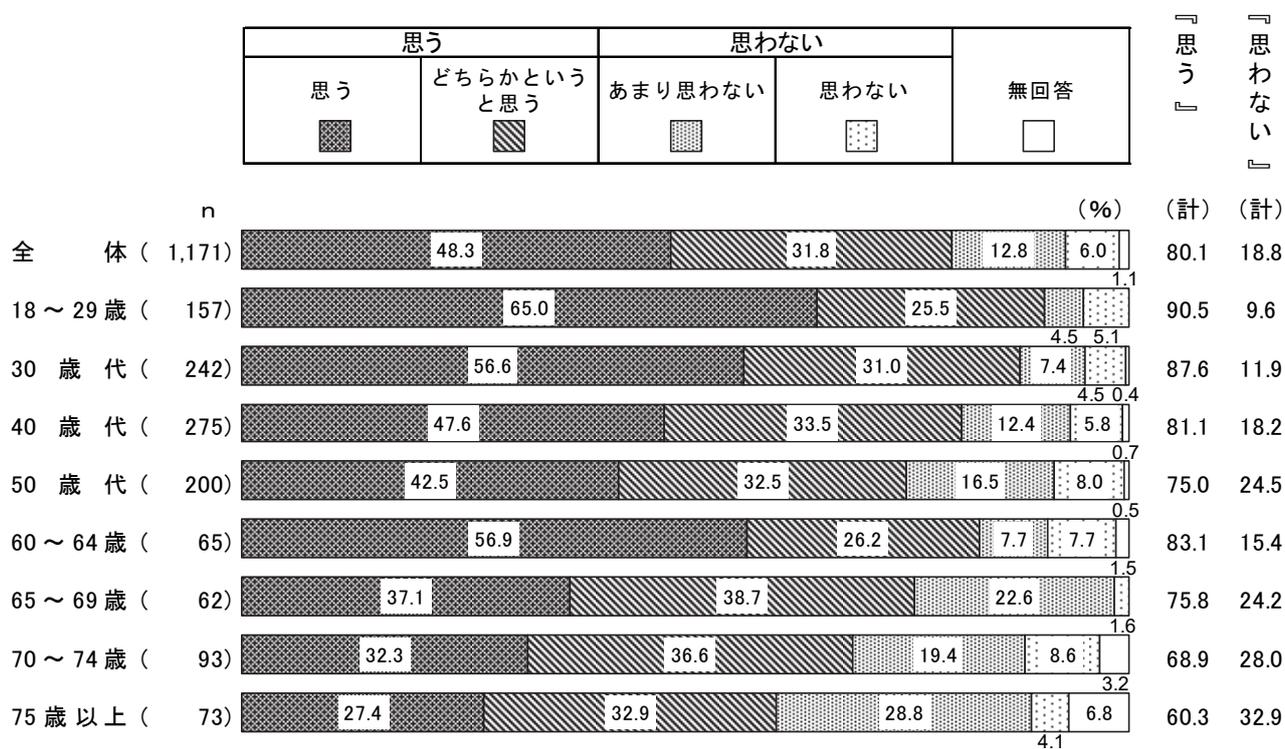
地区別にみると、『思う』は神保町地区(88.6%)で9割近くと高くなっている。(図 11-5-2)

図 11-5-2 同性のパートナーの権利について(地区別)



年代別にみると、『思う』は18～29歳（90.5%）で約9割と高くなっている。（図11-5-3）

図11-5-3 同性のパートナーの権利について（年代別）

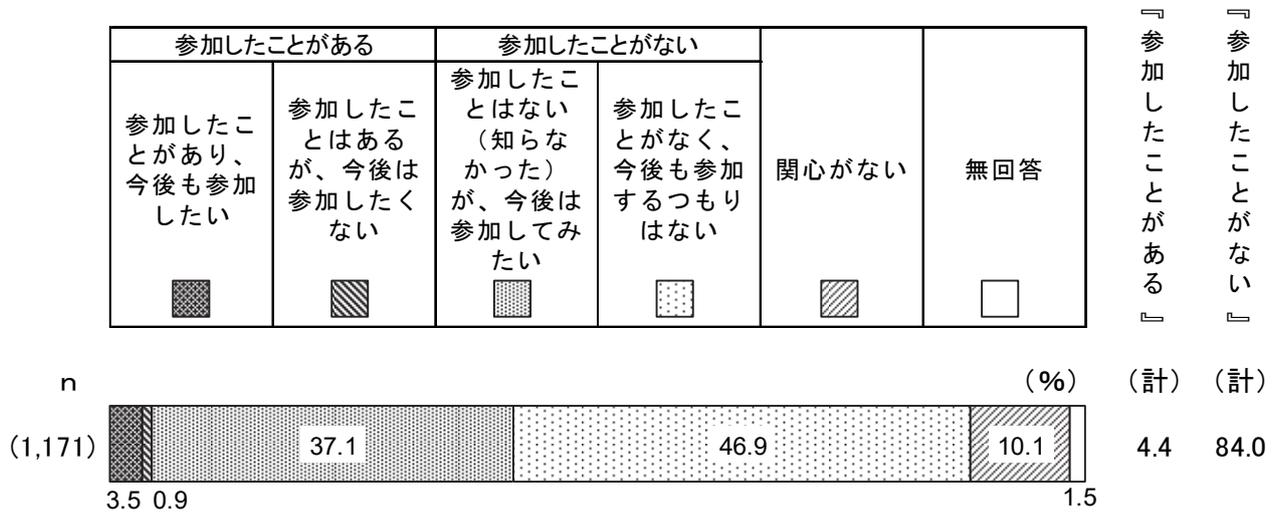


(6) 平和事業への参加の有無

◇『参加したことがない』は8割台半ば近く

問26 あなたは、これらの事業に参加したことがありますか。(○は1つ)

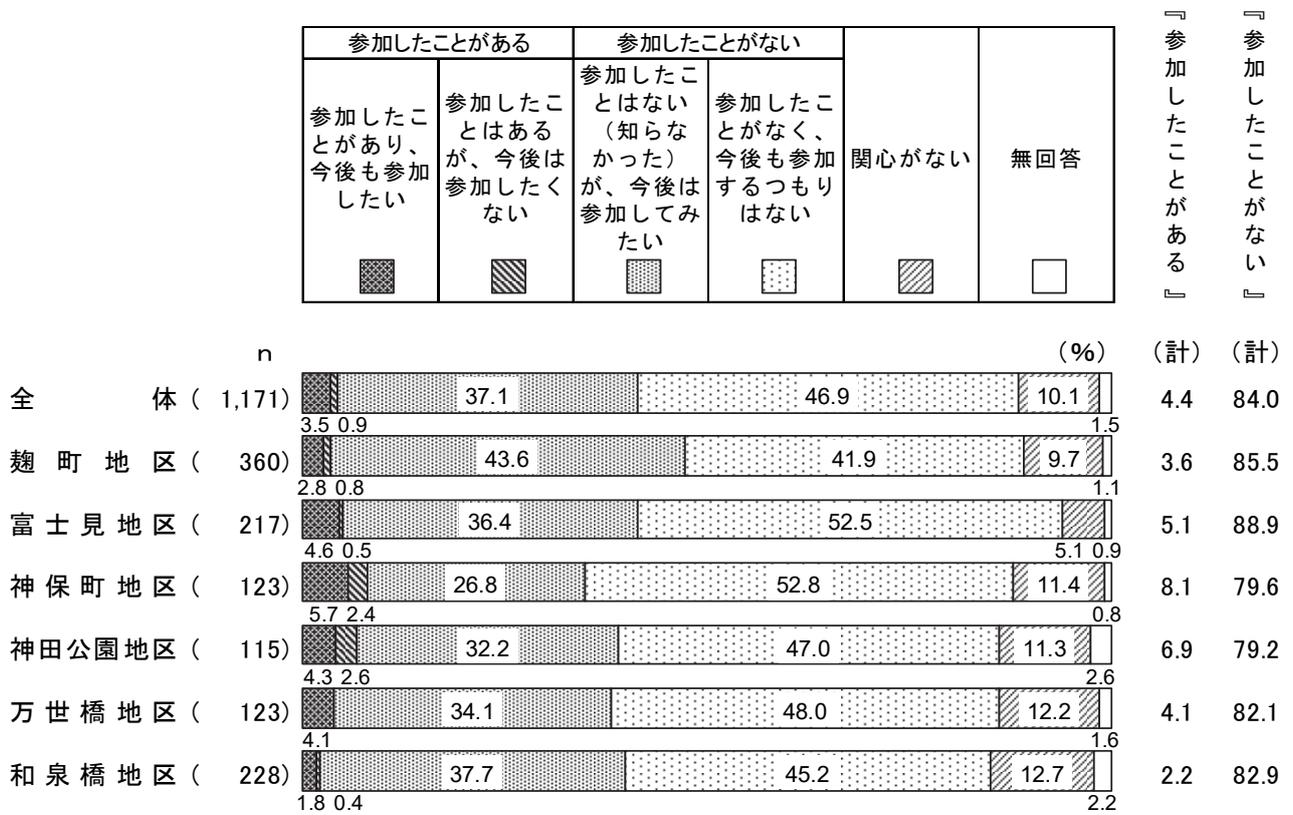
図 11-6-1 平和事業への参加の有無



平和事業への参加の有無について聞いたところ、「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」(46.9%)が4割台半ばを超えて最も高く、これに「参加したことはない(知らなかった)が、今後は参加してみたい」(37.1%)を合わせた『参加したことがない』(84.0%)は8割台半ば近くとなっている。一方、「参加したことがあります、今後も参加したい」(3.5%)と「参加したことはあるが、今後は参加したくない」(0.9%)を合わせた『参加したことがある』(4.4%)は1割未満となっている。(図 11-6-1)

地区別にみると、『参加したことがない』は富士見地区（88.9%）で9割近くと高くなっている。
 (図 11-6-2)

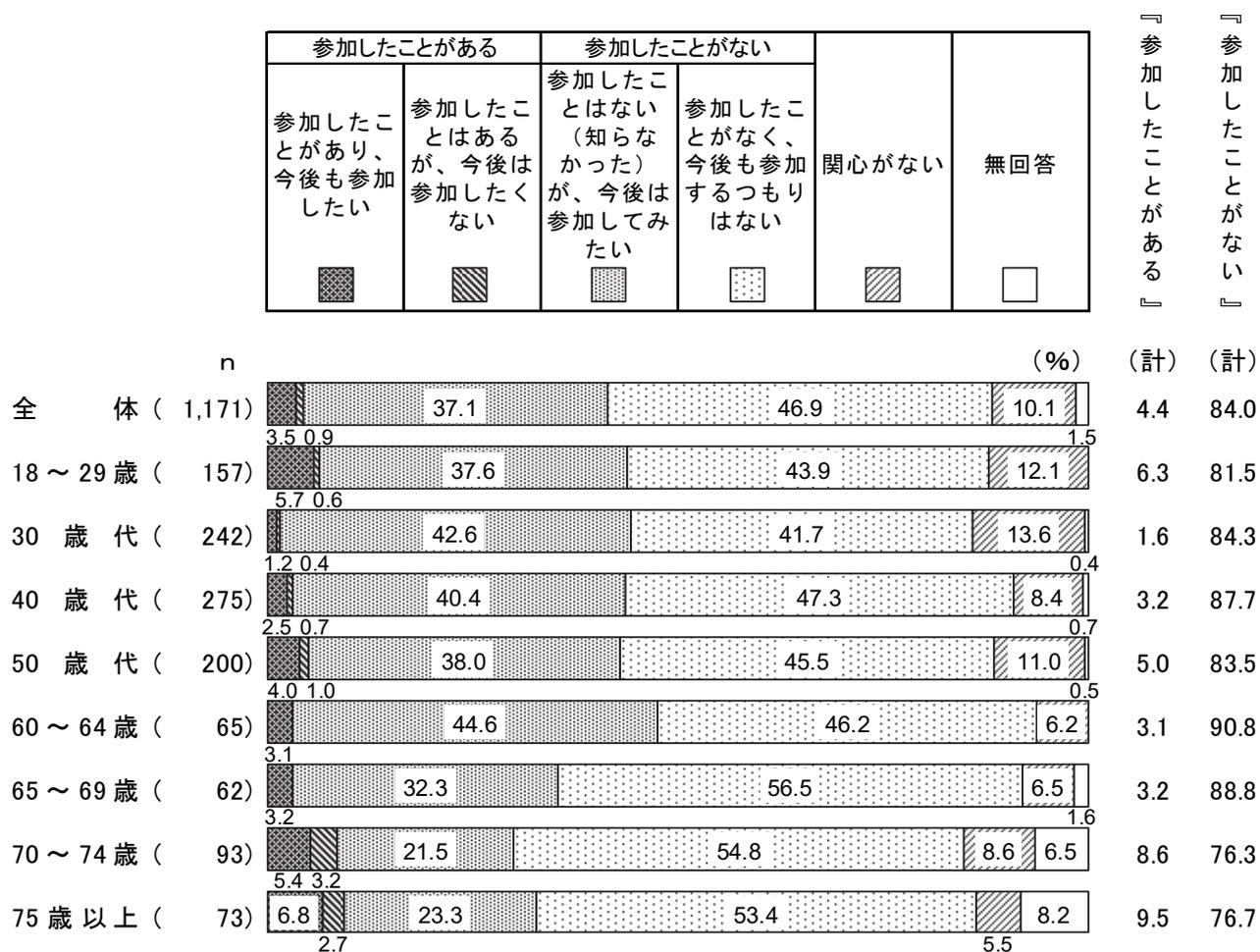
図 11-6-2 平和事業への参加の有無（地区別）



年代別にみると、『参加したことがない』は60～64歳（90.8%）で約9割と高くなっている。

（図 11-6-3）

図 11-6-3 平和事業への参加の有無（年代別）



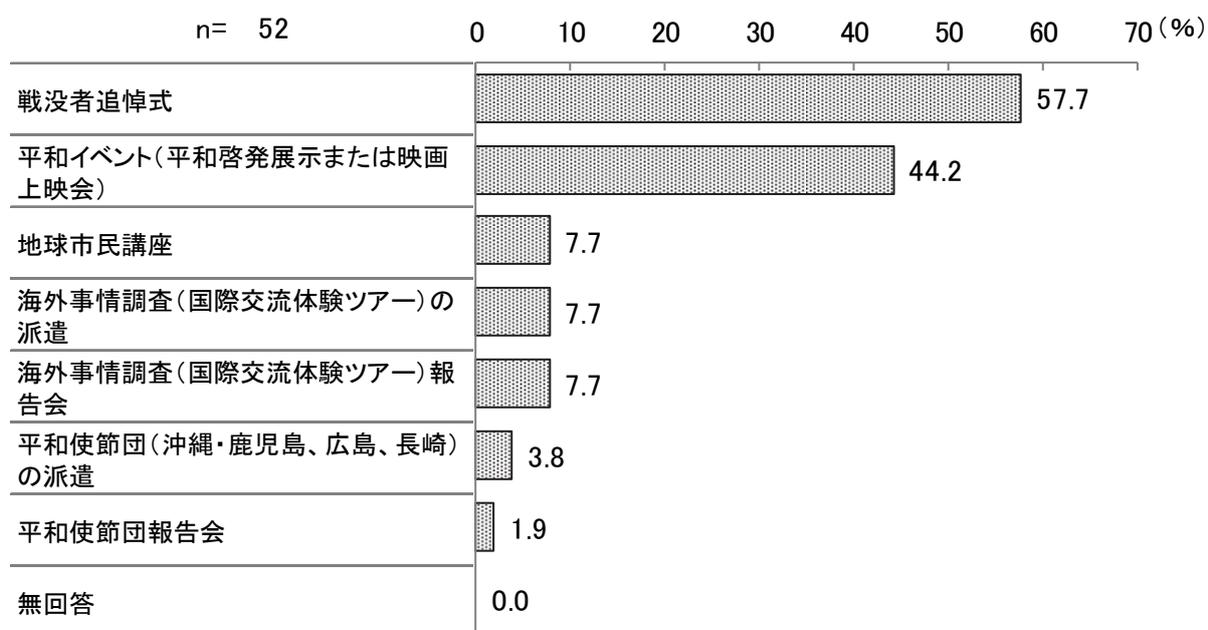
(6-1) 参加したことがある平和事業

◇「戦没者追悼式」が5割台半ばを超える

(問26で「1. 参加したことがあり、今後も参加したい」「2. 参加したことはあるが、今後は参加したくない」とお答えの方に)

問26-1 どの事業に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

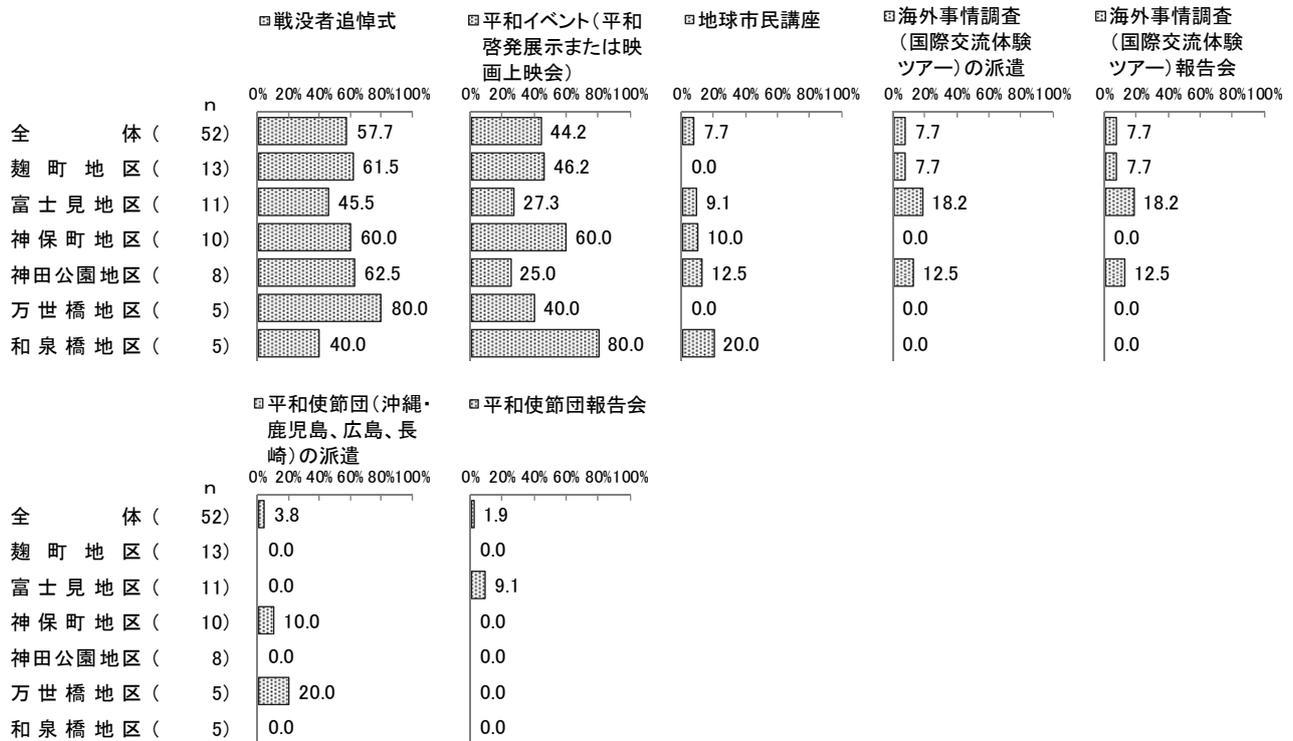
図 11-6-4 参加したことがある平和事業



参加したことがある事業を聞いたところ、「戦没者追悼式」(57.7%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「平和イベント(平和啓発展示または映画上映会)」(44.2%)が4割台半ば近くとなっている。(図 11-6-4)

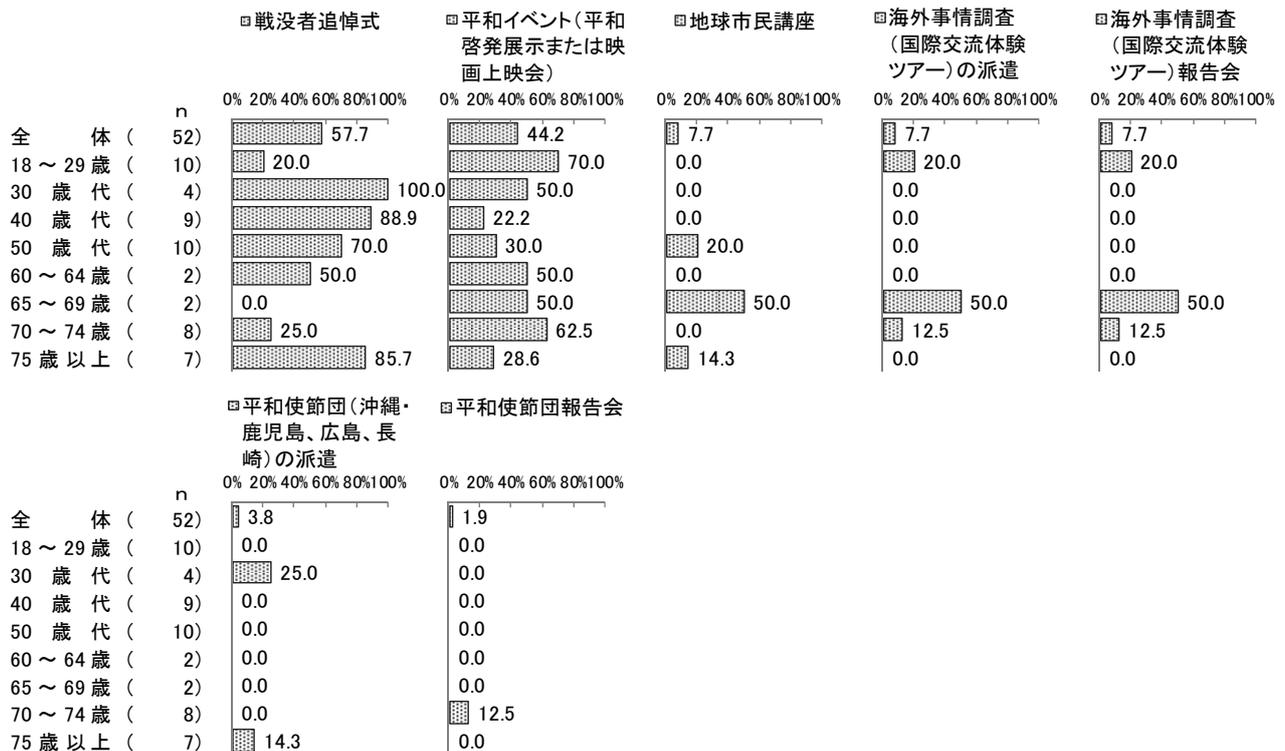
地区別では、以下の図のとおりである。(図 11-6-5)

図 11-6-5 参加したことがある平和事業 (地区別)



年代別では、以下の図のとおりである。(図 11-6-6)

図 11-6-6 参加したことがある平和事業 (年代別)

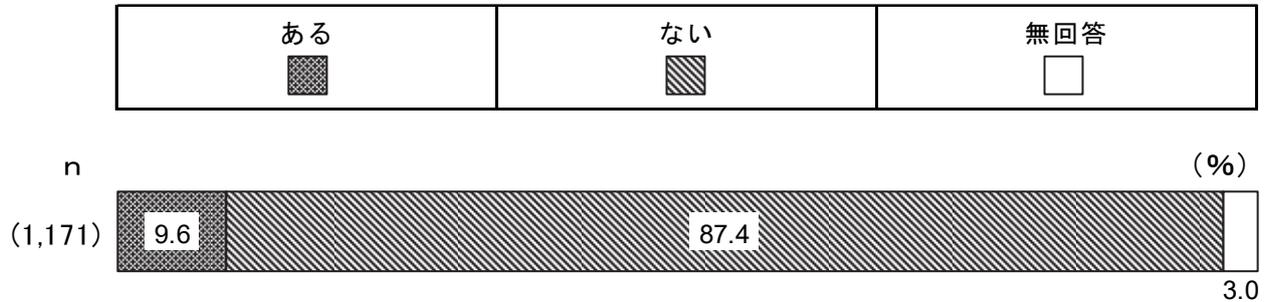


(7) 国際交流や平和関連の事業への参加の有無

◇国際交流や平和関連事業に参加したことが「ない」が8割台半ばを超える

問27 今まで国際交流や平和関連の事業に参加したことがありますか。(区の主催事業以外)
(〇は1つ)

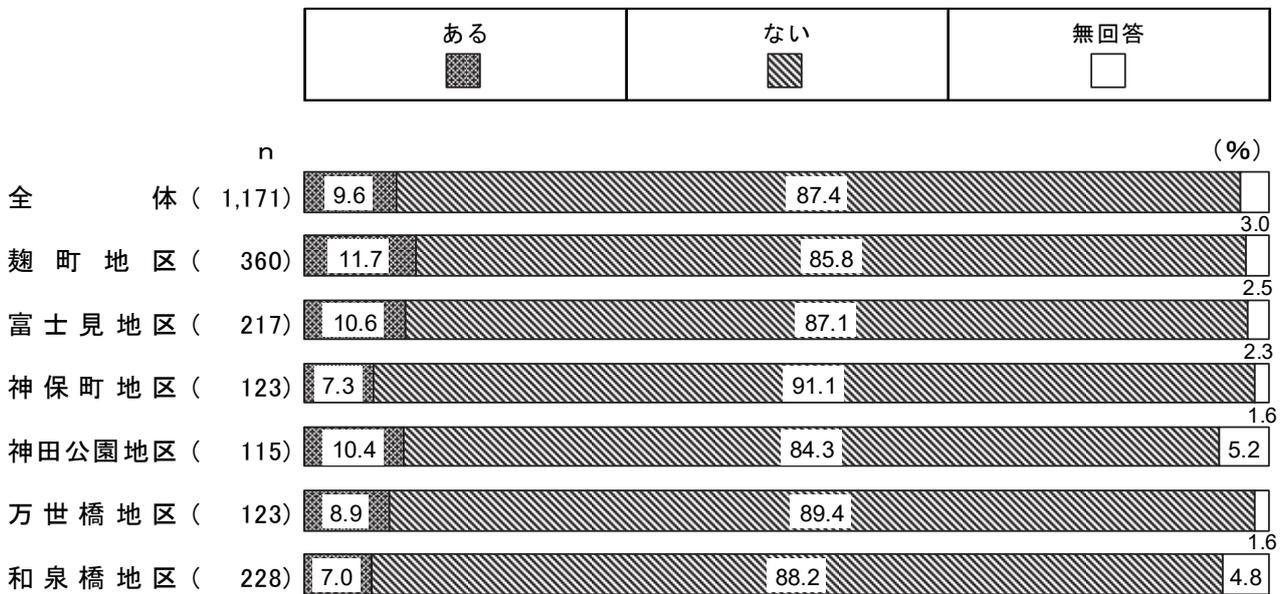
図 11-7-1 国際交流や平和関連の事業への参加の有無



国際交流や平和関連の事業への参加の有無を聞いたところ、「ない」(87.4%)が8割台半ばを超えて高くなっており、「ある」(9.6%)は1割未満となっている。(図 11-7-1)

地区別にみると、「ある」は麴町地区(11.7%)・富士見地区(10.6%)・神田公園地区(10.4%)で1割以上となっている。(図 11-7-2)

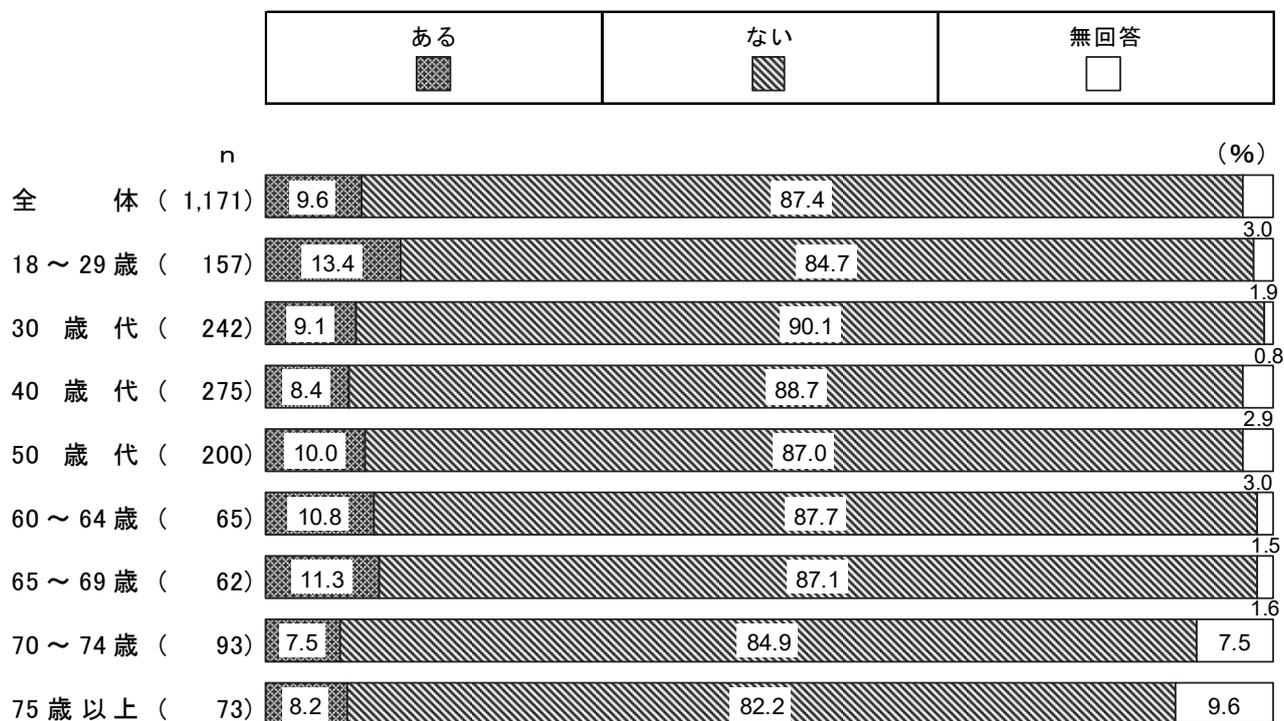
図 11-7-2 国際交流や平和関連の事業への参加の有無(地区別)



年代別にみると、「ある」は18～29歳（13.4%）で1割台半ば近くと高くなっている。

（図 11-7-3）

図 11-7-3 国際交流や平和関連の事業への参加の有無（年代別）

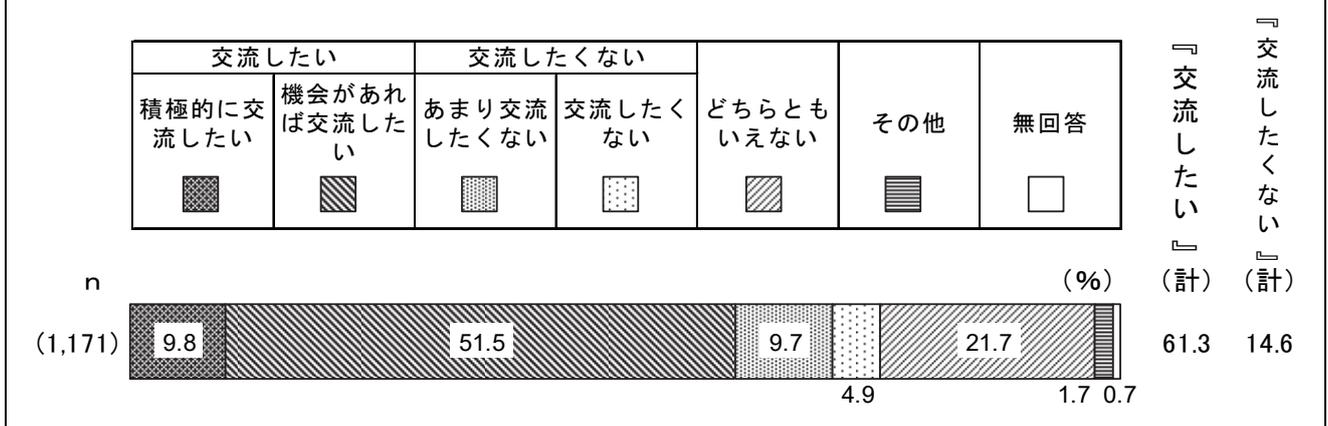


(8) 区在住の外国人との交流意向

◇区にお住まいの外国人との交流意向で『交流したい』が6割強

問28 区では、住民基本台帳人口が増加しているのと同様に、外国人住民も増加傾向にあり、住民の約20人に1人程度は外国人となっています。あなたは、区にお住まいの外国人との交流についてどう思いますか。(〇は1つ)

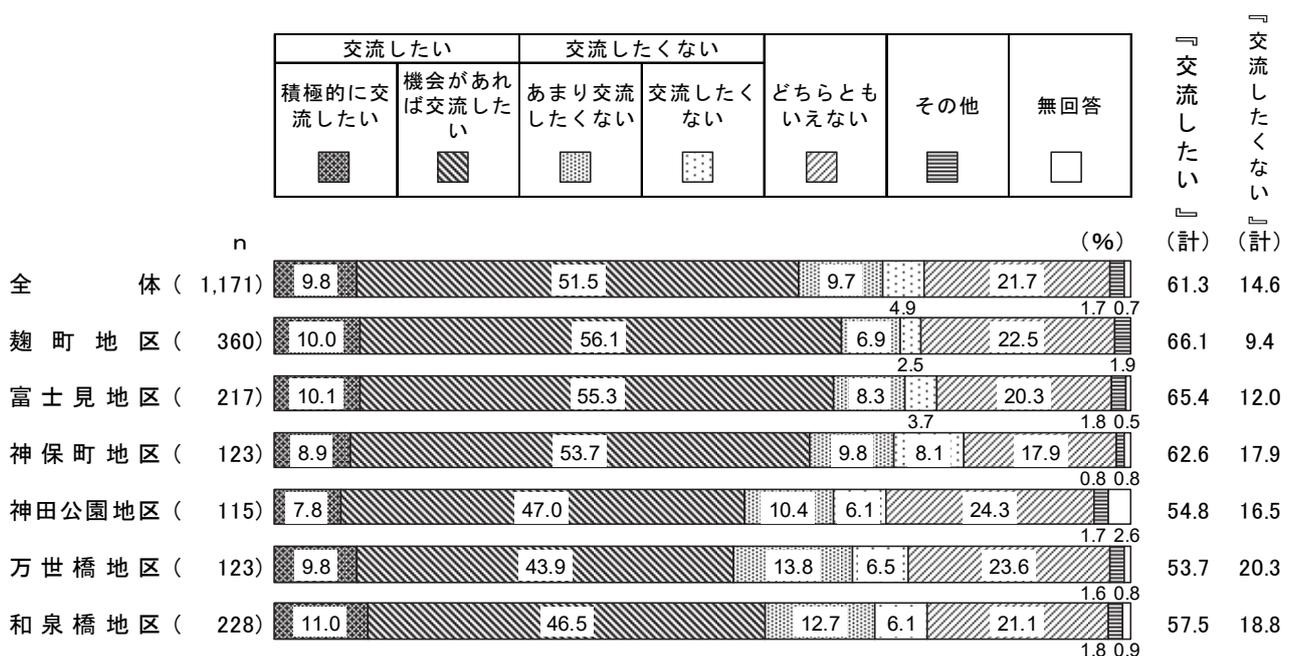
図 11-8-1 区在住の外国人との交流意向



区にお住まいの外国人との交流についてどう思うか聞いたところ、「機会があれば交流したい」(51.5%)が5割強と最も高く、これに「積極的に交流したい」(9.8%)を合わせた『交流したい』(61.3%)は6割強となっている。一方、「あまり交流したくない」(9.7%)と「交流したくない」(4.9%)を合わせた『交流したくない』(14.6%)は1割台半ば近くとなっている。(図 11-8-1)

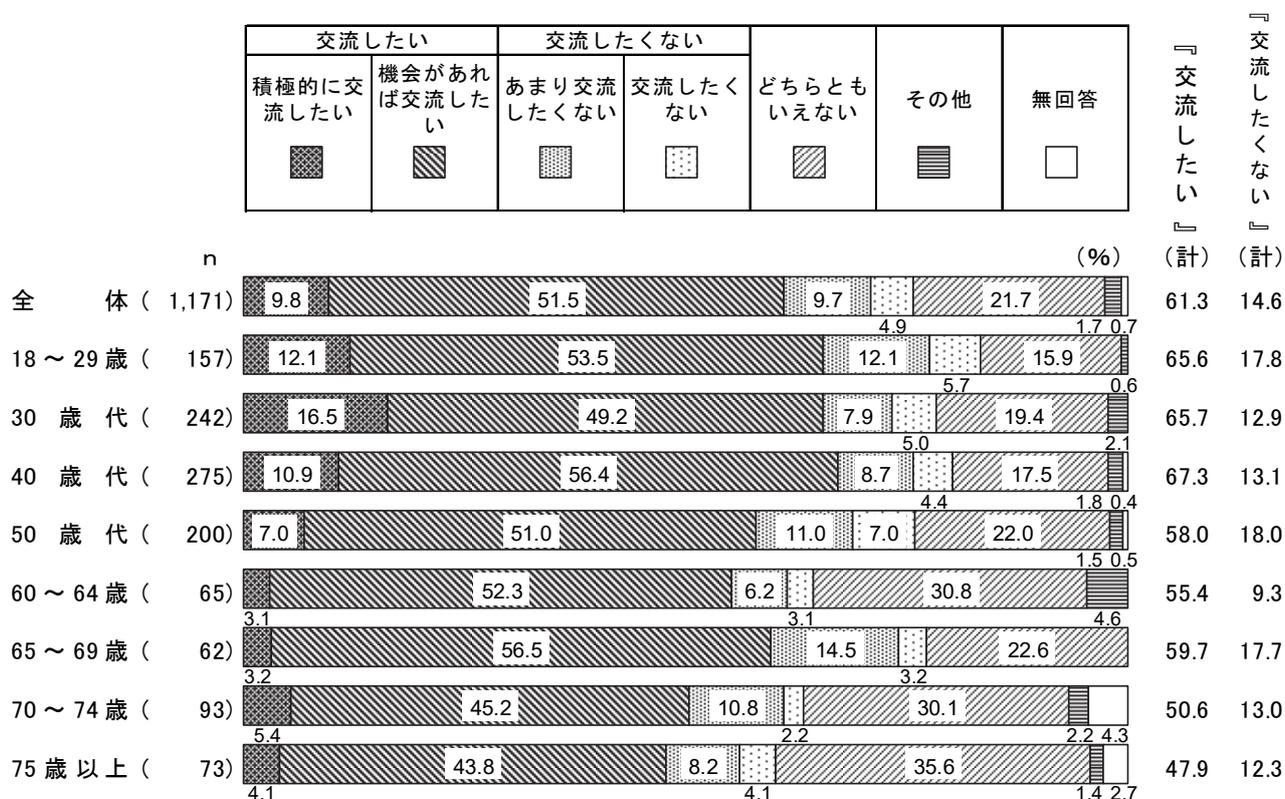
地区別にみると、『交流したい』は麴町地区(66.1%)で6割台半ばを超えて高くなっている。一方、『交流したくない』は万世橋地区(20.3%)で約2割となっている。(図 11-8-2)

図 11-8-2 区在住の外国人との交流意向(地区別)



年代別にみると、『交流したい』は40歳代(67.3%)で6割台半ばを超えて高くなっている。一方、『交流したくない』は50歳代(18.0%)で2割近くと高くなっている。(図11-8-3)

図11-8-3 区在住の外国人との交流意向(年代別)



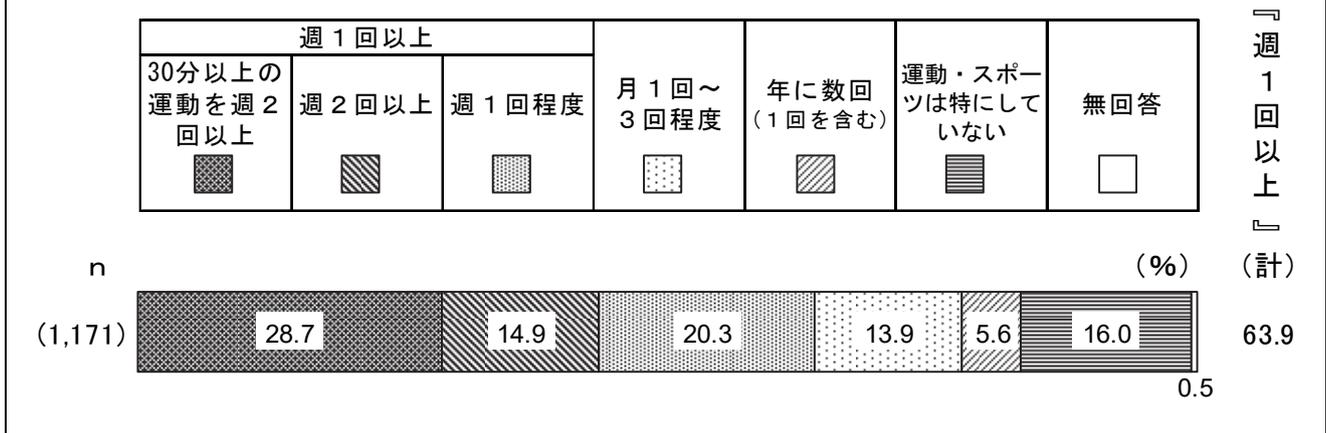
12. スポーツ実施率

(1) 運動・スポーツを行う頻度

◇『週1回以上』が6割台半ば近く

問29 あなたは、この1年間で、散歩やウォーキングを含めてどの程度運動・スポーツを行いましたか。(○は1つ)

図 12-1-1 運動・スポーツを行う頻度



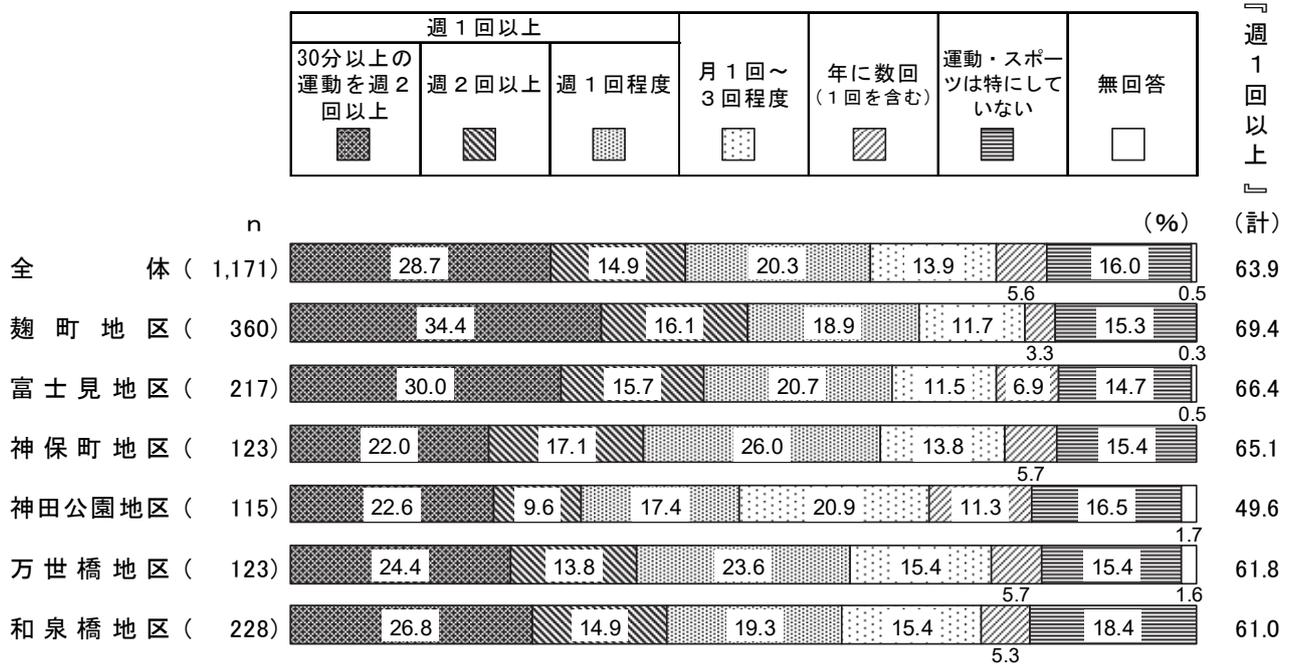
この1年間で、散歩やウォーキングを含めてどの程度運動・スポーツを行ったか聞いたところ、「30分以上の運動を週2回以上」(28.7%)が3割近くと最も高く、これに「週2回以上」(14.9%)と「週1回程度」(20.3%)を合わせた『週1回以上』(63.9%)は6割台半ば近くとなっている。

(図 12-1-1)

地区別にみると、『週1回以上』は麴町地区（69.4%）が7割弱で最も高くなっている。

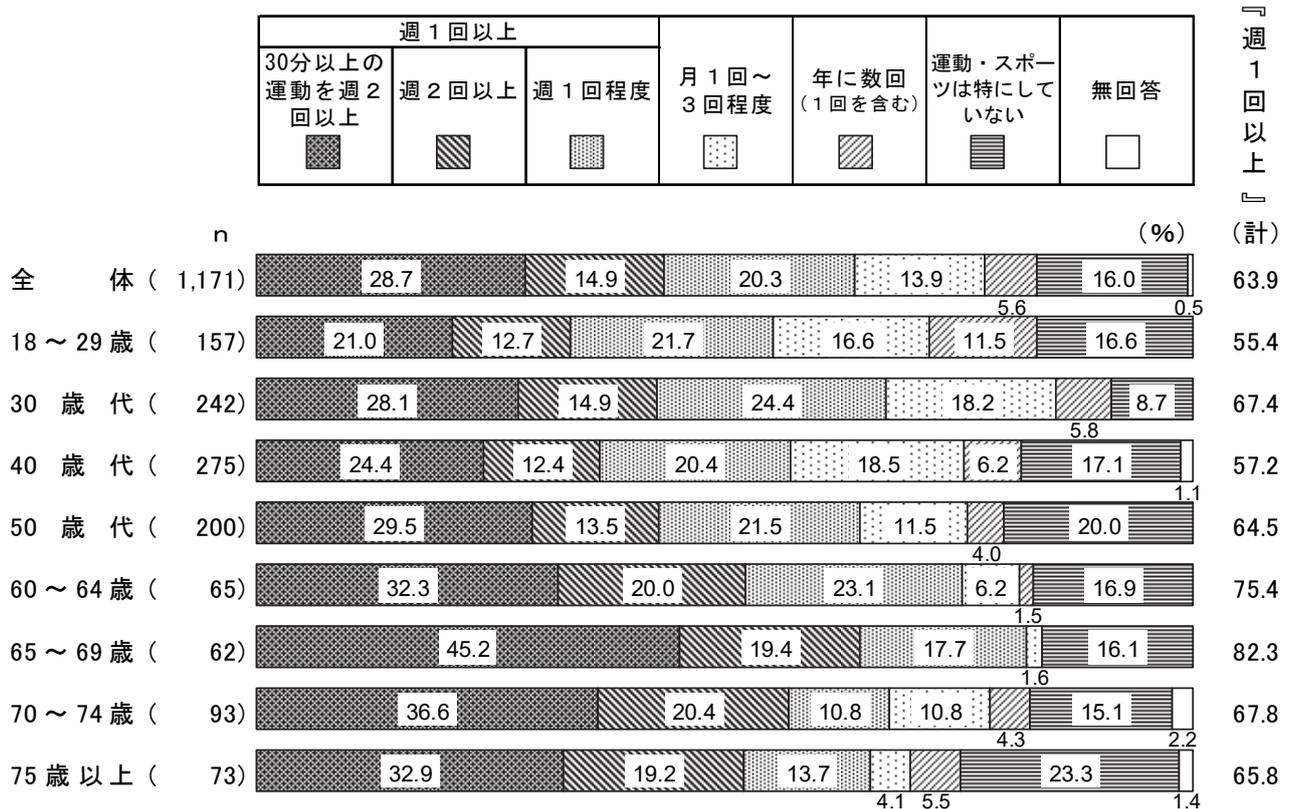
（図12-1-2）

図12-1-2 運動・スポーツを行う頻度（地区別）



年代別にみると、『週1回以上』は65～69歳（82.3%）で8割強と高くなっている。（図12-1-3）

図12-1-3 運動・スポーツを行う頻度（年代別）



13. まちづくりの進め方について

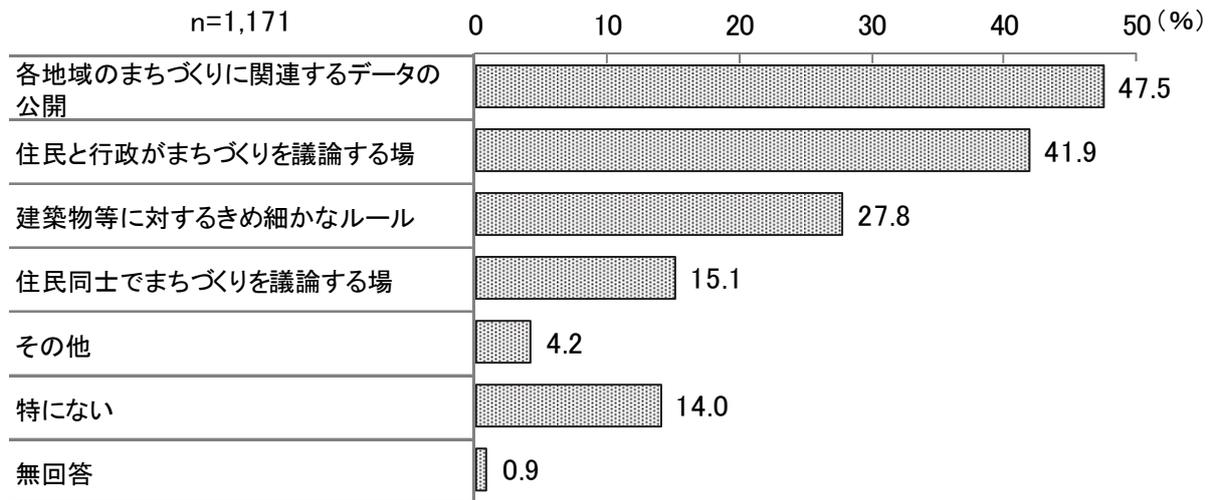
(1) まちづくりをより良くするために必要なもの

◇「各地域のまちづくりに関するデータの公開」が4割台半ばを超える

問30 お住まいの地域のまちづくりをより良くするために必要なものは何だと思いませんか。

(○はいくつでも)

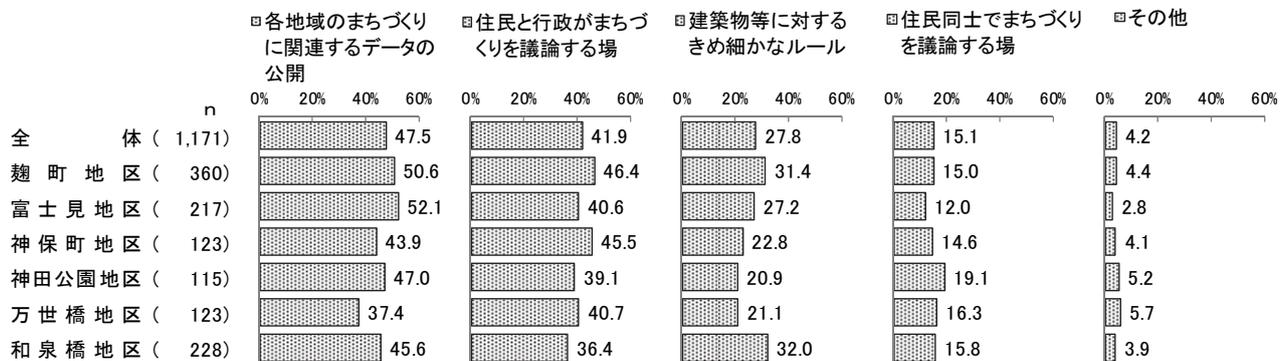
図 13-1-1 まちづくりをより良くするために必要なもの



まちづくりをより良くするために必要なものは何だと思うか聞いたところ、「各地域のまちづくりに関連するデータの公開」(47.5%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「住民と行政がまちづくりを議論する場」(41.9%)が4割強と続いている。(図 13-1-1)

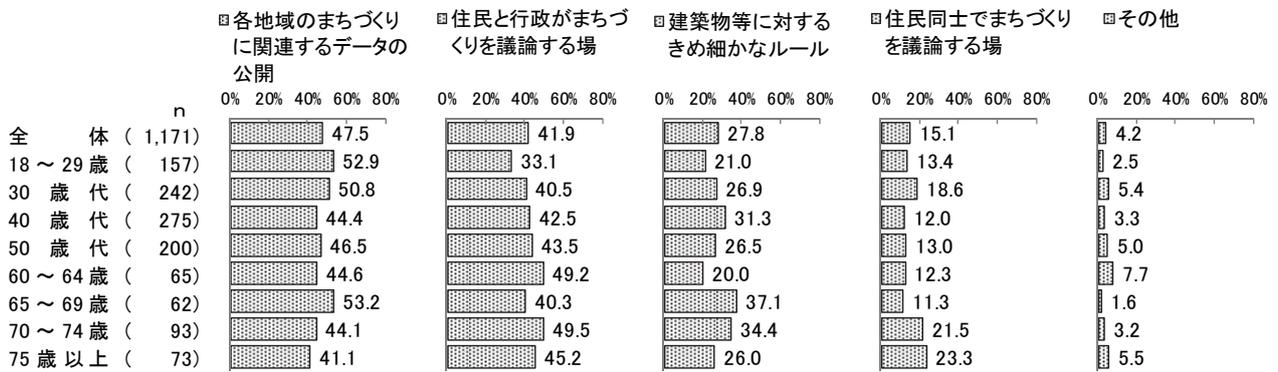
地区別にみると、「各地域のまちづくりに関連するデータの公開」は富士見地区(52.1%)で5割強と高くなっている。また、「建築物等に対するきめ細かなルール」は和泉橋地区(32.0%)・麴町地区(31.4%)で3割強と高くなっている。(図 13-1-2)

図 13-1-2 まちづくりをより良くするために必要なもの(地区別)



年代別にみると、「各地域のまちづくりに関連するデータの公開」は65～69歳（53.2%）で5割台半ば近くと高くなっている。（図13-1-3）

図13-1-3 まちづくりをより良くするために必要なもの（年代別）

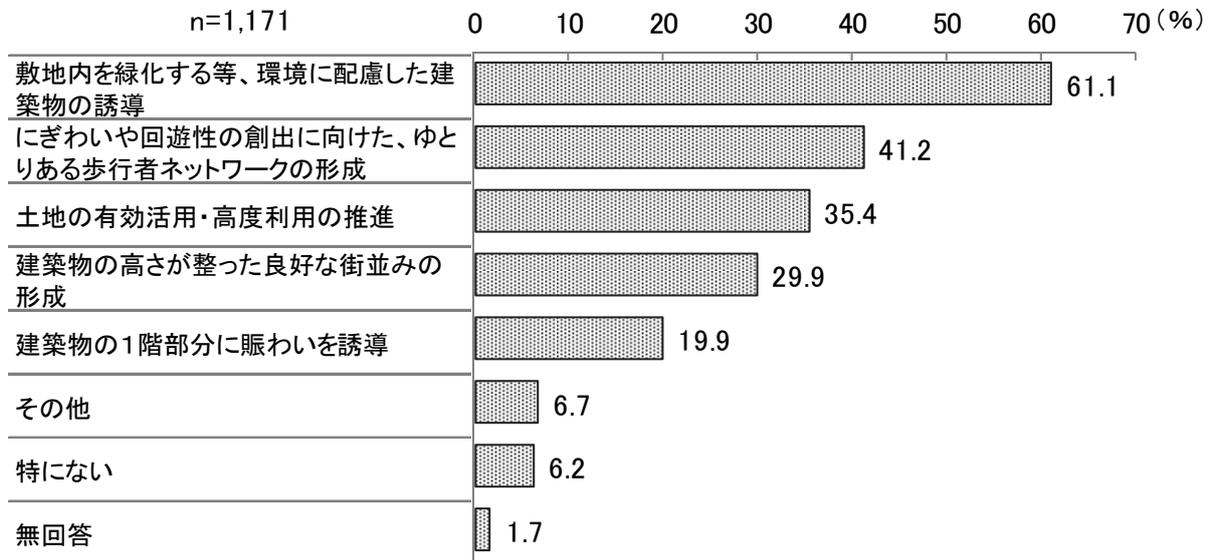


(2) まちづくりのために取り組むべき具体的施策

◇「敷地内を緑化する等、環境に配慮した建築物の誘導」が6割強

問31 区がより良いまちづくりのために取り組むべき具体的施策は何だと思えますか。
(〇はいくつでも)

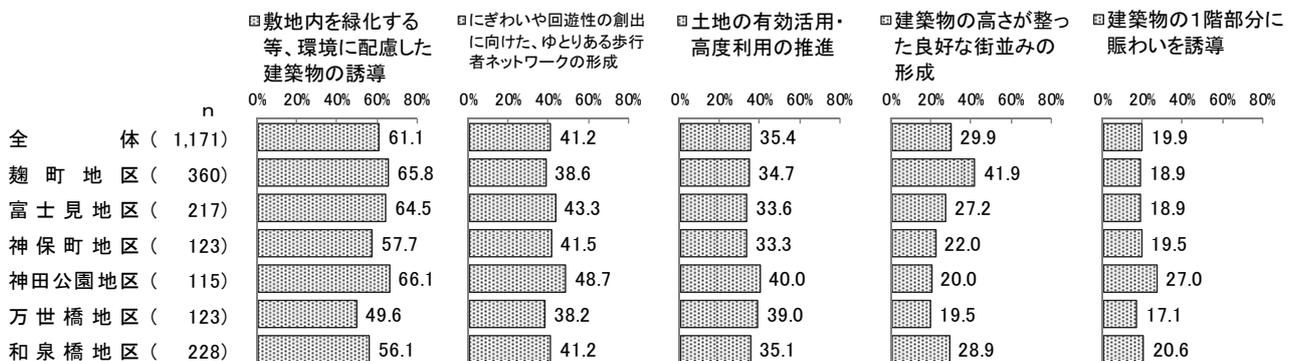
図 13-2-1 まちづくりのために取り組むべき具体的施策



区がより良いまちづくりのために取り組むべき具体的施策を聞いたところ、「敷地内を緑化する等、環境に配慮した建築物の誘導」(61.1%)が6割強と最も高く、次いで「にぎわいや回遊性の創出に向けた、ゆとりある歩行者ネットワークの形成」(41.2%)、「土地の有効活用・高度利用の推進」(35.4%)と続いている。(図 13-2-1)

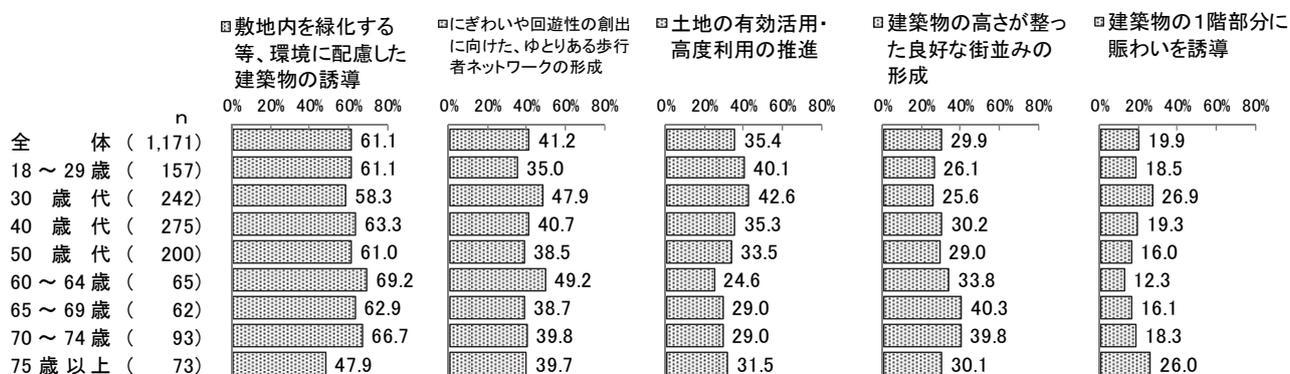
地区別にみると、「敷地内を緑化する等、環境に配慮した建築物の誘導」は神田公園地区(66.1%)で6割台半ばを超えて高くなっている。また、「にぎわいや回遊性の創出に向けた、ゆとりある歩行者ネットワークの形成」は神田公園地区(48.7%)で5割近くと高くなっている。(図 13-2-2)

図 13-2-2 まちづくりのために取り組むべき具体的施策(地区別)



年代別にみると、「敷地内を緑化する等、環境に配慮した建築物の誘導」は60～64歳（69.2%）で7割弱と高くなっている。また、「にぎわいや回遊性の創出に向けた、ゆとりある歩行者ネットワークの形成」は60～64歳（49.2%）で5割弱と高くなっている。（図13-2-3）

図13-2-3 まちづくりのために取り組むべき具体的施策（年代別）



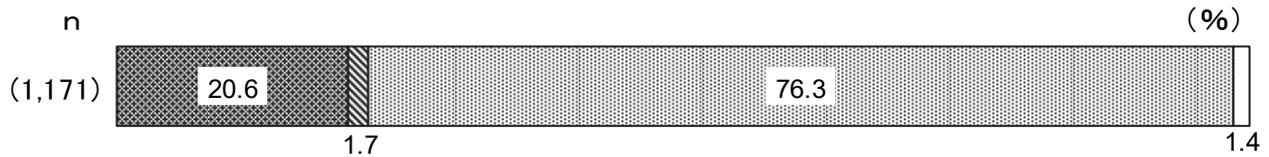
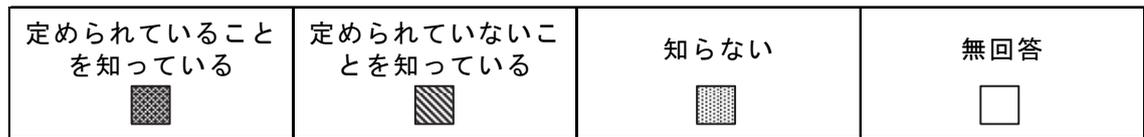
14. 地区計画などのまちづくりルール

(1) 「地区計画」の認知度

◇「知らない」が7割台半ばを超える

問32 お住まいのまちに「地区計画」が定められているか、または定められていないかをご存じですか。(〇は1つ)

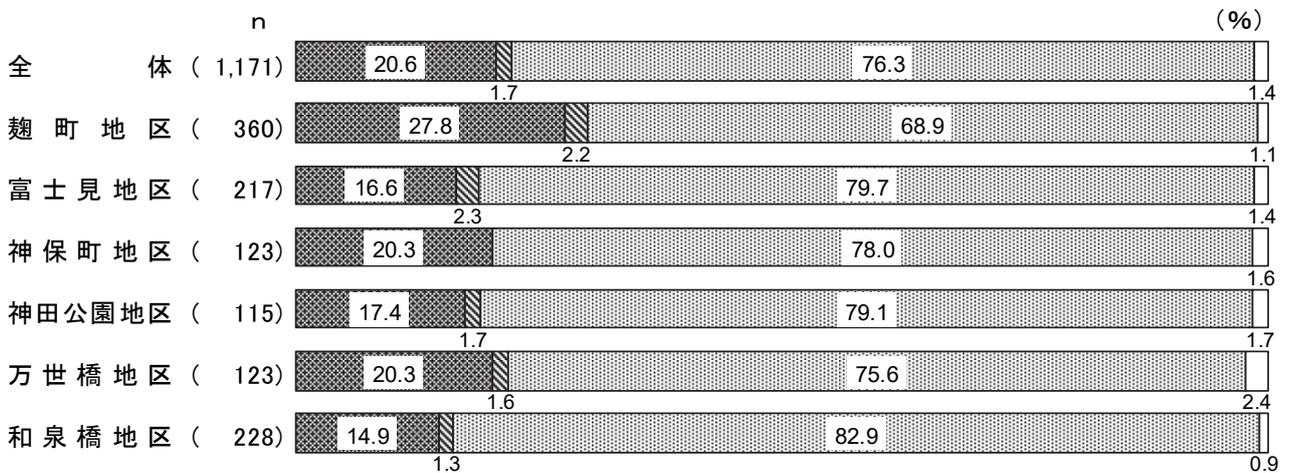
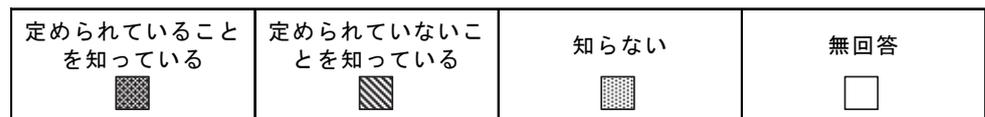
図 14-1-1 「地区計画」の認知度



「地区計画」が定められているか、または定められていないかを知っているか聞いたところ、「知らない」(76.3%)が7割台半ばを超えて高く、次いで「定められていることを知っている」(20.6%)、「定められていないことを知っている」(1.7%)となっている。(図 14-1-1)

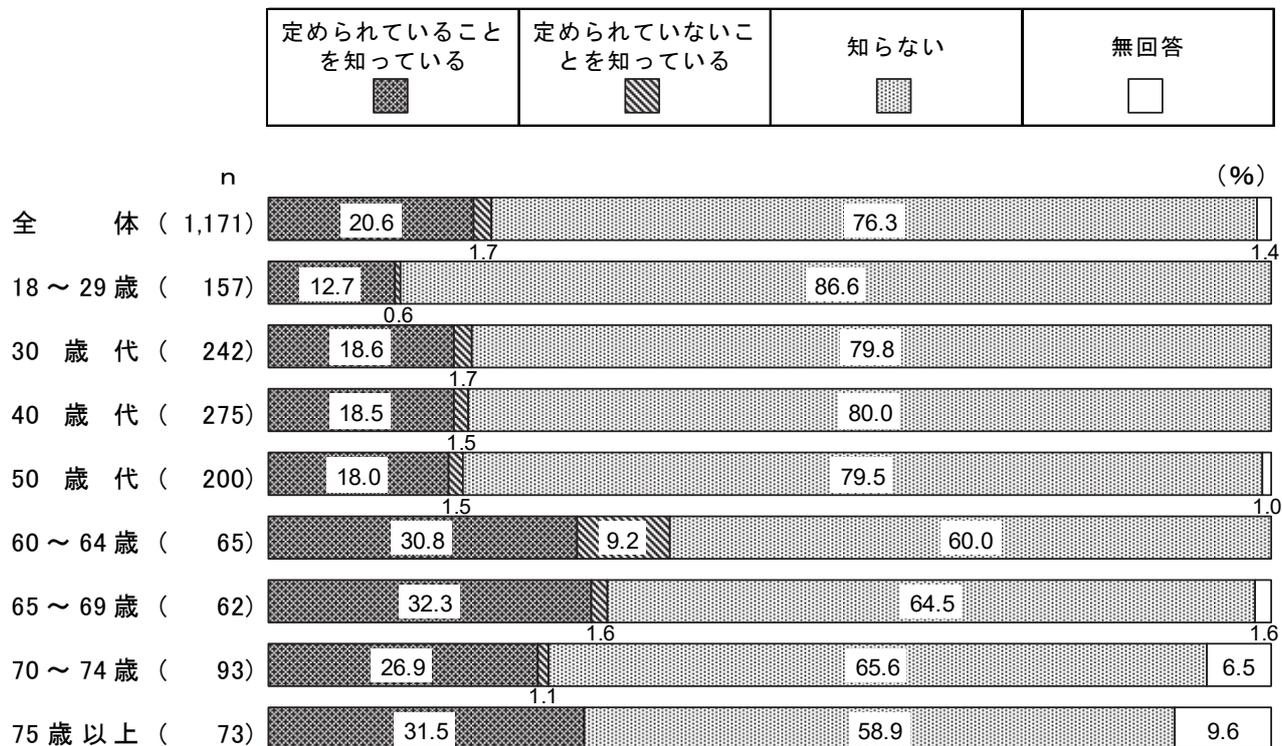
地区別にみると、「定められていることを知っている」は麴町地区(27.8%)で2割台半ばを超えて高くなっている。(図 14-1-2)

図14-1-2 「地区計画」の認知度(地区別)



年代別にみると、「定められていることを知っている」は65～69歳（32.3%）・75歳以上（31.5%）で3割強と高くなっている。（図14-1-3）

図14-1-3 「地区計画」の認知度（年代別）

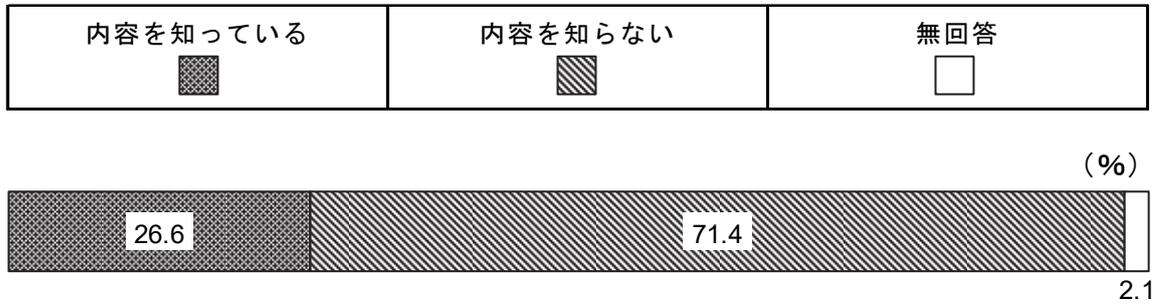


(1-1) 「地区計画」の内容の認知度

◇「内容を知らない」が7割強

(問32で「1. 定められていることを知っている」とお答えの方に)
 問32-1 その「地区計画」の内容をご存じですか。(〇は1つ)

図 14-1-4 「地区計画」の内容の認知度

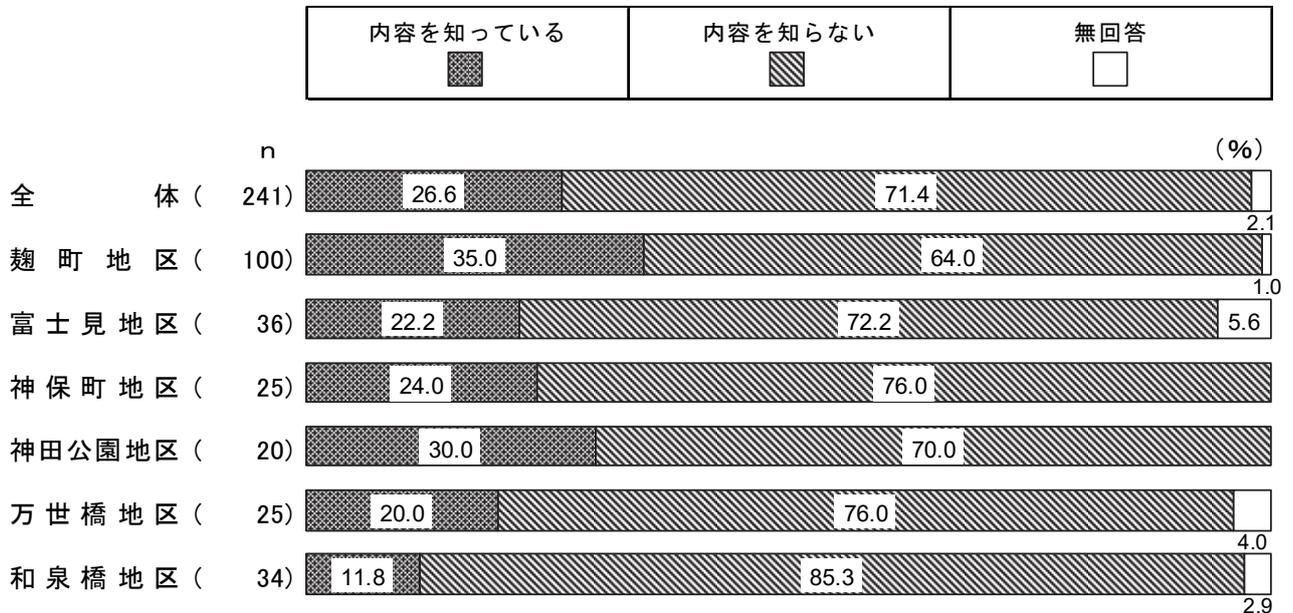


「地区計画」の内容を知っているか聞いたところ、「内容を知らない」(71.4%)が7割強と高くなっており、「内容を知っている」(26.6%)は2割台半ばを超えている。(図 14-1-4)

地区別にみると、「内容を知っている」は麴町地区(35.0%)で3割台半ばと高くなっている。

(図 14-1-5)

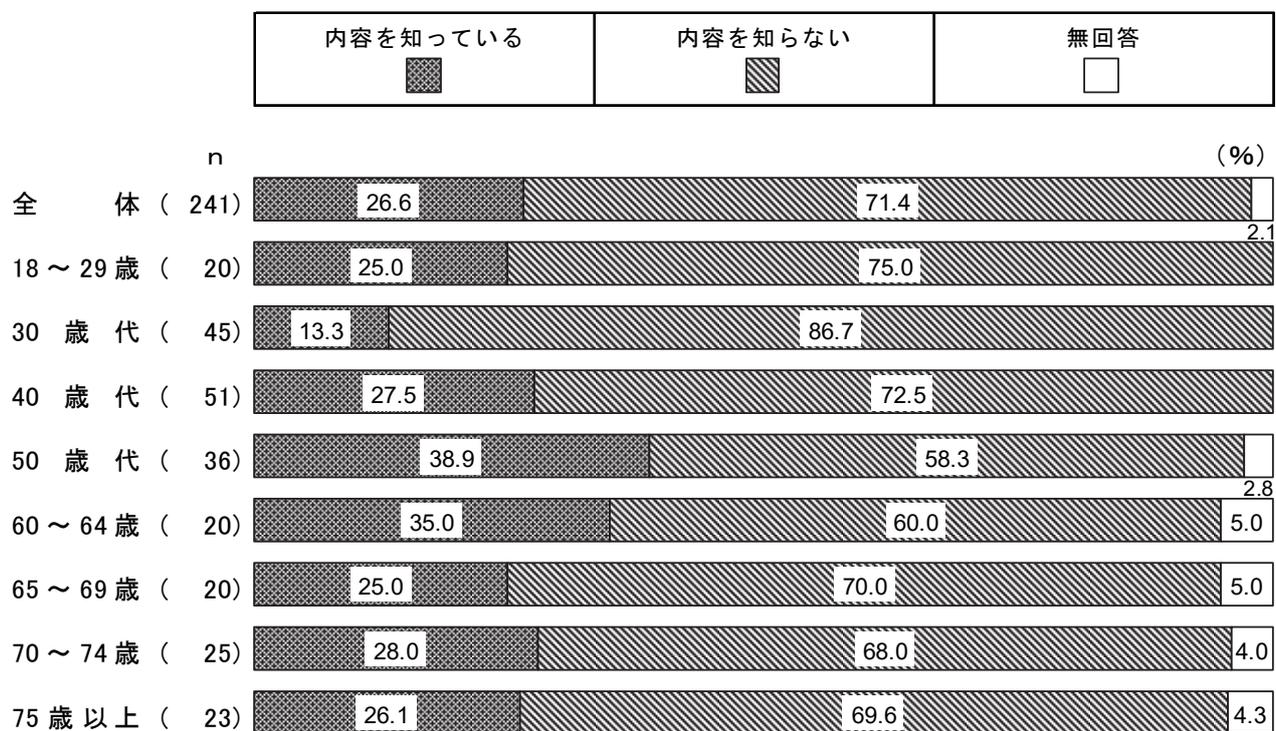
図 14-1-5 「地区計画」の内容の認知度(地区別)



年代別にみると、「内容を知っている」は50歳代（38.9%）で4割近くと高くなっている。

（図 14-1-6）

図 14-1-6 「地区計画」の内容の認知度（年代別）

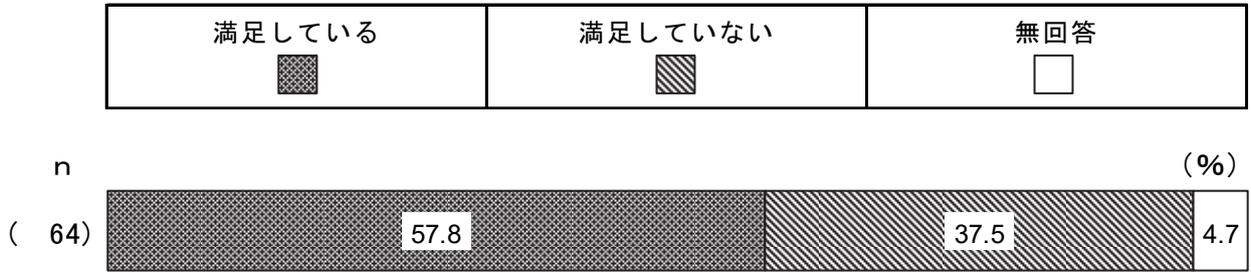


(1-2) 「地区計画」の内容の満足度

◇「満足している」が5割台半ばを超える

(問32-1で「1. 内容を知っている」とお答えの方に)
 問32-2 その「地区計画」の内容に満足していますか。(○は1つ)

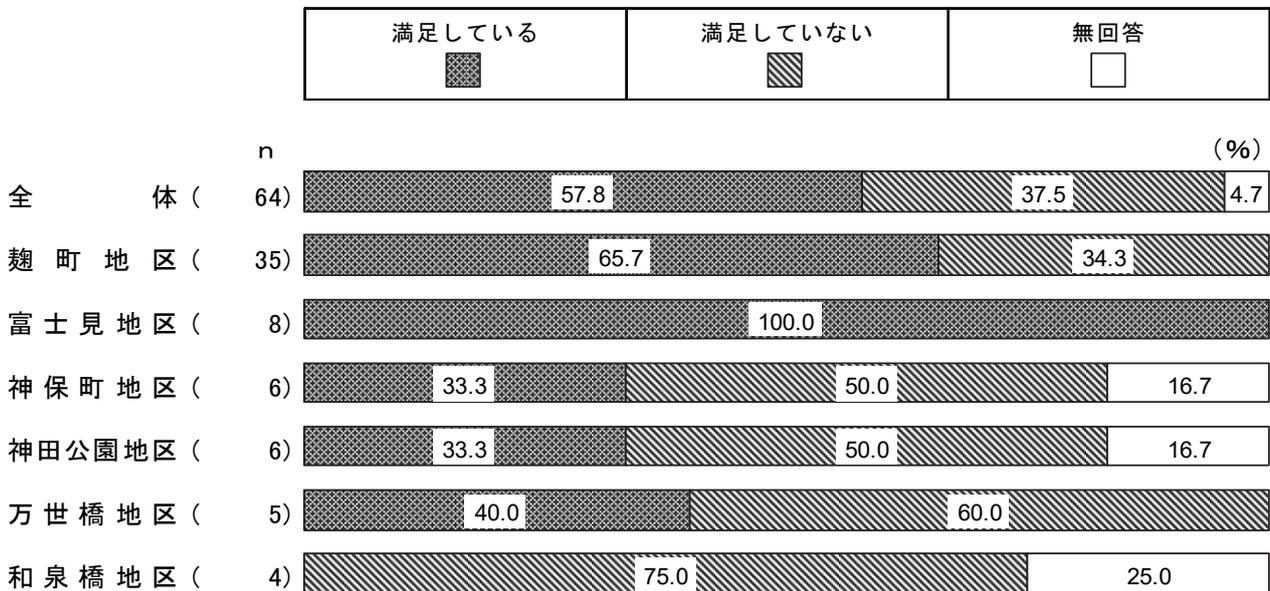
図 14-1-7 「地区計画」の内容の満足度



「地区計画」の内容に満足しているか聞いたところ、「満足している」(57.8%)が5割台半ばを超えて高くなっており、「満足していない」(37.5%)は3割台半ばを超えている。(図 14-1-7)

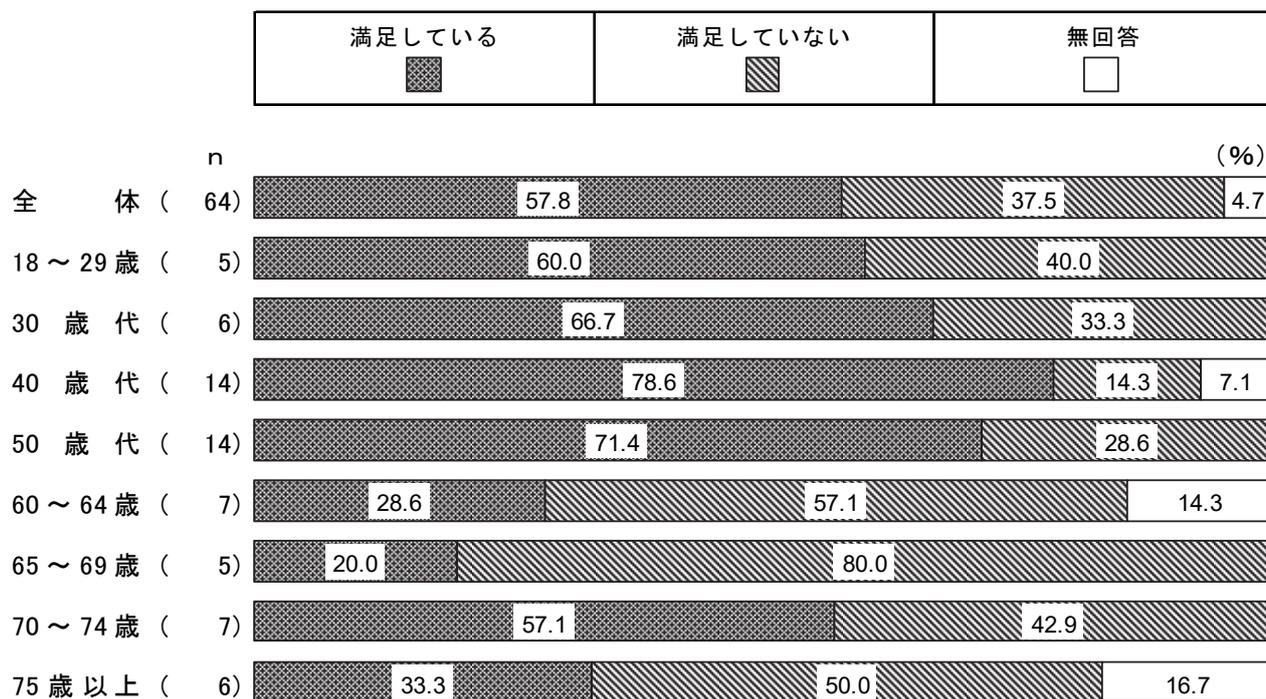
地区別では、以下の図のとおりである。(図 14-1-8)

図 14-1-8 「地区計画」の内容の満足度 (地区別)



年代別では、以下の図のとおりである。(図 14-1-9)

図 14-1-9 「地区計画」の内容の満足度(年代別)

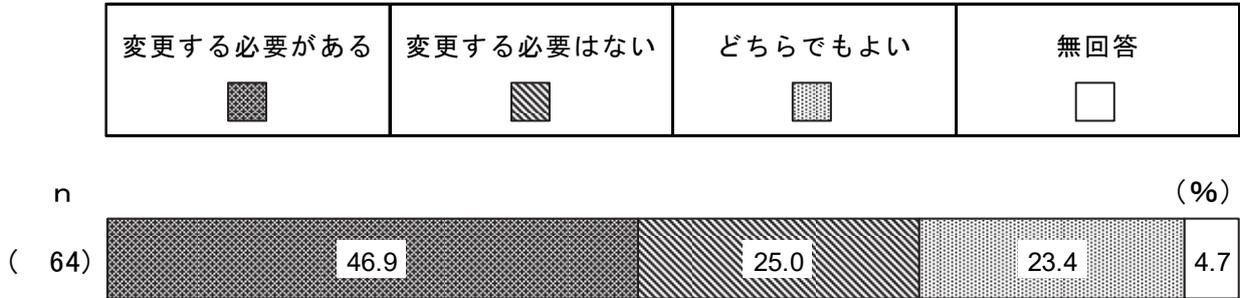


(1-3) 「地区計画」の変更の必要性

◇「変更する必要がある」が4割台半ばを超える

(問32-1で「1. 内容を知っている」とお答えの方に)
 問32-3 「地区計画」について、既に定まっているものを変更したりする必要があると感じていますか。(〇は1つ)

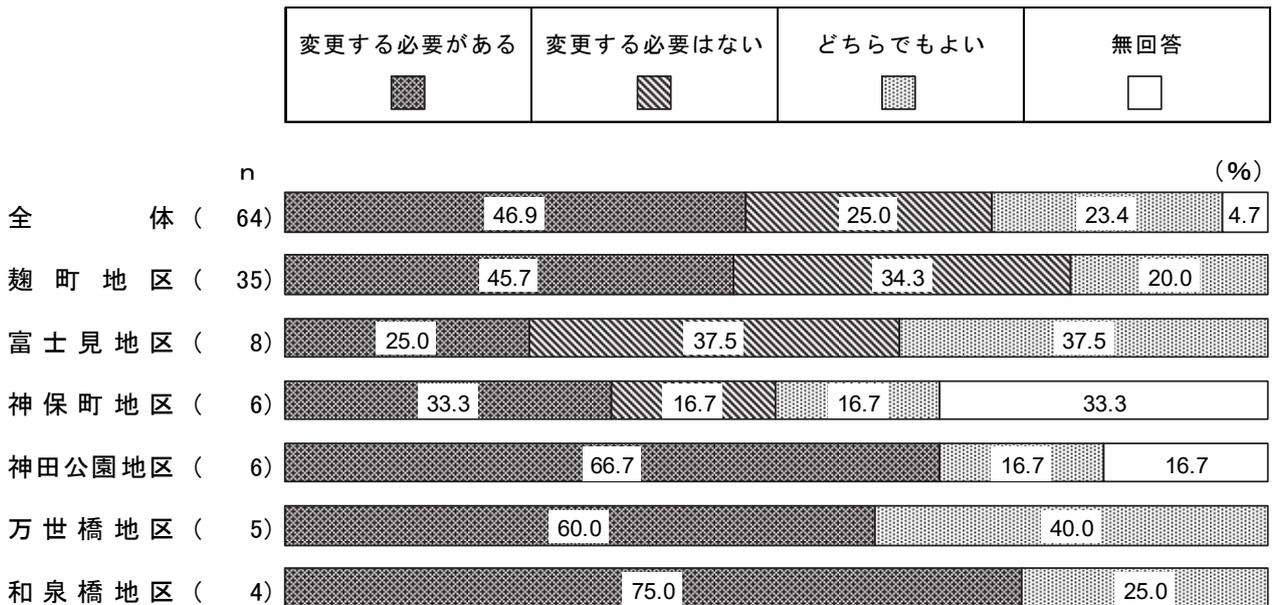
図 14-1-10 「地区計画」の変更の必要性



「地区計画」について、既に定まっているものを変更したりする必要があると感じているか聞いたところ、「変更する必要がある」(46.9%)が4割台半ばを超えて最も高く、「変更する必要はない」(25.0%)が2割台半ばと続いている。(図 14-1-10)

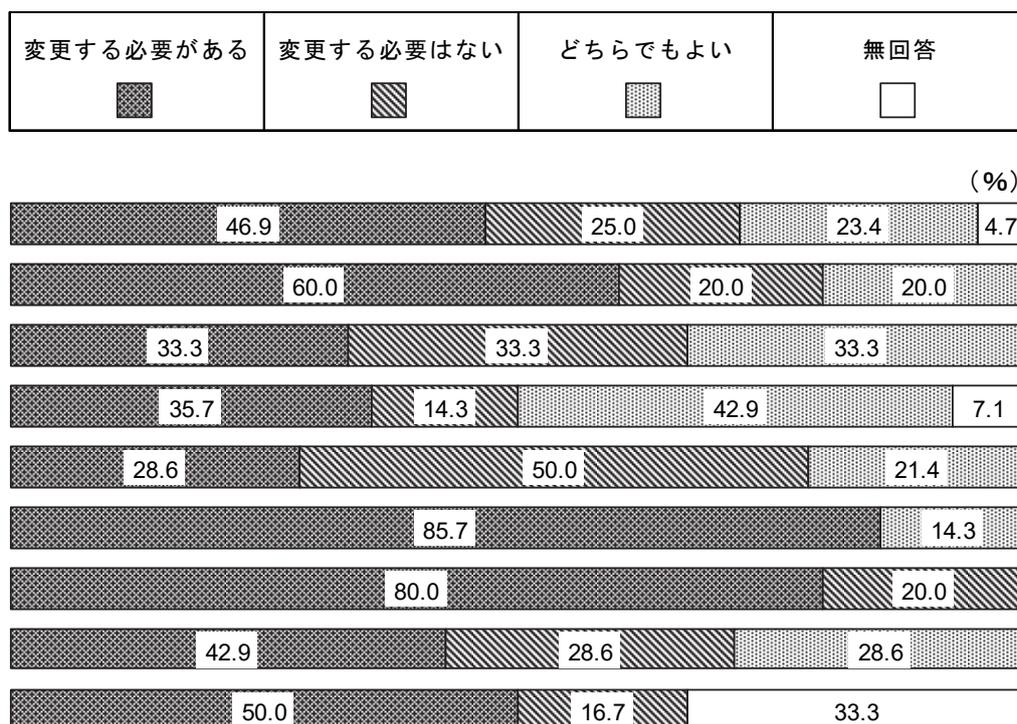
地区別では、以下の図のとおりである。(図 14-1-11)

図 14-1-11 「地区計画」の変更の必要性 (地区別)



年代別では、以下の図のとおりである。(図 14-1-12)

図 14-1-12 「地区計画」の変更の必要性(年代別)



(1-4) 「地区計画」の新規策定の必要性

◇「ある」が6割台半ば

(問32で「2. 定められていないことを知っている」とお答えの方に)
 問32-4 「地区計画」について、お住まいのまちに新たに定める必要があると感じていますか。
 (〇は1つ)

図 14-1-13 「地区計画」の新規策定の必要性

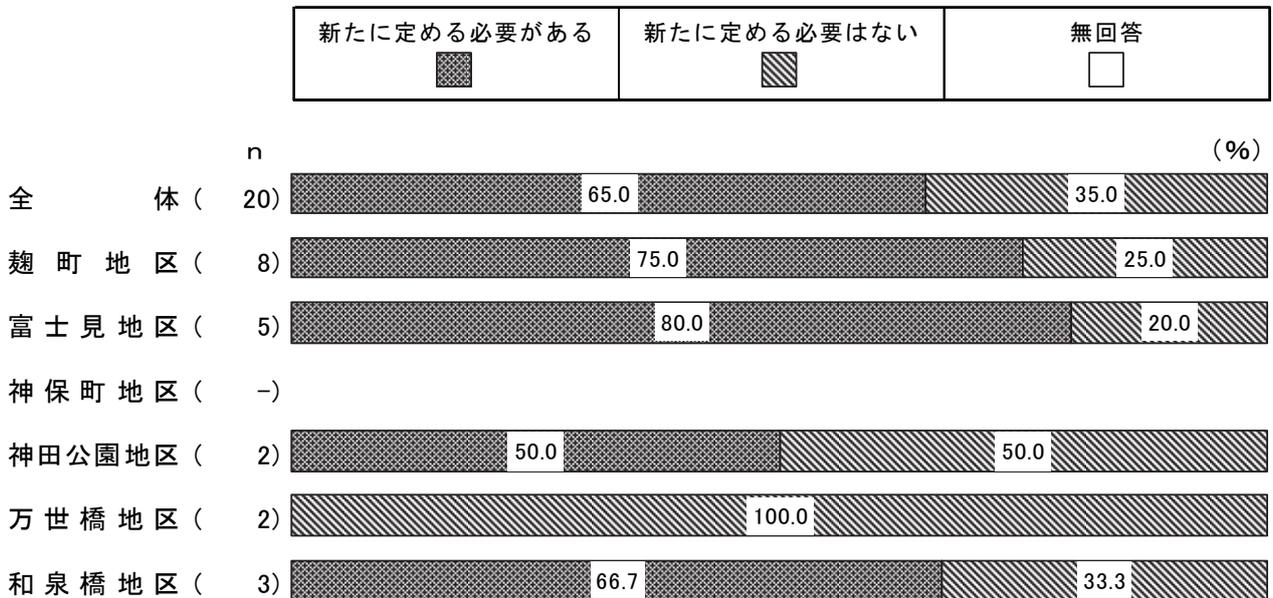


「地区計画」について、住んでいるまちに新たに定める必要があると感じるか聞いたところ、「新たに定める必要がある」(65.0%)が6割台半ばと高くなっており、「新たに定める必要はない」(35.0%)は3割台半ばとなっている。

(図 14-1-13)

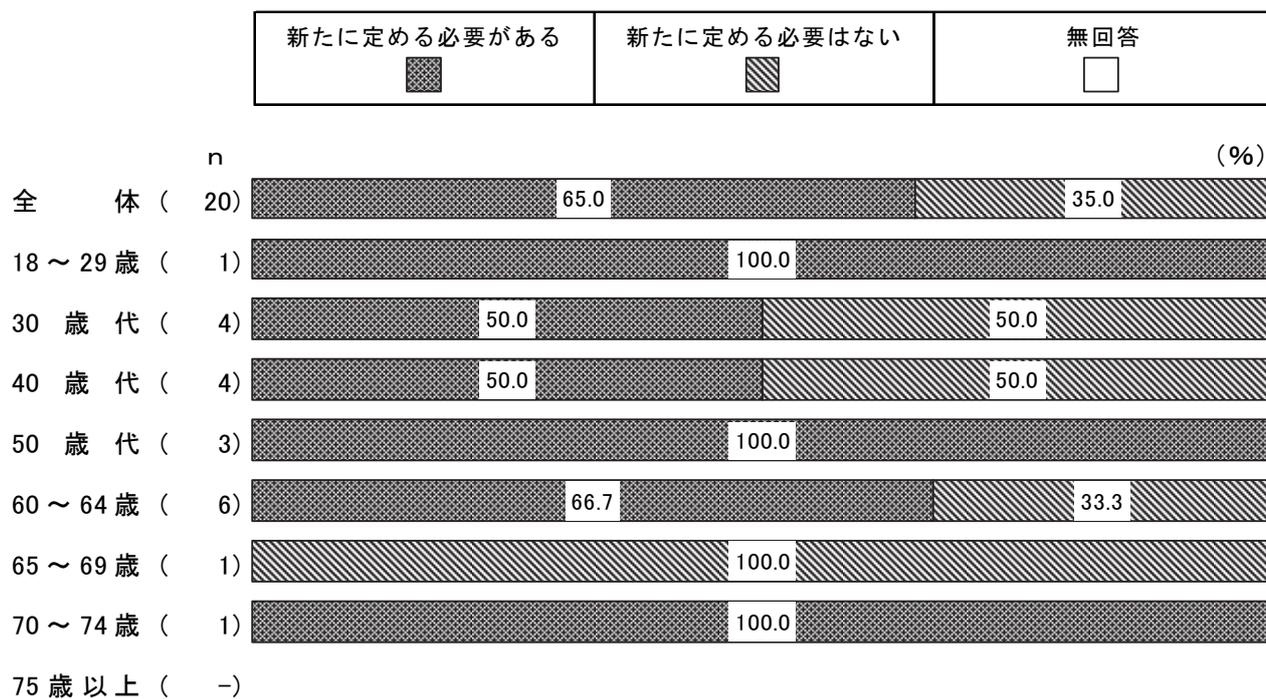
地区別では、以下の図のとおりである。(図 14-1-14)

図 14-1-14 「地区計画」の新規策定の必要性 (地区別)



年代別では、以下の図のとおりである。(図 14-1-15)

図 14-1-15 「地区計画」の新規策定の必要性(年代別)

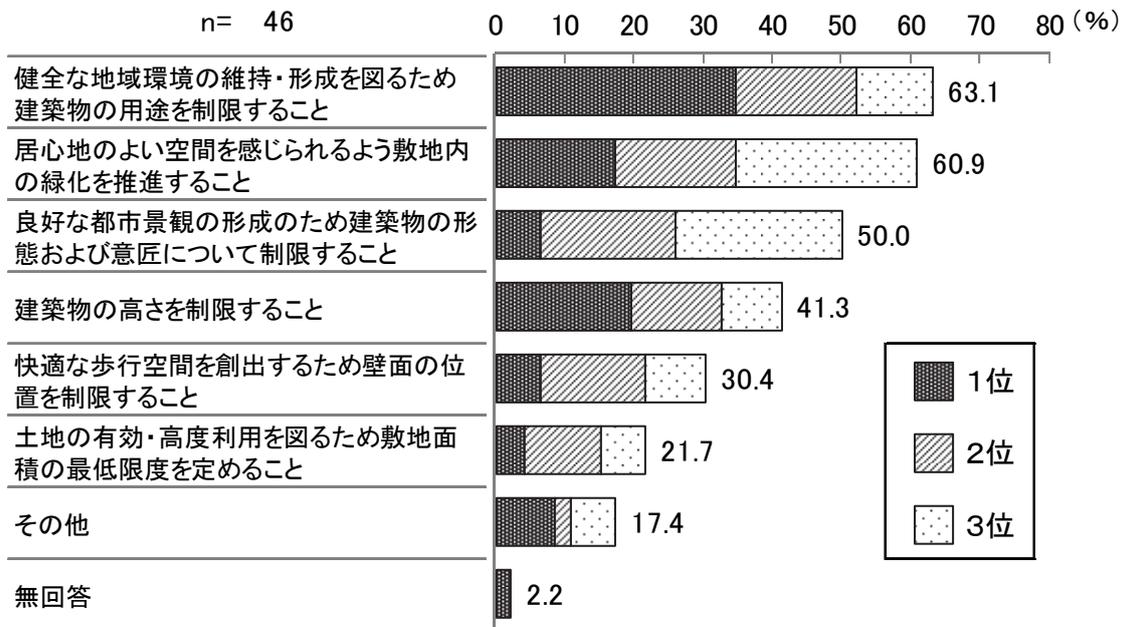


(1-5) 「地区計画」に必要なルール

◇「健全な地域環境の維持・形成を図るため建築物の用途を制限すること」が6割台半ば近く

(問32-3で「1. 変更する必要がある」問32-4「1. 新たに定める必要がある」とお答えの方に)
 問32-5 次の中で「地区計画」に必要なルールは何だと思えますか。
 (優先順位の高い順に3つ番号を記入してください。)

図 14-1-16 「地区計画」に必要なルール

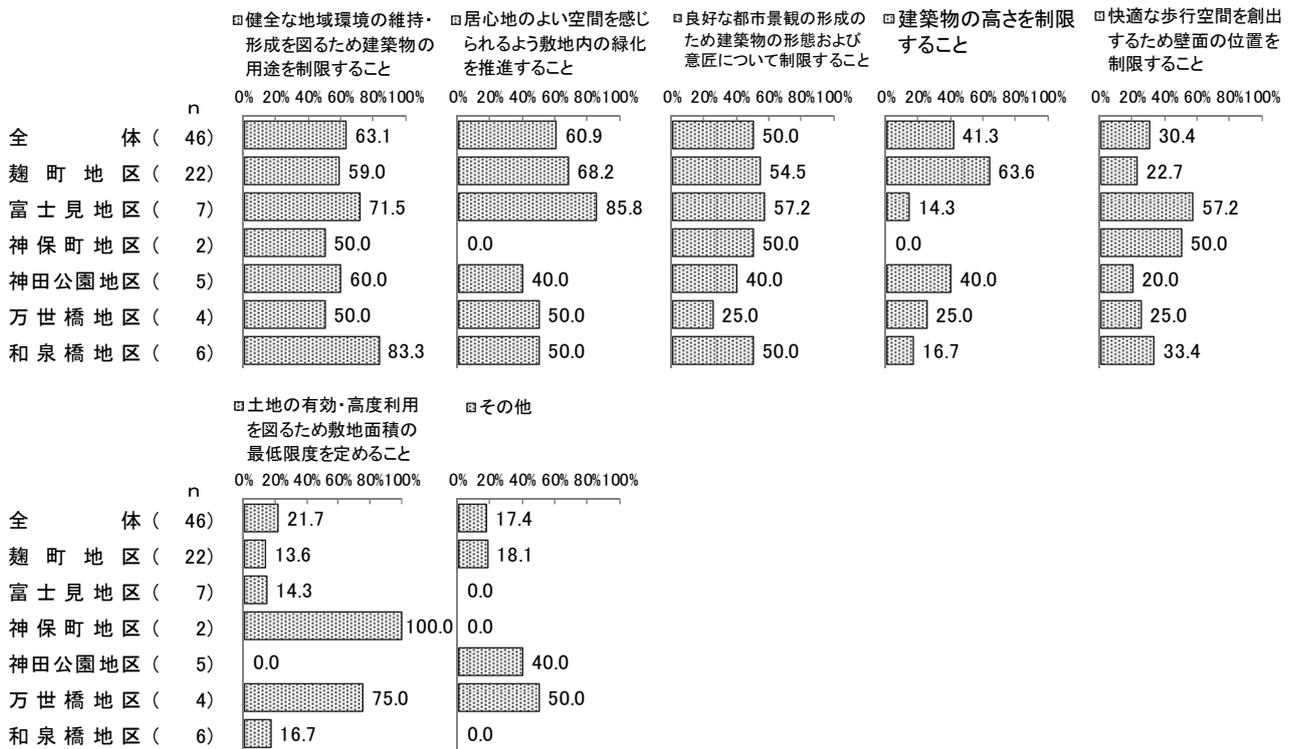


「地区計画」に必要なルールは何だと思うか聞いたところ、「健全な地域環境の維持・形成を図るため建築物の用途を制限すること」(63.1%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで「居心地のよい空間を感じられるよう敷地内の緑化を推進すること」(60.9%)が約6割で続いている。

(図 14-1-16)

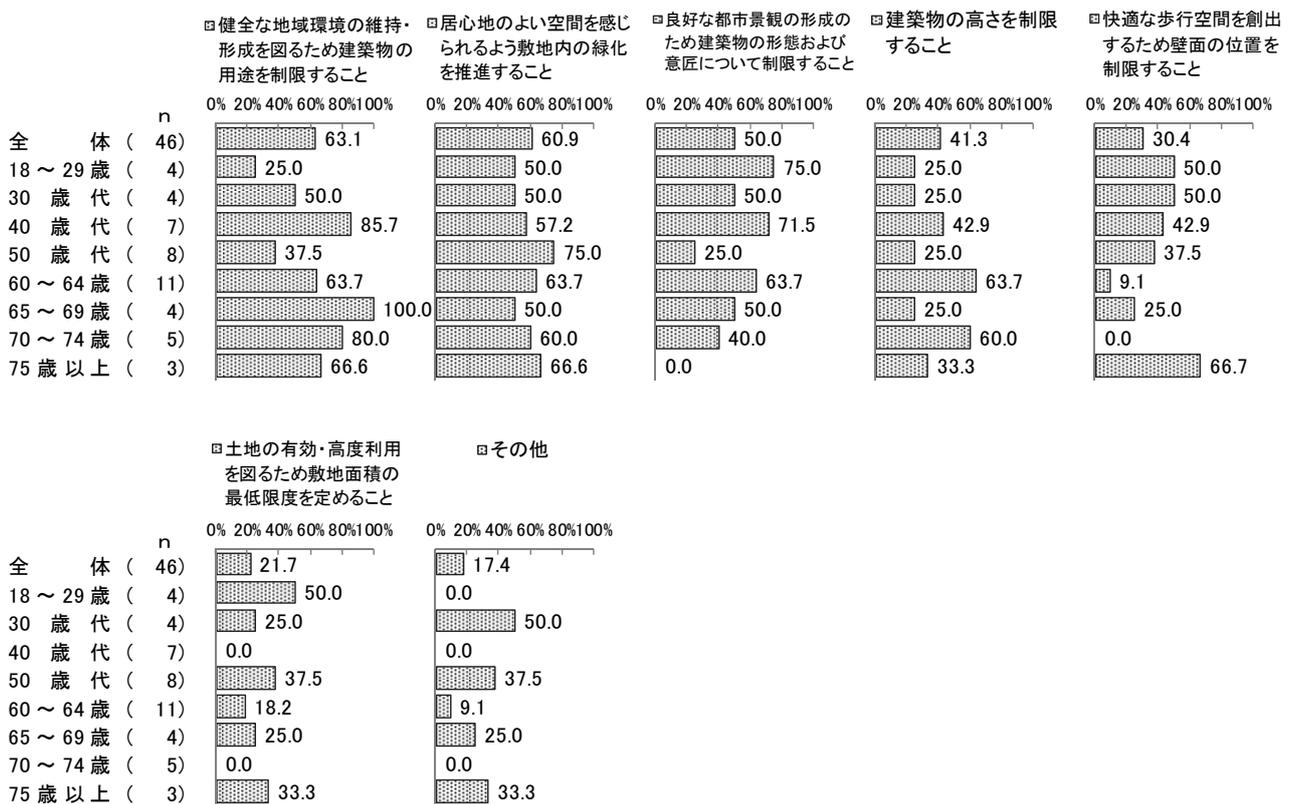
地区別では、以下の図のとおりである。(図 14-1-17)

図 14-1-17 「地区計画」に必要なルール (地区別)



年代別では、以下の図のとおりである。(図 14-1-18)

図 14-1-18 「地区計画」に必要なルール (年代別)



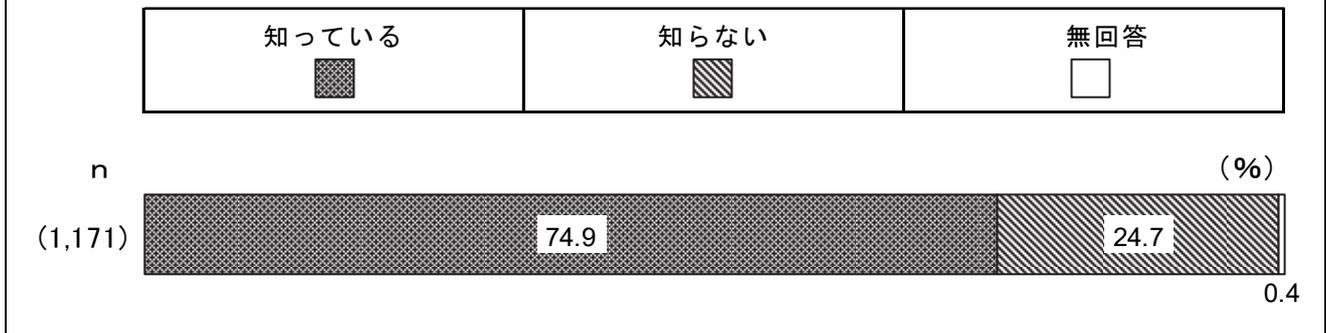
15. 区民の防災対策

(1) 地域の避難所の認知状況

◇避難所の位置を「知っている」が7割台半ば近く

問33 あなたは、地域の避難所がどこにあるかをご存じですか。(〇は1つ)

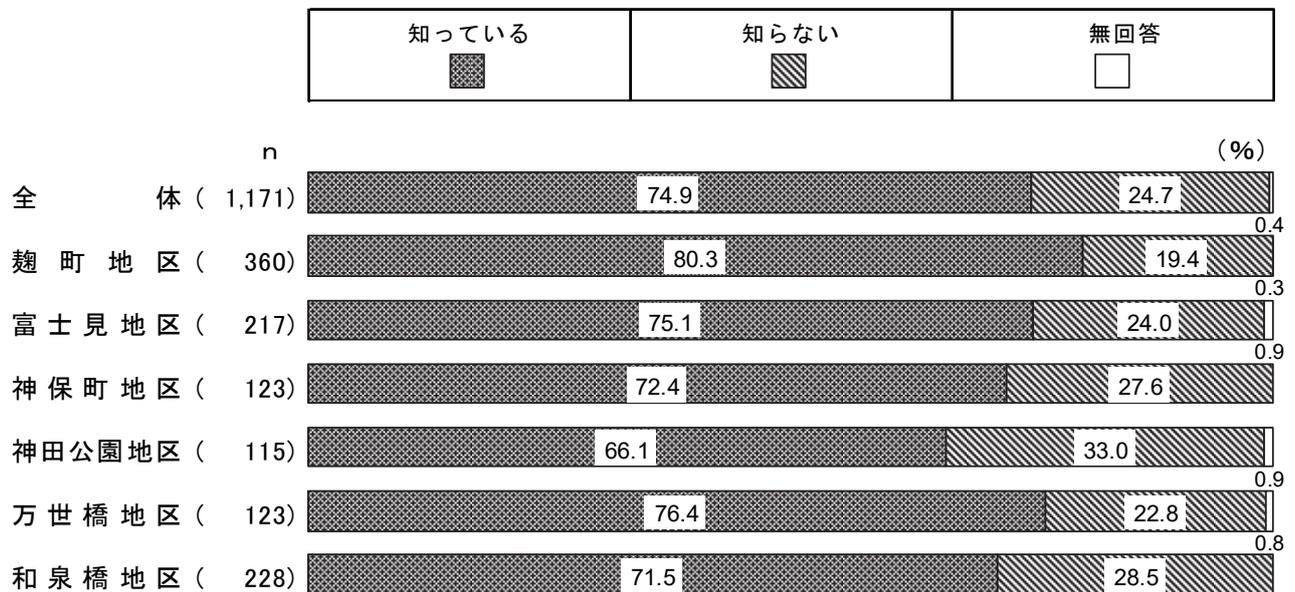
図 15-1-1 地域の避難所の認知状況



地域の避難所がどこにあるかを知っているか聞いたところ、「知っている」(74.9%)が7割台半ば近く、「知らない」(24.7%)が2割台半ば近くとなっている。(図 15-1-1)

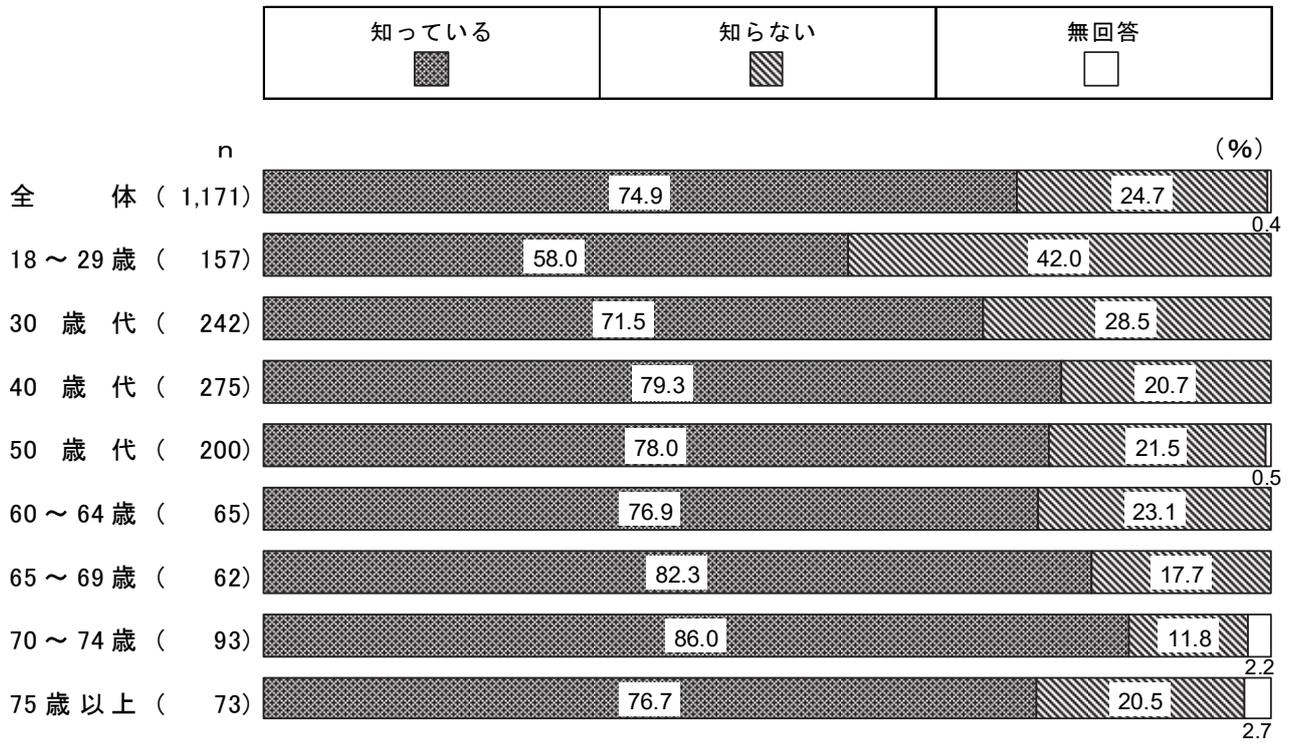
地区別にみると、「知っている」は麴町地区(80.3%)で約8割と高くなっている。一方、「知らない」は神田公園地区(33.0%)で3割台半ば近くと高くなっている。(図 15-1-2)

図15-1-2 地域の避難所の認知状況(地区別)



年代別にみると、「知っている」は70～74歳（86.0%）で8割台半ばを超えて最も高くなっている。一方、「知らない」は18～29歳（42.0%）で4割強となっている。（図15-1-3）

図15-1-3 地域の避難所の認知状況（年代別）

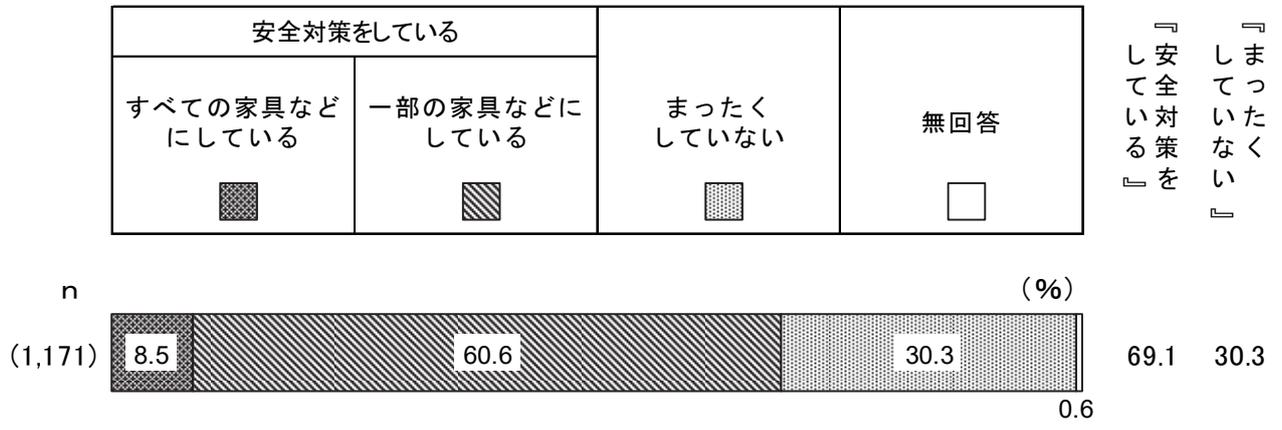


(2) 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策

◇『安全対策をしている』は7割弱

問34 あなたのお宅では、震災時に転倒のおそれのある家具などについて、安全対策を実施していますか。(○は1つ)

図 15-2-1 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策

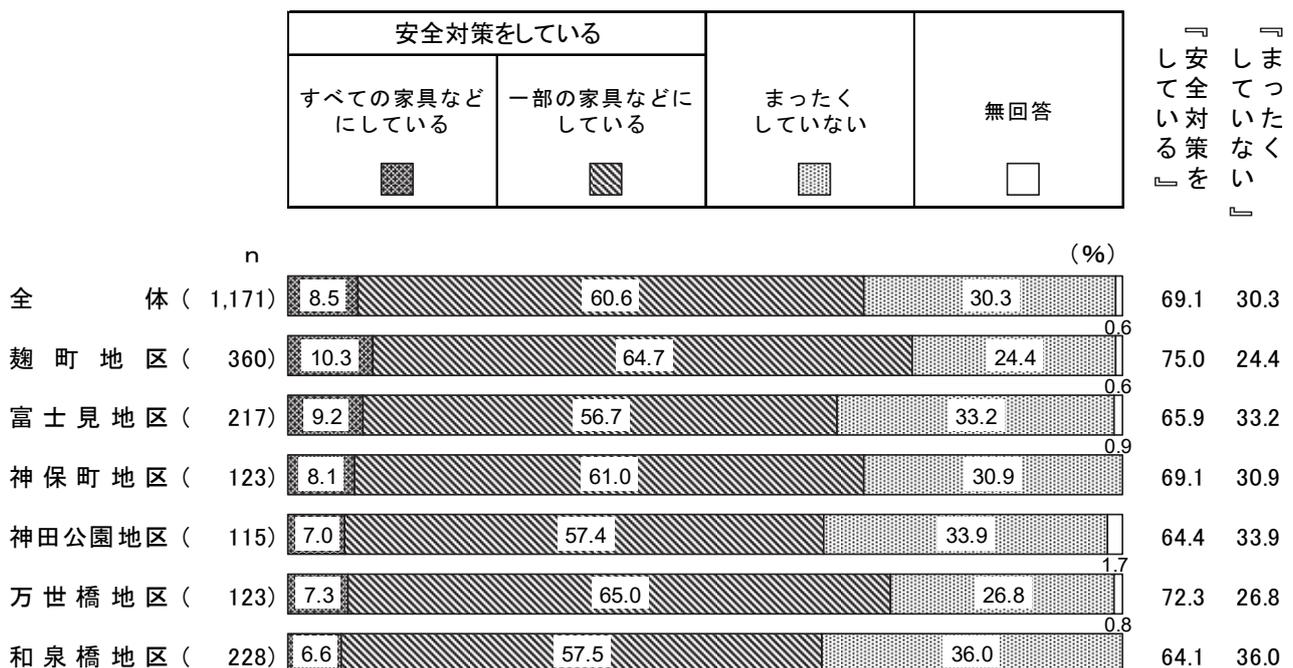


震災時に転倒のおそれのある家具などについて安全対策を実施しているか聞いたところ、「一部の家具などにしている」(60.6%)が約6割で最も高く、これに「すべての家具などにしている」(8.5%)を合わせた『安全対策をしている』(69.1%)は7割弱となっている。一方、「まったくしていない」(30.3%)は約3割となっている。(図 15-2-1)

地区別にみると、『安全対策をしている』は麴町地区(75.0%)で7割台半ばと高くなっている。一方、「まったくしていない」は和泉橋地区(36.0%)で3割台半ばを超えて高くなっている。

(図 15-2-2)

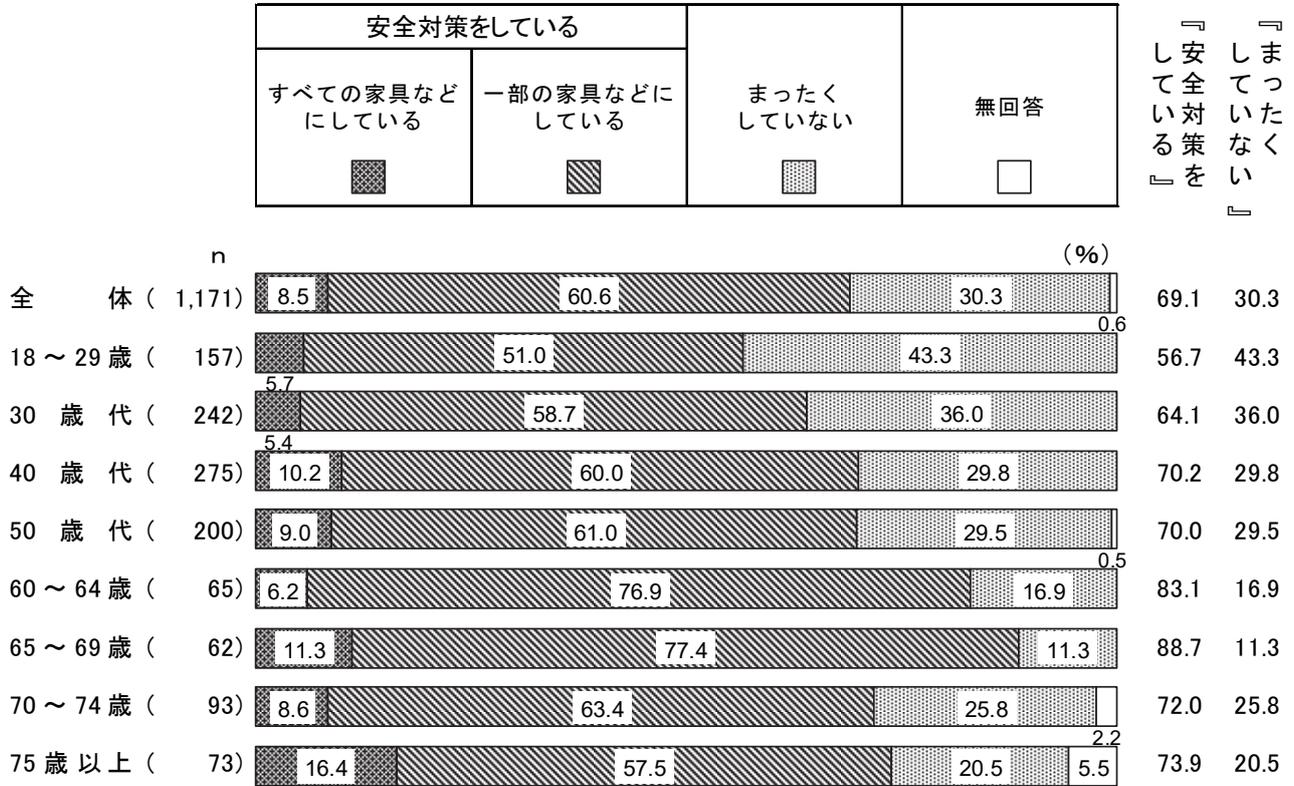
図15-2-2 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策(地区別)



年代別にみると、『安全対策をしている』は65～69歳（88.7%）で9割近くと高くなっている。一方、「まったくしていない」は18～29歳（43.3%）で4割台半ば近くと高くなっている。

（図 15-2-3）

図15-2-3 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策（年代別）

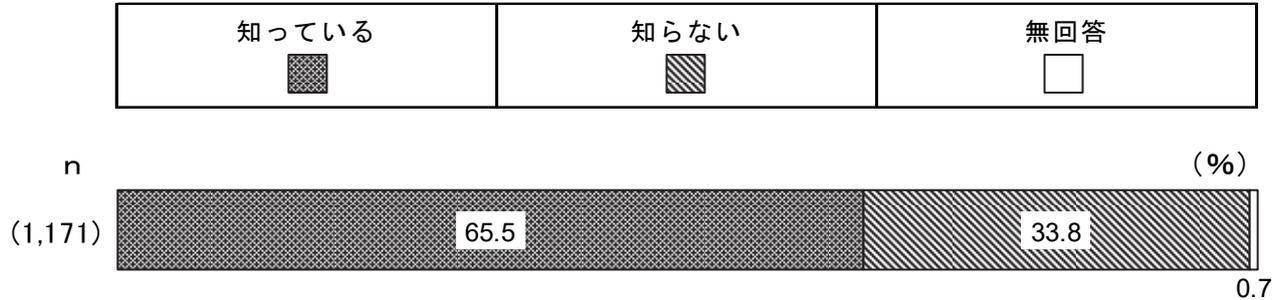


(3) 洪水などの災害リスクの認知度

◇自宅周辺の洪水などの災害リスクを「知っている」が6割台半ば

問35 あなたのお宅周辺の、洪水などの災害リスクについてご存じですか。(○は1つ)

図 15-3-1 洪水などの災害リスクの認知度

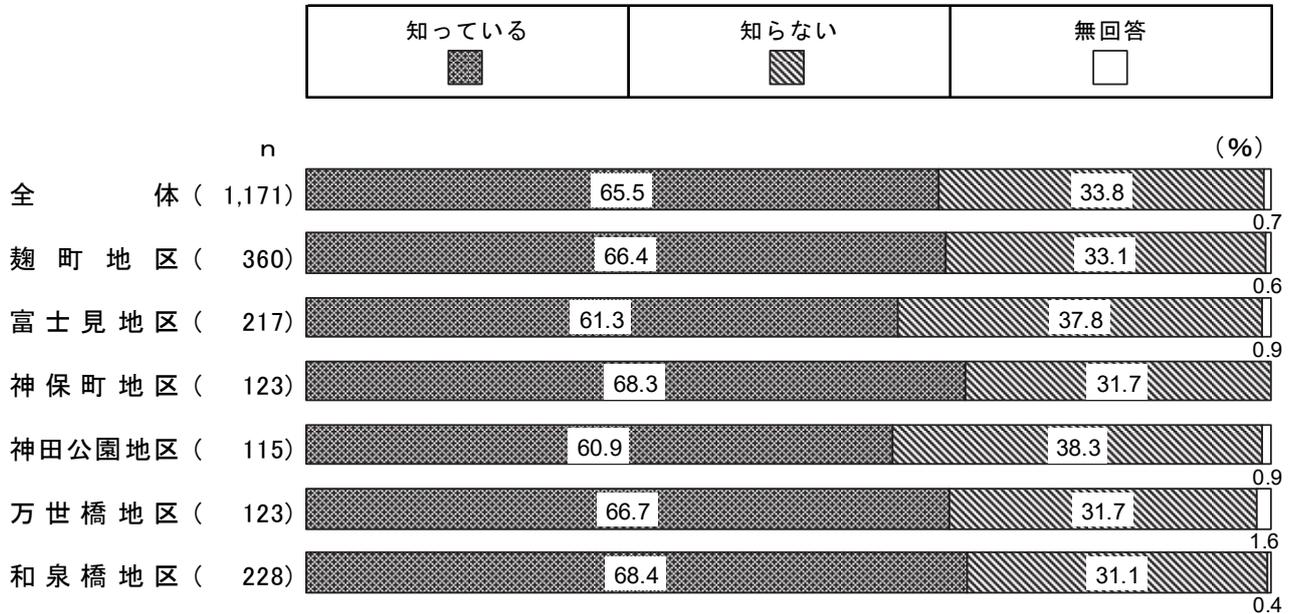


自宅周辺の洪水などの災害リスクを知っているか聞いたところ、「知っている」(65.5%)が6割台半ば、「知らない」(33.8%)が3割台半ば近くとなっている。(図 15-3-1)

地区別にみると、「知っている」は和泉橋地区(68.4%)・神保町地区(68.3%)で7割近くと高くなっている。一方、「知らない」は神田公園地区(38.3%)で4割近くと高くなっている。

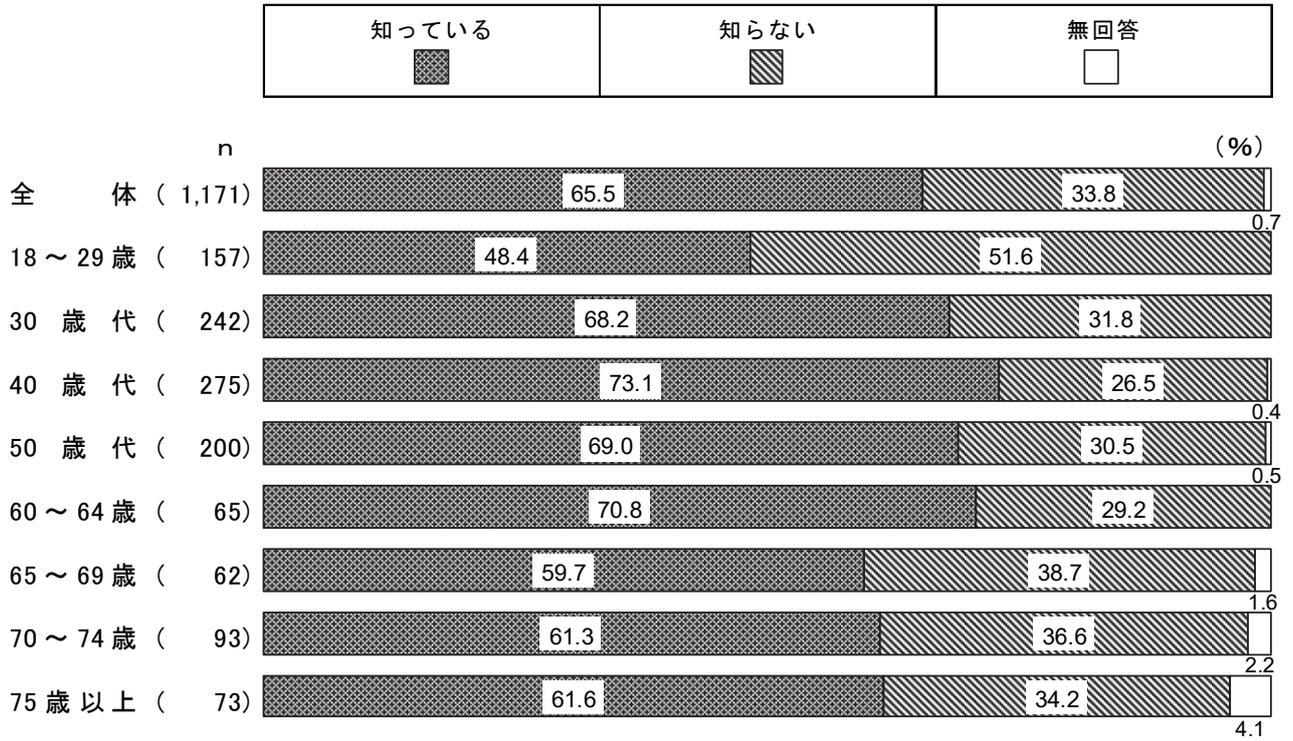
(図 15-3-2)

図15-3-2 洪水などの災害リスクの認知度(地区別)



年代別にみると、「知っている」は40歳代（73.1%）で7割台半ば近くと最も高くなっている。一方、「知らない」は18～29歳（51.6%）で5割強となっている。（図15-3-3）

図15-3-3 洪水などの災害リスクの認知度（年代別）

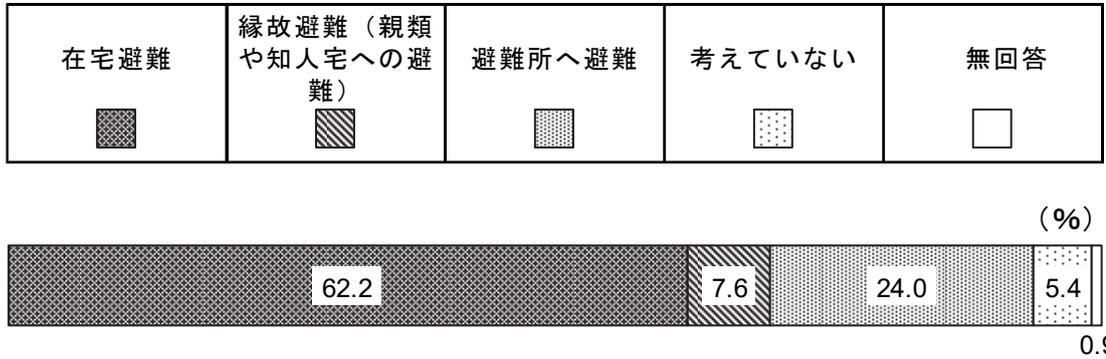


(4) 災害が起きた時の避難方法

◇「在宅避難」が6割強

問36 あなたは、災害が起きた時どのような避難方法を考えていますか。(○は1つ)

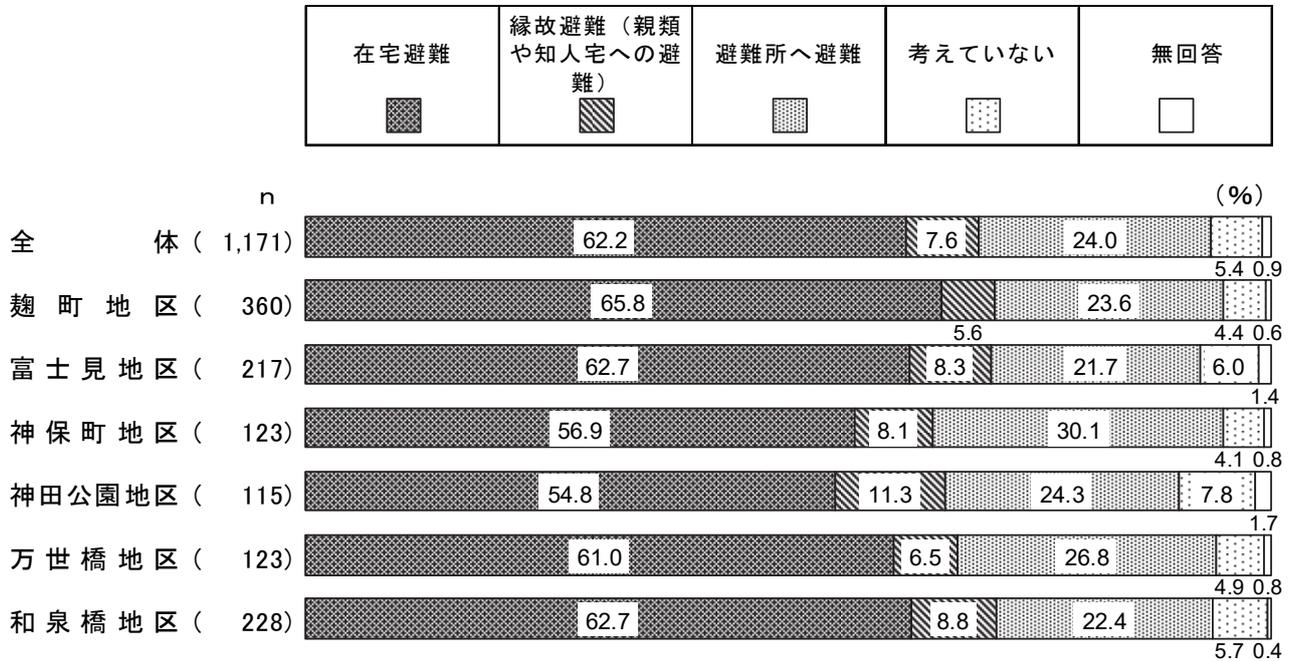
図 15-4-1 災害が起きた時の避難方法



災害が起きた時どのような避難方法を考えているか聞いたところ、「在宅避難」(62.2%)が6割強と最も高く、次いで「避難所へ避難」(24.0%)が2割台半ば近くとなっている。(図 15-4-1)

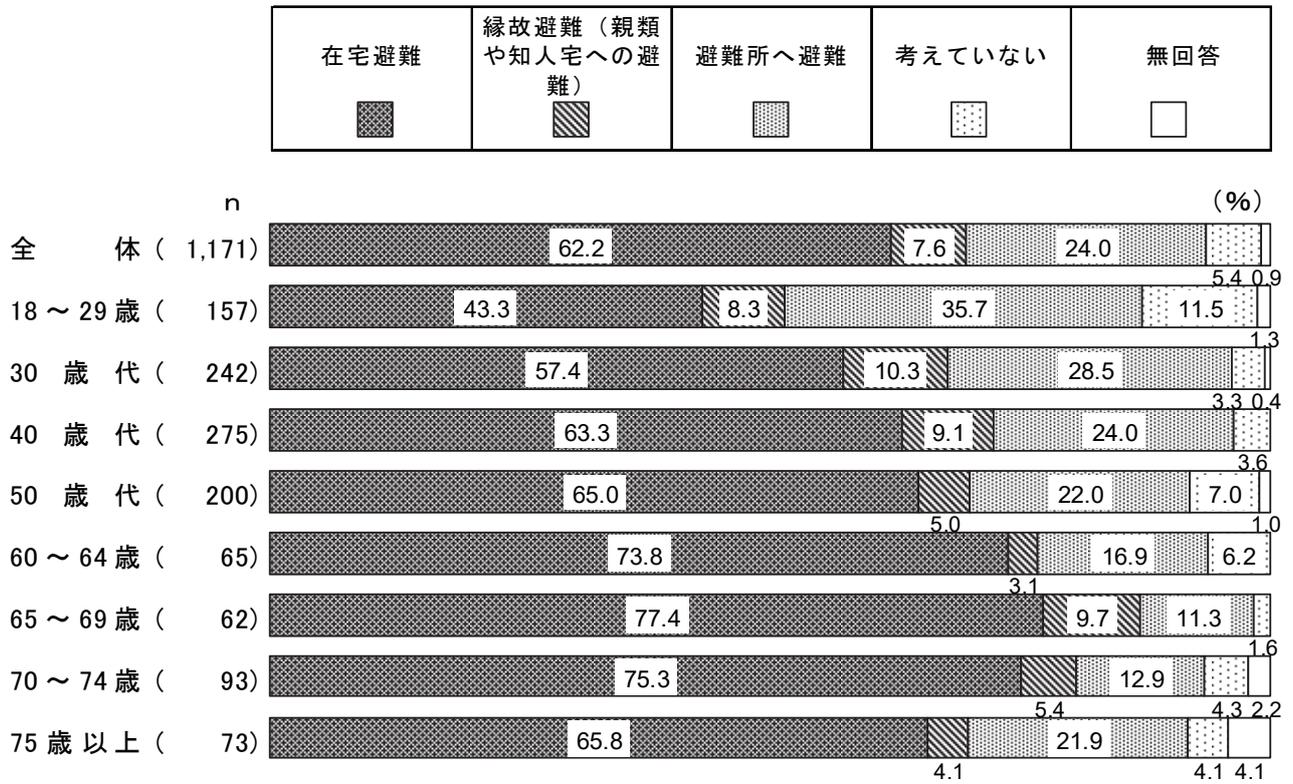
地区別にみると、「在宅避難」は麴町地区(65.8%)が6割台半ばと高くなっている。一方、「避難所へ避難」は神保町地区(30.1%)が約3割となっている。(図 15-4-2)

図15-4-2 災害が起きた時の避難方法 (地区別)



年代別にみると、「在宅避難」は 65～69 歳（77.4%）で 7 割台半ばを超えて最も高くなっている。一方、「避難所へ避難」は 18～29 歳（35.7%）で 3 割台半ばとなっている。（図 15-4-3）

図15-4-3 災害が起きた時の避難方法（年代別）

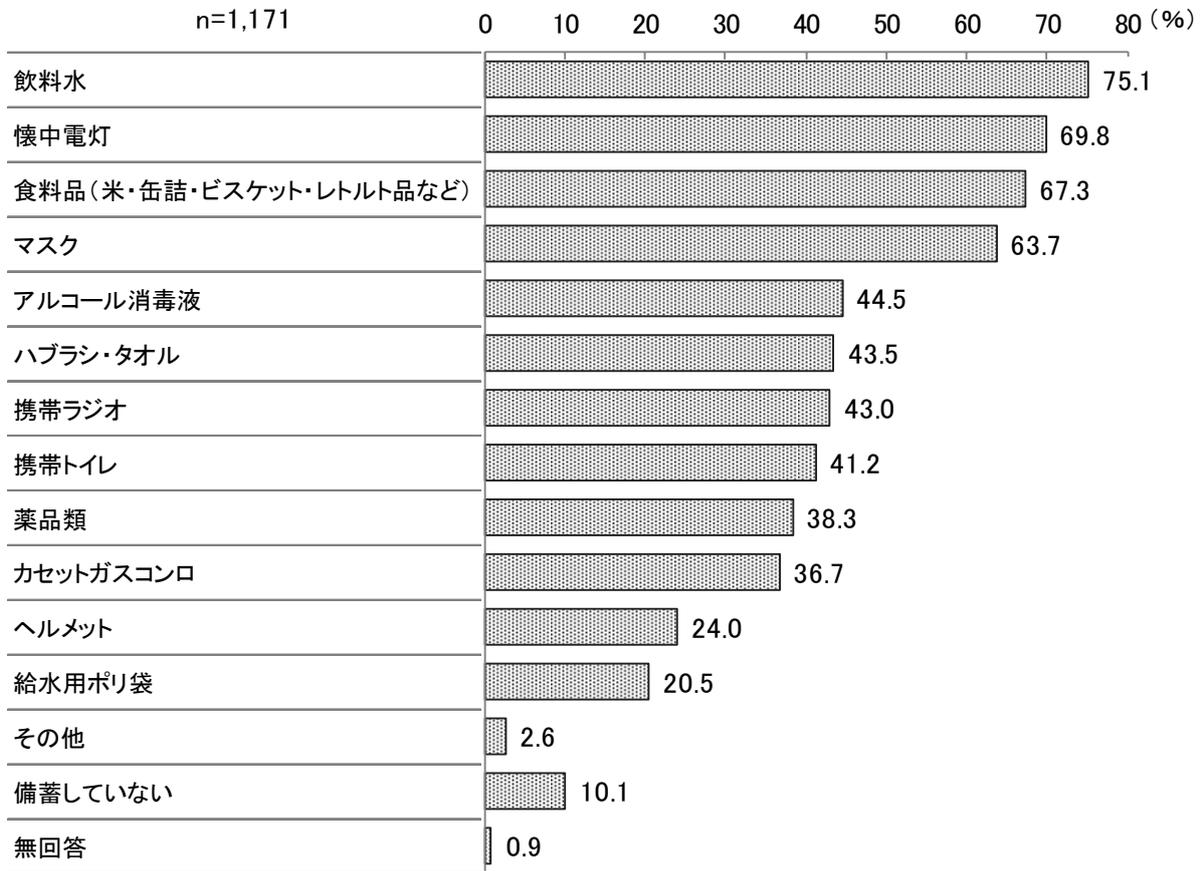


(5) 地震などの災害に備えて備蓄しているもの

◇「飲料水」が7割台半ば

問37 あなたのお宅では、地震などの災害に備えてどのようなものを備蓄していますか。
(○はいくつでも)

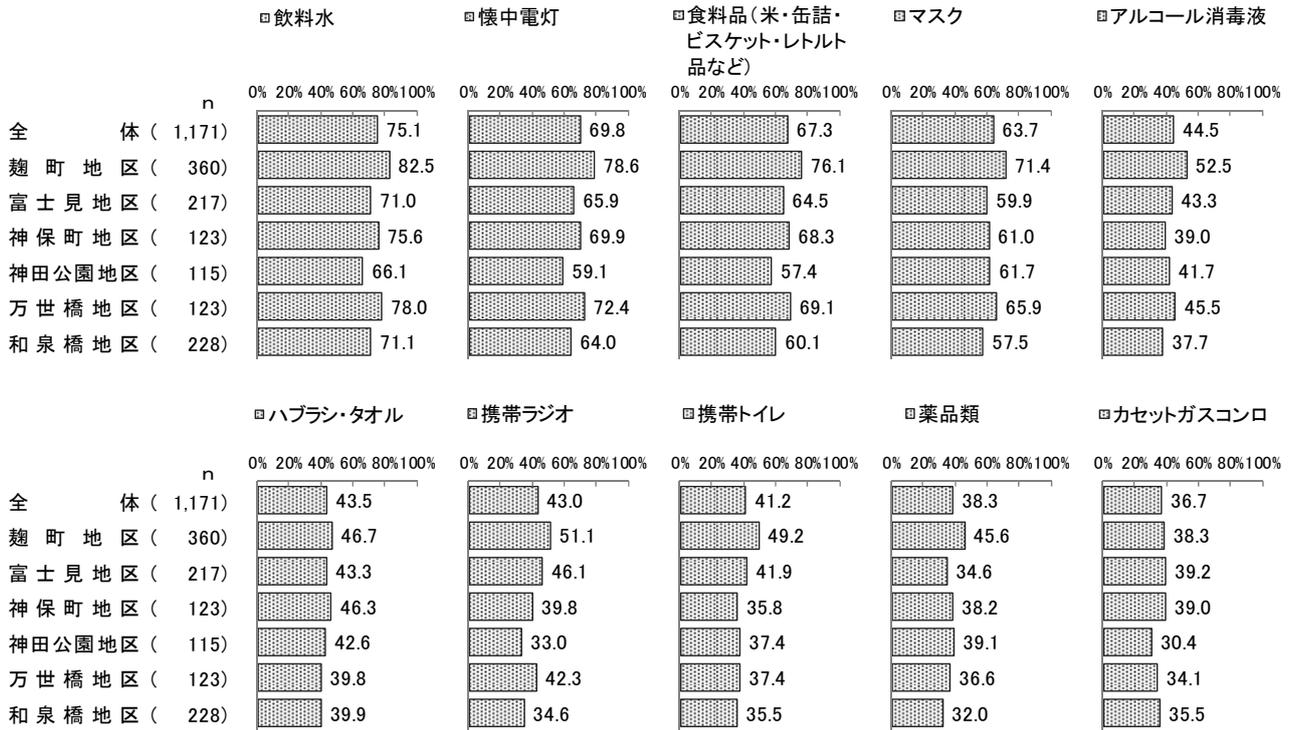
図 15-5-1 地震等の災害に備えて備蓄しているもの



地震などの災害に備えてどのようなものを備蓄しているか聞いたところ、「飲料水」(75.1%)が7割台半ばと最も高く、次いで「懐中電灯」(69.8%)、「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品など)」(67.3%)、「マスク」(63.7%)と続いている。(図 15-5-1)

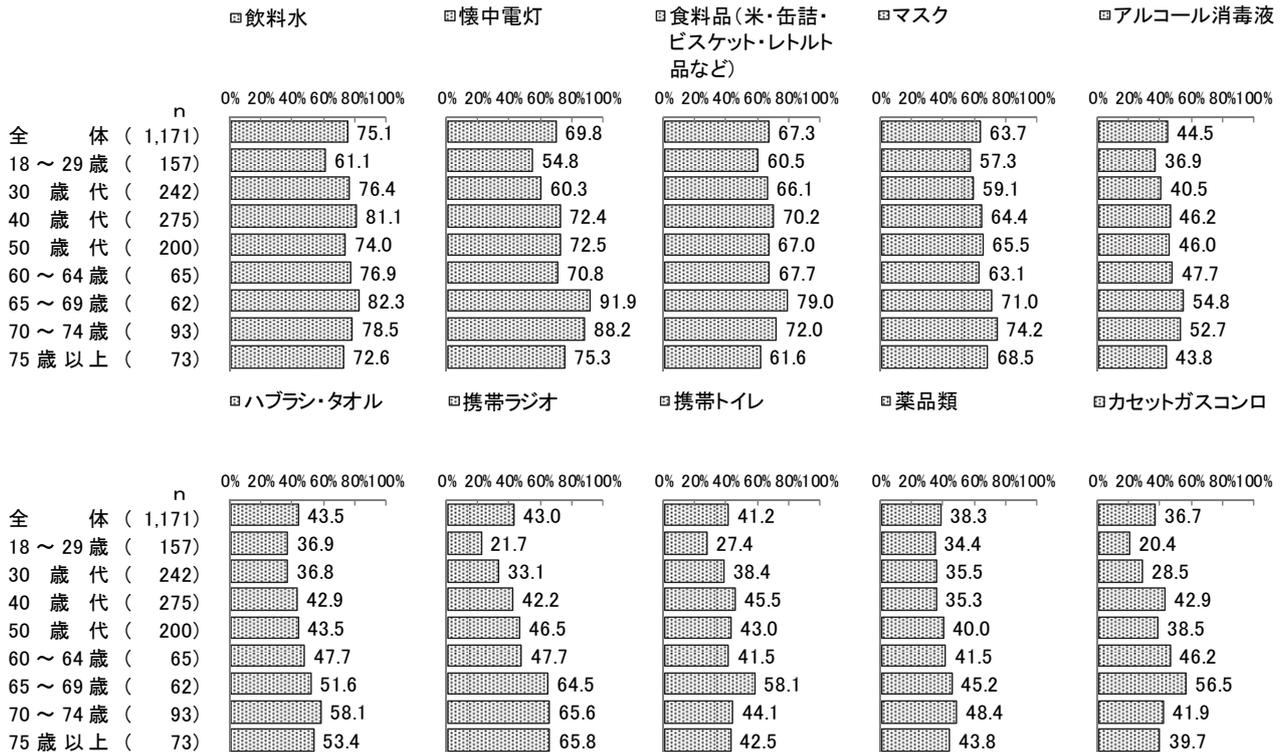
地区別にみると、「飲料水」は麴町地区（82.5%）で8割強と高くなっている。（図15-5-2）

図15-5-2 地震等の災害に備えて備蓄しているもの（地区別）



年代別にみると、「懐中電灯」は65～69歳（91.9%）で9割強と高くなっている。また、「マスク」は70～74歳（74.2%）で7割台半ば近くと高くなっている。（図15-5-3）

図15-5-3 地震等の災害に備えて備蓄しているもの（年代別）



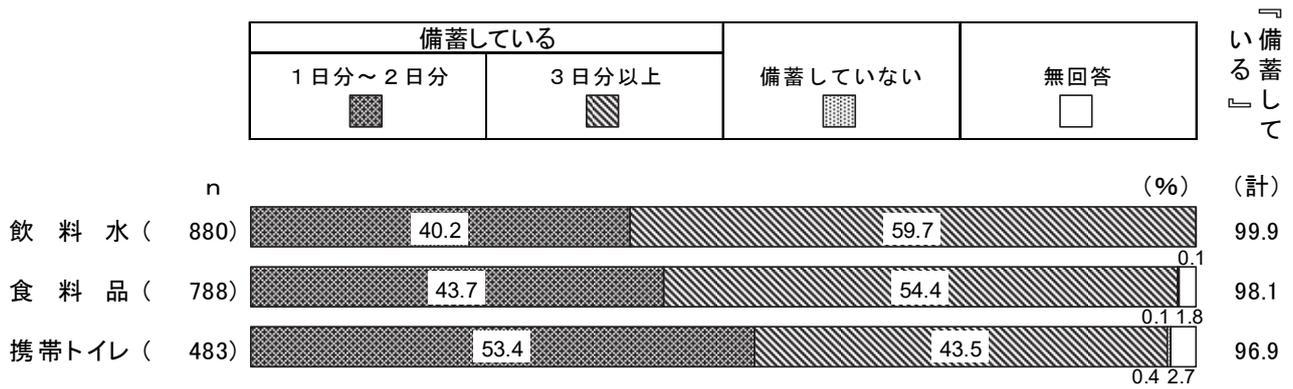
(5-1) 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況

◇「3日分以上」は“飲料水”で6割弱、“食料品”で5割台半ば近く、“携帯トイレ”で4割台半ば近く

(問37で「1. 飲料水」「2. 食料品」「3. 携帯トイレ」とお答えの方に)

問37-1 あなたのお宅では、災害に備えて何日分の飲料水・食料品・携帯トイレを備蓄していますか。(参考：1人1日あたり 飲料水3リットル、保存食など3食、携帯トイレ概ね5枚)(それぞれに○を1つ)

図 15-5-4 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況



地震などの災害に備えて備蓄しているもので、「飲料水」「食料品」「携帯トイレ」について回答した方に、備蓄状況を聞いた。

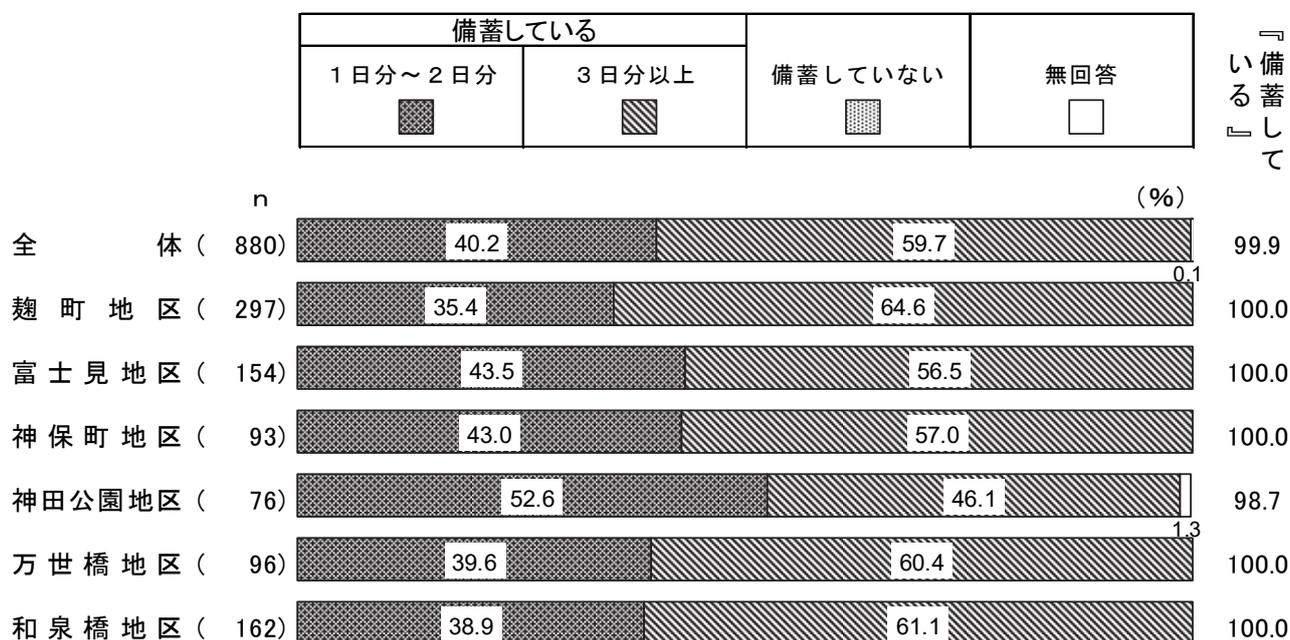
“飲料水”の備蓄状況は、「3日分以上」(59.7%)が6割弱、「1日分～2日分」(40.2%)が約4割となっている。

“食料品”の備蓄状況は、「3日分以上」(54.4%)が5割台半ば近く、「1日分～2日分」(43.7%)が4割台半ば近くとなっている。

“携帯トイレ”の備蓄状況は、「1日分～2日分」(53.4%)が5割台半ば近く、「3日分以上」(43.5%)が4割台半ば近くとなっている。(図 15-5-4)

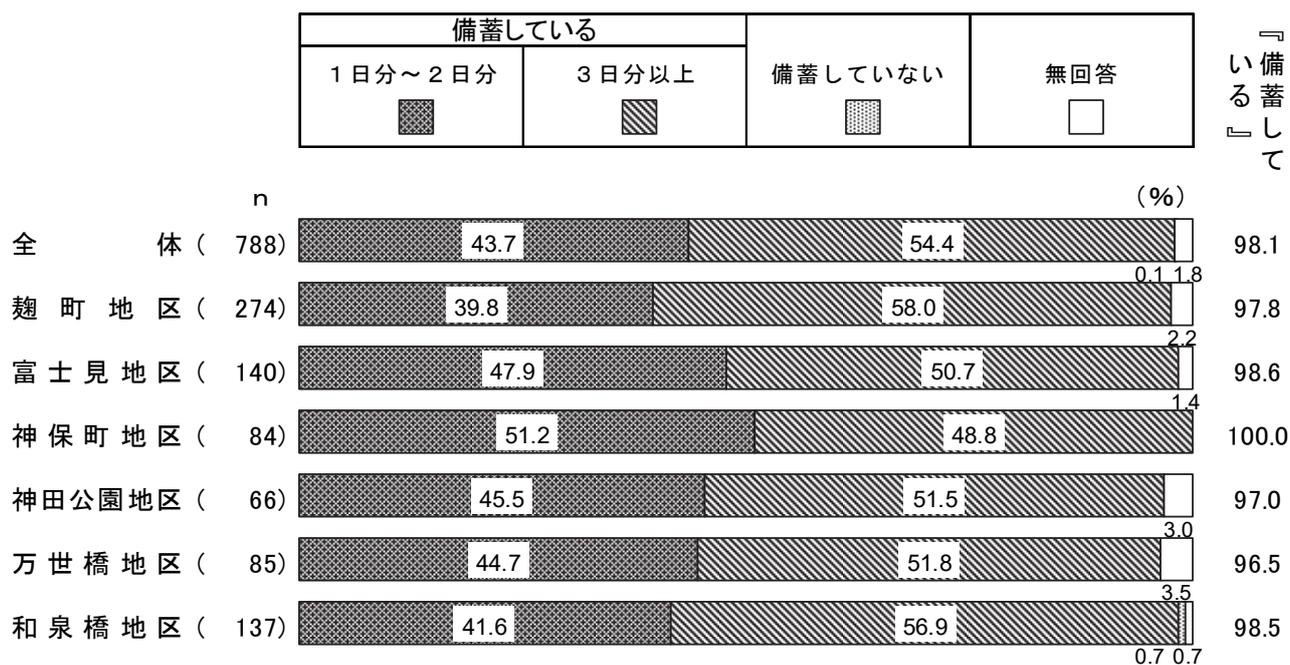
“飲料水”を地区別にみると、「1日分～2日分」は神田公園地区（52.6%）で5割強と高くなっている。（図15-5-5）

図15-5-5 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況 1. 飲料水（地区別）



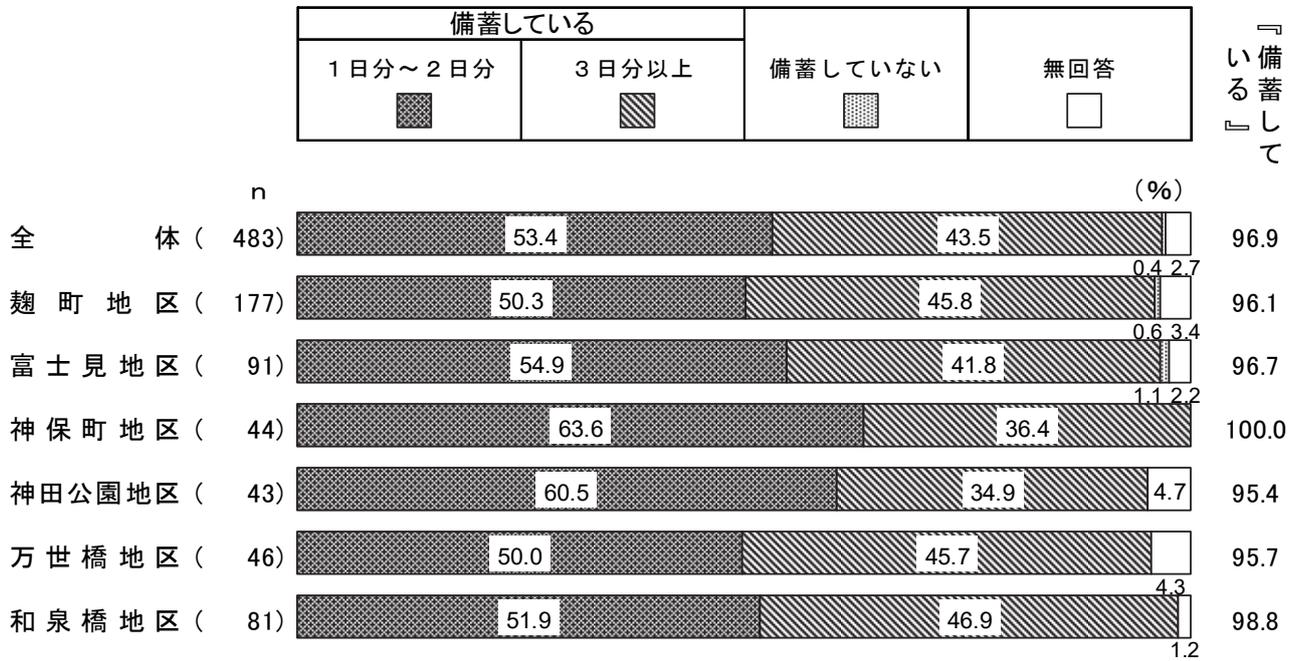
“食料品”を地区別にみると、「3日以上」は麴町地区（58.0%）で6割近くと高くなっている。（図15-5-6）

図15-5-6 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況 2. 食料品（地区別）



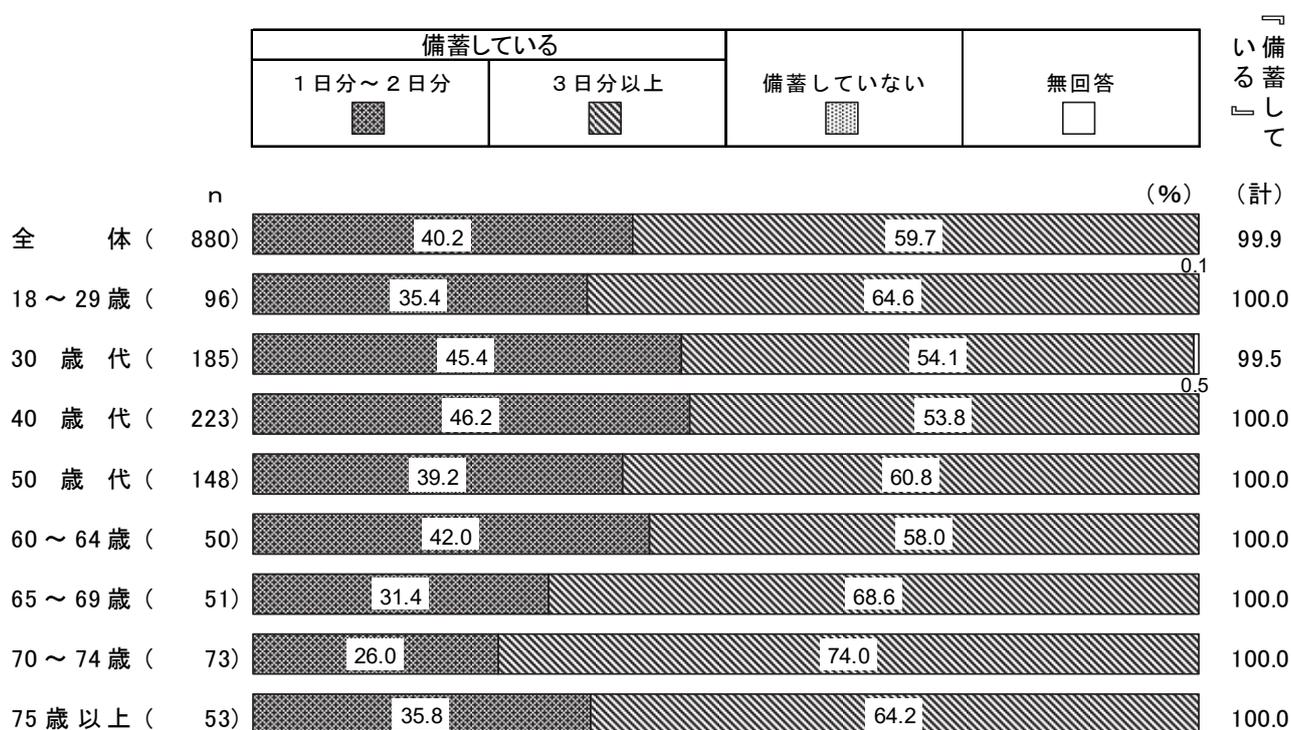
“携帯トイレ”を地区別にみると、「1日分～2日分」は神保町地区（63.6%）で6割台半ば近くと高くなっている。また、「3日以上」は和泉橋地区（46.9%）で4割台半ばを超えて高くなっている。（図15-5-7）

図15-5-7 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況 3. 携帯トイレ（地区別）



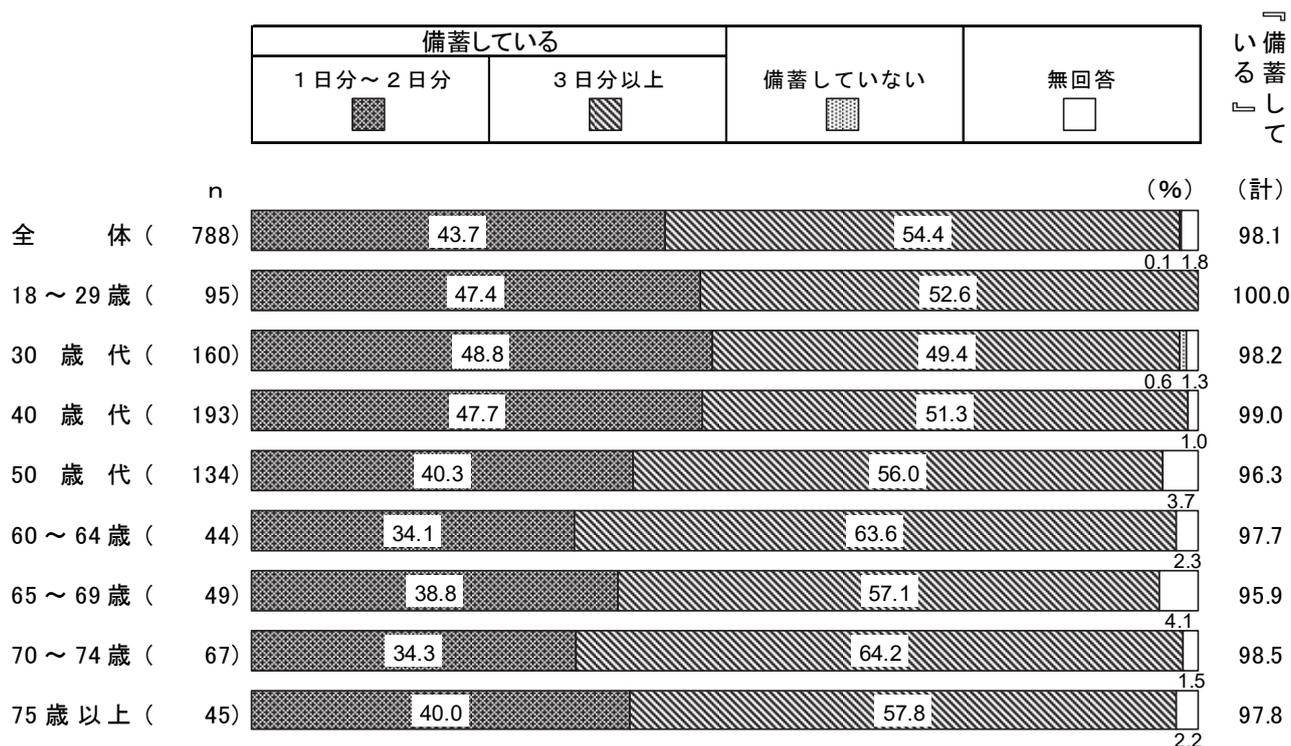
“飲料水”を年代別にみると、「3日分以上」は70～74歳（74.0%）で7割台半ば近くと高くなっている。（図15-5-8）

図15-5-8 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況 1. 飲料水（年代別）



“食料品”を年代別にみると、「3日分以上」は70～74歳（64.2%）で6割台半ば近くと高くなっている。（図15-5-9）

図15-5-9 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況 2. 食料品（年代別）



“携帯トイレ”を年代別にみると、「1日分～2日分」は75歳以上（61.3%）で6割強と高くなっている。また、「3日分以上」は70～74歳（56.1%）で5割台半ばを超えて高くなっている。

(図 15-5-10)

図15-5-10 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況 3. 携帯トイレ（年代別）

